IM-BIS for Accel Platformデザイナヘルプ

改訂情報

変更年月日	変更内容
2013-02-01	初版
2013-04-01	第2版 以下を追加・変更しました。 ■ 「フォーム・デザイナ」画面のレイアウト変更 ■ 明細テーブルにプロパティ（列の表示タイプ）追加
2013-08-20	第3版 以下を追加・変更しました。 ■ 「 *アプリケーション種別・画面アイテム一覧* 」 ■ 「 *アプリケーション種別「標準」で利用できる画面アイテム* 」 ■ 「 *アプリケーション種別「IM-Workflow」で利用できる画面アイテム* 」 外部連携機能強化に伴い、下記の画面アイテムを追加 ■ 一覧選択（外部連携強化版） ■ 明細テーブル（外部連携強化版） ■ チェックボックス（外部連携強化版） ■ ラジオボタン（外部連携強化版） ■ セレクトボックス（外部連携強化版） ■ リストボックス（外部連携強化版） ■ グリッドテーブル
2013-10-01	第4版 以下を変更しました。 ■ グリッドテーブル ■ 「 *「フォーム・デザイナ」画面の各部の名称と機能* 」

変更年月日	変更内容
2014-01-01	第5版 以下を変更しました。 ■ 「 *アプリケーション種別・画面アイテム一覧* 」 以下の「表示・入力タイプ（列項目）」の説明を変更しました。 入力アイテム ■ 明細テーブル（列プロパティ（隠しパラメータ）） ■ グリッドテーブル（列プロパティ（隠しパラメータ）、列プロパティ（イメージ）） ボタンアイテム ■ ボタン（登録） ■ ボタン（次へ） ■ ボタン（戻る） ■ ボタン（一覧へ戻る） ■ ボタン（一時保存） ■ ボタン（BPM登録） 汎用アイテム ■ 隠しパラメータ ■ スクリプト ■ ボタン（イベント） ■ インラインフレーム ■ BI表示アイテム 表示アイテム ■ 見出し ■ 横線 ■ 縦線 ■ 正方形/長方形 ■ イメージ ■ ラベル ワークフローアイテム ■ 案件情報表示 ■ 添付ファイル表示 ■ フロー画像表示 ■ 処理履歴表示 ■ 確認履歴表示 ■ 印影表示 互換用アイテム ■ 明細テーブル（列プロパティ（隠しパラメータ）） 以下の「アイテム名」の説明を変更しました。 入力アイテム ■ 明細テーブル

変更年月日	変更内容
	ファイルアップロード

ボタンアイテム

- ボタン（登録）
- ボタン（次へ）
- ボタン（戻る）
- ボタン（一覧へ戻る）
- ボタン（一時保存）
- ボタン（BPM登録）

汎用アイテム

- スクリプト
- ボタン（イベント）
- インラインフレーム
- BI表示アイテム

表示アイテム

- 見出し
- 横線
- 縦線
- 正方形/長方形
- イメージ
- ラベル

ワークフローアイテム

- 案件情報表示
- 添付ファイル表示
- フロー画像表示
- 処理履歴表示
- 確認履歴表示
- 印影表示

グリッドテーブルに以下の機能の説明を追加しました。

- 「列の定義」の高度な検索について
- 「ページャー表示」の入力時対応について
- 「列の表示・非表示」について
- 「列固定機能」
- 「表示スタイル」のヘッダースタイルが列ごとに設定可能であることについて
- 「表示スタイル」のフィールドスタイルが列ごとに設定可能であることについて
- 「フィールドスタイル」の「縞模様機能」について
- 列プロパティ（カスタム）について
- 列プロパティ（イメージ）の「パス設定」について
- 列プロパティ（数値）の数値アイテムの「小数点表示」について

以下のアイテムの「行のコピー」、「行のコピー（複数）」、「行の挿入」、「行の削除」の説明を追加しました。

入力アイテム

- 明細テーブル
- グリッドテーブル

変更年月日	変更内容

互換用アイテム

- 明細テーブル

以下のアイテムの「表示スタイル」に、「折り返し」の説明を追加しました。

入力アイテム

- 文字列
- 複数行文字列
- 数値
- 関数
- 日付
- 期間
- 一覧選択
- 明細テーブル
- チェックボックス
- ラジオボタン
- セレクトボックス
- リストボックス
- ファイルアップロード
- グリッドテーブル

共通マスタアイテム

- ユーザ選択
- 組織選択
- 組織・役職選択
- 所属組織選択

汎用アイテム

- 採番

互換用アイテム

- 一覧選択
- 明細テーブル
- チェックボックス
- ラジオボタン
- セレクトボックス
- リストボックス

以下のアイテムを追加しました。

汎用アイテム

- ボタン（インポート）
- ボタン（エクスポート）

変更年月日	変更内容
2014-04-01	第6版 以下のアイテムの列プロパティ「イメージ」の内容を変更しました。 ■ グリッドテーブル ■ インラインフレーム グリッドテーブルのアイテムの列プロパティ「関数」の内容を追加しました。 ラベルの「ラベルの内容の編集時に利用できるツールバーと各部の説明」を変更しました。
2014-07-01	第7版 以下を変更しました。 ■ 「 *アプリケーション種別・画面アイテム一覧* 」 以下のアイテムを追加しました。 汎用アイテム ■ アノテーション
2014-09-01	第8版 以下を変更しました。 ■ 「 *アプリケーション種別・画面アイテム一覧* 」 以下のアイテムを追加しました。 汎用アイテム ■ ツリー ■ スケジュール 以下のアイテムの「詳細設定」に、「利用方法」、「子画面サイズ」、「Forma画面設定」の説明を追加しました。 ボタンアイテム ■ ボタン（次へ） 以下のアイテムの「詳細設定」に、「利用方法」、「クリック時の処理」、「確認ダイアログ」、「確認メッセージ」の説明を追加しました。 ボタンアイテム ■ ボタン（次へ） 以下のアイテムの「列プロパティ（イメージ）」に、「設定方法」、「利用方法」、「子画面サイズ」、「Forma画面設定」の説明を追加しました。 入力アイテム ■ グリッドテーブル
2014-12-01	第9版 以下を変更しました。 ■ 入力アイテム 関数（sum,ave,max,min）にグリッドテーブルに対する利用方法を記載しました。 ■ 入力アイテム 一覧選択に、「簡易検索機能」、「詳細検索機能」の説明を記載しました。 ■ 入力アイテム グリッドテーブルに、「削除確認ダイアログ」の説明を記載しました。

変更年月日	変更内容
2015-03-01	第10版 以下のアイテムを削除しました。 ▪ 画面アイテム「ツリー」 ▪ 画面アイテム「スケジュール」
2015-04-01	第11版 以下のアイテムを追加しました。 ▪ 画面アイテム「リッチテキストボックス」
2015-08-01	第12版 画面アイテム「アノテーション」の「詳細設定」に以下の項目を追加しました。 ▪ 「ノード毎のレイヤー上限数」 ▪ 「Tiff圧縮形式」 ▪ 「履歴出力」 以下を変更しました。 ▪ 「スマートフォン設定」追加に伴い、「 *「フォーム・デザイナ」画面の各部の名称と機能* 」に「スマートフォン設定」の説明を追加しました。 ▪ 下記のアイテムの説明に、実行中のクライアントを識別するための関数の説明を追加しました。 ▪ スクリプト（ *標準* 、 *IM-Workflow* 、 *BIS-ワークフロー* 、 *BIS-BPM* ） ▪ ボタン（イベント）（ *標準* 、 *IM-Workflow* 、 *BIS-ワークフロー* 、 *BIS-BPM* ）
2015-12-01	第13版 画面アイテム「 *リッチテキストボックス* 」の「リッチテキストボックス設定」の以下の項目を変更しました。 ▪ 「ツールバー縦位置」「ツールバー横位置」を削除 ▪ 「メニューバー」の説明を追加
2016-04-01	第14版 下記を変更しました。 ▪ 「 *グリッドテーブル* 」の列プロパティ（イメージ）の説明を変更しました。 ▪ 「 *一覧選択* 」の注意を変更しました。 ▪ 「 *グリッドテーブル* 」のタイプ「一覧選択」の注意を変更しました。 ▪ 「 *明細テーブル* 」のタイプ「一覧選択」の注意を変更しました。
2016-08-01	第15版 以下のアイテムに再申請・承認時の一時保存に関する説明を追加しました。 ▪ 画面アイテム「ボタン（一時保存）」 以下のアイテムに備考の最大文字数、カラムサイズの変更に関する説明を追加しました。 ▪ 画面アイテム「ファイルアップロード」 下記を変更しました。 ▪ IM-BPM のリリースに伴い、BIS作成種類「BPM」を「BISフロー」に変更しました。 ▪ 「画面設計書出力」の機能追加に伴い、「 *「フォーム・デザイナ」画面の各部の名称と機能* 」を変更しました。

変更年月日	変更内容
2016-12-01	第16版 以下のアイテムの取得値設定の対象アイテムに関する説明を追加しました。 ▪ 画面アイテム「一覧選択」 以下のアイテムに制限サイズの設定の説明へのリンクを追加しました。 ▪ 画面アイテム「ファイルアップロード」
2017-04-01	第17版 以下のアイテムに再申請・一時保存時の表示値に関する説明を追加しました。 ▪ 所属組織選択 以下を追加しました。 ▪ 各画面アイテムのプロパティ「フィールド初期値」に承認画面におけるフィールド初期値の扱いに関する説明を追加しました。 ▪ 「*「フォーム・デザイナ」画面の各部の名称と機能*」にタブ切替利用時のタブインデックスの指定に関するコラムを追加しました。 以下のアイテムに関数やクエリのパラメータの参照元に利用できないアイテムの説明を追加しました。 ▪ 関数 ▪ 一覧選択（互換用アイテム） ▪ 明細テーブル（互換用アイテム） ▪ チェックボックス（互換用アイテム） ▪ ラジオボタン（互換用アイテム） ▪ セレクトボックス（互換用アイテム） 以下のアイテム（BIS作成種類：BISフロー、ワークフロー）にテーブル識別IDの注意事項を追加しました。 ▪ 明細テーブル ▪ グリッドテーブル ▪ 明細テーブル（互換用アイテム）
2017-08-01	第18版 以下を変更しました。 ▪ フォーム・デザイナの「Undo・Redo」機能の追加に伴い、「*「フォーム・デザイナ」画面の各部の名称と機能*」を変更しました。

変更年月日	変更内容
2017-12-01	第19版 以下のアイテムに入力時の日付形式に関する説明を追加しました。 ・入力アイテム 　・日付 　・期間 　・関数 　・一覧選択 　・明細テーブル 　・グリッドテーブル ・互換用アイテム 　・一覧選択 　・明細テーブル 以下を変更しました。 ・各画面アイテムの「ラベル」の説明を変更しました。 ・各画面アイテムの「表示フォーマット」の説明を変更しました。 ・画面アイテム「ボタン（一覧へ戻る）」の説明を変更しました。 ・「 *条件式関数* 」に型変換に関するコラムを追加しました。 ・画面アイテム「グリッドテーブル（列タイプ：イメージ）」の「パス設定」の説明を変更しました。
2018-04-01	第20版 以下のアイテムを追加しました。 ・画面アイテム「ボタン（コピー新規）」 以下を変更しました。 ・画面アイテム「ボタン（ファイルアップロード）」に「画像プレビュー表示」、「プレビュー幅」、「プレビュー高」の説明を追加しました。
2018-08-01	第21版 以下を変更しました。 ・各画面アイテムの「表示フォーマット」の説明を変更しました。

変更年月日	変更内容
2018-12-01	第22版 以下のアイテムの「表示スタイル」に、「iAP UIデザインモード」の説明を追加しました。 ・入力アイテム 　・文字列 　・複数行文字列 　・数値 　・関数 　・日付 　・期間 　・一覧選択 　・チェックボックス 　・ラジオボタン 　・セレクトボックス 　・リストボックス 　・ユーザ選択 　・組織選択 　・組織・役職選択 　・所属組織選択 　・採番 ・互換用アイテム 　・一覧選択 　・チェックボックス 　・ラジオボタン 　・セレクトボックス 　・リストボックス 以下のアイテムを追加しました。 ・画面アイテム「スプレッドシート」
2019-08-01	第23版 以下のアイテムに注意事項を追加しました。 ・画面アイテム「スプレッドシート」

変更年月日	変更内容
2020-12-01	第24版 以下のアイテムを追加しました。 ・画面アイテム「ボタン（処理モーダル）」 ・画面アイテム「ボタン（一時保存モーダル）」 以下を変更しました。 ・「 *アプリケーション種別「BIS-ワークフロー」で利用できる画面アイテム* 」 　・画面アイテム「ボタン（処理モーダル）」、「ボタン（一時保存モーダル）」をボタンアイテムの章へ追加しました。 　・画面アイテム「ボタン（登録）」、「ボタン（一時保存）」を互換用アイテムの章へ移動しました。 ・「 *アプリケーション種別「IM-Workflow」で利用できる画面アイテム* 」 　・画面アイテム「ボタン（処理モーダル）」、「ボタン（一時保存モーダル）」をボタンアイテムの章へ追加しました。 　・画面アイテム「ボタン（登録）」、「ボタン（一時保存）」を互換用アイテムの章へ移動しました。
2020-12-25	第25版 以下のアイテムに注意事項を追加しました。 ・画面アイテム「ボタン（処理モーダル）」 ・画面アイテム「ボタン（一時保存モーダル）」 以下のアイテムの「モーダル入力値の保持」の説明、「実行画面における動的制御」の設定例の内容を変更しました。 ・画面アイテム「ボタン（処理モーダル）」 ・画面アイテム「ボタン（一時保存モーダル）」
2021-04-01	第26版 以下を変更しました。 ・画面アイテム「ファイルアップロード」に「1ファイルあたりのサイズ（キロバイト単位）」、「許可する拡張子」、「別ウィンドウ表示」、「ファイル一覧の並び順」の説明を追加しました。
2021-08-01	第27版 以下を変更しました。 ・フォーム・デザイナの「SharedResource設定」機能の追加に伴い、「 *「フォーム・デザイナ」画面の各部の名称と機能* 」を変更しました。 以下のアイテムに注意事項を追加しました。 ・画面アイテム「ボタン（処理モーダル）」 ・画面アイテム「ボタン（一時保存モーダル）」
2022-06-01	第28版 以下を変更しました。 ・画面アイテム「スプレッドシート」のデータ型のコラムに、チェックボックスの説明を追加しました。

変更年月日	変更内容
2022-12-01	第29版 以下を変更しました。 ・画面アイテム「ボタン（処理モーダル）」に処理後の遷移先を指定する説明を追加しました。 ・画面アイテム「ボタン（一時保存モーダル）」に処理後の遷移先を指定する説明を追加しました。 ・画面アイテム「グリッドテーブル」の列プロパティ（イメージ）のリンクに関するコラムを削除しました。 以下のアイテムに「項目幅の自動調整」と「ソート」の説明を追加しました。 ・入力アイテム 　・一覧選択 　・明細テーブル（列タイプ（一覧選択）） 　・グリッドテーブル（列タイプ（一覧選択）） ・互換用アイテム 　・一覧選択 　・明細テーブル（列タイプ（一覧選択））
2023-10-01	第30版 以下を変更しました。 ・「実行画面における動的制御」に次のパラメータの設定例を追加しました。 　・dynamicNodeConfigs.readonlyEnableToggle 　・horizontalNodeConfigs.dispatchControl 　・verticalNodeConfigs.dispatchControl ・画面アイテム「スプレッドシート」のデータ型のコラムに、チェックボックスリストの説明を追加しました。
2024-04-01	第31版 以下を変更しました。 ・画面アイテム「ファイルアップロード」にダウンロード時のファイルサイズに関する説明を追加しました。

変更年月日	変更内容
2025-04-01	第32版 以下を変更しました。 ・各画面アイテムにおけるプロパティ「フィールド初期値」に対し、承認画面におけるフィールド初期値の扱いに関する説明を更新しました。 ・画面アイテム「アノテーション」の利用できるバージョンに関する説明を追加しました。 ・フォーム・デザイナの「スクリプトエディタ」機能の追加に伴い、「*「フォーム・デザイナ」画面の各部の名称と機能*」を変更しました。 ・フォーム・デザイナの「ヘッダーを固定」機能と「ボタン表示」機能の追加に伴い、「*「フォーム・デザイナ」画面の各部の名称と機能*」に説明を追加しました。 以下のアイテムを追加しました。 ・画面アイテム「ボタン（直接実行）」 ・画面アイテム「ボタン（直接中止）」 ・画面アイテム「ボタン（直接差戻し）」 以下のアイテムに「スクリプトエディタで開く」の説明を追加しました。 ・画面アイテム「スクリプト」 ・画面アイテム「ボタン（イベント）」 以下のアイテムの「詳細設定」に、「ヘッダーに表示」の説明を追加しました。 ・画面アイテム「ボタン（登録）」 ・画面アイテム「ボタン（次へ）」 ・画面アイテム「ボタン（戻る）」 ・画面アイテム「ボタン（一覧へ戻る）」 ・画面アイテム「ボタン（一時保存）」 ・画面アイテム「ボタン（コピー新規）」 ・画面アイテム「ボタン（処理モーダル）」 ・画面アイテム「ボタン（一時保存モーダル）」 ・画面アイテム「ボタン（直接実行）」 ・画面アイテム「ボタン（直接中止）」 ・画面アイテム「ボタン（直接差戻し）」 ・画面アイテム「ボタン（イベント）」 ・画面アイテム「ボタン（インポート）」 ・画面アイテム「ボタン（エクスポート）」
2025-10-01	第33版 以下を変更しました。 ・画面アイテム「ボタン（直接差戻し）」の仕様変更に関して説明を追加しました。
2026-04-01	第34版 以下を変更しました。 ・画面アイテム「ボタン（直接中止）」の仕様変更に関して説明を追加しました。

アプリケーション種別・画面アイテム一覧

各アプリケーション種別で利用できる画面アイテムは、以下の通りです。

入力アイテム

画面アイテム	Forma（標準）	Forma（IM-Workflow）	BIS（BISフロー）	BIS（ワークフロー）
文字列	✔	✔	✔	✔
複数行文字列	✔	✔	✔	✔
数値	✔	✔	✔	✔
関数	✔	✔	✔	✔
日付	✔	✔	✔	✔
期間	✔	✔	✔	✔
一覧選択	✔	✔	✔	✔
明細テーブル	✔	✔	✔	✔
チェックボックス	✔	✔	✔	✔
ラジオボタン	✔	✔	✔	✔
セレクトボックス	✔	✔	✔	✔
リストボックス	✔	✔	✔	✔
ファイルアップロード	✔	✔	✔	✔
グリッドテーブル	🚫 [1]	🚫 [1]	✔	✔
リッチテキストボックス	✔	✔	✔	✔
スプレッドシート [2]	✔	✔	✔	✔

[1] *(1, 2)* 「グリッドテーブル」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

[2] 「スプレッドシート」は、IM-BIS、IM-Spreadsheetを導入している環境であればご利用いただけます。

ボタンアイテム

画面アイテム	Forma（標準）	Forma（IM-Workflow）	BIS（BISフロー）	BIS（ワークフロー）
ボタン（登録）	✔	✔	🚫	✔
ボタン（次へ）	✔	✔	✔	✔
ボタン（戻る）	✔	✔	✔	✔
ボタン（一覧へ戻る）	✔	✔	✔	✔

画面アイテム	Forma（標準）	Forma（IM-Workflow）	BIS（BISフロー）	BIS（ワークフロー）
ボタン（一時保存）	✔	✔	⛔	✔
ボタン（BISフロー登録）	⛔	⛔	✔	⛔
ボタン（コピー新規）	⛔	✔	✔	✔
ボタン（処理モーダル）	⛔	✔	⛔	✔
ボタン（一時保存モーダル）	⛔	✔	⛔	✔
ボタン（直接実行）	⛔	✔	⛔	✔
ボタン（直接中止）	⛔	✔	⛔	✔
ボタン（直接差戻し）	⛔	✔	⛔	✔

共通マスタアイテム

画面アイテム	Forma（標準）	Forma（IM-Workflow）	BIS（BISフロー）	BIS（ワークフロー）
ユーザ選択	✔	✔	✔	✔
組織選択	✔	✔	✔	✔
組織・役職選択	✔	✔	✔	✔
所属組織選択	✔	✔	✔	✔

汎用アイテム

画面アイテム	Forma（標準）	Forma（IM-Workflow）	BIS（BISフロー）	BIS（ワークフロー）
隠しパラメータ	✔	✔	✔	✔
スクリプト	✔	✔	✔	✔
ボタン（イベント）	✔	✔	✔	✔
採番	✔	✔	✔	✔
インラインフレーム	⛔ [3]	⛔ [3]	✔	✔
BI表示アイテム	⛔ [4]	⛔ [4]	✔	✔
ボタン（インポート）	⛔ [3]	⛔ [3]	✔	✔
ボタン（エクスポート）	⛔ [3]	⛔ [3]	✔	✔
アノテーション	⛔	⛔ [5]	⛔ [5]	⛔ [5]

[3] *(1, 2, 3, 4, 5, 6)* 「インラインフレーム」、「ボタン（インポート）」、「ボタン（エクスポート）」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

[4] *(1, 2)* 「BI表示アイテム」は、Jaspersoft機能強化モジュールを導入している環境でご利用いただけます。

[5] *(1, 2, 3)*

画面アイテム「アノテーション」は、IM-Annotation for Accel Platformを導入している環境であればご利用いただけます。
IM-Annotation for Accel Platformは 2014 Winter(Iceberg) から 2017 Winter(Rebecca) まで提供しておりましたが、2018 Spring(Skylark) に機能が廃止されました。機能の廃止に伴い、画面アイテム「アノテーション」が削除されました。
2014 Winter(Iceberg) から 2017 Winter(Rebecca) までの環境では、現行どおり 画面アイテム「アノテーション」 を利用する事は可能です。
弊社テクニカルサポートセンターでの問合せ対応も引き続き可能です。

表示アイテム

画面アイテム	Forma（標準）	Forma（IM-Workflow）	BIS（BISフロー）	BIS（ワークフロー）
見出し	✔	✔	✔	✔
横線	✔	✔	✔	✔
縦線	✔	✔	✔	✔
正方形／長方形	✔	✔	✔	✔
イメージ	✔	✔	✔	✔
ラベル	✔	✔	✔	✔

WFアイテム

画面アイテム	Forma（標準）	Forma（IM-Workflow）	BIS（BISフロー）	BIS（ワークフロー）
確認履歴表示	⛔	✔	⛔	✔
案件情報表示	⛔	✔	✔	✔
添付ファイル表示	⛔	✔	✔	✔
処理履歴表示	⛔	✔	✔	✔
フロー画像表示	⛔	✔	✔	✔
印影表示	⛔	✔	✔	✔

アプリケーション種別「標準」で利用できる画面アイテム

入力アイテム

文字列

画面アイテム「文字列」は、文字や数値などを入力するためのアイテムです。
改行を含む長い文章は入力できません。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

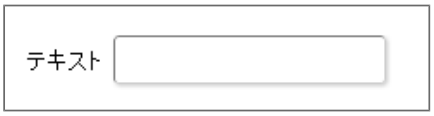
画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

複数行文字列

画面アイテム「複数行文字列」は、改行を伴う文字や数値などを入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

フィールド高

入力欄の表示の高さをピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照

入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

数値

画面アイテム「数値」は、金額や個数などの数値を入力するためのアイテムです。
前にゼロを付加する”000123”のようなコード項目には利用できません。

基本設定

[前]ラベル / [後]ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
[前]ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。
[後]ラベルに設定した名称を、入力欄の右に表示します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。

注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
アカウント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123 456 789,123
テナント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123.456.789,123
システム設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ・123456789.123 ・123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



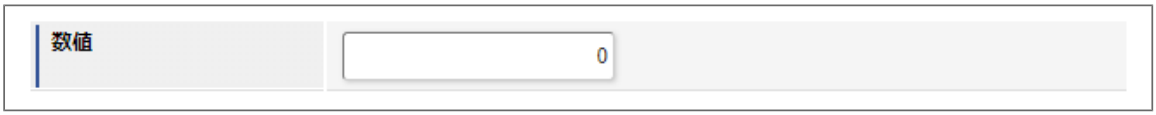
アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

関数

画面アイテム「関数」は日付や数値の計算や関数を利用して処理するためのアイテムです。
“＋”や”－”などの演算子や、IM-FormaDesigner for Accel Platformで用意している各種関数を利用することができます。

基本設定

[前]ラベル / [後]ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
[前]ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。
[後]ラベルに設定した名称を、入力欄の右に表示します。

式

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット

コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。

注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。

注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット　入力値例

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ▪ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	▪ 123456789.123 ▪ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ▪ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	▪ 123456789.123 ▪ 123,456,789.123
アカウント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123 456 789,123
テナント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123.456.789,123
システム設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ▪ 123456789.123 ▪ 123‘456‘789.123



コラム

クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

日付

画面アイテム「日付」は、１つの日付を入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

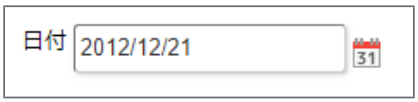
1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

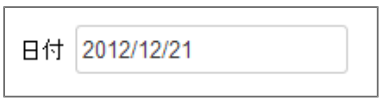
1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

期間

画面アイテム「期間」は、開始日・終了日等の一定期間を表す日付を入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

各設定項目の[始]は、期間の開始日、[終]は、期間の終了日に対応します。

詳細設定

各設定項目の[始]は、期間の開始日、[終]は、期間の終了日に対応します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

セパレータ

２つの日付の入力欄の間に表示する期間の範囲を表す文字を設定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

各設定項目の[始]は、期間の開始日、[終]は、期間の終了日に対応します。

セパレータスタイル

セパレータの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

一覧選択

画面アイテム「一覧選択」は、データベースから入力値を絞込みして入力するためのアイテムです。
外部連携の設定を行うことで、一覧選択を実行することができます。

> **注意**
>
> 外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、以下の点に注意してください。
>
> - 一覧選択の虫眼鏡アイコンを、クリックした後に表示される一覧選択画面には、改ページ機能がありません。
>   そのため、取得したデータが最大表示行数を超える場合には、最大表示行数までで打ち切られて表示されます。
>   また、一覧選択画面の絞り込み機能を用いても、打ち切られたデータを表示させることはできませんので
>   一覧選択画面を表示する際の外部連携の条件、または最大表示行数の設定を見直してください。
> - クエリを使用して大量データを処理する場合は、改ページ機能を使用できる互換用アイテムが便利です。
>   「一覧選択」（互換用アイテム）をご利用ください。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

外部連携

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
  別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 最大表示行数
  一覧画面上に表示できる最大行数を設定します。

外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」の場合、改ページ機能があるため、最大表示行数の設定は無効となります。

- マルチセレクト
  チェックがオンの場合、一覧画面上で複数行を選択できます。
  複数の行を選択した場合でも、画面アイテム「一覧選択」のフィールドには最初の1件しか反映されませんので注意してください。
- 項目幅の自動調整
  チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
  チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。
  表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。
- 列番号
  列の表示順を設定します。
  列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。
- 表示
  一覧画面に表示するかどうかを設定します。
  チェックがオンの場合に一覧画面に表示します。
- 列名
  一覧画面に表示する列名を設定します。
- 列ID
  一覧画面に表示する列を一意に識別するためのIDです。
  データマッパー上では、「{列名} | {列ID}」の形式で表示されます。
- タイプ
  列のデータ型を設定します。
- ソート
  初期表示時の一覧画面のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を設定します。
  いずれかの列について、昇順/降順を指定することで、初期表示のソート対象項目に設定できます。
  すべての列でソートを空白指定した場合、一番上の列の昇順でソートされます。



コラム
一覧選択画面での検索は、表示列に設定されている全ての「文字列型」の列に対して部分一致で行います。



注意

IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整とソートの設定を追加しました。

- IM-FormaDesigner 2022Spring 以前に作成した定義を利用する場合、かつ、外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、項目幅の自動調整と初期表示時のソート順の設定について、一覧選択画面の表示とプロパティの設定で差異が生じます。
  そのため、一度プロパティの設定を変更してからフォームの更新を行ってください。
- IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
  「 画面設計書出力 」での出力値は空白で出力されます。

取得値設定

外部連携で取得した値の反映先のマッピングを行います。

- マッピング情報
  虫眼鏡アイコンをクリックするとデータマッパーが表示されますので、データマッパー上で対応する画面アイテムのマッピングを設定します。
  - 取得値に設定できるアイテム
    - 文字列（product_72_textbox）
    - 複数行文字列（product_72_textarea）

- 数値（product_72_number）
- 日付（product_72_date）
- 期間（product_72_term）
- 一覧選択（互換用）（product_72_itemSelect）
- チェックボックス（product_80_checkbox）
- ラジオボタン（product_80_radio）
- セレクトボックス（product_80_selectbox）
- リストボックス（product_80_listbox）
- 一覧選択（product_80_itemSelect）
- 隠しパラメータ（product_72_hidden）



コラム

データソースを使用する連携の設定の方法は、「 IM-BIS 業務管理者操作ガイド 」を参照してください。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 -「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット

コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。

注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。

注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
アカウント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123 456 789,123
テナント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123.456.789,123
システム設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ▪ 123456789.123 ▪ 123‘456‘789.123



コラム

クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

明細テーブル

画面アイテム「明細テーブル」は、アプリの実行時に自由に行を追加して表形式で入力するためのアイテムです。

注意

タイプ「一覧選択」の外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、以下の点に注意してください。

- 一覧選択の虫眼鏡アイコンを、クリックした後に表示される一覧選択画面には、改ページ機能がありません。
  そのため、取得したデータが最大表示行数を超える場合には、最大表示行数までで打ち切られて表示されます。
  また、一覧選択画面の絞り込み機能を用いても、打ち切られたデータを表示させることはできませんので
  一覧選択画面を表示する際の外部連携の条件、または最大表示行数の設定を見直してください。
- クエリを使用して大量データを処理する場合は、改ページ機能を使用できる互換用アイテムが便利です。
  「明細テーブル」（互換用アイテム）をご利用ください。

項目

- 基本設定
- 詳細設定
- 表示スタイル
- 列プロパティ概要
- 列プロパティ(文字列)
- 列プロパティ(数値)
- 列プロパティ(日付)
- 列プロパティ(関数)
- 列プロパティ(隠しパラメータ)
- 列プロパティ(一覧選択)
- 列プロパティ(ラジオボタン)
- 列プロパティ(セレクトボックス)
- 明細テーブルの行のコピー、挿入、削除方法

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、アイテムの上に表示します。

行の定義

テーブルに追加できる行について設定します。

行追加可能

チェックをオンにした場合、アプリケーションの実行時に行を追加することができます。

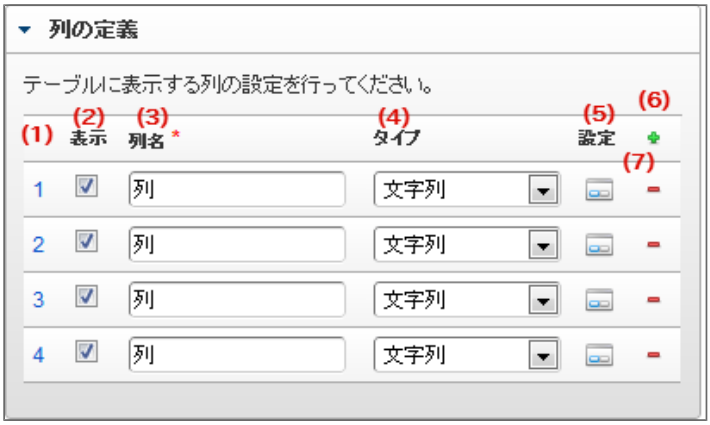
行数

「行追加可能」のチェックがオフの場合、テーブルに表示する行数を設定できます。

最大行数

「行追加可能」のチェックがオンの場合、テーブルに追加できる行の最大値を設定できます。
入力した行数まで追加できるようになるため、1以上の値を設定してください。

列の定義



明細テーブルの列を設定します。

1. 列番号

   列の表示順を設定します。
   列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

2. 表示

   列の表示/非表示を設定します。
   チェックがオフの場合、列は画面に表示されませんが、値の設定・取得等に利用することができます。
   タイプが「隠しパラメータ」の場合、必ずチェックがオフ(非表示)になります。

3. 列名

   列の名称を設定します。
   明細テーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

4. タイプ

   列のデータ型を設定します。
   関数や一覧選択等の他の画面アイテムを参照できるタイプの場合には、「関数」「一覧選択」で利用する場合と同様に、対象のフィールド識別IDを利用することで指定できます。

5. 設定

   クリックすると、列の詳細設定(入力フィールド、入力チェック等)画面に遷移します。

6. 追加

   クリックすると、明細テーブルの列を追加します。

7. 削除

   クリックすると、明細テーブルの列を削除します。

コラム

- 明細テーブルの表示について
  明細テーブルのテーブル、列の表示・非表示、表示タイプについては、以下の通りの動作となります。
  明細テーブルの「列の定義」での列の表示・非表示は、テーブルの表示タイプが表示であれば、列の定義を非表示にした場合も値を保持することができます。
  表示タイプは、列の表示タイプが設定されている場合には、テーブルの表示タイプより列の表示タイプの設定が優先されます。
  テーブルの表示タイプを非表示とした場合には、列の表示タイプを設定することはできません。
  テーブル・列の表示タイプの設定で非表示とした場合には、データは保持されません。

詳細設定

テーブル識別ID

明細テーブル、グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブルの物理名として利用します。
フォーム間でテーブル同士の値の引継ぎをする場合は、テーブル識別IDを同じにする必要があります。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

列番号表示(参照時)

明細テーブルのテーブルに対する表示タイプが「参照」となっている場合に、左の列番号の表示を設定します。
チェックがオンになっている場合、入力時と同様の列番号を表示します。

- 列番号表示が有効の場合

明細テーブル

	列	列	列	列
1	ABC	DEF	GHI	JKL
2	MNO	PQR	STU	VWX

- 列番号表示が無効の場合

明細テーブル

列	列	列	列
ABC	DEF	GHI	JKL
MNO	PQR	STU	VWX

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

列のサイズ・配置

列のサイズ
列の入力欄の標示の幅をピクセル単位で指定します。
横位置揃え
列の値の横位置を左寄せ、中央寄せ、右寄せのいずれかに設定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

列プロパティ概要

列プロパティは、「基本設定」 -> 「列の定義」 -> 「設定」をクリックして設定することができます。
明細テーブルの列プロパティには、以下のタイプがあります。
それぞれのタイプで、列プロパティの設定内容が異なります。

タイプ	説明
文字列	文字や数値などで短い文章を入力するときに使用するタイプです。
数値	金額や個数などの数値を入力するときに使用するタイプです。
日付	日付を入力するときに使用するタイプです。
関数	日付や数値の計算や、関数を使用して処理するときに使用するタイプです。
隠しパラメータ	フォーム上に表示させずに、値を保持するときに使用するタイプです。
一覧選択	外部連携を使用し、入力値を一覧から選択して入力するときに使用するタイプです。
ラジオボタン	複数項目から入力値をボタンで、１つ選択するときに使用するタイプです。
セレクトボックス	複数項目から入力値をプルダウンで、１つ選択するときに使用するタイプです。

列プロパティ(文字列)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「文字列」の場合には、以下の項目を設定します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(数値)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「数値」の場合には、以下の項目を設定します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
アカウント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123 456 789,123
テナント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123.456.789,123
システム設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ・123456789.123 ・123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(日付)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「日付」の場合には、以下の項目を設定します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(関数)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「関数」の場合には、以下の項目を設定します。

式

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123
アカウント設定	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ■ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ■ 123456789,123 ■ 123 456 789,123
テナント設定	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ■ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ■ 123456789,123 ■ 123.456.789,123
システム設定	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ■ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ■ 123456789.123 ■ 123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。

「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(隠しパラメータ)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「隠しパラメータ」の場合には、以下の項目を設定します。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがなど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

列プロパティ(一覧選択)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「一覧選択」の場合には、外部連携設定のリンクから外部連携に関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
  別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 最大表示行数
  一覧画面上に表示できる最大行数を設定します。
  外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」の場合、改ページ機能があるため、最大表示行数の設定は無効となります。
- マルチセレクト
  チェックがオンの場合、一覧画面上で複数行を選択できます。
  複数の行を選択した場合でも、画面アイテム「一覧選択」のフィールドには最初の1件しか反映されませんので注意してください。
- 項目幅の自動調整
  チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
  チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。
  表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。
- 列番号
  列の表示順を設定します。
  列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示
  一覧画面に表示するかどうかを設定します。
  チェックがオンの場合に一覧画面に表示します。
- 列名
  一覧画面に表示する列名を設定します。
- 列ID
  一覧画面に表示する列を一意に識別するためのIDです。
  データマッパー上では、「{列名} | {列ID}」の形式で表示されます。
- タイプ
  列のデータ型を設定します。
- ソート
  初期表示時の一覧画面のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を設定します。
  いずれかの列について、昇順/降順を指定することで、初期表示のソート対象項目に設定できます。
  すべての列でソートを空白指定した場合、一番上の列の昇順でソートされます。

> **注意**
>
> IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整とソートの設定を追加しました。
>
> - IM-FormaDesigner 2022Spring 以前に作成した定義を利用する場合、かつ、外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、項目幅の自動調整と初期表示時のソート順の設定について、一覧選択画面の表示とプロパティの設定で差異が生じます。
>   そのため、一度プロパティの設定を変更してからフォームの更新を行ってください。
> - IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
>   「 画面設計書出力 」での出力値は空白で出力されます。

取得値設定

外部連携で取得した値の反映先のマッピングを行います。

- マッピング情報
  虫眼鏡アイコンをクリックするとデータマッパーが表示されますので、データマッパー上で対応する画面アイテムのマッピングを設定します。
  - 取得値に設定できるアイテム
    - 文字列（product_72_textbox）
    - 複数行文字列（product_72_textarea）
    - 数値（product_72_number）
    - 日付（product_72_date）
    - 期間（product_72_term）
    - 一覧選択（互換用）（product_72_itemSelect）
    - チェックボックス（product_80_checkbox）
    - ラジオボタン（product_80_radio）
    - セレクトボックス（product_80_selectbox）
    - リストボックス（product_80_listbox）
    - 一覧選択（product_80_itemSelect）
    - 隠しパラメータ（product_72_hidden）

> **コラム**
>
> データソースを使用する連携の設定の方法は、「 IM-BIS 業務管理者操作ガイド 」を参照してください。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(ラジオボタン)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「ラジオボタン」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(セレクトボックス)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「セレクトボックス」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示

入力・表示ともできません。
設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

明細テーブルの行のコピー、挿入、削除方法

行のコピー、挿入、削除方法について説明します。

行のコピー

行のコピーを行います。

1. コピー対象の番号を右クリックします。



2. 「コピー」をクリックします。



3. 挿入対象の番号で右クリックし、「コピーした行の挿入」をクリックします。



4. コピーした行が挿入されます。



行の挿入

行の挿入を行います。

1. 「＋」アイコンまたは、挿入対象の番号で右クリックし、「挿入」をクリックします。



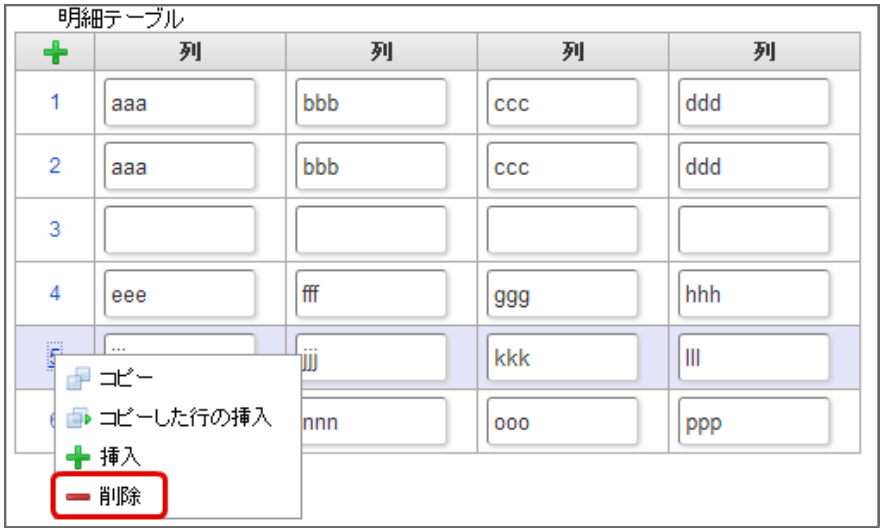
2. 行が挿入されます。



行の削除

行の削除を行います。

1. 削除対象の番号で右クリックし、「削除」をクリックします。



2. 行が削除されます。



コラム

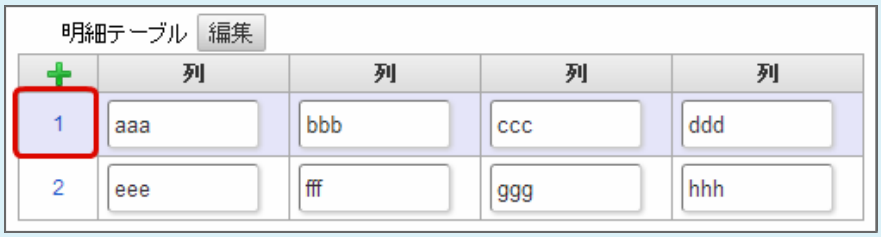
- スマートフォンの場合

  スマートフォンでは、以下の処理を行うことができます。

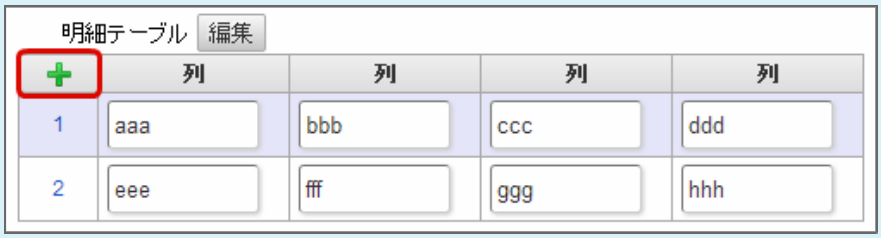
  - 行のコピー
  - 行の削除

  行のコピーを行います。

  1. 番号をクリックし、コピー対象を選択します。



  2. 「＋」をクリックします。



  3. コピーした行が挿入されます。



行の削除を行います。

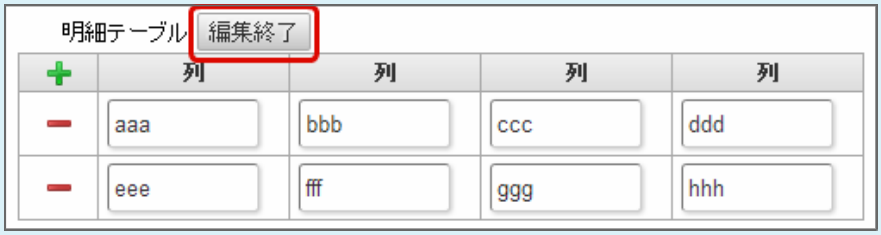
1. 「編集」ボタンをクリックします。



2. 「ー」をクリックします。



3. 「編集終了」ボタンをクリックします。



4. 対象行が削除されます。



チェックボックス

画面アイテム「チェックボックス」は、複数項目から入力値を選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

データの定義

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

項目幅

各選択肢の表示値の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

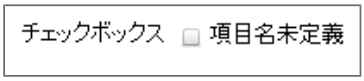
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ラジオボタン

画面アイテム「ラジオボタン」は、複数項目から入力値を 1 つ選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

データの定義

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

項目幅

各選択肢の表示値の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

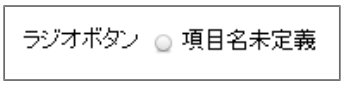
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

セレクトボックス

画面アイテム「セレクトボックス」は、複数項目から入力値を 1 つ選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

データの定義

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

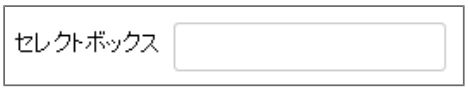
1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

リストボックス

画面アイテム「リストボックス」は、複数項目から入力値を選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

データの定義

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、－によって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

行数

画面に表示する選択肢の個数を指定します。
選択肢の個数が行数に設定した値より多い場合は、スクロールバーを利用して選択します。

参照時セパレータ

表示タイプ「参照」で、選択済みの複数の値を表示する際の区切り文字を設定します。
参照時セパレータの値に関係なく、データベース上では、複数の値が選択済みの場合には「,」を区切り文字として使用します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

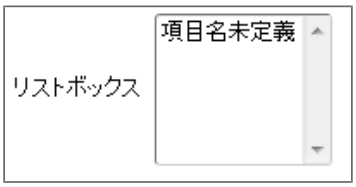
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

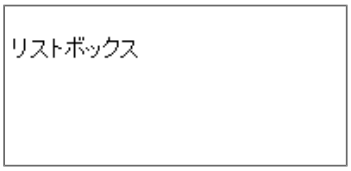
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



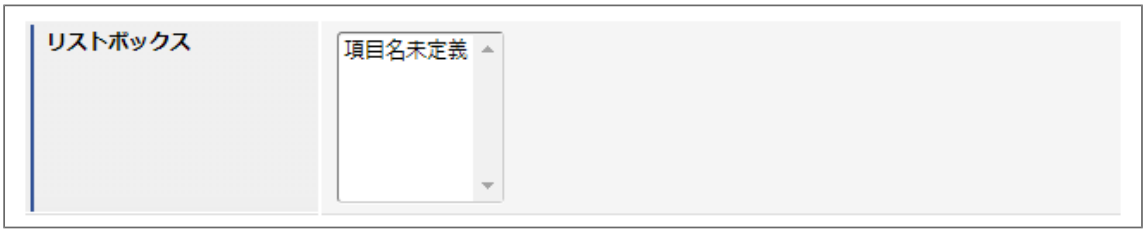
アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ファイルアップロード

画面アイテム「ファイルアップロード」は、画面の入力時のファイルを添付するためのアイテムです。
なお、 IM-Workflow の添付ファイルとは異なる機能となりますので、注意してください。

> **注意**
>
> - アップロード可能なファイルサイズは、 intra-mart Accel Platform の機能に依存します。制限サイズを超えるファイルをアップロードするとエラーが発生しますので注意してください。
>   制限サイズの設定方法については、「 設定ファイルリファレンス 」-「 リクエストクエリの長さ制限 」を参照してください。
> - ファイルアップロードの「備考」は500文字まで入力できます。
> - ファイルアップロードアイテムのテーブルのカラムサイズの変更については、以下のリンク先を参照してください。
>   - 「 IM-FormaDesigner 仕様書 」-「 カラムサイズの拡張 」
> - データベースとして PostgreSQL を利用し、ファイルアップロードアイテムの保存先をデータベースとしている場合、添付ファイルサイズが非常に大きいとファイルのダウンロードが正常に行われない場合があります。
>   詳細は、「 制限事項 」-「 データベースとして PostgreSQL を利用し、ファイルアップロードアイテムの保存先をデータベースとしている場合、添付ファイルサイズが非常に大きいとファイルのダウンロードが正常に行われない場合があります。 」を参照してください。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、アイテムの上に表示します。

添付ファイルの個数

同一フォーム内で添付可能なファイルの個数の上限値、下限値を設定します。

1. 最小
   添付ファイルの最小添付数を0以上の値で設定します。
2. 最大
   添付ファイルの最大添付数を0以上の値で設定します。

詳細設定

アイテム識別ID

アップロードしたファイルを画面アイテムと関連付けるためのIDを設定します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画像プレビュー表示

この設定は、ファイルアップロードを「プレビュー表示」モードとして動作させるための設定です。
設定が有効な場合には、ファイルアップロードアイテム内にプレビュー幅・高で設定したサイズの画像を表示します。
プレビュー画像をクリックすると元画像サイズで表示できます。
「画像プレビュー表示」を有効にした場合、アップロード可能なファイルが画像ファイル（拡張子：jpg,jpeg,png,gif）に限定されます。

プレビュー幅
アップロードした画像ファイルのプレビュー表示時の表示サイズの幅をピクセル単位で指定します。
プレビュー高
アップロードした画像ファイルのプレビュー表示時の表示サイズの高さをピクセル単位で指定します。

1ファイルあたりのサイズ（キロバイト単位）

1 ファイルあたりのファイルサイズの上限をキロバイト単位で指定します。

コラム
- 1ファイルあたりのサイズ（キロバイト単位）には0以上の数値を必ず入力してください。
- 0を指定した場合は実行画面ではファイルサイズによる制限を行いません。

許可する拡張子

アップロードを許可するファイル拡張子をカンマ区切りで指定します。

コラム
- 「画像プレビュー表示」が有効な場合は、 jpeg,jpg,gif,png のみ設定します。
- 未指定の場合は「画像プレビュー表示」が有効な場合は、実行画面では jpeg,jpg,gif,png を許可します。「画像プレビュー表示」が無効な場合は、実行画面では、すべての拡張子を許可します。

別ウィンドウ表示

別ウィンドウ表示の有効無効を設定します。
ファイル名を押下した場合に、別ウィンドウでファイルを開きます。

コラム
- 別ウィンドウ表示を有効にした場合、実行画面でファイルをダウンロードするにはファイル名の右側にあるアイコンを押します。
- 実行画面では、ブラウザによって別ウインドウ表示されるファイルの種類が異なります。
- スマートフォン版では別ウィンドウでは表示されません。

ファイル一覧の並び順

アップロードされたファイルの並び順に関して、ソートに使用する項目（ファイル名/備考/更新日）と並び順（昇順/降順）を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

グリッドテーブル

画面アイテム「グリッドテーブル」は、アプリの実行時に表形式で入力したり、フィルターで表示内容を絞り込んで表示するためのアイテムです。

> **注意**
>
> タイプ「一覧選択」の外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、以下の点に注意してください。
>
> - 一覧選択の虫眼鏡アイコンを、クリックした後に表示される一覧選択画面には、改ページ機能がありません。
>   そのため、取得したデータが最大表示行数を超える場合には、最大表示行数までで打ち切られて表示されます。
>   また、一覧選択画面の絞り込み機能を用いても、打ち切られたデータを表示させることはできませんので
>   一覧選択画面を表示する際の外部連携の条件、または最大表示行数の設定を見直してください。

項目

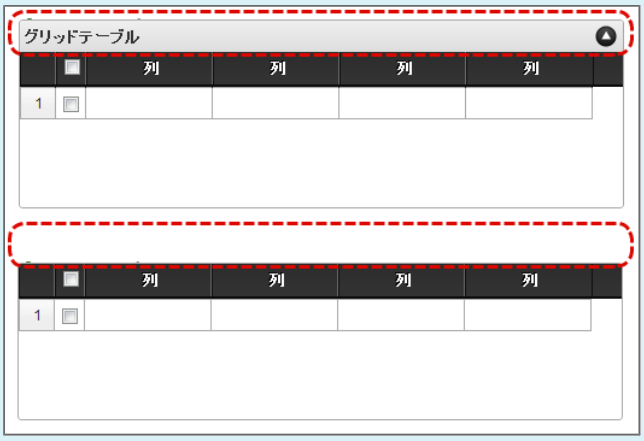
- 基本設定
- 詳細設定
- 表示スタイル
- 列プロパティ概要
- 列プロパティ(文字列)
- 列プロパティ(数値)
- 列プロパティ(日付)
- 列プロパティ(隠しパラメータ)
- 列プロパティ(関数)
- 列プロパティ(一覧選択)
- 列プロパティ(セレクトボックス)
- 列プロパティ(イメージ)
- 列プロパティ(カスタム)
- グリッドテーブルの行のコピー、行のコピー（複数）、挿入、削除方法

基本設定

ラベル

グリッドテーブルのヘッダーのキャプションとして使用します。
ラベルに設定した名称を、グリッドテーブルのヘッダー部分に表示します。

> **コラム**
>
> グリッドテーブルのラベルに何も設定していない場合には、上部のキャプションも非表示になります。



行の定義

テーブルに追加できる行について設定します。

行追加可能

チェックをオンにした場合、アプリケーションの実行時に行を追加することができます。

行数

「行追加可能」のチェックがオフの場合、テーブルに表示する行数を設定できます。

最大行数

「行追加可能」のチェックがオンの場合、テーブルに追加できる行の最大値を設定できます。
入力した行数まで追加できるようになるため、1以上の値を設定してください。

初期表示行数

入力時に最初に表示する行数を設定します。
「最大行数」を設定している場合には、最大行数以下になるように設定してください。
初期表示行数は0を設定することもできます。

行追加機能

行の追加を制限します。
チェックがオンの場合、行を追加することができます。
チェックがオフの場合、行を追加することはできません。

行削除機能

行の削除を制限します。
チェックがオンの場合、行を削除することができます。
チェックがオフの場合、行を削除することはできません。

削除確認ダイアログ

行削除をクリックすると、削除確認のダイアログを表示します。
チェックがオンの場合、ダイアログが表示されます。
チェックがオフの場合、ダイアログが表示されません。

列の定義



グリッドテーブルの列を設定します。

1. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   すべての列に対して同じサイズが設定されます。

2. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、すべての列に適用されます。

3. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   すべての列に対して同じ表示位置が設定されます。

4. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   すべての列に対して同じ表示位置が設定されます。

5. 検索機能

   検索機能の設定をします。

   1. 利用しない
      「検索機能」を利用しません。

   2. フィルター検索
      検索で絞り込む時の比較条件を設定します。
      設定内容は、すべての列に適用されます。

3. 高度な検索

   別画面による高度な検索、複数列による検索や範囲検索などをすることができます。



   ページャー部分に表示されている  をクリックした場合、表示される画面で検索条件を設定します。

   この機能はページャー利用時にのみ利用することができます。

6. フィルター条件

   「フィルター検索」を設定した場合の比較条件を設定します。
   設定内容は、すべての列に適用されます。

7. 列番号

   列の表示順を設定します。
   列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

8. 表示

   列の表示/非表示を設定します。
   チェックがオフの場合、列は画面に表示されませんが、値の設定・取得等に利用することができます。
   タイプが「隠しパラメータ」の場合、必ずチェックがオフ(非表示)になります。

9. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

10. タイプ

    列のデータ型を設定します。
    関数や一覧選択等の他の画面アイテムを参照できるタイプの場合には、「関数」「一覧選択」で利用する場合と同様に、対象のフィールド識別IDを利用することで指定できます。

11. 設定

    クリックすると、列の詳細設定(入力フィールド、入力チェック等)画面に遷移します。

12. 追加

    クリックすると、グリッドテーブルの列を追加します。

13. 削除

    クリックすると、グリッドテーブルの列を削除します。

コラム

- グリッドテーブルの表示について
  グリッドテーブルのテーブル、列の表示・非表示、表示タイプについては、以下の通りの動作となります。
  グリッドテーブルの「列の定義」での列の表示・非表示は、テーブルの表示タイプが表示であれば、列の定義を非表示にした場合も値を保持することができます。
  表示タイプは、列の表示タイプが設定されている場合には、テーブルの表示タイプより列の表示タイプの設定が優先されます。
  テーブルの表示タイプを非表示とした場合には、列の表示タイプを設定することはできません。
  テーブル・列の表示タイプの設定で非表示とした場合には、データは保持されません。

詳細設定

テーブル識別ID

明細テーブル、グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブルの物理名として利用します。
フォーム間でテーブル同士の値の引継ぎをする場合は、テーブル識別IDを同じにする必要があります。

テーブル幅

テーブルを表示する幅をピクセル単位で指定します。

テーブル高さ

テーブルを表示する高さをピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

マルチセレクト

複数の行を選択できるかどうかを設定します。
設定を有効にしている場合には、選択するためのチェックボックスの列を表示します。

列番号表示

グリッドテーブルのテーブルの列番号の表示を設定します。

1. 表示
   入力可・参照時ともに列番号を表示します。
2. 非表示
   入力可・参照時ともに列番号を表示しません。
3. 入力可のみ表示
   入力可の場合のみ列番号を表示します。
4. 参照時のみ表示
   参照時の場合のみ列番号を表示します。

- 列番号表示が「表示」の場合



- 列番号表示が「非表示」の場合



- 列番号表示が「入力可のみ表示」の場合



- 列番号表示が「参照時のみ表示」の場合



ページャー表示

テーブル下部にページ数、ページ送りのアイコンを表示します。
ページャーは、参照モードで明細が0行の場合も表示されます。
ページャーが無効な場合には、明細の全ての行を1ページに表示します。

1. 表示
   入力可・参照時ともにページャーを表示します。
2. 非表示
   入力可・参照時ともにページャーを表示しません。
3. 表示（入力可のみ表示）
   入力可能時のみページャーを表示します。
4. 表示（参照時のみ表示）
   参照時のみページャーを表示します。

- ページャー表示が「表示」の場合



- ページャー表示が「非表示」の場合



- ページャー表示が「入力可のみ表示」の場合



- ページャー表示が「参照時のみ表示」の場合



表示件数（ページャー）

ページャーを表示する場合は、表示件数を設定します。
表示件数は、カンマ区切りで設定します。

並べ替え機能

単一列、または複数列での並べ替えを設定します。

- 利用しない
  単一列、複数列のいずれでもテーブルの並べ替えができません。

- 単一列による並べ替え
  クリックしたテーブルのヘッダの列を基準に並べ替えを行います。
  - 対象列（初期表示時）
    初期表示時の並べ替えの基準とする項目を選択します。
    未選択時（空白）には、並べ替えをしていない状態で表示されます。
  - 並び順（初期表示時）
    初期表示時の並べ替えを昇順、降順のどちらですするかを設定します。
- 複数列による並び替え
  テーブル上部に「並べ替え」アイコンが表示されます。
  「並べ替え」をクリックすると、複数の列による並べ替えの優先順位や昇順・降順を設定することができます。

列の表示・非表示

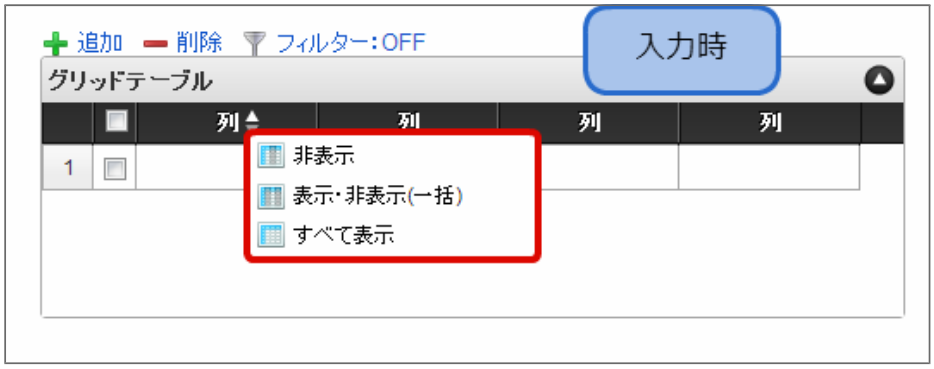
実行画面で「列」を右クリックして、列の表示・非表示を設定します。

1. 利用する
   入力可・参照時ともに、「列の表示・非表示」を利用します。
2. 利用しない
   入力可・参照時ともに、「列の表示・非表示」を利用しません。
3. 入力可のみ利用
   入力可能時のみ、「列の表示・非表示」を利用します。
4. 参照時のみ利用
   参照時のみ、「列の表示・非表示」を利用します。

- 「列の表示・非表示」が「利用する」の場合



- 「列の表示・非表示」が「入力可のみ利用」の場合



- 「列の表示・非表示」が「参照時のみ利用」の場合



列固定

列の固定をします。
横スクロールをする際に、列固定された列はスクロールされずに固定されます。

列固定機能

「列固定機能」の設定をします。

1. 表示
   入力可・参照時ともに「列固定：OFF/ON」を表示します。
2. 非表示
   入力可・参照時ともに「列固定：OFF/ON」を表示しません。
3. 入力可のみ表示
   入力可能時のみ「列固定：OFF/ON」を表示します。
4. 参照時のみ表示
   参照時のみ「列固定：OFF/ON」を表示します。

- 列固定機能が「表示」の場合



- 列固定機能が「非表示」の場合



- 列固定機能が「入力可のみ表示」の場合



- 列固定機能が「参照時のみ表示」の場合



列固定範囲

固定する列の範囲を設定します。

表示タイプ

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

ヘッダースタイル

ヘッダーの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

縞模様機能

チェックがオンの場合、奇数行、偶数行の背景色を別々に設定します。
フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色（奇数行/偶数行）

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

列個別設定

ヘッダーとフィールドの表示スタイルを個別で設定することができます。

列選択
表示スタイルを個別に設定したい列を選択します。

ヘッダースタイル

ヘッダーの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

列プロパティ概要

列プロパティは、「基本設定」 -> 「列の定義」 -> 「設定」をクリックして設定することができます。
または、列のヘッダー部をダブルクリックして設定することできます。
グリッドテーブルの列プロパティには、以下のタイプがあります。
それぞれのタイプで、列プロパティの設定内容が異なります。

タイプ	説明
文字列	文字や数値などで短い文章を入力するときに使用するタイプです。
数値	金額や個数などの数値を入力するときに使用するタイプです。
日付	日付を入力するときに使用するタイプです。
隠しパラメータ	フォーム上に表示させずに、値を保持するときに使用するタイプです。
関数	日付や数値の計算や、関数を使用して処理するときに使用するタイプです。
一覧選択	外部連携を使用し、入力値を一覧から選択して入力するときに使用するタイプです。
セレクトボックス	複数項目から入力値をプルダウンで、１つ選択するときに使用するタイプです。
イメージ	フォーム上に任意の画像を表示するときに使用するタイプです。
カスタム	表示用のタグを含んだコードを設定するタイプです。

列プロパティ(文字列)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「文字列」の場合には、以下の項目を設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

検索設定

検索機能を有効にしている場合に、列単位での検索フィルターを設定します。

検索対象

- 「検索機能」に「フィルター検索」を設定している場合
  検索機能でフィルターで表示をしぼりこむ条件に利用できるかどうかを設定します。
- 「検索機能」に「高度な検索」を設定している場合
  検索機能で検索条件に利用できるかどうかを設定します。

フィルター条件

「検索機能」を「フィルター検索」にした場合、設定することができます。
検索で絞り込む時の比較条件を設定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(数値)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「数値」の場合には、以下の項目を設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
アカウント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123 456 789,123
テナント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123.456.789,123
システム設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ・123456789.123 ・123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

小数点表示

チェックがオンの場合、整数で入力した場合でも小数点で表示することができます。
例 ：「小数部最大入力桁数」に「2」、「入力フィールド」に「1」と入力した場合、「1.00」と表示されます。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

検索設定

検索機能を有効にしている場合に、列単位での検索フィルターを設定します。

検索対象

- 「検索機能」に「フィルター検索」を設定している場合
  検索機能でフィルターで表示をしぼりこむ条件に利用できるかどうかを設定します。
- 「検索機能」に「高度な検索」を設定している場合
  検索機能で検索条件に利用できるかどうかを設定します。

フィルター条件

「検索機能」を「フィルター検索」にした場合、設定することができます。
検索で絞り込む時の比較条件を設定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(日付)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「日付」の場合には、以下の項目を設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

検索設定

検索機能を有効にしている場合に、列単位での検索フィルターを設定します。

検索対象

- 「検索機能」に「フィルター検索」を設定している場合
  検索機能でフィルターで表示をしぼりこむ条件に利用できるかどうかを設定します。
- 「検索機能」に「高度な検索」を設定している場合
  検索機能で検索条件に利用できるかどうかを設定します。

フィルター条件

「検索機能」を「フィルター検索」にした場合、設定することができます。
検索で絞り込む時の比較条件を設定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(隠しパラメータ)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「隠しパラメータ」の場合には、以下の項目を設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。

列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

列プロパティ(関数)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「関数」の場合には、以下の項目を設定します。

式

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット

> **コラム**
>
> IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。
>
> - 数値表示のフォーマット処理を改善します。
>   https://issue.intra-mart.jp/issues/27791
>
> これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。
>
> > **注意**
> >
> > 設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
> > 使用の際は十分な検証を行ってください。
> >
> > - アカウント設定
> > - テナント設定
> > - システム設定
> >
> > 詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。

> **注意**
>
> アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 から削除した場合の動作は以下の通りです。
>
> - フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
> - フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
> - 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。
>
> 表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ▪ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	▪ 123456789.123 ▪ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ▪ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	▪ 123456789.123 ▪ 123,456,789.123
アカウント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123 456 789,123
テナント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123.456.789,123
システム設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ▪ 123456789.123 ▪ 123‘456‘789.123



コラム

クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(一覧選択)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「一覧選択」の場合には、データソース設定のリンクからデータソースに関する設定、
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

タイプ

列のタイプを選択します。

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
  別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 最大表示行数
  一覧画面上に表示できる最大行数を設定します。
  外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」の場合、改ページ機能があるため、最大表示行数の設定は無効となります。
- マルチセレクト
  チェックがオンの場合、一覧画面上で複数行を選択できます。
  複数の行を選択した場合でも、画面アイテム「一覧選択」のフィールドには最初の1件しか反映されませんので注意してください。
- 項目幅の自動調整
  チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
  チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。
  表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。
- 列番号
  列の表示順を設定します。
  列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。
- 表示
  一覧画面に表示するかどうかを設定します。
  チェックがオンの場合に一覧画面に表示します。
- 列名
  一覧画面に表示する列名を設定します。
- 列ID
  一覧画面に表示する列を一意に識別するためのIDです。
  データマッパー上では、「{列名}｜{列ID}」の形式で表示されます。
- タイプ
  列のデータ型を設定します。
- ソート
  初期表示時の一覧画面のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を設定します。
  いずれかの列について、昇順/降順を指定することで、初期表示のソート対象項目に設定できます。
  すべての列でソートを空白指定した場合、一番上の列の昇順でソートされます。

> **注意**
>
> IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整とソートの設定を追加しました。
>
> - IM-FormaDesigner 2022Spring 以前に作成した定義を利用する場合、かつ、外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、項目幅の自動調整と初期表示時のソート順の設定について、一覧選択画面の表示とプロパティの設定で差異が生じます。
> そのため、一度プロパティの設定を変更してからフォームの更新を行ってください。
> - IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
> 「 画面設計書出力 」での出力値は空白で出力されます。

取得値設定

外部連携で取得した値の反映先のマッピングを行います。

- マッピング情報
  虫眼鏡アイコンをクリックするとデータマッパーが表示されますので、データマッパー上で対応する画面アイテムのマッピングを設定します。
  - 取得値に設定できるアイテム
    - 文字列（product_72_textbox）
    - 複数行文字列（product_72_textarea）
    - 数値（product_72_number）
    - 日付（product_72_date）
    - 期間（product_72_term）
    - 一覧選択（互換用）（product_72_itemSelect）
    - チェックボックス（product_80_checkbox）
    - ラジオボタン（product_80_radio）
    - セレクトボックス（product_80_selectbox）
    - リストボックス（product_80_listbox）
    - 一覧選択（product_80_itemSelect）
    - 隠しパラメータ（product_72_hidden）

> **コラム**
>
> データソースを使用する連携の設定の方法は、「 IM-BIS 業務管理者操作ガイド 」を参照してください。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがなど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

検索設定

検索機能を有効にしている場合に、列単位での検索フィルターを設定します。

検索対象

- 「検索機能」に「フィルター検索」を設定している場合
  検索機能でフィルターで表示をしぼりこむ条件に利用できるかどうかを設定します。
- 「検索機能」に「高度な検索」を設定している場合
  検索機能で検索条件に利用できるかどうかを設定します。

フィルター条件

「検索機能」を「フィルター検索」にした場合、設定することができます。
検索で絞り込む時の比較条件を設定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(セレクトボックス)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「セレクトボックス」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定、
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。
設定するデータをデータソース定義から取得する場合は、外部連携設定画面で設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 列番号

  列の表示順を設定します。
  列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

検索設定

検索機能を有効にしている場合に、列単位での検索フィルターを設定します。

検索対象

- 「検索機能」に「フィルター検索」を設定している場合
  検索機能でフィルターで表示をしぼりこむ条件に利用できるかどうかを設定します。
- 「検索機能」に「高度な検索」を設定している場合
  検索機能で検索条件に利用できるかどうかを設定します。

フィルター条件

「検索機能」を「フィルター検索」にした場合、設定することができます。
検索で絞り込む時の比較条件を設定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(イメージ)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「イメージ」の場合には、以下の項目を設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

イメージ選択

配置した場所に表示する画像ファイルを指定します。
指定できる画像ファイルは、「フォーム・デザイナ」画面上の「画像アップロード」で事前にアップロード済みの画像ファイルに限られます。

リンク

イメージに他ページへのリンクを設定します。

設定方法

リンク先の設定方法を設定します。

- Forma画面設定：Forma画面を開く設定をします。
- URL設定：URLを指定する設定をします。

利用方法

利用方法を設定します。

- ポップアップ表示：ポップアップで表示します。
- 別画面表示：別画面で表示します。

子画面サイズ（幅）

ポップアップ表示する子画面の横の長さ（幅）をピクセル単位で指定します。

子画面サイズ（高）

ポップアップ表示する子画面の縦の長さ（高さ）をピクセル単位で指定します。

URL

イメージで表示した画像をクリックした際に表示するサイトのアドレスを設定します。

> **コラム**
>
> URLに別ドメインを設定する場合、データの送信方法「POST」は利用できません。

送信方法

データの送信方法を「GET」「POST」のいずれかから選択します。

パス設定

イメージに他ページへのリンクを設定します。
URLで設定したオーソリティのアクセス先を設定します。
例 ：URLに「 *http://localhost/imart* 」、パス設定に「 *path* 」と設定した場合、「 *http://localhost/imart/path* 」というURLを生成します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（*）を指定してください。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「 ” 」で囲んでください。

列番号をドラッグすると、列を入れ替えることができます。

* 画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

パラメータ設定

URLに設定した値（アドレス）に追加したいパラメータのキーと値の組み合わせを設定します。
「＋」「－」で追加と削除ができます。
列番号をドラッグすることで列を入れ替えることができます。

パラメータキー

編集対象のパラメータ値に対応するパラメータキーを選択します。

パラメータ値

パラメータに設定する値を登録します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

Forma画面設定

子画面表示時

子画面表示時の処理を指定します。

- 子画面に値を反映：親画面から子画面に値を反映します。
- 何もしない：値の反映はしません。

フォーム遷移名

子画面に表示するフォーム遷移を指定します。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

列プロパティ(カスタム)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「カスタム」の場合には、表示用のタグを含んだコードを設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

コード記述

表示したい文字列や、HTMLタグなどを記述します。

> **注意**
> - 表示用のタグを設定します。入力用のタグを使用した制御は想定していません。
>   jqgridの特質上、カスタムに入力されたデータはグリッドテーブルの内部データと同期されないため、
>   入力内容が保持されません。

コラム

例）他のサイトのイメージを表示するタグ

```
<img src="http://www.accel-mart.com/top_img/main_image_01.jpg" >
```

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

グリッドテーブルの行のコピー、行のコピー（複数）、挿入、削除方法

行のコピー、行のコピー（複数）、挿入、削除方法について説明します。

行のコピー

行のコピーを行います。

1. 行の上を右クリックします。



2. 「コピー」をクリックします。



3. 行の上を右クリックし、「コピーした行の挿入」をクリックします。



4. コピーした行が挿入されます。



行のコピー（複数）

行の複数行コピーを行います。

1. 「行のコピー」の1～2と同様に、コピー対象をコピーします。
2. 行の上を右クリックし、「コピーした行の挿入（複数）」をクリックします。



3. 挿入行数に挿入したい行数を入力します。



> **注意**
> グリッドテーブルのプロパティの基本設定で設定した「最大行数」を超えないように入力してください。

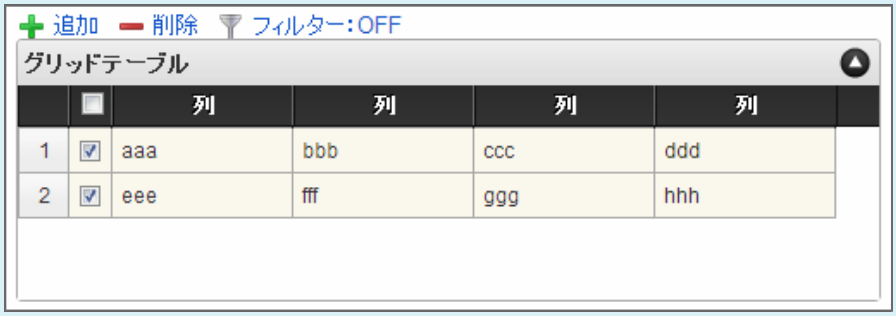
4. コピーした行が挿入されます。


追加
削除
フィルター:OFF
グリッドテーブル
列
列
列
列
2
eee
fff
ggg
hhh
3
aaa
bbb
ccc
ddd
4
aaa
bbb
ccc
ddd
5
aaa
bbb
ccc
ddd

コラム

行のコピー、行のコピー（複数）では、コピー対象をチェックボックスをオンにして指定することもできます。

1. コピー対象のチェックボックスをオンにします。



2. 「コピー」をクリックします。



3. 行の上を右クリックし、「コピーした行の挿入（または、コピーした行の挿入（複数））」をクリックします。



4. コピーした行が挿入されます。



行の挿入

行の挿入を行います。

1. 行の上を右クリックし、「挿入」をクリックします。



コラム

- グリッドテーブル上部の「追加」をクリックし、挿入することもできます。



2. 行が挿入されます。



行の削除

行の削除を行います。

1. 行の上を右クリックし、「削除」をクリックします。



コラム

削除対象のチェックボックスをオンにして、指定することもできます。

- 削除対象の行のチェックボックスをオンにし、グリッドテーブル上部の「削除」をクリックします。



2. 行が削除されます。



注意

グリッドテーブルには、以下の機能で注意事項があります。

- 列固定機能
  - 列への入力や非表示の操作は、列固定機能が「非表示」の時に実施することができます。
  - 列の固定範囲は、グリッドテーブル幅以内までにしてください。
- ヘッダースタイル
  - ヘッダーのフォントサイズを小さくすると、ソートアイコンである▲▼の表示が隠れてしまうので注意してください。



- ページャー機能
  - 行の追加、挿入をすると現在表示しているページに行の追加を行います。
  - ページャーのリロードをすると、ページの表示件数に従い表示され、新たに追加、挿入した行は、最終頁の最後の行に追加されます。

リッチテキストボックス

画面アイテム「リッチテキストボックス」は、色やフォントなどの文字装飾を伴う文字を入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、アイテムの上に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

リッチテキストボックス設定

リッチテキストボックスのエディタなどの詳細を設定します。
ツールバースタイル

ツールバー（編集用のコマンドアイコンを表示する部分）のスタイルを設定します。
「シンプル」に設定した場合、利用できるコマンドアイコンが少なくなります。

メニューバー

メニューバーを表示するか設定します。
チェックボックスがオンの場合、編集用のコマンドアイコンがメニューバーにまとまって表示されます。

画像挿入機能の利用

ローカルの画像を利用する機能を設定します。
設定ファイル（ui-tag-config_imui-richtextbox.xml）にて、扱える画像のオプションを設定できます。

- imuiDataUrl（設定を変更する）

エディタ幅
文字を編集する領域の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
エディタ高さ
文字を編集する領域の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
参照表示高さ固定

表示タイプの表示が「参照」の場合に、リッチテキストボックスの領域の高さを調整するかを設定します。
チェックボックスがオンの場合、表示する内容に関係なく、常に固定の高さで表示します。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

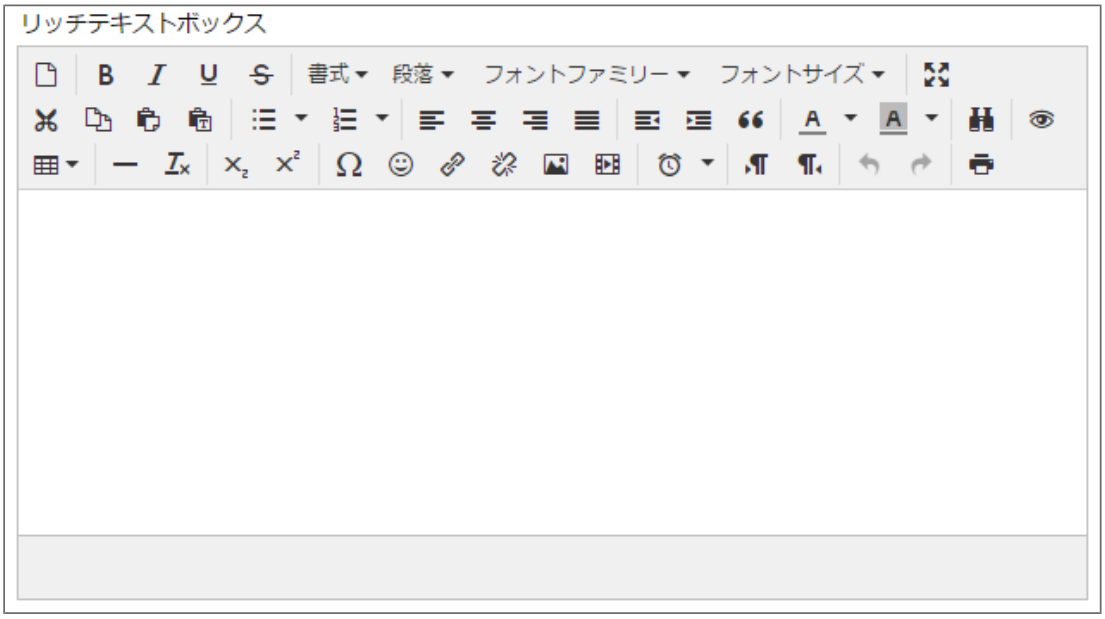
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

スプレッドシート

画面アイテム「スプレッドシート」は、IM-SpreadsheetをForma実行画面上で利用するためのアイテムです。

項目

- 基本設定
- 詳細設定
- フィールド定義
- テーブル定義

基本設定

スプレッドシート

画面アイテムに表示するスプレッドシートを設定します。
アイコンをクリックすることで、 IM-Spreadsheet デザイナが起動します。
「ファイル」 -「インポート」を利用することで、既存のExcelファイルを読み込むことができます。

注意

- スプレッドシートアイテムは、設定するシートのサイズに応じて、処理時間とメモリが必要となります。
  そのため、以下の制限を設定しています。
  - 「スプレッドシートのデータサイズ制限を設定する（spreadsheet-item-filelength-limit）」
  - 「スプレッドシートに含まれるテーブルの列数の最大値を設定する（spreadsheet-item-tablecolumn-limit）」

詳細設定

スプレッドシートID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDとスプレッドシートIDが一意になるように設定してください。
フォーム間でスプレッドシート同士の値の引継ぎをする場合は、スプレッドシートIDを同じにする必要があります。

シートDB登録

スプレッドシートのシート全体をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
チェックがオンの場合、データベースに登録したシートが存在する場合、そのシートを画面に表示します。
データベースに登録したシートが存在しない場合、フォーム・デザイナで定義したシートを画面に表示します。
複数画面を作成する場合、シートDB登録は全画面で同じ設定にする必要があります。

コラム

- シートDB登録をオンとして利用した場合、スプレッドシートのシート全体がリクエストパラメータとして送信されます。
  制限サイズを超えた場合、エラーが発生しますので注意してください。
  制限サイズの設定方法については、以下を参照してください。
  - 「スプレッドシートのデータサイズ制限を設定する（spreadsheet-item-filelength-limit）」

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

バインディング設定

スプレッドシート内の特定のセル、もしくは、テーブルの入力値のバインディング有無を設定します。
バインディングした値は、前処理や後処理、外部連携で利用することができます。
チェックがオンの場合、「フィールド定義」「テーブル定義」で、バインディングするセル、もしくは、テーブルを設定します。

バインディング値DB登録

バインディングした値をデータベースへ登録するかを設定します。
複数画面を作成する場合、バインディング値DB登録は全画面で同じ設定にする必要があります。

コラム

- シートDB登録：オフ、バインディング値DB登録：オンとして利用した場合
  - 登録／更新（申請／承認）画面など、別フォームに対して、同一のスプレッドシートIDで別の内容のスプレッドシートを設定できます。
    バインディング値はスプレッドシート上に反映されるため、画面ごとにスプレッドシートの表示内容を変更することができます。

コラム

- バインディング設定をオンとして利用した場合
  - バインディング設定をオンとした場合、設定した値は後処理に連携されます。
    バインディング値DB登録がオフの場合でも値は連携されます。

表示タイプ

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

フィールド定義

フィールド識別ID

アプリケーション上での、入力項目の識別IDとして利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

タイプ

入力項目として保持する値のデータ型を指定します。

コラム

- 指定したデータ型に対し、登録／更新（申請／承認）時に、保持するデータ型に対してのチェックのみ実施します。
  詳細の入力チェックを実行する場合は、SpreadJSのAPI、またはForma入力チェックユーザプログラムを利用してください。
- データ型として数値／日付を指定した場合、SpreadJSのセルの書式設定にも数値／日付形式を指定してください。
  型が異なる場合、入力時の変換処理でスクリプトエラーが発生したり、値が意図どおり連携されない場合があります。
- SpreadJSでのセル型がチェックボックスの場合は、データ型に「文字列」を指定してください。
  ユーザプログラム、外部連携では値を以下のように設定・取得します。
  チェックON: 文字列の”true”、チェックOFF: 文字列の”false”、不定状態(不定状態が有効の場合)：空文字
- SpreadJSでのセル型がチェックボックスリストの場合は、データ型に「文字列」を指定してください。
  ユーザプログラム、外部連携ではカンマ区切りの文字列で値を設定・取得します。
  ※SpreadJSで設定するチェックボックスリスト項目値にカンマ「,」が含まれていると正常に動作しないため、カンマを含まない値を設定してください。

シート・行・列

シート・行・列を指定します。
シートは、一番左のシートを0として、順番で指定します。
行・列は、左上のセルを0として、順番で指定します。

コラム

- 「選択中のセルを追加」を押下すると、スプレッドシート上でフォーカスが当たっているセルを追加することができます。
  また、画面アイテムプロパティで設定済みフィールドを選択すると、スプレッドシートの中で指定されたセルにフォーカスが当たります。

テーブル定義

テーブル

Excel上で設定されたテーブルオブジェクトがリストで表示されます。
バインディングするテーブルを選択して、「定義を設定」を押下すると、テーブルの各列が設定されます。
定義したテーブルを解除したい場合は、「定義を解除」を押下してください。

テーブル識別ID

アプリケーション上での、テーブルの識別IDとして利用します。
フォーム間でテーブル同士の値の引継ぎをする場合は、テーブル識別IDを同じにする必要があります。

シート番号
一番左のシートを0とした順番が表示されます。

フィールド識別ID

アプリケーション上での、入力項目の識別IDとして利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

タイプ

入力項目として保持する値のデータ型を指定します。

コラム

- 指定したデータ型に対し、登録／更新（申請／承認）時に、保持するデータ型に対してのチェックのみ実施します。
  詳細の入力チェックを実行する場合は、SpreadJSのAPI、またはForma入力チェックユーザプログラムを利用してください。
- データ型として数値／日付を指定した場合、SpreadJSのセルの書式設定にも数値／日付形式を指定してください。
  型が異なる場合、入力時の変換処理でスクリプトエラーが発生したり、値が意図どおり連携されない場合があります。
- SpreadJSでのセル型がチェックボックスの場合は、データ型に「文字列」を指定してください。
  ユーザプログラム、外部連携では値を以下のように設定・取得します。
  チェックON: 文字列の”true”、チェックOFF: 文字列の”false”、不定状態(不定状態が有効の場合)：空文字
- SpreadJSでのセル型がチェックボックスリストの場合は、データ型に「文字列」を指定してください。
  ユーザプログラム、外部連携ではカンマ区切りの文字列で値を設定・取得します。
  ※SpreadJSで設定するチェックボックスリスト項目値にカンマ「,」が含まれていると正常に動作しないため、カンマを含まない値を設定してください。

列番号

列番号が表示されます。
不要な列は削除してください。

コラム

- スプレッドシート内で関数を利用した場合、関数はスプレッドシート表示時に常に再実行されます。
  スプレッドシートでは、関数は式として保存されます。
  実行結果は保存されず、表示時に常に実行される動作が仕様となります。
- テーブルの列に関数を設定している場合、バインディングの設定を行うと関数が実行されなくなります。
  関数を実行する場合は、列の設定から対象列を削除してください。
- スプレッドシートでは、「 関数 」の「ワークフロー関数(申請情報)」「ワークフロー関数(案件情報)」が利用できます。

ボタンアイテム

ボタン(登録)

画面アイテム「ボタン(登録)」は、入力したデータの登録処理を実行するためのアイテムです。

基本設定

ラベル（登録・編集・参照）

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称を、ボタン上に表示します。

「ボタン（登録）」では、表示タイプに合わせて表示する名称を設定できます。

- 登録：登録画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「登録」です。
- 編集：編集画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「更新」です。
- 参照：参照画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「更新」です。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(次へ)

画面アイテム「ボタン(次へ)」は、次の画面に遷移するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

利用方法

利用方法を設定します。

- 画面遷移(次へ)：次の画面に遷移します。タブフォームに設定している場合には、右のタブに遷移します。
- ポップアップ表示：ポップアップで表示します。

子画面サイズ（幅）

ポップアップ表示する子画面の横の長さ（幅）をピクセル単位で指定します。

子画面サイズ（高）

ポップアップ表示する子画面の縦の長さ（高さ）をピクセル単位で指定します。

Forma画面設定

子画面表示時

子画面表示時の処理を指定します。

- 子画面に値を反映：親画面から子画面に値を反映します。
- 何もしない：値の反映はしません。

フォーム遷移名

子画面に表示するフォーム遷移を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(戻る)

画面アイテム「ボタン(戻る)」は、前の画面に遷移するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

「戻る」ボタンの動作について

「戻る」ボタンは、ボタンが配置されたフォームの遷移前の画面、遷移先の画面によって動作が異なりますので、注意して配置してください。
「ヘッダー」の「戻る」リンクが表示された場合も同じ動作となります。

- フォーム遷移設定で、表示するフォーム件数が1件(単一のフォーム画面を表示する)の場合

フォームの遷移前の画面	「戻る」ボタン／「戻る」リンクをクリックした後の遷移先の画面
一覧表示画面	一覧表示画面
メニュー(サイトマップなど)	**画面遷移しません(クリックしても何も起こりません)**

- フォーム遷移設定で、表示するフォーム件数が2件以上(複数のフォーム画面を表示する)の場合

フォームの遷移前の画面	「戻る」ボタン／「戻る」リンクをクリックした後の遷移先の画面
一覧表示画面→前に表示するフォーム	前に表示するフォーム画面
メニュー(サイトマップなど)→前に表示するフォーム	前に表示するフォーム画面

最初に表示するフォームの場合の動作は、単一のフォーム画面を表示する場合と同様となります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

利用方法

利用方法を設定します。

- 画面遷移(戻る)：画面遷移で戻ります。タブフォームに設定している場合には、左のタブに遷移します。
- 子画面利用(閉じる)：子画面を閉じます。

クリック時の処理

クリック時の処理を指定します。

- 親画面に値を反映し画面を閉じる：画面を閉じる際に親画面に値を反映します。
- 画面を閉じる：画面を閉じます。

確認ダイアログ

チェックをオンにした場合、子画面を閉じる際にダイアログを表示します。

確認メッセージ

確認ダイアログに表示するメッセージを登録します。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(一覧へ戻る)

画面アイテム「ボタン(一覧へ戻る)」は、一覧画面に遷移するためのアイテムです。
遷移先の一覧画面は、アプリケーション種別や呼び出し元の画面によって異なります。
詳細は下記のページを参照してください。

- 「IM-FormaDesigner 仕様書」
  - 「IM-FormaDesignerにおける画面遷移部品の仕様（アプリケーション種別「標準」の場合）」

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(一時保存)

画面アイテム「ボタン(一時保存)」は、一時保存を実行するためのアイテムです。
入力したデータを登録しないで保存することができます。
一時保存を行ったデータは、次に登録画面を表示したときに再度表示して編集・登録することができます。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

- 「する」をオン
  登録または申請時と同様の入力チェックが行われます。
- 「しない」をオン
  以下の最小限の入力チェックのみ行われます。
  - 最大文字数
  - 数値のみ
  - 数値桁数
  - 小数部桁数
  - 日付形式

> **コラム**
>
> 以下の入力チェックは行われません。
>
> - 必須チェック
> - 必須選択チェック
> - 最小文字数
> - 英数字のみ
> - 負数
> - 添付ファイルの個数　最少
> - 添付ファイルの個数　最大
> - 正規表現

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。

- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

共通マスタアイテム

ユーザ選択

画面アイテム「ユーザ選択」は、IM共通マスタのユーザを検索して入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

ユーザ検索画面 / 組織検索画面

ユーザ、組織の検索方法として利用できる画面(タブ)を選択します。
「表示タブ」に表示した画面(タブ)をアプリの実行時に利用できます。
表示するタブは上から順になりますので、右の矢印で並び順を変更することもできます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単

位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

組織選択

画面アイテム「組織選択」は、IM共通マスタの組織を検索して入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

組織名の表示

組織名を表示するときに、階層的に表示するかどうかを設定します。
チェックがオンの場合、組織名を上位組織から階層的に表示します。
（例）サンプル会社 / サンプル部門０１ / サンプル課１１

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

ユーザ検索画面 / 組織検索画面

ユーザ、組織の検索方法として利用できる画面(タブ)を選択します。
「表示タブ」に表示した画面(タブ)をアプリの実行時に利用できます。
表示するタブは上から順になりますので、右の矢印で並び順を変更することもできます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照

入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

組織・役職選択

画面アイテム「組織・役職選択」は、IM共通マスタの役職を検索して入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

所属組織選択

画面アイテム「所属組織選択」は、IM共通マスタの所属組織を検索して入力するためのアイテムです。

> **コラム**
>
> 「所属組織選択」には、一時保存時に前回処理時の入力値は表示されません。
> 一時保存画面を表示した時点のログインユーザの情報を反映する仕様により、前回処理（一時保存・登録）時からログインユーザの情報に変更があった場合には無効な情報となっている可能性もあるため、一時保存では常に初期値が表示されます。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上から

の縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

汎用アイテム

隠しパラメータ

画面アイテム「隠しパラメータ」は、フォーム上に表示させずに値を保持するためのアイテムです。

基本設定

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

スクリプト

画面アイテム「スクリプト」は、フォームの表示時に実行するスクリプトを記述するためのアイテムです。
スクリプトを書くためにはJavascriptの知識が必要です。jQueryを学ぶことにより、より高度な操作が簡単に行えます。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

スクリプト

コード実行タイミングは、DOMツリーが構築された直後です。
参考：$(document).ready(記述コード)

デフォルトでjQueryライブラリが読み込まれているので、自由に利用することができます。
コードの制限などはありません。
スクリプトにより各画面アイテムの操作方法が分からない場合は、フォーム実行時に生成されるHTMLをブラウザの機能で参照し判断してください。

また、クライアントサイドスクリプトAPIを利用して、画面アイテムの値操作を行うことができます。

詳細：「 IM-BIS 仕様書 」-「 クライアントサイドスクリプトAPI 」

コラム

フォーム上に配置したアイテムのスクリプトの実行順は、HTML上での配置順に基づいて決定します。
この配置順については、以下のいずれかの方法で設定されます。

- ツールキットからフォーム編集画面（フォーム・デザイナ）に配置した順序
- フォーム編集画面（フォーム・デザイナ）でのアイテムのコンテキストメニュー（右クリックで表示するメニュー）の前面や背面への移動
  (前面への移動では実行順が後、背面への移動では実行順が前になります。)

実際のアイテムの配置順については、実行時のHTMLで確認してください。

注意

スクリプト操作による動作は製品では保証できません。十分な検証を行ってください。

注意

「スマートフォン版」表示を利用する場合、以下の関数を利用して、「PC版」「スマートフォン版」でスクリプトの実行をコントロールしてください。

- forma.funcs.getDisplayClientType()
  実行しているクライアントを返却します。
  - クライアントがPCの場合

    「pc」と返却します。
  - クライアントがスマートフォンの場合

    「sp」と返却します。

スクリプトエディタで開く

クライアントサイド JavaScriptに関する開発に特化したエディタを使用して編集できます。
「確定」を押下することで、アイテムプロパティへ値を反映します。

スクリプトエディタでは配置した画面アイテムのクライアントサイドスクリプトAPIを補完できます。
補完できるAPIについては、「 IM-BIS 仕様書 」-「 クライアントサイドスクリプトAPI 」を参照してください。

コラム

補完はスクリプトエディタ表示時に配置されていた画面アイテムが対象です。
スクリプトエディタ表示後に画面アイテムを配置した場合は、スクリプトエディタを閉じ、再度表示することで補完対象にできます。

ボタン(イベント)

画面アイテム「ボタン(イベント)」は、ボタンでスクリプトを実行するためのアイテムです。
PDF印刷等の処理を行わせることができます。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

スクリプト

ボタンをクリックした時に実行する、javascriptコードを記述します。

デフォルトでjQueryライブラリが読み込まれているので、自由に利用することができます。
コードの制限などはありません。
スクリプトにより各画面アイテムの操作方法が分からない場合は、フォーム実行時に生成されるHTMLをブラウザの機能で参照し判断してください。

また、クライアントサイドスクリプトAPIを利用して、画面アイテムの値操作を行うことができます。

詳細：「 IM-BIS 仕様書 」-「 クライアントサイドスクリプトAPI 」

> **注意**
> スクリプト操作による動作は製品では保証できません。十分な検証を行ってください。

> **注意**
> 「スマートフォン版」表示を利用する場合、以下の関数を利用して、「PC版」「スマートフォン版」でスクリプトの実行をコントロールしてください。
>
> - forma.funcs.getDisplayClientType()
> 実行しているクライアントを返却します。
> - クライアントがPCの場合
>
> 「pc」と返却します。
> - クライアントがスマートフォンの場合
>
> 「sp」と返却します。

スクリプトエディタで開く

クライアントサイド JavaScriptに関する開発に特化したエディタを使用して編集できます。
「確定」を押下することで、アイテムプロパティへ値を反映します。

スクリプトエディタでは配置した画面アイテムのクライアントサイドスクリプトAPIを補完できます。
補完できるAPIについては、「 IM-BIS 仕様書 」-「 クライアントサイドスクリプトAPI 」を参照してください。

> **コラム**
> 補完はスクリプトエディタ表示時に配置されていた画面アイテムが対象です。
> スクリプトエディタ表示後に画面アイテムを配置した場合は、スクリプトエディタを閉じ、再度表示することで補完対象にできます。

採番

画面アイテム「採番」は、登録済みの採番ルール定義を利用して自動的に番号を取得して表示するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

採番ルール定義名

- 登録済みの採番ルール定義からどの採番ルール定義を利用するかを設定します。
- 採番ルール定義をフォームで利用する場合には、あらかじめ採番ルール定義の登録を行っておく必要があります。
- 初期設定では、「システムによる自動採番」が設定されています。
  「システムによる自動採番」で採番ルール定義を設定した場合は、JS API Identifier.get()を利用してシステム上一意な値を返します。

採番方法

- 採番をどのタイミングで行うかを設定します。
  - 画面アクセス毎
    画面を表示したタイミングで採番します。
    ただし、一時保存した状態で再度表示した場合には採番しません。
  - 登録処理毎
    画面で登録(申請)処理を行われたタイミングで採番します。
    正常に処理が完了したタイミングで番号が確定するため、登録(申請)前には何も表示されません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

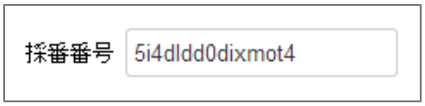
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

インラインフレーム

画面アイテム「インラインフレーム」は、フォーム上に枠を作り別のページを表示するためのアイテムです。

> **注意**
>
> インラインフレームは、IM-BIS for Accel Platform でのみ利用できます。
>
> - ご利用時の注意点
>   - 画面アイテム「インラインフレーム」を利用することで、様々なWebサイトを画面上に表示できますが、呼び出し先のWebサイトの設定を正しく設定しても、該当のサイトを表示できない場合がありますのでご了承ください。
>   - インラインフレームの倍率が25%の場合、「フォーム・デザイナ」画面、実行画面で利用されているダイアログ（フォーム・デザイナ画面のツールキットやフィールド一覧など）がインラインフレームの後ろに隠れて表示されてしまう場合あります。
>   この現象は、URLに設定したWEBサイトによって発生します。
>   - 「Internet Explorer 8」では、倍率設定が正しく動作しませんので、注意してください。

基本設定

URL

インラインフレームに表示するサイトのURLを指定します。

パラメータ設定

送信方法

データの送信方法を「GET」「POST」のいずれかから選択します。

パラメータ設定

URLに設定した値（アドレス）に追加したいパラメータのキーと値の組み合わせを設定します。
「＋」「－」で追加と削除ができます。
左の行番号をドラッグすることで順番の入れ替えができます。

- パラメータキー

  パラメータキーを設定します。

- パラメータ値

  パラメータ値に設定されている状態を確認します。
  値の取得元がプロパティ設定値の場合、パラメータ値に設定した文字列がそのまま表示されます。
  データソース設定値の場合は、「データソース設定値」とだけ表示されます。

パラメータキー

編集対象のパラメータ値に対応するパラメータキーを選択します。

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

パラメータ値

パラメータに設定する値を登録します。
同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」を指定します。
任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

データソース設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」を指定します。
  任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。
- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

パラメータ設定値

パラメータに設定する値を登録します。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

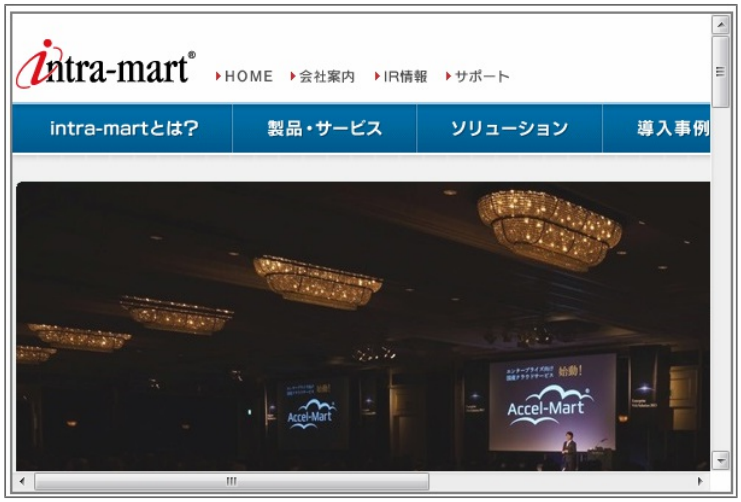
フレーム制御

インラインフレームの動作種別を設定します。
以下の項目から設定できます。

- 「利用しない」の場合
  インラインフレームを通常表示します。
  画面から直接インラインフレーム内の項目を操作できます。
  最大表示はできません。
  表示例）



- 「クリック／コントロールバー」の場合
  画面から直接インラインフレーム内の項目を操作できませんが、一度インラインフレーム内をクリックし、最大表示した後に操作できます。
  表示例）



- 「コントロールバー」の場合
  画面から直接インラインフレーム内の項目を操作できます。
  また、上部に表示されるバーで倍率と最大表示と縮小表示を行えます。
  表示例）



通常時の倍率

最大表示ではないときの倍率を指定します。
25%～275%の間で25%ごとに指定できます。

最大化時の倍率

コントロールバーの「クリック／コントロールバー」と「コントロールバー」を選択した場合に、最大表示のときの倍率を指定します。
25%～275%の間で25%ごとに指定できます。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

コントロールバースタイル

グラデーションパターン

コントロールバーにグラデーションを設定します。
以下の項目から選択できます。

- 利用しない
  グラデーションを利用せずに、コントロールバーを単色で表示します。
  コントロールバーの色を1色指定します。
- 縦方向
  コントロールバーの色1からコントロールバーの色2へと、上から下へ縦方向にグラデーションで表示します。
  コントロールバーの色を2色指定します。
- 横方向
  コントロールバーの色1からコントロールバーの色2へと、左から右へ横方向にグラデーションで表示します。
  コントロールバーの色を2色指定します。

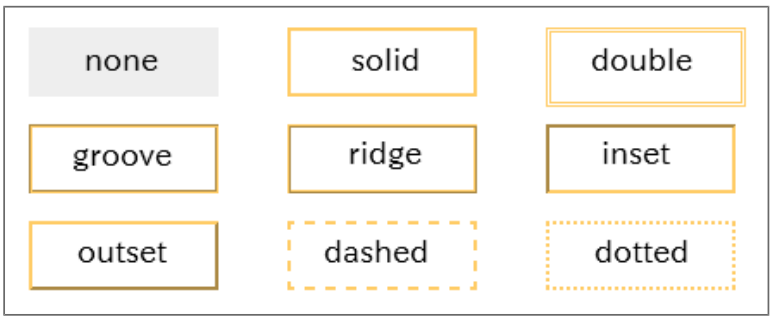
コントロールバーの色1
コントロールバーの色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
コントロールバーの色2
コントロールバーの色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

フレームスタイル

枠のスタイル

表示する画面アイテムの枠の形式を指定します。

- none：枠は表示されません。表のセルなどの枠が重なり合う場合は他の値が優先されます。
- solid：枠は1本の線で表示されます。
- double：枠は二重線で表示されます。
- groove：枠は立体的に窪んだ線で表示されます。
- ridge：枠は立体的に隆起した線で表示されます。
- inset：枠の内側が立体的に窪んだ線で表示されます。
- outset：枠の内側が立体的に隆起した線で表示されます。
- dashed：枠は破線で表示されます。
- dotted：枠は点線で表示されます。



- 枠のスタイルによる設定項目の違いについて

  枠のスタイルを特定の種類にした場合には、一部の設定項目が下記の通り変わります。
  設定した枠のスタイルの種類に合わせて、必要な項目を設定してください。

  - 正方形/長方形の場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	必須
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

  - インラインフレーム、BI表示アイテムの場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	任意
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

枠の太さ

表示する枠の太さをピクセル単位で指定します。

枠の色

枠の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

背景色
背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

BI表示アイテム

画面アイテム「BI表示アイテム」は、Jaspersoftのレポートをフォーム上に表示するためのアイテムです。

> **注意**
> 「BI表示アイテム」は、Jaspersoft 機能強化モジュールが導入されている環境でのみご利用いただけます。

基本設定

カテゴリ

レポートタイプを指定します。
Jaspersoftのレポートタイプに合わせて、レポート、チャート、ダッシュボードのいずれかを設定してください。

レポートパス

右の虫眼鏡アイコンからレポートを検索し、表示するレポートのパスを設定します。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

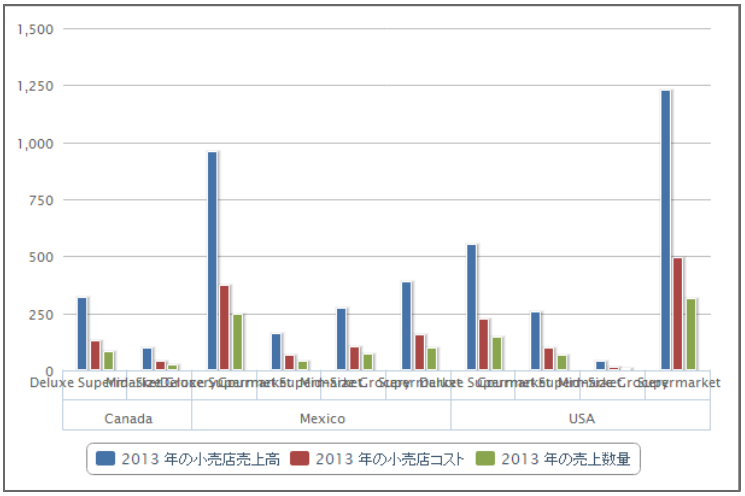
画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

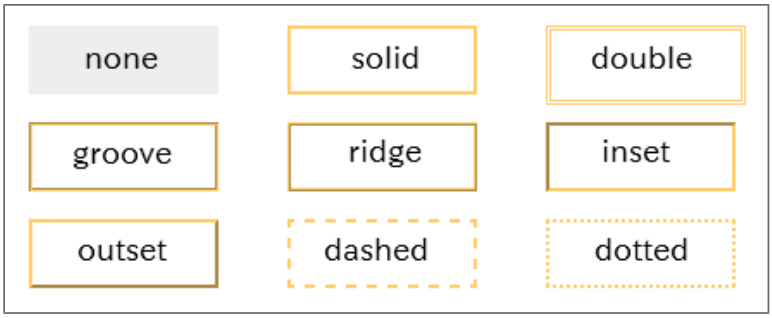
フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

枠のスタイル

表示するアイテムの枠の形式を指定します。

- none：枠は表示されません。表のセルなどの枠が重なり合う場合は他の値が優先されます。
- solid：枠は1本の線で表示されます。
- double：枠は二重線で表示されます。
- groove：枠は立体的に窪んだ線で表示されます。
- ridge：枠は立体的に隆起した線で表示されます。
- inset：枠の内側が立体的に窪んだ線で表示されます。
- outset：枠の内側が立体的に隆起した線で表示されます。
- dashed：枠は破線で表示されます。
- dotted：枠は点線で表示されます。



枠のスタイルによる設定項目の違いについて

枠のスタイルを特定の種類にした場合には、一部の設定項目が下記の通り変わります。
設定した枠のスタイルの種類に合わせて、必要な項目を設定してください。

- 正方形/長方形の場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	必須
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

- インラインフレーム、BI表示アイテムの場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	任意
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

枠の太さ

表示する枠の太さをピクセル単位で指定します。

枠の色

枠の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

背景色
背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ボタン(インポート)

画面アイテム「ボタン(インポート)」は、インポートを実行するためのアイテムです。
外部連携の設定を行うことで、インポートを実行することができます。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。

- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(エクスポート)

画面アイテム「ボタン(エクスポート)」は、エクスポートを実行するためのアイテムです。
外部連携の設定を行うことで、エクスポートを実行することができます。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示アイテム

見出し

画面アイテム「見出し」は、フォーム上に見出しを表示するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

見出しのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称を、見出し上に表示します。

見出しレベル

見出しの大きさを1～5の間で選択します。
数が小さいほど、表示が小さくなります。
「1」に設定した場合が、大きさは最大となり、「5」に設定した場合が、大きさは最小となります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

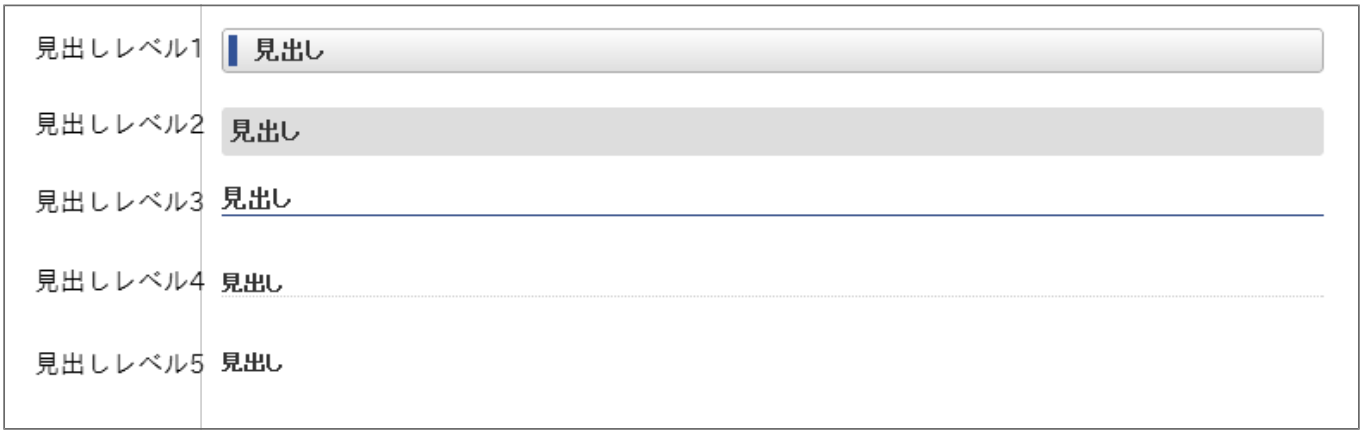
画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

横線

画面アイテム「横線」は、フォーム上に横線を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

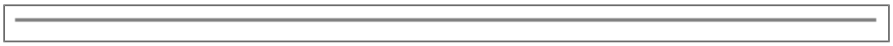
画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

太さ

表示する線の太さをピクセル単位で指定します。

色

線の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

縦線

画面アイテム「縦線」は、フォーム上に縦線を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

太さ

表示する線の太さをピクセル単位で指定します。

色

線の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

正方形/長方形

画面アイテム「正方形/長方形」は、フォーム上に正方形や長方形を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

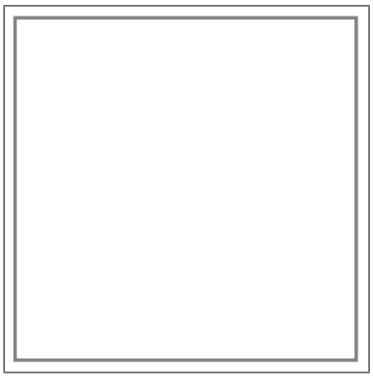
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

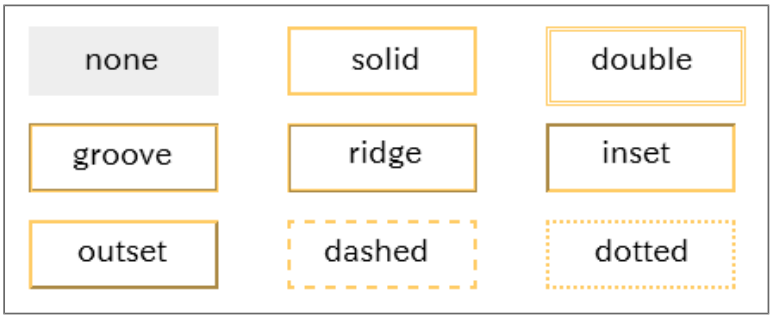
フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

枠のスタイル

表示するアイテムの枠の形式を指定します。

- none：枠は表示されません。表のセルなどの枠が重なり合う場合は他の値が優先されます。
- solid：枠は1本の線で表示されます。
- double：枠は二重線で表示されます。
- groove：枠は立体的に窪んだ線で表示されます。
- ridge：枠は立体的に隆起した線で表示されます。
- inset：枠の内側が立体的に窪んだ線で表示されます。
- outset：枠の内側が立体的に隆起した線で表示されます。
- dashed：枠は破線で表示されます。
- dotted：枠は点線で表示されます。



枠のスタイルによる設定項目の違いについて

枠のスタイルを特定の種類にした場合には、一部の設定項目が下記の通り変わります。
設定した枠のスタイルの種類に合わせて、必要な項目を設定してください。

- 正方形/長方形の場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	必須
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

- インラインフレーム、BI表示アイテムの場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	任意
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

枠の太さ

表示する枠の太さをピクセル単位で指定します。

枠の色

枠の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

背景色
背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

イメージ

画面アイテム「イメージ」は、フォーム上に任意の画像を表示するためのアイテムです。

基本設定

イメージ選択

配置した場所に表示する画像ファイルを指定します。
指定できる画像ファイルは、「フォーム・デザイナ」画面上の「画像アップロード」で事前にアップロード済みの画像ファイルに限られます。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ラベル

画面アイテム「ラベル」は、フォーム上にラベル(太字や文字色などの装飾を行った文字)を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

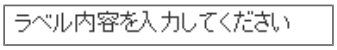
画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

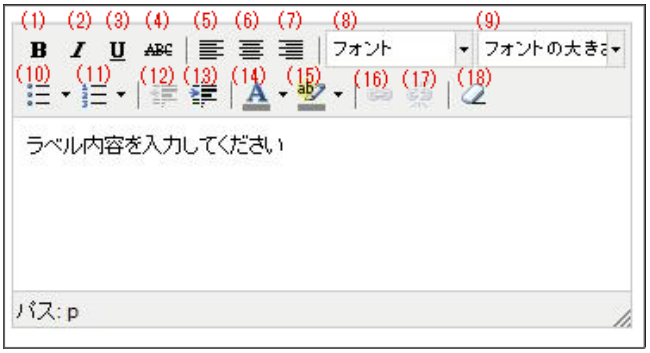
フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ラベル編集

ラベル内容

ラベルに表示する文字、文字の書式を設定します。

ラベルの内容の編集時に利用できるツールバーと各部の説明



1. 太字

太字にしたい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、太字で表示します。

2. 斜体(イタリック体)

   斜体にしたい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、斜体で表示します。

3. 下線

   下線を付加したい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、下線を表示します。

4. 取り消し線

   取り消し線を付加したい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、取り消し線を表示します。

5. 左揃え

   文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を左揃えで表示します。

6. 中央揃え(センタリング)

   文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を中央揃えで表示します。

7. 右揃え

   文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を右揃えで表示します。

8. 文字の種類

   文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字のフォントの種類を変更します。
   選択できるフォントは、操作しているパソコンにインストール済みの英字フォントに限られます。

9. 文字サイズ

   文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字のサイズを変更します。

10. 番号なしリスト

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を番号なしリストの形式に変更します。

11. 番号つきリスト

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を番号つきリストの形式に変更します。

12. 字下げを減らす

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字の字下げのレベルを下げます。

13. 字下げを増やす

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字の字下げのレベルを上げます。

14. 文字の色

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字の色を変更します。

15. 背景の色

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を蛍光ペンでマーキングしたように表示します。

16. リンクの挿入や編集

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックし、URLを設定すると、ハイパーリンクとして表示します。

17. リンクを解除

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、ハイパーリンクを解除します。

18. 書式の削除

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、設定済みの書式設定を削除します。

ラベルのエディタの「文字の種類」の選択状態について

- ラベルの内容の設定で、「文字の種類」の変更後にプロパティ画面を一度閉じてから再表示した際の「文字の種類」の選択状態は、ご利用のブラウザによって選択されたフォント名が表示される場合と初期値(“フォント”)が表示される場合があります。
  こちらは、ラベルの内容を編集するエディタとしている「TinyMCE」というオープンソースのツールの仕様によるものとなりますので、ご了承ください。

互換用アイテム

より高度な連携機能を使用できる新しいアイテムに置き換えられた、従来のアイテムを互換用アイテムとしています。

一覧選択

画面アイテム「一覧選択」は、データベースから入力値を検索して入力するためのアイテムです。
外部連携の設定を行うことで、一覧選択を実行することができます。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 -「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット

コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。

注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。

注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
アカウント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123 456 789,123
テナント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123.456.789,123
システム設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ▪ 123456789.123 ▪ 123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)

ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

外部連携

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
  - 別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 簡易検索機能
  - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で簡易検索機能を利用できるようにします。
- 詳細検索機能
  - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で詳細検索機能を利用できるようにします。
- 検索結果表示（初期表示時）
  - チェックがオンの場合、初期表示時に検索結果を表示します。
    対象データ件数が多いときの初期表示時のパフォーマンスを考慮し、初期表示時に検索結果を表示させたくない場合に設定します。
- 項目幅の自動調整
  - チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
    チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。
    表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。
- 初期表示のソート順
  - 初期表示時の検索結果表のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を指定します。
- 非表示項目、一覧表示項目
  - クエリの取得値の設定項目のうち、一覧に表示する項目を「一覧表示項目」の枠に、一覧に表示しない項目を「非表示項目」に設定します。



コラム

一覧選択画面での簡易検索機能は、出力値に設定されているすべての「文字列型」の列に対して部分一致で行います。
一覧選択画面での詳細検索機能は、列毎に詳細な検索をすることができます。



注意

IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整と初期表示のソート順の設定を追加しました。

- IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
  「 画面設計書出力 」での出力値は空白で出力されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」

（※）を指定します。
任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータのどの取得項目を画面アイテムに表示するかを設定します。

1. ラジオボタン
   「一覧選択」の入力欄に表示する値を設定します。
   取得項目が1つの場合は、変更できません。

2. 取得値を表示する画面アイテム
   フォーム上の他の画面アイテムに取得するデータを表示する場合に、セレクトボックスからフィールド識別名で設定します。
   - 取得値に設定できるアイテム
     - 文字列（product_72_textbox）
     - 複数行文字列（product_72_textarea）
     - 数値（product_72_number）
     - 日付（product_72_date）
     - 期間（product_72_term）
     - 一覧選択（互換用）（product_72_itemSelect）
     - 隠しパラメータ（product_72_hidden）

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

明細テーブル

画面アイテム「明細テーブル」は、アプリの実行時に自由に行を追加して表形式で入力するためのアイテムです。

項目

- 基本設定
- 詳細設定
- 表示スタイル
- 列プロパティ概要
- 列プロパティ(文字列)
- 列プロパティ(数値)
- 列プロパティ(日付)
- 列プロパティ(関数)
- 列プロパティ(隠しパラメータ)
- 列プロパティ(一覧選択)
- 列プロパティ(ラジオボタン)
- 列プロパティ(セレクトボックス)
- 明細テーブルの行のコピー、挿入、削除方法

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、アイテムの上に表示します。

行の定義

テーブルに追加できる行について設定します。

行追加可能

チェックをオンにした場合、アプリケーションの実行時に行を追加することができます。

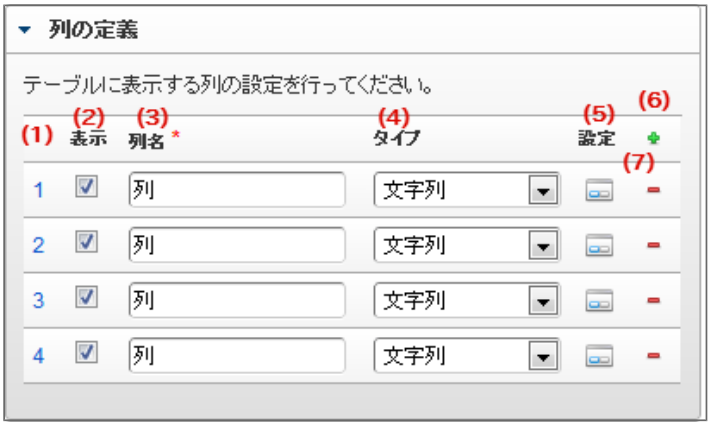
行数

「行追加可能」のチェックがオフの場合、テーブルに表示する行数を設定できます。

最大行数

「行追加可能」のチェックがオンの場合、テーブルに追加できる行の最大値を設定できます。
入力した行数まで追加できるようになるため、1以上の値を設定してください。

列の定義



明細テーブルの列を設定します。

1. 列番号

   列の表示順を設定します。
   列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

2. 表示

   列の表示/非表示を設定します。
   チェックがオフの場合、列は画面に表示されませんが、値の設定・取得等に利用することができます。
   タイプが「隠しパラメータ」の場合、必ずチェックがオフ(非表示)になります。

3. 列名

   列の名称を設定します。
   明細テーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

4. タイプ

   列のデータ型を設定します。
   関数や一覧選択等の他の画面アイテムを参照できるタイプの場合には、「関数」「一覧選択」で利用する場合と同様に、対象のフィールド識別IDを利用することで指定できます。

5. 設定

   クリックすると、列の詳細設定(入力フィールド、入力チェック等)画面に遷移します。

6. 追加

   クリックすると、明細テーブルの列を追加します。

7. 削除

   クリックすると、明細テーブルの列を削除します。



コラム

- 明細テーブルの表示について
  明細テーブルのテーブル、列の表示・非表示、表示タイプについては、以下の通りの動作となります。
  明細テーブルの「列の定義」での列の表示・非表示は、テーブルの表示タイプが表示であれば、列の定義を非表示にした場合も値を保持することができます。
  表示タイプは、列の表示タイプが設定されている場合には、テーブルの表示タイプより列の表示タイプの設定が優先されます。
  テーブルの表示タイプを非表示とした場合には、列の表示タイプを設定することはできません。
  テーブル・列の表示タイプの設定で非表示とした場合には、データは保持されません。

詳細設定

テーブル識別ID

明細テーブル、グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブルの物理名として利用します。
フォーム間でテーブル同士の値の引継ぎをする場合は、テーブル識別IDを同じにする必要があります。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

列番号表示(参照時)

明細テーブルのテーブルに対する表示タイプが「参照」となっている場合に、左の列番号の表示を設定します。
チェックがオンになっている場合、入力時と同様の列番号を表示します。

- 列番号表示が有効の場合

明細テーブル

	列	列	列	列
1	ABC	DEF	GHI	JKL
2	MNO	PQR	STU	VWX

- 列番号表示が無効の場合

明細テーブル

列	列	列	列
ABC	DEF	GHI	JKL
MNO	PQR	STU	VWX

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

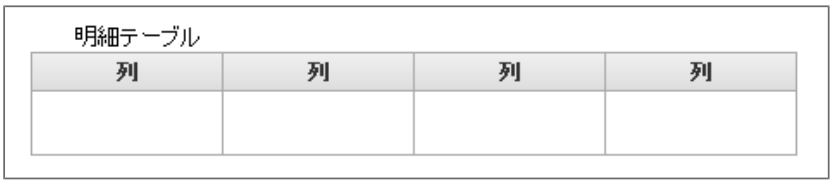
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

列のサイズ・配置

列のサイズ
列の入力欄の標示の幅をピクセル単位で指定します。
横位置揃え
列の値の横位置を左寄せ、中央寄せ、右寄せのいずれかに設定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

列プロパティ概要

列プロパティは、「基本設定」 -> 「列の定義」 -> 「設定」をクリックして設定することができます。
明細テーブルの列プロパティには、以下のタイプがあります。
それぞれのタイプで、列プロパティの設定内容が異なります。

タイプ	説明
文字列	文字や数値などで短い文章を入力するときに使用するタイプです。
数値	金額や個数などの数値を入力するときに使用するタイプです。
日付	日付を入力するときに使用するタイプです。
関数	日付や数値の計算や、関数を使用して処理するときに使用するタイプです。
隠しパラメータ	フォーム上に表示させずに、値を保持するときに使用するタイプです。
一覧選択	外部連携を使用し、入力値を一覧から選択して入力するときに使用するタイプです。
ラジオボタン	複数項目から入力値をボタンで、１つ選択するときに使用するタイプです。
セレクトボックス	複数項目から入力値をプルダウンで、１つ選択するときに使用するタイプです。

列プロパティ(文字列)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「文字列」の場合には、以下の項目を設定します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(数値)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「数値」の場合には、以下の項目を設定します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
アカウント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123 456 789,123
テナント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123.456.789,123
システム設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ・123456789.123 ・123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(日付)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「日付」の場合には、以下の項目を設定します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(関数)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「関数」の場合には、以下の項目を設定します。

式

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
アカウント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123 456 789,123
テナント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123.456.789,123
システム設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ・123456789.123 ・123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。

「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(隠しパラメータ)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「隠しパラメータ」の場合には、以下の項目を設定します。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがなど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

列プロパティ(一覧選択)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「一覧選択」の場合には、データソース設定のリンクからデータソースに関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
  - 別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 簡易検索機能
  - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で簡易検索機能を利用できるようにします。
- 詳細検索機能
  - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で詳細検索機能を利用できるようにします。
- 検索結果表示（初期表示時）
  - チェックがオンの場合、初期表示時に検索結果を表示します。
    対象データ件数が多いときの初期表示時のパフォーマンスを考慮し、初期表示時に検索結果を表示させたくない場合に設定します。
- 項目幅の自動調整
  - チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
    チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。

表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。

- 初期表示のソート順
  - 初期表示時の検索結果表のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を指定します。
- 非表示項目、一覧表示項目
  - クエリの取得値の設定項目のうち、一覧に表示する項目を「一覧表示項目」の枠に、一覧に表示しない項目を「非表示項目」に設定します。

> **コラム**
>
> 一覧選択画面での簡易検索機能は、出力値に設定されているすべての「文字列型」の列に対して部分一致で行います。
> 一覧選択画面での詳細検索機能は、列毎に詳細な検索をすることができます。

> **注意**
>
> IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整と初期表示のソート順の設定を追加しました。
>
> - IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
>   「 画面設計書出力 」での出力値は空白で出力されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。
  任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

  ※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。
- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータのどの取得項目を画面アイテムに表示するかを設定します。

1. ラジオボタン
   「一覧選択」の入力欄に表示する値を設定します。
   取得項目が1つの場合は、変更できません。

2. 取得値を表示する画面アイテム
   フォーム上の他の画面アイテムに取得するデータを表示する場合に、セレクトボックスからフィールド識別名で設定します。
   - 取得値に設定できるアイテム
     - 文字列（product_72_textbox）

- 複数行文字列（product_72_textarea）
- 数値（product_72_number）
- 日付（product_72_date）
- 期間（product_72_term）
- 一覧選択（互換用）（product_72_itemSelect）
- 隠しパラメータ（product_72_hidden）

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。

- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(ラジオボタン)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「ラジオボタン」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、－によって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。
  任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

  ※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。
- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値
   画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(セレクトボックス)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「セレクトボックス」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。
  任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

  ※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。
- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値
   画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

明細テーブルの行のコピー、挿入、削除方法

行のコピー、挿入、削除方法について説明します。

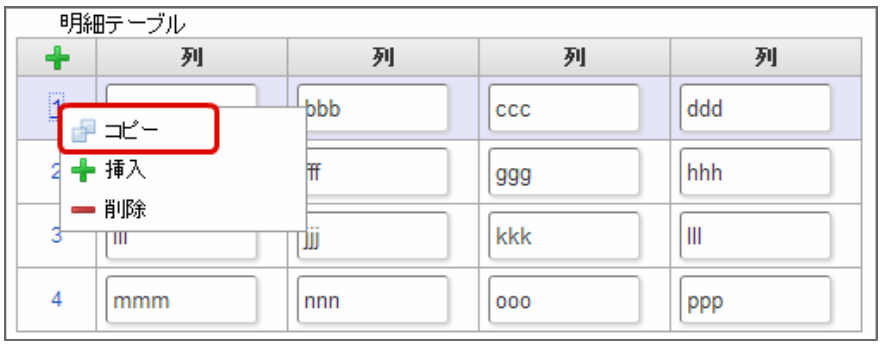
行のコピー

行のコピーを行います。

1. コピー対象の番号を右クリックします。



2. 「コピー」をクリックします。



3. 挿入対象の番号で右クリックし、「コピーした行の挿入」をクリックします。



4. コピーした行が挿入されます。



行の挿入

行の挿入を行います。

1. 「＋」アイコンまたは、挿入対象の番号で右クリックし、「挿入」をクリックします。



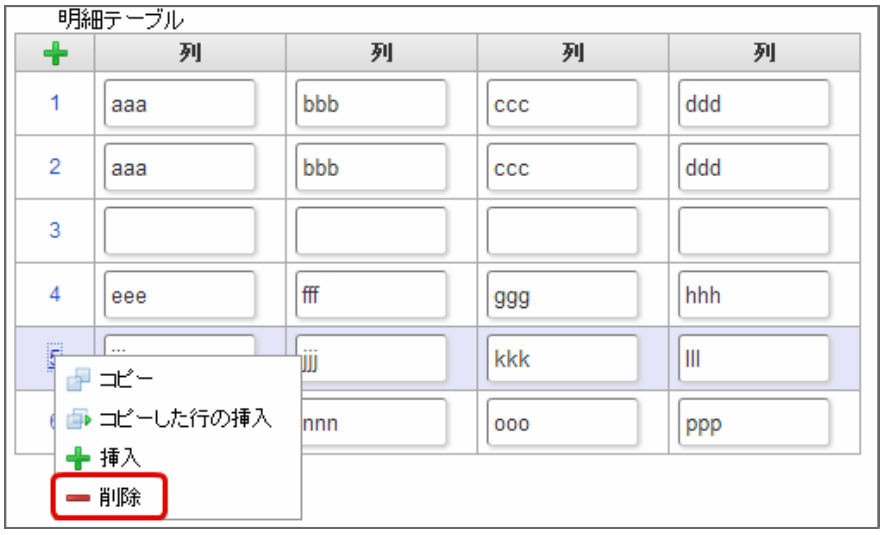
2. 行が挿入されます。



行の削除

行の削除を行います。

1. 削除対象の番号で右クリックし、「削除」をクリックします。



2. 行が削除されます。

明細テーブル

	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	aaa	bbb	ccc	ddd
3				
4	eee	fff	ggg	hhh
5	mmm	nnn	ooo	ppp

コラム

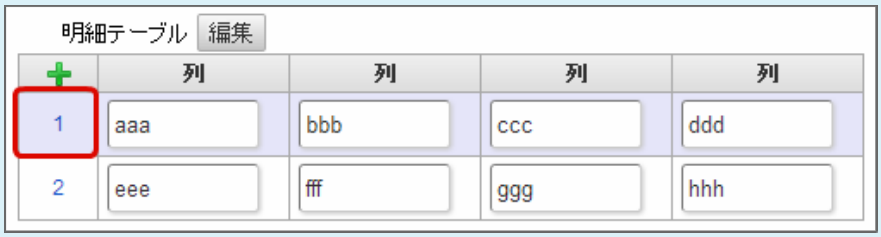
- スマートフォンの場合

スマートフォンでは、以下の処理を行うことができます。

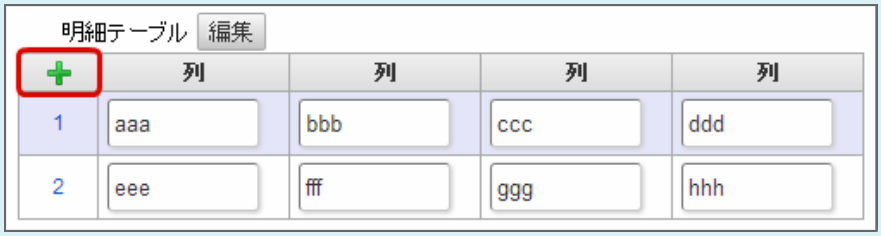
- 行のコピー
- 行の削除

行のコピーを行います。

1. 番号をクリックし、コピー対象を選択します。



2. 「＋」をクリックします。



3. コピーした行が挿入されます。



行の削除を行います。

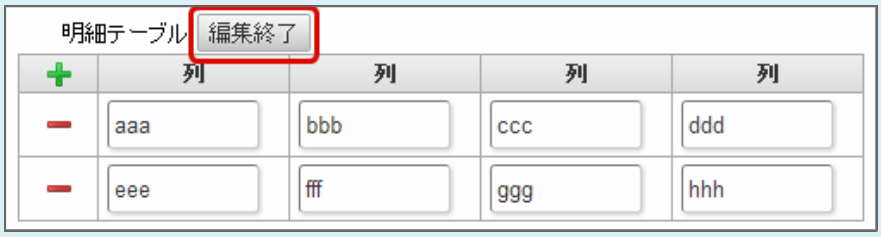
1. 「編集」ボタンをクリックします。



2. 「－」をクリックします。



3. 「編集終了」ボタンをクリックします。



4. 対象行が削除されます。



チェックボックス

画面アイテム「チェックボックス」は、複数項目から入力値を選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。
  任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

  ※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。
- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値

画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

項目幅

各選択肢の表示値の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

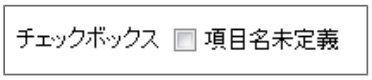
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

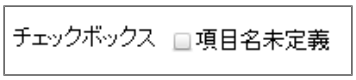
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ラジオボタン

画面アイテム「ラジオボタン」は、複数項目から入力値を 1 つ選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、－によって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。
  任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値
   画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

項目幅

各選択肢の表示値の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

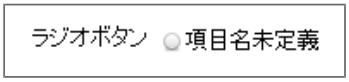
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

セレクトボックス

画面アイテム「セレクトボックス」は、複数項目から入力値を 1 つ選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。

同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。
任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値
   画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

リストボックス

画面アイテム「リストボックス」は、複数項目から入力値を選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、－によって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。

同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。
任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値
   画面上に表示する値に設定します。
2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

行数

画面に表示する選択肢の個数を指定します。
選択肢の個数が行数に設定した値より多い場合は、スクロールバーを利用して選択します。

参照時セパレータ

表示タイプ「参照」で、選択済みの複数の値を表示する際の区切り文字を設定します。
参照時セパレータの値に関係なく、データベース上では、複数の値が選択済みの場合には「,」を区切り文字として使用します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

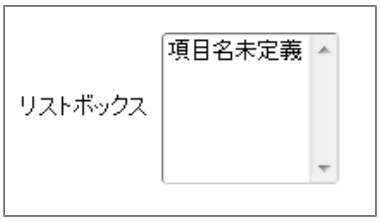
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



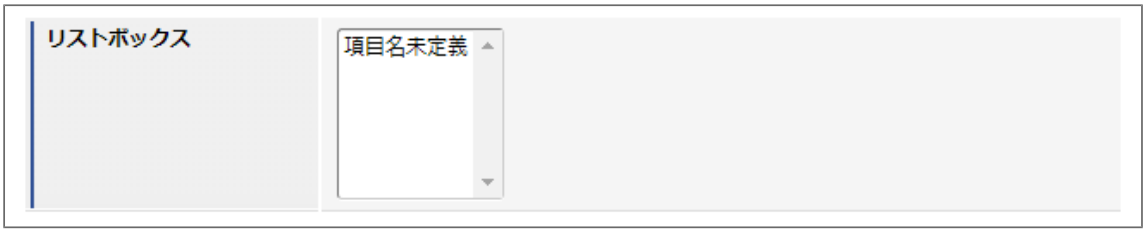
アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。



コラム
画面アイテムの仕様についての補足は「 *アイテム仕様の補足* 」を参照してください。

アプリケーション種別「IM-Workflow」で利用できる画面アイテム

入力アイテム

文字列

画面アイテム「文字列」は、文字や数値などを入力するためのアイテムです。
改行を含む長い文章は入力できません。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

複数行文字列

画面アイテム「複数行文字列」は、改行を伴う文字や数値などを入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

フィールド高

入力欄の表示の高さをピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。

- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

数値

画面アイテム「数値」は、金額や個数などの数値を入力するためのアイテムです。
前にゼロを付加する”000123”のようなコード項目には利用できません。

基本設定

[前]ラベル / [後]ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
[前]ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。
[後]ラベルに設定した名称を、入力欄の右に表示します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット

コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。

注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。

注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ▪ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	▪ 123456789.123 ▪ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ▪ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	▪ 123456789.123 ▪ 123,456,789.123

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
アカウント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123 456 789,123
テナント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123.456.789,123
システム設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ▪ 123456789.123 ▪ 123‘456‘789.123



コラム

クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

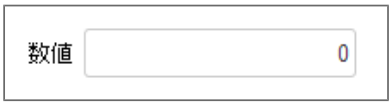
1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



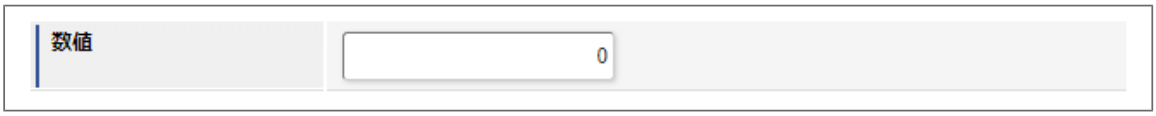
アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

関数

画面アイテム「関数」は日付や数値の計算や関数を利用して処理するためのアイテムです。

“＋”や”ー”などの演算子や、IM-FormaDesigner for Accel Platformで用意している各種関数を利用することができます。

基本設定

[前]ラベル / [後]ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
[前]ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。
[後]ラベルに設定した名称を、入力欄の右に表示します。

式

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*
- *ワークフロー関数(申請情報)*
- *ワークフロー関数(案件情報)*

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定

- ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。

- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット

コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。

注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。

注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
3桁カンマ・小数点ピリオド	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ▪ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	▪ 123456789.123 ▪ 123,456,789.123
アカウント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123 456 789,123
テナント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123.456.789,123
システム設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ▪ 123456789.123 ▪ 123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

- 

表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

日付

画面アイテム「日付」は、１つの日付を入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

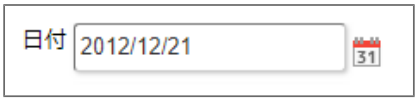
1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

期間

画面アイテム「期間」は、開始日・終了日等の一定期間を表す日付を入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

各設定項目の[始]は、期間の開始日、[終]は、期間の終了日に対応します。

詳細設定

各設定項目の[始]は、期間の開始日、[終]は、期間の終了日に対応します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

セパレータ

２つの日付の入力欄の間に表示する期間の範囲を表す文字を設定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



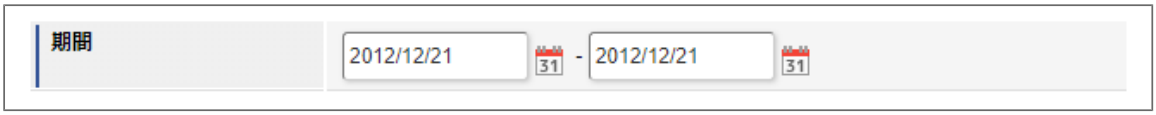
アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

各設定項目の[始]は、期間の開始日、[終]は、期間の終了日に対応します。

セパレータスタイル

セパレータの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

一覧選択

画面アイテム「一覧選択」は、データベースから入力値を絞込みして入力するためのアイテムです。
外部連携の設定を行うことで、一覧選択を実行することができます。

> **注意**
>
> 外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、以下の点に注意してください。
>
> - 一覧選択の虫眼鏡アイコンを、クリックした後に表示される一覧選択画面には、改ページ機能がありません。
>   そのため、取得したデータが最大表示行数を超える場合には、最大表示行数までで打ち切られて表示されます。
>   また、一覧選択画面の絞り込み機能を用いても、打ち切られたデータを表示させることはできませんので
>   一覧選択画面を表示する際の外部連携の条件、または最大表示行数の設定を見直してください。
> - クエリを使用して大量データを処理する場合は、改ページ機能を使用できる互換用アイテムが便利です。
>   「一覧選択」（互換用アイテム）をご利用ください。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがなど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。

スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

外部連携

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
  別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 最大表示行数
  一覧画面上に表示できる最大行数を設定します。
  外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」の場合、改ページ機能があるため、最大表示行数の設定は無効となります。
- マルチセレクト
  チェックがオンの場合、一覧画面上で複数行を選択できます。
  複数の行を選択した場合でも、画面アイテム「一覧選択」のフィールドには最初の1件しか反映されませんので注意してください。
- 項目幅の自動調整
  チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
  チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。
  表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。
- 列番号
  列の表示順を設定します。
  列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。
- 表示
  一覧画面に表示するかどうかを設定します。
  チェックがオンの場合に一覧画面に表示します。
- 列名
  一覧画面に表示する列名を設定します。
- 列ID
  一覧画面に表示する列を一意に識別するためのIDです。
  データマッパー上では、「{列名} | {列ID}」の形式で表示されます。
- タイプ
  列のデータ型を設定します。
- ソート
  初期表示時の一覧画面のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を設定します。
  いずれかの列について、昇順/降順を指定することで、初期表示のソート対象項目に設定できます。
  すべての列でソートを空白指定した場合、一番上の列の昇順でソートされます。



コラム
一覧選択画面での検索は、表示列に設定されている全ての「文字列型」の列に対して部分一致で行います。



注意

IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整とソートの設定を追加しました。

- IM-FormaDesigner 2022Spring 以前に作成した定義を利用する場合、かつ、外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、項目幅の自動調整と初期表示時のソート順の設定について、一覧選択画面の表示とプロパティの設定で差異が生じます。
  そのため、一度プロパティの設定を変更してからフォームの更新を行ってください。
- IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
  「 画面設計書出力 」での出力値は空白で出力されます。

取得値設定

外部連携で取得した値の反映先のマッピングを行います。

- マッピング情報
  虫眼鏡アイコンをクリックするとデータマッパーが表示されますので、データマッパー上で対応する画面アイテムのマッピングを設定します。

- 取得値に設定できるアイテム
  - 文字列（product_72_textbox）
  - 複数行文字列（product_72_textarea）
  - 数値（product_72_number）
  - 日付（product_72_date）
  - 期間（product_72_term）
  - 一覧選択（互換用）（product_72_itemSelect）
  - チェックボックス（product_80_checkbox）
  - ラジオボタン（product_80_radio）
  - セレクトボックス（product_80_selectbox）
  - リストボックス（product_80_listbox）
  - 一覧選択（product_80_itemSelect）
  - 隠しパラメータ（product_72_hidden）



コラム

データソースを使用する連携の設定の方法は、「 IM-BIS 業務管理者操作ガイド 」を参照してください。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 -「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット

コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。

注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。

注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ▪ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	▪ 123456789.123 ▪ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ▪ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	▪ 123456789.123 ▪ 123,456,789.123

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
アカウント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123 456 789,123
テナント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123.456.789,123
システム設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ▪ 123456789.123 ▪ 123‘456‘789.123



コラム

クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

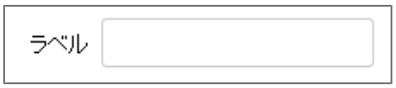
1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示

入力・表示ともできません。
設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

明細テーブル

画面アイテム「明細テーブル」は、アプリの実行時に自由に行を追加して表形式で入力するためのアイテムです。

注意

タイプ「一覧選択」の外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、以下の点に注意してください。

- 一覧選択の虫眼鏡アイコンを、クリックした後に表示される一覧選択画面には、改ページ機能がありません。
  そのため、取得したデータが最大表示行数を超える場合には、最大表示行数までで打ち切られて表示されます。
  また、一覧選択画面の絞り込み機能を用いても、打ち切られたデータを表示させることはできませんので
  一覧選択画面を表示する際の外部連携の条件、または最大表示行数の設定を見直してください。
- クエリを使用して大量データを処理する場合は、改ページ機能を使用できる互換用アイテムが便利です。
  「明細テーブル」（互換用アイテム）をご利用ください。

項目

- 基本設定
- 詳細設定
- 表示スタイル
- 列プロパティ概要
- 列プロパティ(文字列)
- 列プロパティ(数値)
- 列プロパティ(日付)
- 列プロパティ(関数)
- 列プロパティ(隠しパラメータ)
- 列プロパティ(一覧選択)
- 列プロパティ(ラジオボタン)
- 列プロパティ(セレクトボックス)
- 明細テーブルの行のコピー、挿入、削除方法

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、アイテムの上に表示します。

行の定義

テーブルに追加できる行について設定します。

行追加可能

チェックをオンにした場合、アプリケーションの実行時に行を追加することができます。

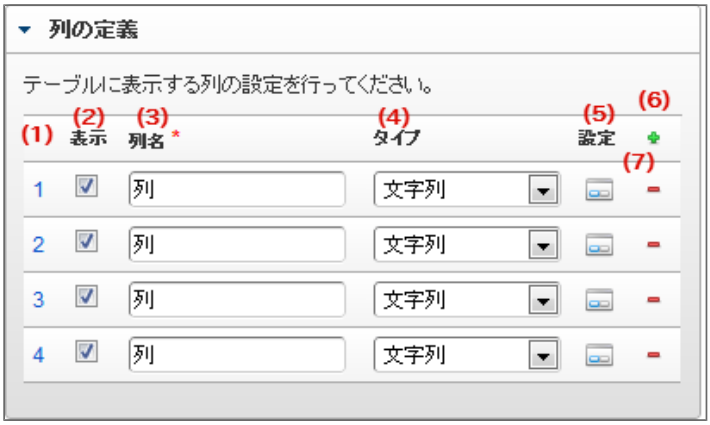
行数

「行追加可能」のチェックがオフの場合、テーブルに表示する行数を設定できます。

最大行数

「行追加可能」のチェックがオンの場合、テーブルに追加できる行の最大値を設定できます。
入力した行数まで追加できるようになるため、1以上の値を設定してください。

列の定義



明細テーブルの列を設定します。

1. 列番号

   列の表示順を設定します。
   列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

2. 表示

   列の表示/非表示を設定します。
   チェックがオフの場合、列は画面に表示されませんが、値の設定・取得等に利用することができます。
   タイプが「隠しパラメータ」の場合、必ずチェックがオフ(非表示)になります。

3. 列名

   列の名称を設定します。
   明細テーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

4. タイプ

   列のデータ型を設定します。
   関数や一覧選択等の他の画面アイテムを参照できるタイプの場合には、「関数」「一覧選択」で利用する場合と同様に、対象のフィールド識別IDを利用することで指定できます。

5. 設定

   クリックすると、列の詳細設定(入力フィールド、入力チェック等)画面に遷移します。

6. 追加

   クリックすると、明細テーブルの列を追加します。

7. 削除

   クリックすると、明細テーブルの列を削除します。

コラム

- 明細テーブルの表示について
  明細テーブルのテーブル、列の表示・非表示、表示タイプについては、以下の通りの動作となります。
  明細テーブルの「列の定義」での列の表示・非表示は、テーブルの表示タイプが表示であれば、列の定義を非表示にした場合も値を保持することができます。
  表示タイプは、列の表示タイプが設定されている場合には、テーブルの表示タイプより列の表示タイプの設定が優先されます。
  テーブルの表示タイプを非表示とした場合には、列の表示タイプを設定することはできません。
  テーブル・列の表示タイプの設定で非表示とした場合には、データは保持されません。

詳細設定

テーブル識別ID

明細テーブル、グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブルの物理名として利用します。
フォーム間でテーブル同士の値の引継ぎをする場合は、テーブル識別IDを同じにする必要があります。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

列番号表示(参照時)

明細テーブルのテーブルに対する表示タイプが「参照」となっている場合に、左の列番号の表示を設定します。
チェックがオンになっている場合、入力時と同様の列番号を表示します。

- 列番号表示が有効の場合

明細テーブル

	列	列	列	列
1	ABC	DEF	GHI	JKL
2	MNO	PQR	STU	VWX

- 列番号表示が無効の場合

明細テーブル

列	列	列	列
ABC	DEF	GHI	JKL
MNO	PQR	STU	VWX

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

列のサイズ・配置

列のサイズ

列の入力欄の標示の幅をピクセル単位で指定します。

横位置揃え

列の値の横位置を左寄せ、中央寄せ、右寄せのいずれかに設定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

列プロパティ概要

列プロパティは、「基本設定」 -> 「列の定義」 -> 「設定」をクリックして設定することができます。
明細テーブルの列プロパティには、以下のタイプがあります。
それぞれのタイプで、列プロパティの設定内容が異なります。

タイプ	説明
文字列	文字や数値などで短い文章を入力するときに使用するタイプです。
数値	金額や個数などの数値を入力するときに使用するタイプです。
日付	日付を入力するときに使用するタイプです。
関数	日付や数値の計算や、関数を使用して処理するときに使用するタイプです。
隠しパラメータ	フォーム上に表示させずに、値を保持するときに使用するタイプです。
一覧選択	外部連携を使用し、入力値を一覧から選択して入力するときに使用するタイプです。
ラジオボタン	複数項目から入力値をボタンで、１つ選択するときに使用するタイプです。
セレクトボックス	複数項目から入力値をプルダウンで、１つ選択するときに使用するタイプです。

列プロパティ(文字列)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「文字列」の場合には、以下の項目を設定します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。

項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(数値)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「数値」の場合には、以下の項目を設定します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123
アカウント設定	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ■ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ■ 123456789,123 ■ 123 456 789,123
テナント設定	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ■ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ■ 123456789,123 ■ 123.456.789,123
システム設定	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ■ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ■ 123456789.123 ■ 123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(日付)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「日付」の場合には、以下の項目を設定します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント



コラム

＊外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(関数)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「関数」の場合には、以下の項目を設定します。

式

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*

- *ワークフロー関数(申請情報)*
- *ワークフロー関数(案件情報)*

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット
- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
アカウント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123 456 789,123
テナント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123.456.789,123
システム設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ・123456789.123 ・123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。

「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(隠しパラメータ)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「隠しパラメータ」の場合には、以下の項目を設定します。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

列プロパティ(一覧選択)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「一覧選択」の場合には、外部連携設定のリンクから外部連携に関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
  別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 最大表示行数
  一覧画面上に表示できる最大行数を設定します。
  外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」の場合、改ページ機能があるため、最大表示行数の設定は無効となります。
- マルチセレクト
  チェックがオンの場合、一覧画面上で複数行を選択できます。
  複数の行を選択した場合でも、画面アイテム「一覧選択」のフィールドには最初の1件しか反映されませんので注意してください。
- 項目幅の自動調整
  チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
  チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。

表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。

- 列番号
  列の表示順を設定します。
  列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。
- 表示
  一覧画面に表示するかどうかを設定します。
  チェックがオンの場合に一覧画面に表示します。
- 列名
  一覧画面に表示する列名を設定します。
- 列ID
  一覧画面に表示する列を一意に識別するためのIDです。
  データマッパー上では、「{列名} | {列ID}」の形式で表示されます。
- タイプ
  列のデータ型を設定します。
- ソート
  初期表示時の一覧画面のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を設定します。
  いずれかの列について、昇順/降順を指定することで、初期表示のソート対象項目に設定できます。
  すべての列でソートを空白指定した場合、一番上の列の昇順でソートされます。

> **注意**
>
> IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整とソートの設定を追加しました。
>
> - IM-FormaDesigner 2022Spring 以前に作成した定義を利用する場合、かつ、外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、項目幅の自動調整と初期表示時のソート順の設定について、一覧選択画面の表示とプロパティの設定で差異が生じます。
>   そのため、一度プロパティの設定を変更してからフォームの更新を行ってください。
> - IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
>   「 画面設計書出力 」での出力値は空白で出力されます。

取得値設定

外部連携で取得した値の反映先のマッピングを行います。

- マッピング情報
  虫眼鏡アイコンをクリックするとデータマッパーが表示されますので、データマッパー上で対応する画面アイテムのマッピングを設定します。
  - 取得値に設定できるアイテム
    - 文字列（product_72_textbox）
    - 複数行文字列（product_72_textarea）
    - 数値（product_72_number）
    - 日付（product_72_date）
    - 期間（product_72_term）
    - 一覧選択（互換用）（product_72_itemSelect）
    - チェックボックス（product_80_checkbox）
    - ラジオボタン（product_80_radio）
    - セレクトボックス（product_80_selectbox）
    - リストボックス（product_80_listbox）
    - 一覧選択（product_80_itemSelect）
    - 隠しパラメータ（product_72_hidden）

> **コラム**
>
> データソースを使用する連携の設定の方法は、「 IM-BIS 業務管理者操作ガイド 」を参照してください。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(ラジオボタン)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「ラジオボタン」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請

ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(セレクトボックス)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「セレクトボックス」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

明細テーブルの行のコピー、挿入、削除方法

行のコピー、挿入、削除方法について説明します。

行のコピー

行のコピーを行います。

1. コピー対象の番号を右クリックします。



2. 「コピー」をクリックします。



3. 挿入対象の番号で右クリックし、「コピーした行の挿入」をクリックします。



4. コピーした行が挿入されます。



行の挿入

行の挿入を行います。

1. 「＋」アイコンまたは、挿入対象の番号で右クリックし、「挿入」をクリックします。



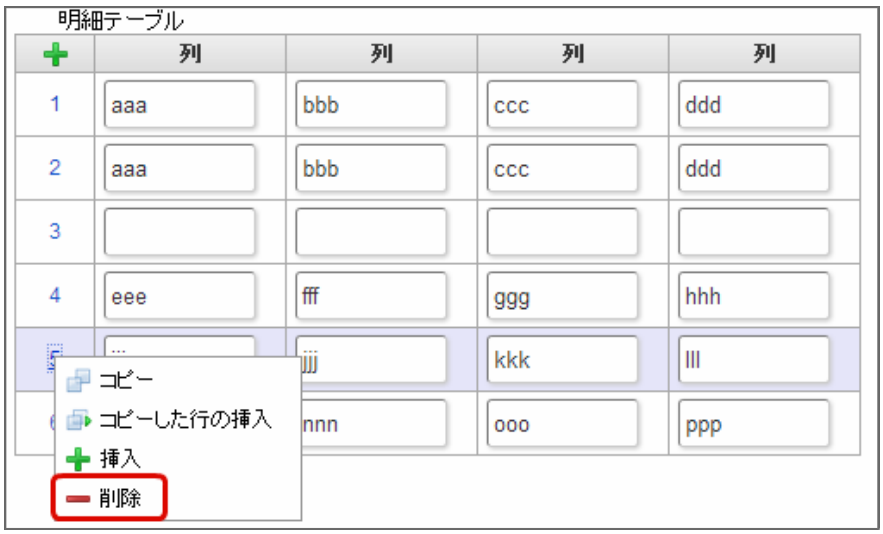
2. 行が挿入されます。



行の削除

行の削除を行います。

1. 削除対象の番号で右クリックし、「削除」をクリックします。



2. 行が削除されます。



コラム

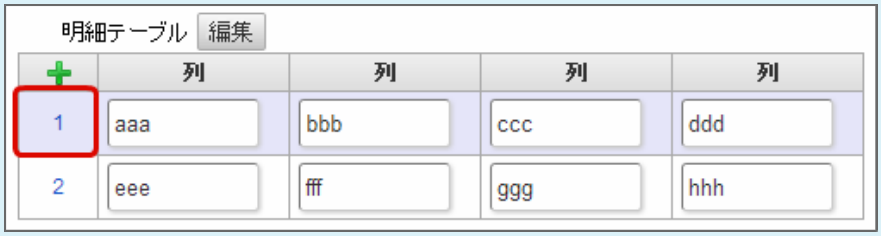
- スマートフォンの場合

  スマートフォンでは、以下の処理を行うことができます。

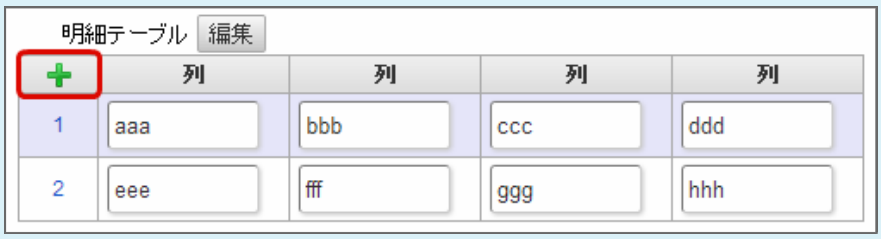
  - 行のコピー
  - 行の削除

  行のコピーを行います。

  1. 番号をクリックし、コピー対象を選択します。



  2. 「＋」をクリックします。



  3. コピーした行が挿入されます。



行の削除を行います。

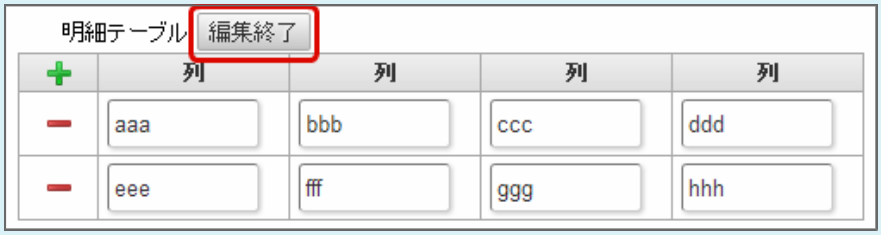
1. 「編集」ボタンをクリックします。



2. 「ー」をクリックします。



3. 「編集終了」ボタンをクリックします。



4. 対象行が削除されます。



チェックボックス

画面アイテム「チェックボックス」は、複数項目から入力値を選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

データの定義

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

項目幅

各選択肢の表示値の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

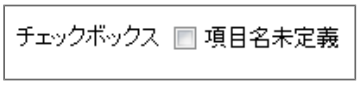
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

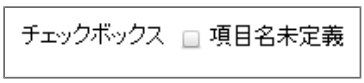
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ラジオボタン

画面アイテム「ラジオボタン」は、複数項目から入力値を 1 つ選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

データの定義

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

項目幅

各選択肢の表示値の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

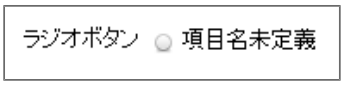
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

セレクトボックス

画面アイテム「セレクトボックス」は、複数項目から入力値を 1 つ選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

データの定義

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

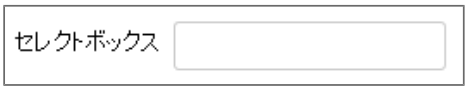
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

リストボックス

画面アイテム「リストボックス」は、複数項目から入力値を選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

データの定義

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、－によって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

行数

画面に表示する選択肢の個数を指定します。
選択肢の個数が行数に設定した値より多い場合は、スクロールバーを利用して選択します。

参照時セパレータ

表示タイプ「参照」で、選択済みの複数の値を表示する際の区切り文字を設定します。
参照時セパレータの値に関係なく、データベース上では、複数の値が選択済みの場合には「,」を区切り文字として使用します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

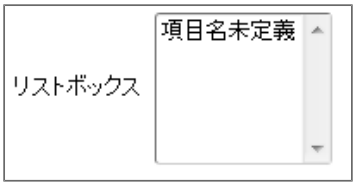
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

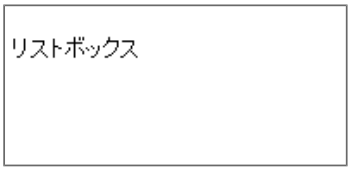
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



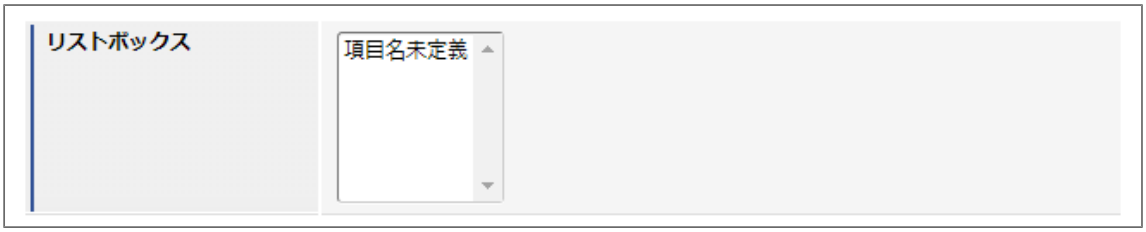
アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ファイルアップロード

画面アイテム「ファイルアップロード」は、画面の入力時のファイルを添付するためのアイテムです。
なお、 IM-Workflow の添付ファイルとは異なる機能となりますので、注意してください。

> **注意**
> - FormaアプリのWF申請書再利用による申請では、アップロードされたファイルは引き継がれませんので注意してください。
> - アップロード可能なファイルサイズは、 intra-mart Accel Platform の機能に依存します。制限サイズを超えるファイルをアップロードするとエラーが発生しますので注意してください。
>   制限サイズの設定方法については、「 設定ファイルリファレンス 」-「 リクエストクエリの長さ制限 」を参照してください。
> - ファイルアップロードの「備考」は500文字まで入力できます。
> - ファイルアップロードアイテムのテーブルのカラムサイズの変更については、以下のリンク先を参照してください。
>   - 「 IM-FormaDesigner 仕様書 」-「 カラムサイズの拡張 」
> - データベースとして PostgreSQL を利用し、ファイルアップロードアイテムの保存先をデータベースとしている場合、添付ファイルサイズが非常に大きいとファイルのダウンロードが正常に行われない場合があります。
>   詳細は、「 制限事項 」-「 データベースとして PostgreSQL を利用し、ファイルアップロードアイテムの保存先をデータベースとしている場合、添付ファイルサイズが非常に大きいとファイルのダウンロードが正常に行われない場合があります。 」を参照してください。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、アイテムの上に表示します。

添付ファイルの個数

同一フォーム内で添付可能なファイルの個数の上限値、下限値を設定します。

1. 最小
   添付ファイルの最小添付数を0以上の値で設定します。

2. 最大
   添付ファイルの最大添付数を0以上の値で設定します。

詳細設定

アイテム識別ID

アップロードしたファイルを画面アイテムと関連付けるためのIDを設定します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画像プレビュー表示

この設定は、ファイルアップロードを「プレビュー表示」モードとして動作させるための設定です。
設定が有効な場合には、ファイルアップロードアイテム内にプレビュー幅・高で設定したサイズの画像を表示します。
プレビュー画像をクリックすると元画像サイズで表示できます。
「画像プレビュー表示」を有効にした場合、アップロード可能なファイルが画像ファイル（拡張子：jpg,jpeg,png,gif）に限定されます。

プレビュー幅
アップロードした画像ファイルのプレビュー表示時の表示サイズの幅をピクセル単位で指定します。
プレビュー高
アップロードした画像ファイルのプレビュー表示時の表示サイズの高さをピクセル単位で指定します。

1ファイルあたりのサイズ（キロバイト単位）

１ファイルあたりのファイルサイズの上限をキロバイト単位で指定します。

コラム
- 1ファイルあたりのサイズ（キロバイト単位）には0以上の数値を必ず入力してください。
- 0を指定した場合は実行画面ではファイルサイズによる制限を行いません。

許可する拡張子

アップロードを許可するファイル拡張子をカンマ区切りで指定します。

コラム
- 「画像プレビュー表示」が有効な場合は、 jpeg,jpg,gif,png のみ設定します。
- 未指定の場合は「画像プレビュー表示」が有効な場合は、実行画面では jpeg,jpg,gif,png を許可します。「画像プレビュー表示」が無効な場合は、実行画面では、すべての拡張子を許可します。

別ウィンドウ表示

別ウィンドウ表示の有効無効を設定します。
ファイル名を押下した場合に、別ウィンドウでファイルを開きます。

コラム
- 別ウィンドウ表示を有効にした場合、実行画面でファイルをダウンロードするにはファイル名の右側にあるアイコンを押します。
- 実行画面では、ブラウザによって別ウインドウ表示されるファイルの種類が異なります。
- スマートフォン版では別ウィンドウでは表示されません。

ファイル一覧の並び順

アップロードされたファイルの並び順に関して、ソートに使用する項目（ファイル名/備考/更新日）と並び順（昇順/降順）

を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

グリッドテーブル

画面アイテム「グリッドテーブル」は、アプリの実行時に表形式で入力したり、フィルターで表示内容を絞り込んで表示するためのアイテムです。

> **注意**
>
> タイプ「一覧選択」の外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、以下の点に注意してください。
>
> - 一覧選択の虫眼鏡アイコンを、クリックした後に表示される一覧選択画面には、改ページ機能がありません。
>   そのため、取得したデータが最大表示行数を超える場合には、最大表示行数までで打ち切られて表示されます。
>   また、一覧選択画面の絞り込み機能を用いても、打ち切られたデータを表示させることはできませんので
>   一覧選択画面を表示する際の外部連携の条件、または最大表示行数の設定を見直してください。

項目

- 基本設定
- 詳細設定
- 表示スタイル
- 列プロパティ概要
- 列プロパティ(文字列)
- 列プロパティ(数値)
- 列プロパティ(日付)
- 列プロパティ(隠しパラメータ)
- 列プロパティ(関数)
- 列プロパティ(一覧選択)
- 列プロパティ(セレクトボックス)
- 列プロパティ(イメージ)
- 列プロパティ(カスタム)
- グリッドテーブルの行のコピー、行のコピー（複数）、挿入、削除方法

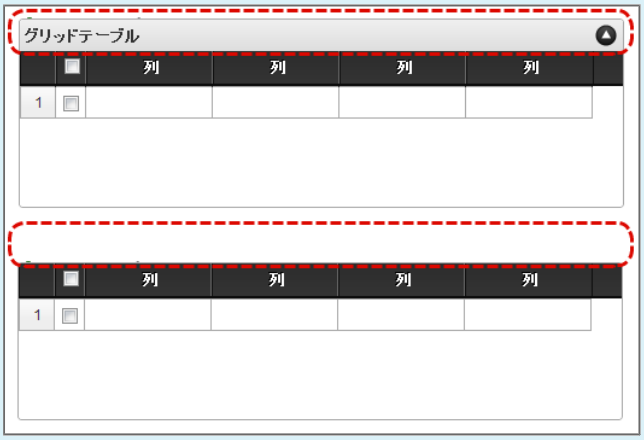
基本設定

ラベル

グリッドテーブルのヘッダーのキャプションとして使用します。
ラベルに設定した名称を、グリッドテーブルのヘッダー部分に表示します。

コラム

グリッドテーブルのラベルに何も設定していない場合には、上部のキャプションも非表示になります。



行の定義

テーブルに追加できる行について設定します。

行追加可能

チェックをオンにした場合、アプリケーションの実行時に行を追加することができます。

行数

「行追加可能」のチェックがオフの場合、テーブルに表示する行数を設定できます。

最大行数

「行追加可能」のチェックがオンの場合、テーブルに追加できる行の最大値を設定できます。

入力した行数まで追加できるようになるため、1以上の値を設定してください。

初期表示行数

入力時に最初に表示する行数を設定します。
「最大行数」を設定している場合には、最大行数以下になるように設定してください。
初期表示行数は0を設定することもできます。

行追加機能

行の追加を制限します。
チェックがオンの場合、行を追加することができます。
チェックがオフの場合、行を追加することはできません。

行削除機能

行の削除を制限します。
チェックがオンの場合、行を削除することができます。
チェックがオフの場合、行を削除することはできません。

削除確認ダイアログ

行削除をクリックすると、削除確認のダイアログを表示します。
チェックがオンの場合、ダイアログが表示されます。
チェックがオフの場合、ダイアログが表示されません。

列の定義



グリッドテーブルの列を設定します。

1. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   すべての列に対して同じサイズが設定されます。

2. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。

設定内容は、すべての列に適用されます。

3. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   すべての列に対して同じ表示位置が設定されます。

4. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   すべての列に対して同じ表示位置が設定されます。

5. 検索機能

   検索機能の設定をします。

   1. 利用しない
      「検索機能」を利用しません。

   2. フィルター検索
      検索で絞り込む時の比較条件を設定します。
      設定内容は、すべての列に適用されます。

   3. 高度な検索
      別画面による高度な検索、複数列による検索や範囲検索などをすることができます。

      ページャー部分に表示されている  をクリックした場合、表示される画面で検索条件を設定します。
      この機能はページャー利用時にのみ利用することができます。

6. フィルター条件

   「フィルター検索」を設定した場合の比較条件を設定します。
   設定内容は、すべての列に適用されます。

7. 列番号

   列の表示順を設定します。
   列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

8. 表示

   列の表示/非表示を設定します。
   チェックがオフの場合、列は画面に表示されませんが、値の設定・取得等に利用することができます。
   タイプが「隠しパラメータ」の場合、必ずチェックがオフ(非表示)になります。

9. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

10. タイプ

    列のデータ型を設定します。
    関数や一覧選択等の他の画面アイテムを参照できるタイプの場合には、「関数」「一覧選択」で利用する場合と同様

に、対象のフィールド識別IDを利用することで指定できます。

11. 設定

    クリックすると、列の詳細設定(入力フィールド、入力チェック等)画面に遷移します。

12. 追加

    クリックすると、グリッドテーブルの列を追加します。

13. 削除

    クリックすると、グリッドテーブルの列を削除します。

> **コラム**
>
> - グリッドテーブルの表示について
>
> グリッドテーブルのテーブル、列の表示・非表示、表示タイプについては、以下の通りの動作となります。
> グリッドテーブルの「列の定義」での列の表示・非表示は、テーブルの表示タイプが表示であれば、列の定義を非表示にした場合も値を保持することができます。
> 表示タイプは、列の表示タイプが設定されている場合には、テーブルの表示タイプより列の表示タイプの設定が優先されます。
> テーブルの表示タイプを非表示とした場合には、列の表示タイプを設定することはできません。
> テーブル・列の表示タイプの設定で非表示とした場合には、データは保持されません。

詳細設定

テーブル識別ID

明細テーブル、グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブルの物理名として利用します。
フォーム間でテーブル同士の値の引継ぎをする場合は、テーブル識別IDを同じにする必要があります。

テーブル幅

テーブルを表示する幅をピクセル単位で指定します。

テーブル高さ

テーブルを表示する高さをピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

マルチセレクト

複数の行を選択できるかどうかを設定します。
設定を有効にしている場合には、選択するためのチェックボックスの列を表示します。

列番号表示

グリッドテーブルのテーブルの列番号の表示を設定します。

1. 表示
   入力可・参照時ともに列番号を表示します。

2. 非表示
   入力可・参照時ともに列番号を表示しません。

3. 入力可のみ表示
   入力可の場合のみ列番号を表示します。

4. 参照時のみ表示
   参照時の場合のみ列番号を表示します。

- 列番号表示が「表示」の場合



- 列番号表示が「非表示」の場合



- 列番号表示が「入力可のみ表示」の場合



- 列番号表示が「参照時のみ表示」の場合



ページャー表示

テーブル下部にページ数、ページ送りのアイコンを表示します。
ページャーは、参照モードで明細が0行の場合も表示されます。
ページャーが無効な場合には、明細の全ての行を1ページに表示します。

1. 表示
   入力可・参照時ともにページャーを表示します。
2. 非表示
   入力可・参照時ともにページャーを表示しません。
3. 表示（入力可のみ表示）
   入力可能時のみページャーを表示します。
4. 表示（参照時のみ表示）
   参照時のみページャーを表示します。

- ページャー表示が「表示」の場合



- ページャー表示が「非表示」の場合



- ページャー表示が「入力可のみ表示」の場合



- ページャー表示が「参照時のみ表示」の場合



表示件数（ページャー）

ページャーを表示する場合は、表示件数を設定します。
表示件数は、カンマ区切りで設定します。

並べ替え機能

単一列、または複数列での並べ替えを設定します。

- 利用しない
  単一列、複数列のいずれでもテーブルの並べ替えができません。
- 単一列による並べ替え
  クリックしたテーブルのヘッダの列を基準に並べ替えを行います。
  - 対象列（初期表示時）
    初期表示時の並べ替えの基準とする項目を選択します。
    未選択時（空白）には、並べ替えをしていない状態で表示されます。
  - 並び順（初期表示時）
    初期表示時の並べ替えを昇順、降順のどちらでするかを設定します。
- 複数列による並び替え
  テーブル上部に「並べ替え」アイコンが表示されます。
  「並べ替え」をクリックすると、複数の列による並べ替えの優先順位や昇順・降順を設定することができます。

列の表示・非表示

実行画面で「列」を右クリックして、列の表示・非表示を設定します。

1. 利用する
   入力可・参照時ともに、「列の表示・非表示」を利用します。
2. 利用しない
   入力可・参照時ともに、「列の表示・非表示」を利用しません。
3. 入力可のみ利用

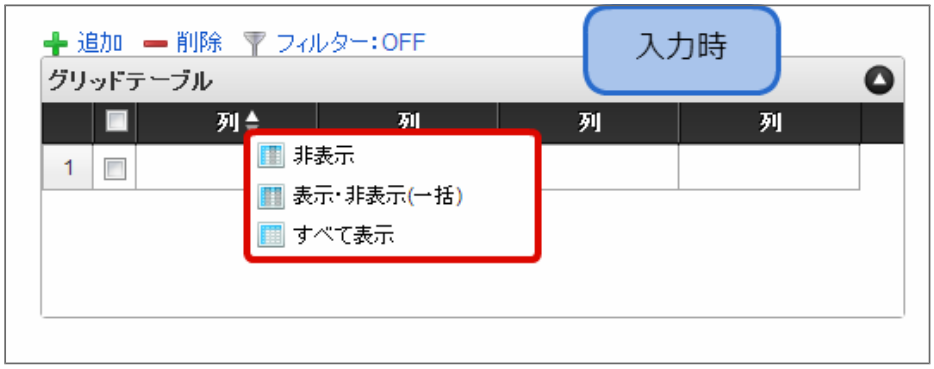
入力可能時のみ、「列の表示・非表示」を利用します。

4. 参照時のみ利用
   参照時のみ、「列の表示・非表示」を利用します。

- 「列の表示・非表示」が「利用する」の場合



- 「列の表示・非表示」が「入力可のみ利用」の場合



- 「列の表示・非表示」が「参照時のみ利用」の場合



列固定

列の固定をします。
横スクロールをする際に、列固定された列はスクロールされずに固定されます。

列固定機能

「列固定機能」の設定をします。

1. 表示
   入力可・参照時ともに「列固定：OFF/ON」を表示します。

2. 非表示
   入力可・参照時ともに「列固定：OFF/ON」を表示しません。

3. 入力可のみ表示
   入力可能時のみ「列固定：OFF/ON」を表示します。

4. 参照時のみ表示
   参照時のみ「列固定：OFF/ON」を表示します。

- 列固定機能が「表示」の場合



- 列固定機能が「非表示」の場合



- 列固定機能が「入力可のみ表示」の場合



- 列固定機能が「参照時のみ表示」の場合



列固定範囲

固定する列の範囲を設定します。

表示タイプ

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

ヘッダースタイル

ヘッダーの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

縞模様機能

チェックがオンの場合、奇数行、偶数行の背景色を別々に設定します。
フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色（奇数行/偶数行）

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

列個別設定

ヘッダーとフィールドの表示スタイルを個別で設定することができます。

列選択
表示スタイルを個別に設定したい列を選択します。

ヘッダースタイル

ヘッダーの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

列プロパティ概要

列プロパティは、「基本設定」 -> 「列の定義」 -> 「設定」をクリックして設定することができます。
または、列のヘッダー部をダブルクリックして設定することできます。
グリッドテーブルの列プロパティには、以下のタイプがあります。
それぞれのタイプで、列プロパティの設定内容が異なります。

タイプ	説明
文字列	文字や数値などで短い文章を入力するときに使用するタイプです。
数値	金額や個数などの数値を入力するときに使用するタイプです。
日付	日付を入力するときに使用するタイプです。
隠しパラメータ	フォーム上に表示させずに、値を保持するときに使用するタイプです。
関数	日付や数値の計算や、関数を使用して処理するときに使用するタイプです。
一覧選択	外部連携を使用し、入力値を一覧から選択して入力するときに使用するタイプです。
セレクトボックス	複数項目から入力値をプルダウンで、１つ選択するときに使用するタイプです。
イメージ	フォーム上に任意の画像を表示するときに使用するタイプです。
カスタム	表示用のタグを含んだコードを設定するタイプです。

列プロパティ(文字列)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「文字列」の場合には、以下の項目を設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

検索設定

検索機能を有効にしている場合に、列単位での検索フィルターを設定します。

検索対象

- 「検索機能」に「フィルター検索」を設定している場合
  検索機能でフィルターで表示をしぼりこむ条件に利用できるかどうかを設定します。
- 「検索機能」に「高度な検索」を設定している場合
  検索機能で検索条件に利用できるかどうかを設定します。

フィルター条件

「検索機能」を「フィルター検索」にした場合、設定することができます。
検索で絞り込む時の比較条件を設定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請

ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(数値)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「数値」の場合には、以下の項目を設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 -「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット

コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。

注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。

注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
アカウント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123 456 789,123
テナント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123.456.789,123
システム設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ▪ 123456789.123 ▪ 123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

小数点表示

チェックがオンの場合、整数で入力した場合でも小数点で表示することができます。
例 ：「小数部最大入力桁数」に「2」、「入力フィールド」に「1」と入力した場合、「1.00」と表示されます。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

列の幅を設定します。
設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

検索設定

検索機能を有効にしている場合に、列単位での検索フィルターを設定します。

検索対象

- 「検索機能」に「フィルター検索」を設定している場合
  検索機能でフィルターで表示をしぼりこむ条件に利用できるかどうかを設定します。
- 「検索機能」に「高度な検索」を設定している場合
  検索機能で検索条件に利用できるかどうかを設定します。

フィルター条件

「検索機能」を「フィルター検索」にした場合、設定することができます。
検索で絞り込む時の比較条件を設定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(日付)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「日付」の場合には、以下の項目を設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。

詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

検索設定

検索機能を有効にしている場合に、列単位での検索フィルターを設定します。

検索対象

- 「検索機能」に「フィルター検索」を設定している場合
  検索機能でフィルターで表示をしぼりこむ条件に利用できるかどうかを設定します。
- 「検索機能」に「高度な検索」を設定している場合
  検索機能で検索条件に利用できるかどうかを設定します。

フィルター条件

「検索機能」を「フィルター検索」にした場合、設定することができます。
検索で絞り込む時の比較条件を設定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(隠しパラメータ)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「隠しパラメータ」の場合には、以下の項目を設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請

ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

列プロパティ(関数)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「関数」の場合には、以下の項目を設定します。

式

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ▪ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	▪ 123456789.123 ▪ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ▪ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	▪ 123456789.123 ▪ 123,456,789.123
アカウント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123 456 789,123
テナント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123.456.789,123
システム設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ▪ 123456789.123 ▪ 123‘456‘789.123



コラム

クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(一覧選択)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「一覧選択」の場合には、データソース設定のリンクからデータソースに関する設定、
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

タイプ

列のタイプを選択します。

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
  別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 最大表示行数
  一覧画面上に表示できる最大行数を設定します。
  外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」の場合、改ページ機能があるため、最大表示行数の設定は無効となります。
- マルチセレクト
  チェックがオンの場合、一覧画面上で複数行を選択できます。
  複数の行を選択した場合でも、画面アイテム「一覧選択」のフィールドには最初の1件しか反映されませんので注意してください。
- 項目幅の自動調整
  チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
  チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。
  表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。
- 列番号
  列の表示順を設定します。
  列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。
- 表示
  一覧画面に表示するかどうかを設定します。
  チェックがオンの場合に一覧画面に表示します。
- 列名
  一覧画面に表示する列名を設定します。
- 列ID
  一覧画面に表示する列を一意に識別するためのIDです。
  データマッパー上では、「{列名}｜{列ID}」の形式で表示されます。
- タイプ
  列のデータ型を設定します。
- ソート
  初期表示時の一覧画面のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を設定します。
  いずれかの列について、昇順/降順を指定することで、初期表示のソート対象項目に設定できます。
  すべての列でソートを空白指定した場合、一番上の列の昇順でソートされます。

> **注意**
>
> IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整とソートの設定を追加しました。
>
> - IM-FormaDesigner 2022Spring 以前に作成した定義を利用する場合、かつ、外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、項目幅の自動調整と初期表示時のソート順の設定について、一覧選択画面の表示とプロパティの設定で差異が生じます。
> そのため、一度プロパティの設定を変更してからフォームの更新を行ってください。
> - IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
> 「 画面設計書出力 」での出力値は空白で出力されます。

取得値設定

外部連携で取得した値の反映先のマッピングを行います。

- マッピング情報
  虫眼鏡アイコンをクリックするとデータマッパーが表示されますので、データマッパー上で対応する画面アイテムのマッピングを設定します。
  - 取得値に設定できるアイテム
    - 文字列（product_72_textbox）
    - 複数行文字列（product_72_textarea）
    - 数値（product_72_number）
    - 日付（product_72_date）
    - 期間（product_72_term）
    - 一覧選択（互換用）（product_72_itemSelect）
    - チェックボックス（product_80_checkbox）
    - ラジオボタン（product_80_radio）
    - セレクトボックス（product_80_selectbox）
    - リストボックス（product_80_listbox）
    - 一覧選択（product_80_itemSelect）
    - 隠しパラメータ（product_72_hidden）

> **コラム**
>
> データソースを使用する連携の設定の方法は、「 IM-BIS 業務管理者操作ガイド 」を参照してください。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがなど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

検索設定

検索機能を有効にしている場合に、列単位での検索フィルターを設定します。

検索対象

- 「検索機能」に「フィルター検索」を設定している場合
  検索機能でフィルターで表示をしぼりこむ条件に利用できるかどうかを設定します。
- 「検索機能」に「高度な検索」を設定している場合
  検索機能で検索条件に利用できるかどうかを設定します。

フィルター条件

「検索機能」を「フィルター検索」にした場合、設定することができます。
検索で絞り込む時の比較条件を設定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請

ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(セレクトボックス)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「セレクトボックス」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定、
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。
設定するデータをデータソース定義から取得する場合は、外部連携設定画面で設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、－によって追加、削除することができます。

- 列番号

  列の表示順を設定します。
  列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

検索設定

検索機能を有効にしている場合に、列単位での検索フィルターを設定します。

検索対象

- 「検索機能」に「フィルター検索」を設定している場合
  検索機能でフィルターで表示をしぼりこむ条件に利用できるかどうかを設定します。
- 「検索機能」に「高度な検索」を設定している場合
  検索機能で検索条件に利用できるかどうかを設定します。

フィルター条件

「検索機能」を「フィルター検索」にした場合、設定することができます。
検索で絞り込む時の比較条件を設定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(イメージ)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「イメージ」の場合には、以下の項目を設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

イメージ選択

配置した場所に表示する画像ファイルを指定します。
指定できる画像ファイルは、「フォーム・デザイナ」画面上の「画像アップロード」で事前にアップロード済みの画像ファイルに限られます。

リンク

イメージに他ページへのリンクを設定します。

設定方法

リンク先の設定方法を設定します。

- Forma画面設定：Forma画面を開く設定をします。
- URL設定：URLを指定する設定をします。

利用方法

利用方法を設定します。

- ポップアップ表示：ポップアップで表示します。
- 別画面表示：別画面で表示します。

子画面サイズ（幅）

ポップアップ表示する子画面の横の長さ（幅）をピクセル単位で指定します。

子画面サイズ（高）

ポップアップ表示する子画面の縦の長さ（高さ）をピクセル単位で指定します。

URL

イメージで表示した画像をクリックした際に表示するサイトのアドレスを設定します。

> コラム
>
> URLに別ドメインを設定する場合、データの送信方法「POST」は利用できません。

送信方法

データの送信方法を「GET」「POST」のいずれかから選択します。

パス設定

イメージに他ページへのリンクを設定します。
URLで設定したオーソリティのアクセス先を設定します。
例 ：URLに「 *http://localhost/imart* 」、パス設定に「 *path* 」と設定した場合、「 *http://localhost/imart/path* 」というURLを生成します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（*）を指定してください。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「 ” 」で囲んでください。

列番号をドラッグすると、列を入れ替えることができます。

* 画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

パラメータ設定

URLに設定した値（アドレス）に追加したいパラメータのキーと値の組み合わせを設定します。
「＋」「－」で追加と削除ができます。
列番号をドラッグすることで列を入れ替えることができます。

パラメータキー

編集対象のパラメータ値に対応するパラメータキーを選択します。

パラメータ値

パラメータに設定する値を登録します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

Forma画面設定

子画面表示時

子画面表示時の処理を指定します。

- 子画面に値を反映：親画面から子画面に値を反映します。
- 何もしない：値の反映はしません。

フォーム遷移名

子画面に表示するフォーム遷移を指定します。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

列プロパティ(カスタム)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「カスタム」の場合には、表示用のタグを含んだコードを設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

コード記述

表示したい文字列や、HTMLタグなどを記述します。

> **注意**
> - 表示用のタグを設定します。入力用のタグを使用した制御は想定していません。
>   jqgridの特質上、カスタムに入力されたデータはグリッドテーブルの内部データと同期されないため、
>   入力内容が保持されません。

コラム

例）他のサイトのイメージを表示するタグ

```
<img src="http://www.accel-mart.com/top_img/main_image_01.jpg" >
```

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請

ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

グリッドテーブルの行のコピー、行のコピー（複数）、挿入、削除方法

行のコピー、行のコピー（複数）、挿入、削除方法について説明します。

行のコピー

行のコピーを行います。

1. 行の上を右クリックします。



2. 「コピー」をクリックします。



3. 行の上を右クリックし、「コピーした行の挿入」をクリックします。



4. コピーした行が挿入されます。



行のコピー（複数）

行の複数行コピーを行います。

1. 「行のコピー」の1～2と同様に、コピー対象をコピーします。
2. 行の上を右クリックし、「コピーした行の挿入（複数）」をクリックします。



3. 挿入行数に挿入したい行数を入力します。



> **注意**
> グリッドテーブルのプロパティの基本設定で設定した「最大行数」を超えないように入力してください。

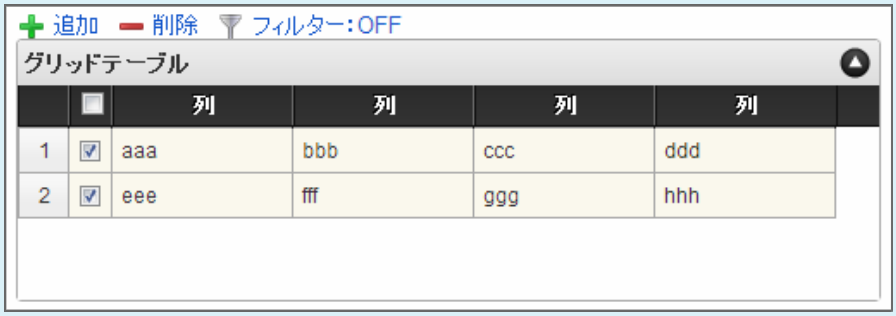
4. コピーした行が挿入されます。


追加
削除
フィルター:OFF
グリッドテーブル
列
列
列
列
2
eee
fff
ggg
hhh
3
aaa
bbb
ccc
ddd
4
aaa
bbb
ccc
ddd
5
aaa
bbb
ccc
ddd

コラム

行のコピー、行のコピー（複数）では、コピー対象をチェックボックスをオンにして指定することもできます。

1. コピー対象のチェックボックスをオンにします。



2. 「コピー」をクリックします。



3. 行の上を右クリックし、「コピーした行の挿入（または、コピーした行の挿入（複数））」をクリックします。



4. コピーした行が挿入されます。



行の挿入

行の挿入を行います。

1. 行の上を右クリックし、「挿入」をクリックします。



コラム

- グリッドテーブル上部の「追加」をクリックし、挿入することもできます。



2. 行が挿入されます。



行の削除

行の削除を行います。

1. 行の上を右クリックし、「削除」をクリックします。



コラム

削除対象のチェックボックスをオンにして、指定することもできます。

- 削除対象の行のチェックボックスをオンにし、グリッドテーブル上部の「削除」をクリックします。



2. 行が削除されます。



注意

グリッドテーブルには、以下の機能で注意事項があります。

- 列固定機能
  - 列への入力や非表示の操作は、列固定機能が「非表示」の時に実施することができます。
  - 列の固定範囲は、グリッドテーブル幅以内までにしてください。
- ヘッダースタイル
  - ヘッダーのフォントサイズを小さくすると、ソートアイコンである▲▼の表示が隠れてしまうので注意してください。



- ページャー機能
  - 行の追加、挿入をすると現在表示しているページに行の追加を行います。
  - ページャーのリロードをすると、ページの表示件数に従い表示され、新たに追加、挿入した行は、最終頁の最後の行に追加されます。

リッチテキストボックス

画面アイテム「リッチテキストボックス」は、色やフォントなどの文字装飾を伴う文字を入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、アイテムの上に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

リッチテキストボックス設定

リッチテキストボックスのエディタなどの詳細を設定します。
ツールバースタイル

ツールバー（編集用のコマンドアイコンを表示する部分）のスタイルを設定します。
「シンプル」に設定した場合、利用できるコマンドアイコンが少なくなります。

メニューバー

メニューバーを表示するか設定します。
チェックボックスがオンの場合、編集用のコマンドアイコンがメニューバーにまとまって表示されます。

画像挿入機能の利用

ローカルの画像を利用する機能を設定します。
設定ファイル（ui-tag-config_imui-richtextbox.xml）にて、扱える画像のオプションを設定できます。

- imuiDataUrl（設定を変更する）

エディタ幅
文字を編集する領域の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
エディタ高さ
文字を編集する領域の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
参照表示高さ固定

表示タイプの表示が「参照」の場合に、リッチテキストボックスの領域の高さを調整するかを設定します。
チェックボックスがオンの場合、表示する内容に関係なく、常に固定の高さで表示します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

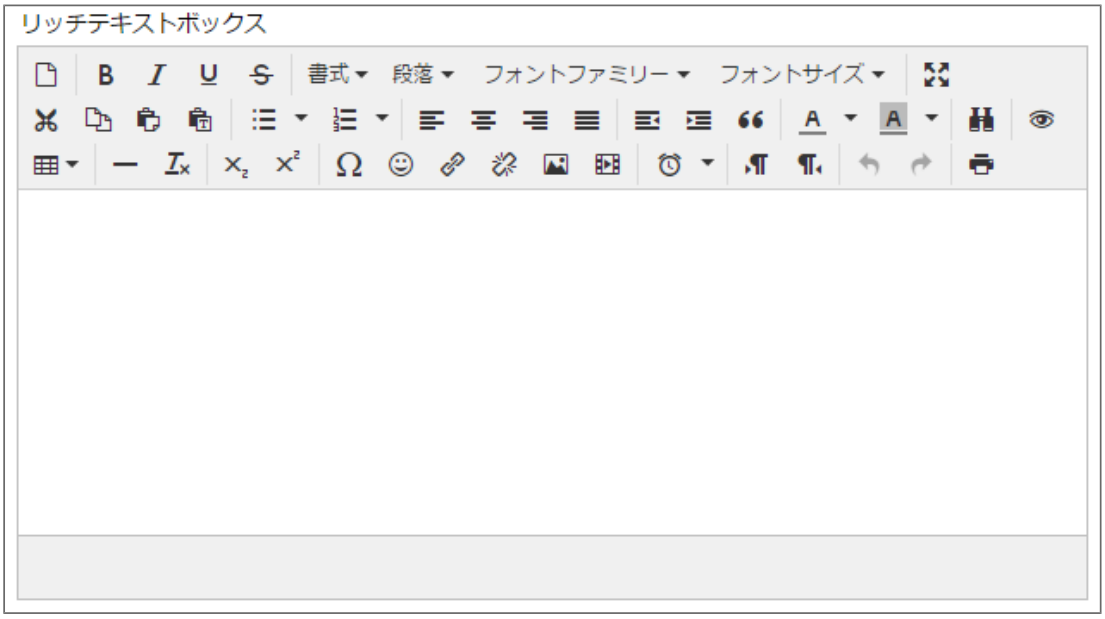
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

スプレッドシート

画面アイテム「スプレッドシート」は、IM-SpreadsheetをForma実行画面上で利用するためのアイテムです。

項目

- 基本設定
- 詳細設定
- フィールド定義
- テーブル定義

基本設定

スプレッドシート

画面アイテムに表示するスプレッドシートを設定します。
アイコンをクリックすることで、 IM-Spreadsheet デザイナが起動します。
「ファイル」 -「インポート」を利用することで、既存のExcelファイルを読み込むことができます。

注意

- スプレッドシートアイテムは、設定するシートのサイズに応じて、処理時間とメモリが必要となります。
  そのため、以下の制限を設定しています。
  - 「スプレッドシートのデータサイズ制限を設定する（spreadsheet-item-filelength-limit）」
  - 「スプレッドシートに含まれるテーブルの列数の最大値を設定する（spreadsheet-item-tablecolumn-limit）」

詳細設定

スプレッドシートID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDとスプレッドシートIDが一意になるように設定してください。
フォーム間でスプレッドシート同士の値の引継ぎをする場合は、スプレッドシートIDを同じにする必要があります。

シートDB登録

スプレッドシートのシート全体をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
チェックがオンの場合、データベースに登録したシートが存在する場合、そのシートを画面に表示します。
データベースに登録したシートが存在しない場合、フォーム・デザイナで定義したシートを画面に表示します。
複数画面を作成する場合、シートDB登録は全画面で同じ設定にする必要があります。

コラム

- シートDB登録をオンとして利用した場合、スプレッドシートのシート全体がリクエストパラメータとして送信されます。
  制限サイズを超えた場合、エラーが発生しますので注意してください。
  制限サイズの設定方法については、以下を参照してください。
  - 「スプレッドシートのデータサイズ制限を設定する（spreadsheet-item-filelength-limit）」

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

バインディング設定

スプレッドシート内の特定のセル、もしくは、テーブルの入力値のバインディング有無を設定します。
バインディングした値は、前処理や後処理、外部連携で利用することができます。
チェックがオンの場合、「フィールド定義」「テーブル定義」で、バインディングするセル、もしくは、テーブルを設定します。

バインディング値DB登録

バインディングした値をデータベースへ登録するかを設定します。
複数画面を作成する場合、バインディング値DB登録は全画面で同じ設定にする必要があります。

コラム

- シートDB登録：オフ、バインディング値DB登録：オンとして利用した場合
  - 登録／更新（申請／承認）画面など、別フォームに対して、同一のスプレッドシートIDで別の内容のスプレッドシートを設定できます。
    バインディング値はスプレッドシート上に反映されるため、画面ごとにスプレッドシートの表示内容を変更することができます。

コラム

- バインディング設定をオンとして利用した場合
  - バインディング設定をオンとした場合、設定した値は後処理に連携されます。
    バインディング値DB登録がオフの場合でも値は連携されます。

表示タイプ

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

フィールド定義

フィールド識別ID

アプリケーション上での、入力項目の識別IDとして利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

タイプ

入力項目として保持する値のデータ型を指定します。

コラム

- 指定したデータ型に対し、登録／更新（申請／承認）時に、保持するデータ型に対してのチェックのみ実施します。
  詳細の入力チェックを実行する場合は、SpreadJSのAPI、またはForma入力チェックユーザプログラムを利用してください。
- データ型として数値／日付を指定した場合、SpreadJSのセルの書式設定にも数値／日付形式を指定してください。
  型が異なる場合、入力時の変換処理でスクリプトエラーが発生したり、値が意図どおり連携されない場合があります。
- SpreadJSでのセル型がチェックボックスの場合は、データ型に「文字列」を指定してください。
  ユーザプログラム、外部連携では値を以下のように設定・取得します。
  チェックON: 文字列の”true”、チェックOFF: 文字列の”false”、不定状態(不定状態が有効の場合)：空文字
- SpreadJSでのセル型がチェックボックスリストの場合は、データ型に「文字列」を指定してください。
  ユーザプログラム、外部連携ではカンマ区切りの文字列で値を設定・取得します。
  ※SpreadJSで設定するチェックボックスリスト項目値にカンマ「,」が含まれていると正常に動作しないため、カンマを含まない値を設定してください。

シート・行・列

シート・行・列を指定します。
シートは、一番左のシートを0として、順番で指定します。
行・列は、左上のセルを0として、順番で指定します。

コラム

- 「選択中のセルを追加」を押下すると、スプレッドシート上でフォーカスが当たっているセルを追加することができます。
  また、画面アイテムプロパティで設定済みフィールドを選択すると、スプレッドシートの中で指定されたセルにフォーカスが当たります。

テーブル定義

テーブル

Excel上で設定されたテーブルオブジェクトがリストで表示されます。
バインディングするテーブルを選択して、「定義を設定」を押下すると、テーブルの各列が設定されます。
定義したテーブルを解除したい場合は、「定義を解除」を押下してください。

テーブル識別ID

アプリケーション上での、テーブルの識別IDとして利用します。
フォーム間でテーブル同士の値の引継ぎをする場合は、テーブル識別IDを同じにする必要があります。

シート番号
一番左のシートを0とした順番が表示されます。

フィールド識別ID

アプリケーション上での、入力項目の識別IDとして利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

タイプ

入力項目として保持する値のデータ型を指定します。

コラム

- 指定したデータ型に対し、登録／更新（申請／承認）時に、保持するデータ型に対してのチェックのみ実施します。
  詳細の入力チェックを実行する場合は、SpreadJSのAPI、またはForma入力チェックユーザプログラムを利用してください。
- データ型として数値／日付を指定した場合、SpreadJSのセルの書式設定にも数値／日付形式を指定してください。
  型が異なる場合、入力時の変換処理でスクリプトエラーが発生したり、値が意図どおり連携されない場合があります。
- SpreadJSでのセル型がチェックボックスの場合は、データ型に「文字列」を指定してください。
  ユーザプログラム、外部連携では値を以下のように設定・取得します。
  チェックON: 文字列の”true”、チェックOFF: 文字列の”false”、不定状態(不定状態が有効の場合)：空文字
- SpreadJSでのセル型がチェックボックスリストの場合は、データ型に「文字列」を指定してください。
  ユーザプログラム、外部連携ではカンマ区切りの文字列で値を設定・取得します。
  ※SpreadJSで設定するチェックボックスリスト項目値にカンマ「,」が含まれていると正常に動作しないため、カンマを含まない値を設定してください。

列番号

列番号が表示されます。
不要な列は削除してください。

コラム

- スプレッドシート内で関数を利用した場合、関数はスプレッドシート表示時に常に再実行されます。
  スプレッドシートでは、関数は式として保存されます。
  実行結果は保存されず、表示時に常に実行される動作が仕様となります。
- テーブルの列に関数を設定している場合、バインディングの設定を行うと関数が実行されなくなります。
  関数を実行する場合は、列の設定から対象列を削除してください。
- スプレッドシートでは、「 関数 」の「ワークフロー関数(申請情報)」「ワークフロー関数(案件情報)」が利用できます。

ボタンアイテム

ボタン(処理モーダル)

画面アイテム「ボタン(処理モーダル)」は、入力したデータの登録処理(ワークフローの申請・再申請・承認等)を実行するためのアイテムです。

基本設定

ラベル（申請・再申請・承認・参照）

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称を、ボタン上に表示します。

「ボタン（処理モーダル）」では、表示タイプに合わせて表示する名称を設定できます。

- 申請：申請画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「申請」です。
- 再申請：再申請画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「再申請」です。
- 承認：承認画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「承認」です。

- 参照：参照画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「更新」です。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

申請設定 ／ 処理設定 ／ 確認設定

- 申請設定
  表示する申請モーダルへのパラメータを設定します。
- 処理設定
  表示する処理モーダルへのパラメータを設定します。
- 確認設定
  表示する確認モーダルへのパラメータを設定します。

> **注意**
> 各モーダルへのパラメータ設定が有効になるのは、「PC版」で表示したときのみです。
> 「スマートフォン版」で表示した場合はパラメータ設定の有無に関わらず、画面アイテム「ボタン(登録)」クリック時と同様の動作になります。

案件名 ／ 優先度 ／ 処理コメント ／ 確認コメント

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

> **コラム**
> 画面アイテム「日付」等、データ型が日付またはタイムスタンプであるアイテムの値を参照する場合は、日付関数を利用することで任意のフォーマットに変換できます。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*
- *ワークフロー関数(申請情報)*
- *ワークフロー関数(案件情報)*

モーダル入力値の保持

モーダルを表示する際に前回表示した内容を復元するかを指定します。
チェックをオンにすると、前回表示した内容を復元します。
画面遷移をした場合、入力内容は破棄されます。
クライアントサイドスクリプトでモーダルの各種制御を行い、モーダルを開く都度スクリプトを実行したい場合、チェックをオフにしてください。

注意

- 本アイテムを複数配置しても、モーダル入力値はアイテムごとではなく共通で用いられます。
  チェックをオンにしているボタンでモーダルを表示する際、それよりも先に別に配置しているボタンでモーダルを表示していた場合はそこで入力された値が保持されます。
  複数のボタンを配置し、それぞれ異なったクライアントサイドスクリプトでモーダルの各種制御を行いたい場合、チェックをオフにしてください。
- ボタン(処理モーダル)とボタン(一時保存モーダル)は別アイテムとなりますので、モーダル入力値も別となります。

インタフェース制御

モーダルの各項目に対するインタフェースの制御（表示、入力不可、必須）を指定します。
制御の内容と設定値ごとの動作は以下の通りです。

- 表示
  - チェックをオン： 項目を表示します。（初期値）
  - チェックをオフ： 項目を非表示にします。
- 入力不可
  - チェックをオン： 項目を入力不可（参照のみ）にします。
  - チェックをオフ： 項目を入力可とします。（初期値）
- 必須
  - チェックをオン： 項目を必須入力にします。
  - チェックをオフ： 項目を任意入力にします。（初期値）

下記の表では、設定可能な組み合わせに ✔ マークをつけています。

項目名	表示	入力不可	必須
案件番号	✔		
案件名	✔	✔	
申請基準日	✔		
申請日	✔		
申請権限者	✔		
処理者	✔		
担当組織	✔	✔	
優先度	✔	✔	
処理コメント	✔	✔	✔
確認コメント	✔	✔	✔
添付ファイル	✔		
印影	✔		
根回し	✔		

実行画面における動的制御

クライアントサイドスクリプトでモーダルの各種制御を行うことができます。

- モーダル内の情報に対するインタフェース制御
- モーダル表示用パラメータ情報への値指定

製品としてサポートするスクリプトの設定方法は以下の通りです。

- 画面アイテム「スクリプト」のスクリプト
- アクション設定： 初期表示イベント（カスタムスクリプト）
- アクション設定： 任意のアイテムのイベント（カスタムスクリプト）

制御を行うには、グローバル変数 `window.forma.modalInfo.xxx` に対して設定情報を指定してください。

- 変数名 `xxx` は表示するモーダルの種類によって異なります。
  - 申請モーダル： showApplyParameter
  - 処理モーダル： showProcessParameter
  - 確認モーダル： showConfirmParameter
  - 一時保存モーダル： showTemporarySaveParameter
- インタフェース制御を行う場合、 `xxx.interfaceControl` 以下へ設定情報を指定してください。
- フロー設定（分岐開始／差戻し先／動的承認／確認／縦配置／横配置）への値設定を行う場合、 `xxx` 以下へ対象のフロー設定毎の設定情報を指定してください。
  詳細は以下のドキュメントを参照してください。
  - 「 IM-Workflow プログラミングガイド 」-「 modal 」
  - 上記ページより、表示するモーダルの種類に応じて showApply , showConfirm , showProcess , showTemporarySave のリンク先を参照してください。

> **注意**
> - ここで行う制御はデザイナで行った設定より優先されます。
> - 以下のパラメータについては制御不可能となります。
>   - flowId - フローID
>   - userDataId - ユーザデータID
>   - systemMatterId - システム案件ID
>   - nodeId - ノードID
> - このスクリプトがモーダル表示の都度有効となるのは、デザイナで行った *モーダル入力値の保持* のチェックがオフの時のみです。

以下に申請モーダル表示時の設定例を記載します。

```
window.forma.modalInfo.showApplyParameter = {
 interfaceControl: {
  matterName: {
   display: true,
   readonly: true
  },
  applyBaseDate: {
   display: true
  },
  applyAuthUserCd: {
   display: true
  },
  authUserDepartmentInfo: {
   display: true,
   readonly: true
  },
  priorityLevel: {
   display: true,
   readonly: true
  },
  processComment: {
```

```
    display: true,
    readonly: true,
    required: true
  },
  attachmentFile: {
    display: true
  },
  stamp: {
    display: true
  },
  nego: {
    display: true,
  }
},
branchSelects: [
  {
    branchStartNodeId: "branch_start1",
    forwardNodeIds: [
      "horizontal1"
    ]
  }
],
dynamicNodeConfigs: [
  {
    enable: true,
    nodeId: "dynamic1",
    nodeInformation: "サンプル課１ 1 が初期値としてセットされます。",
    readonlyEnableToggle: true,
    searchCondition: {
      criteria: null
    },
    processTargetConfigs: [
      {
        pluginId: "jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.dynamic.department",
        parameter: "comp_sample_01^comp_sample_01^dept_sample_11"
      }
    ]
  }
],
confirmNodeConfigs: [
  {
    nodeId: "confirm1",
    nodeInformation: "サンプル課１ 1 が初期値としてセットされます。",
    searchCondition: {
      criteria: null
    },
    processTargetConfigs: [
      {
        pluginId: "jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.department",
        parameter: "comp_sample_01^comp_sample_01^dept_sample_11"
      }
    ]
  }
],
horizontalNodeConfigs: [
  {
    nodeId: "horizontal1",
    nodeInformation: "サンプル課１ 1 が初期値としてセットされます。",
    dispatchControl: {
      max: 3,
      min: 1
    },
    searchCondition: {
      criteria: null
```

```
    },
    matterNodeExpansions: [
     {
      nodeName: "横配置1",
      searchCondition: {
       criteria: null
      },
      processTargetConfigs: [
       {
        pluginId: "jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.dynamic.department",
        parameter: "comp_sample_01^comp_sample_01^dept_sample_11"
       }
      ]
     }
    ]
   }
  ],
  verticalNodeConfigs: [
   {
    nodeId: "vertical1",
    nodeInformation: "サンプル課１ 1 が初期値としてセットされます。",
    dispatchControl: {
     max: 1,
     min: 1
    },
    searchCondition: {
     criteria: null
    },
    matterNodeExpansions: [
     {
      nodeName: "縦配置1",
      searchCondition: {
       criteria: null
      },
      processTargetConfigs: [
       {
        pluginId: "jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.dynamic.department",
        parameter: "comp_sample_01^comp_sample_01^dept_sample_11"
       }
      ]
     }
    ]
   }
  ],
  matterName: "案件名初期値設定",
  applyAuthUserCd: "aoyagi",
  applyBaseDate: "2020/12/25",
  authUserDepartmentInfo: {
   companyCd: "comp_sample_01",
   departmentSetCd: "comp_sample_01",
   departmentCd: "dept_sample_11"
  },
  priorityLevel: "1",
  processComment: "申請コメント初期値設定"
};
```

処理後の遷移先制御

> **コラム**
> この機能は 2022 Winter(Freesia) より追加されました。

画面アイテム「スクリプト」でモーダル処理後の遷移先を制御できます。
製品としてサポートするスクリプトの設定方法は以下の通りです。

- 画面アイテム「スクリプト」のスクリプト

制御を行うには、以下の関数を利用して遷移先を制御してください。

```
window.forma.modal.setNextPagePath('遷移先の画面パス');
```



コラム

（例） 遷移先を「ホーム画面」に変更したい場合は、以下のように設定します。

```
window.forma.modal.setNextPagePath('home');
```

設定すると以下の処理の遷移先が変更されます。

- 申請モーダル
  - 申請
  - 再申請
  - 取止め
- 処理モーダル
  - 承認
  - 否認
  - 保留
  - 保留解除
  - 差戻し
  - 引戻し
- 確認モーダル
  - 確認
- 一時保存モーダル
  - 一時保存



注意

- 連続処理、連続確認の場合は、次の案件ノードがあれば、該当のユーザコンテンツに遷移します。
  次の案件ノードがなければ、呼出元一覧画面に遷移します。
- アクション設定（アイテムイベント）のカスタムスクリプトでは設定できません。
- タブフォームを利用する場合は、ヘッダフォームにスクリプトを設定してください。
  タブフォームにスクリプトを設定した場合は、設定が反映されません。
  ヘッダフォームに別アイテムを置かない場合は、スクリプトの画面アイテムプロパティ「アイテムサイズ・高さ」を「0」に指定する事で、ヘッダフォームを使用しない場合と同じ見た目で表示されます。

ボタン(次へ)

画面アイテム「ボタン(次へ)」は、次の画面に遷移するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

利用方法

利用方法を設定します。

- 画面遷移(次へ)：次の画面に遷移します。タブフォームに設定している場合には、右のタブに遷移します。
- ポップアップ表示：ポップアップで表示します。

子画面サイズ（幅）

ポップアップ表示する子画面の横の長さ（幅）をピクセル単位で指定します。

子画面サイズ（高）

ポップアップ表示する子画面の縦の長さ（高さ）をピクセル単位で指定します。

Forma画面設定

子画面表示時

子画面表示時の処理を指定します。

- 子画面に値を反映：親画面から子画面に値を反映します。
- 何もしない：値の反映はしません。

フォーム遷移名

子画面に表示するフォーム遷移を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(戻る)

画面アイテム「ボタン(戻る)」は、前の画面に遷移するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

「戻る」ボタンの動作について

「戻る」ボタンは、ボタンが配置されたフォームの遷移前の画面、遷移先の画面によって動作が異なりますので、注意して配置してください。
「ヘッダー」の「戻る」リンクが表示された場合も同じ動作となります。

- フォーム遷移設定で、表示するフォーム件数が1件(単一のフォーム画面を表示する)の場合

フォームの遷移前の画面	「戻る」ボタン／「戻る」リンクをクリックした後の遷移先の画面
一覧表示画面	一覧表示画面

フォームの遷移前の画面	「戻る」ボタン／「戻る」リンクをクリックした後の遷移先の画面
メニュー(サイトマップなど)	**画面遷移しません(クリックしても何も起こりません)**

- フォーム遷移設定で、表示するフォーム件数が2件以上(複数のフォーム画面を表示する)の場合

フォームの遷移前の画面	「戻る」ボタン／「戻る」リンクをクリックした後の遷移先の画面
一覧表示画面→前に表示するフォーム	前に表示するフォーム画面
メニュー(サイトマップなど)→前に表示するフォーム	前に表示するフォーム画面

最初に表示するフォームの場合の動作は、単一のフォーム画面を表示する場合と同様となります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

利用方法

利用方法を設定します。

- 画面遷移(戻る)：画面遷移で戻ります。タブフォームに設定している場合には、左のタブに遷移します。
- 子画面利用(閉じる)：子画面を閉じます。

クリック時の処理

クリック時の処理を指定します。

- 親画面に値を反映し画面を閉じる：画面を閉じる際に親画面に値を反映します。
- 画面を閉じる：画面を閉じます。

確認ダイアログ

チェックをオンにした場合、子画面を閉じる際にダイアログを表示します。

確認メッセージ

確認ダイアログに表示するメッセージを登録します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(一覧へ戻る)

画面アイテム「ボタン(一覧へ戻る)」は、一覧画面に遷移するためのアイテムです。
遷移先の一覧画面は、アプリケーション種別や呼び出し元の画面によって異なります。
詳細は下記のページを参照してください。

- 「 IM-FormaDesigner 仕様書 」
  - 「 IM-FormaDesignerにおける画面遷移部品の仕様（アプリケーション種別「IM-Workflow」の場合） 」

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(一時保存モーダル)

画面アイテム「ボタン(一時保存モーダル)」は、一時保存を実行するためのアイテムです。
入力したデータを申請処理をせずに、保存することができます。

一時保存を行ったデータは、ワークフローの「一時保存一覧」、または「未処理一覧」から呼び出して、編集・登録することができます。
詳細は「 IM-FormaDesigner 仕様書 」-「 IM-FormaDesigner における一時保存の仕様 」を参照してください。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

- 「する」をオン
  申請時と同様の入力チェックが行われます。
- 「しない」をオン
  以下の最小限の入力チェックのみ行われます。
  - 最大文字数
  - 数値のみ
  - 数値桁数
  - 小数部桁数
  - 日付形式

> **コラム**
>
> 以下の入力チェックは行われません。
>
> - 必須チェック
> - 必須選択チェック
> - 最小文字数
> - 英数字のみ
> - 負数
> - 添付ファイルの個数 最少
> - 添付ファイルの個数 最大
> - 正規表現

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。

- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

> **コラム**
> 再申請や承認時に、一時保存を実行できるようにするには、表示タイプ：再申請・承認に対して、入力タイプ：入力に設定してください。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

一時保存設定

- 一時保存設定
  表示する一時保存モーダルへのパラメータを設定します。

> **注意**
>
> 一時保存モーダルへのパラメータ設定が有効になるのは、「PC版」で表示したときのみです。
> 「スマートフォン版」で表示した場合はパラメータ設定の有無に関わらず、画面アイテム「ボタン(一時保存)」クリック時と同様の動作になります。

案件名 ／ 処理コメント

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

> **コラム**
>
> 画面アイテム「日付」等、データ型が日付またはタイムスタンプであるアイテムの値を参照する場合は、日付関数を利用することで任意のフォーマットに変換できます。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*
- *ワークフロー関数(申請情報)*
- *ワークフロー関数(案件情報)*

モーダル入力値の保持

モーダルを表示する際に前回表示した内容を復元するかを指定します。
チェックをオンにすると、前回表示した内容を復元します。
画面遷移をした場合、入力内容は破棄されます。
クライアントサイドスクリプトでモーダルの各種制御を行い、モーダルを開く都度スクリプトを実行したい場合、チェックをオフにしてください。

> **注意**
>
> - 本アイテムを複数配置しても、モーダル入力値はアイテムごとではなく共通で用いられます。
>   チェックをオンにしているボタンでモーダルを表示する際、それよりも先に別に配置しているボタンでモーダルを表示していた場合はそこで入力された値が保持されます。
>   複数のボタンを配置し、それぞれ異なったクライアントサイドスクリプトでモーダルの各種制御を行いたい場合、チェックをオフにしてください。
> - ボタン(処理モーダル)とボタン(一時保存モーダル)は別アイテムとなりますので、モーダル入力値も別となります。

インタフェース制御

モーダルの各項目に対するインタフェースの制御（表示、入力不可、必須）を指定します。
制御の内容と設定値ごとの動作は以下の通りです。

- 表示
  - チェックをオン： 項目を表示します。（初期値）
  - チェックをオフ： 項目を非表示にします。

- 入力不可
  - チェックをオン： 項目を入力不可（参照のみ）にします。
  - チェックをオフ： 項目を入力可とします。（初期値）
- 必須
  - チェックをオン： 項目を必須入力にします。
  - チェックをオフ： 項目を任意入力にします。（初期値）

下記の表では、設定可能な組み合わせに ✔ マークをつけています。

項目名	表示	入力不可	必須
案件名	✔	✔	
申請基準日	✔		
申請権限者	✔		
処理コメント	✔	✔	✔

実行画面における動的制御

クライアントサイドスクリプトでモーダルの各種制御を行うことができます。

- モーダル内の情報に対するインタフェース制御
- モーダル表示用パラメータ情報への値指定

製品としてサポートするスクリプトの設定方法は以下の通りです。

- 画面アイテム「スクリプト」のスクリプト
- アクション設定： 初期表示イベント（カスタムスクリプト）
- アクション設定： 任意のアイテムのイベント（カスタムスクリプト）

制御を行うには、グローバル変数 `window.forma.modalInfo.xxx` に対して設定情報を指定してください。

- 変数名 `xxx` は表示するモーダルの種類によって異なります。
  - 申請モーダル： showApplyParameter
  - 処理モーダル： showProcessParameter
  - 確認モーダル： showConfirmParameter
  - 一時保存モーダル： showTemporarySaveParameter
- インタフェース制御を行う場合、 `xxx.interfaceControl` 以下へ設定情報を指定してください。
- フロー設定（分岐開始／差戻し先／動的承認／確認／縦配置／横配置）への値設定を行う場合、 `xxx` 以下へ対象のフロー設定毎の設定情報を指定してください。
  詳細は以下のドキュメントを参照してください。
  - 「 IM-Workflow プログラミングガイド 」-「 modal 」
  - 上記ページより、表示するモーダルの種類に応じて showApply , showConfirm , showProcess , showTemporarySave のリンク先を参照してください。



注意

- ここで行う制御はデザイナで行った設定より優先されます。
- 以下のパラメータについては制御不可能となります。
  - flowId - フローID
  - userDataId - ユーザデータID
  - systemMatterId - システム案件ID
  - nodeId - ノードID
- このスクリプトがモーダル表示の都度有効となるのは、デザイナで行った *モーダル入力値の保持* のチェックがオフの時のみです。

以下に申請モーダル表示時の設定例を記載します。

```
window.forma.modalInfo.showApplyParameter = {
  interfaceControl: {
    matterName: {
      display: true,
      readonly: true
    },
    applyBaseDate: {
      display: true
    },
    applyAuthUserCd: {
      display: true
    },
    authUserDepartmentInfo: {
      display: true,
      readonly: true
    },
    priorityLevel: {
      display: true,
      readonly: true
    },
    processComment: {
      display: true,
      readonly: true,
      required: true
    },
    attachmentFile: {
      display: true
    },
    stamp: {
      display: true
    },
    nego: {
      display: true,
    }
  },
  branchSelects: [
    {
      branchStartNodeId: "branch_start1",
      forwardNodeIds: [
        "horizontal1"
      ]
    }
  ],
  dynamicNodeConfigs: [
    {
      enable: true,
      nodeId: "dynamic1",
      nodeInformation: "サンプル課１ 1 が初期値としてセットされます。",
```

```
    readonlyEnableToggle: true,
    searchCondition: {
      criteria: null
    },
    processTargetConfigs: [
      {
        pluginId: "jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.dynamic.department",
        parameter: "comp_sample_01^comp_sample_01^dept_sample_11"
      }
    ]
  }
],
confirmNodeConfigs: [
  {
    nodeId: "confirm1",
    nodeInformation: "サンプル課１ 1 が初期値としてセットされます。",
    searchCondition: {
      criteria: null
    },
    processTargetConfigs: [
      {
        pluginId: "jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.department",
        parameter: "comp_sample_01^comp_sample_01^dept_sample_11"
      }
    ]
  }
],
horizontalNodeConfigs: [
  {
    nodeId: "horizontal1",
    nodeInformation: "サンプル課１ 1 が初期値としてセットされます。",
    dispatchControl: {
      max: 3,
      min: 1
    },
    searchCondition: {
      criteria: null
    },
    matterNodeExpansions: [
      {
        nodeName: "横配置1",
        searchCondition: {
          criteria: null
        },
        processTargetConfigs: [
          {
            pluginId: "jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.dynamic.department",
            parameter: "comp_sample_01^comp_sample_01^dept_sample_11"
          }
        ]
      }
    ]
  }
],
verticalNodeConfigs: [
  {
    nodeId: "vertical1",
    nodeInformation: "サンプル課１ 1 が初期値としてセットされます。",
    dispatchControl: {
      max: 1,
      min: 1
    },
    searchCondition: {
      criteria: null
```

```
    },
    matterNodeExpansions: [
     {
      nodeName: "縦配置1",
      searchCondition: {
       criteria: null
      },
      processTargetConfigs: [
       {
        pluginId: "jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.dynamic.department",
        parameter: "comp_sample_01^comp_sample_01^dept_sample_11"
       }
      ]
     }
    ]
   }
  ],
  matterName: "案件名初期値設定",
  applyAuthUserCd: "aoyagi",
  applyBaseDate: "2020/12/25",
  authUserDepartmentInfo: {
   companyCd: "comp_sample_01",
   departmentSetCd: "comp_sample_01",
   departmentCd: "dept_sample_11"
  },
  priorityLevel: "1",
  processComment: "申請コメント初期値設定"
};
```

処理後の遷移先制御

> **コラム**
> この機能は 2022 Winter(Freesia) より追加されました。

画面アイテム「スクリプト」でモーダル処理後の遷移先を制御できます。
製品としてサポートするスクリプトの設定方法は以下の通りです。

- 画面アイテム「スクリプト」のスクリプト

制御を行うには、以下の関数を利用して遷移先を制御してください。

```
window.forma.modal.setNextPagePath('遷移先の画面パス');
```

> **コラム**
>
> （例） 遷移先を「ホーム画面」に変更したい場合は、以下のように設定します。
>
> ```
> window.forma.modal.setNextPagePath('home');
> ```

設定すると以下の処理の遷移先が変更されます。

- 申請モーダル
  - 申請
  - 再申請
  - 取止め
- 処理モーダル
  - 承認
  - 否認

    - 保留
    - 保留解除
    - 差戻し
    - 引戻し
- 確認モーダル
    - 確認
- 一時保存モーダル
    - 一時保存

> **注意**
> - 連続処理、連続確認の場合は、次の案件ノードがあれば、該当のユーザコンテンツに遷移します。
> 次の案件ノードがなければ、呼出元一覧画面に遷移します。
> - アクション設定（アイテムイベント）のカスタムスクリプトでは設定できません。
> - タブフォームを利用する場合は、ヘッダフォームにスクリプトを設定してください。
> タブフォームにスクリプトを設定した場合は、設定が反映されません。
> ヘッダフォームに別アイテムを置かない場合は、スクリプトの画面アイテムプロパティ「アイテムサイズ・高さ」を「0」に指定する事で、ヘッダフォームを使用しない場合と同じ見た目で表示されます。

ボタン(コピー新規)

画面アイテム「ボタン(コピー新規)」は、申請済みの案件を複製して申請を行うためのアイテムです。
一部のアイテムを除き、申請済み案件に入力した内容をコピーした状態で申請画面を表示できます。
詳細は「 IM-FormaDesigner 仕様書 」 - 「 WF申請書再利用の仕様 」を参照してください。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

> コラム
> 「ボタン(コピー新規)」は、表示タイプ「申請」で「表示」に設定しても、申請画面には表示されません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(直接実行)

画面アイテム「ボタン(直接実行)」は、処理モーダルや標準処理画面を表示せずに、ワークフローの申請、再申請、承認、確認を実行するためのアイテムです。

> コラム
> 実行画面で画面アイテム「ボタン(直接実行)」をクリックすると、当該ボタンに設定したイベントや必須チェックなどを実行した後、確認ダイアログが表示されます。

> 注意
> 「ボタン(直接実行)」は参照の実行画面では処理できません。

> **注意**
>
> 「ボタン(直接実行)」は処理権限者（本人）による処理で行います。代理による処理は行えません。

基本設定

ラベル（申請・再申請・承認・参照）

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称を、ボタン上に表示します。

「ボタン（直接実行）」では、表示タイプに合わせて表示する名称を設定できます。

- 申請：申請画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「申請」です。
- 再申請：再申請画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「再申請」です。
- 承認：承認画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「承認」です。
- 参照：参照画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「更新」です。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

申請設定 ／ 処理設定 ／ 確認設定

- 申請設定
  申請パラメータを設定します。
  - 案件名
  - 優先度
  - 処理コメント
- 処理設定
  処理パラメータを設定します。
  - 処理コメント
- 確認設定
  確認パラメータを設定します。
  - 確認コメント

> **コラム**
>
> 申請設定は、申請ノードの申請、再申請に関する設定です。
>
> 処理設定は、承認ノード、動的承認ノード、縦配置ノード、横配置ノードの承認に関する設定です。
>
> 確認設定は、確認に関する設定です。
>
> 各処理については「IM-Workflow プログラミングガイド」-「クライアントサイド JavaScript API」を参照してください。

> **コラム**
>
> 申請パラメータに設定できる項目の「案件名」、「優先度」、「処理コメント」や設定できない項目の「権限者所属組織情報」などの情報は以下を参照してください。
>
> - 「imWorkflow.process.apply(Object parameter) : Promise<Object> - processParameter」
> - 「imWorkflow.process.applyFromUnapply(Object parameter) : Promise<Object> - processParameter」
> - 「imWorkflow.process.reapply(Object parameter) : Promise<Object> - processParameter」
>
> 処理パラメータに設定できる項目の「処理コメント」や設定できない項目の「権限者所属組織情報」などの情報は以下を参照してください。
>
> - 「imWorkflow.process.approve(Object parameter) : Promise<Object> - processParameter」
>
> 確認パラメータに設定できる項目の「確認コメント」や設定できない項目の「権限者所属組織情報」などの情報は以下を参照してください。
>
> - 「imWorkflow.process.confirm(Object parameter) : Promise<Object> - processParameter」

案件名 ／ 優先度 ／ 処理コメント ／ 確認コメント

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

> **コラム**
>
> 画面アイテム「日付」等、データ型が日付またはタイムスタンプであるアイテムの値を参照する場合は、日付関数を利用することで任意のフォーマットに変換できます。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*
- *ワークフロー関数(申請情報)*
- *ワークフロー関数(案件情報)*

ボタン(直接中止)

画面アイテム「ボタン(直接中止)」は、処理モーダルや標準処理画面を表示せずに、ワークフローの取止め、否認を実行するためのアイテムです。

コラム

IM-BIS for Accel Platform 2026 Spring (8.0.36) から画面アイテム「ボタン(直接中止)」のプロパティの「取止め設定」と「否認設定」に「処理コメントの必須入力チェック」項目、「実行時に設定を許可」項目を追加しました。
当該項目に対して未設定の場合は、 IM-BIS for Accel Platform 2025 Autumn (8.0.35) 以前の動作のまま利用できます。
当該項目に対して設定する場合は、後述の取止め設定、否認設定をご確認ください。

コラム

実行画面で画面アイテム「ボタン(直接中止)」をクリックすると、当該ボタンに設定したイベントなどを実行した後、確認ダイアログが表示されます。
必須チェックは行いません。

注意

「ボタン(直接中止)」は申請、参照の実行画面では処理できません。

基本設定

ラベル（申請・再申請・承認・参照）

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称を、ボタン上に表示します。

「ボタン（直接中止）」では、表示タイプに合わせて表示する名称を設定できます。

- 申請：申請画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「取止め」です。
- 再申請：再申請画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「取止め」です。
- 承認：承認画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「否認」です。
- 参照：参照画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「更新」です。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

取止め設定 ／ 否認設定

- 取止め設定
  取止めパラメータを設定します。
  - 処理コメント
  - 処理コメントの必須入力チェック
  - 実行時に設定を許可
- 否認設定
  否認パラメータを設定します。
  - 処理コメント
  - 処理コメントの必須入力チェック
  - 実行時に設定を許可

コラム

取止め設定は、申請ノードの取止めに関する設定です。

否認設定は、承認ノード、動的承認ノード、縦配置ノード、横配置ノードの否認に関する設定です。

各処理については「IM-Workflow プログラミングガイド」-「クライアントサイド JavaScript API」を参照してください。

コラム

取止めパラメータに設定できる項目の「処理コメント」や設定できない項目の「権限者所属組織情報」などの情報は以下を参照してください。

- 「imWorkflow.process.discontinue(Object parameter) : Promise<Object> - processParameter」

否認パラメータに設定できる項目の「処理コメント」や設定できない項目の「権限者所属組織情報」などの情報は以下を参照してください。

- 「imWorkflow.process.deny(Object parameter) : Promise<Object> - processParameter」

コラム

処理コメントの必須入力チェック

IM-BIS for Accel Platform 2026 Spring (8.0.36) から追加しました。

当該項目を有効にした場合、取止め実行時、否認実行時に処理コメントを必須項目にできます。

当該項目を無効にした場合、 IM-BIS for Accel Platform 2025 Autumn (8.0.35) 以前の動作のまま利用できます。

コラム

実行時に設定を許可

IM-BIS for Accel Platform 2026 Spring (8.0.36) から追加しました。

当該項目を有効にした場合、取止め実行時、否認実行時の確認ダイアログにて、以下の取止めパラメータ、否認パラメータが設定できます。

- 処理者
- 担当組織
- コメント

上記の機能は、以下の認可設定項目を許可する必要があります。

- リソースの種類「画面・処理」-「IM-BIS」-「BIS共通」
- リソースURI（service://bis/bis_common）

当該項目を無効にした場合、 IM-BIS for Accel Platform 2025 Autumn (8.0.35) 以前の動作のまま利用できます。

> **注意**
>
> IM-BIS for Accel Platform 2025 Autumn (8.0.35) 以前の資材、もくしは「実行時に設定を許可」プロパティの値が無効の場合、処理権限者（本人）による処理で行います。
>
> 代理による処理は行えません。

処理コメント

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

> **コラム**
>
> 画面アイテム「日付」等、データ型が日付またはタイムスタンプであるアイテムの値を参照する場合は、日付関数を利用することで任意のフォーマットに変換できます。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*
- *ワークフロー関数(申請情報)*
- *ワークフロー関数(案件情報)*

ボタン(直接差戻し)

画面アイテム「ボタン(直接差戻し)」は、処理モーダルや標準処理画面を表示せずに、ワークフローの差戻しを実行するためのアイテムです。

> **コラム**
>
> IM-BIS for Accel Platform 2025 Autumn (8.0.35) から画面アイテム「ボタン(直接差戻し)」のプロパティの「差戻し設定」に「処理コメントの必須入力チェック」項目、「実行時に設定を許可」項目を追加しました。
> 当該項目に対して未設定の場合は、 IM-BIS for Accel Platform 2025 Spring (8.0.34) 以前の動作のまま利用できます。
> 当該項目に対して設定する場合は、後述の差戻し設定をご確認ください。

> **コラム**
>
> 実行画面で画面アイテム「ボタン(直接差戻し)」をクリックすると、当該ボタンに設定したイベントなどを実行した後、確認ダイアログが表示されます。
> 必須チェックは行いません。

> **注意**
>
> 「ボタン(直接差戻し)」は申請、再申請、参照の実行画面では処理できません。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

差戻し設定

- 差戻し設定
  差戻しパラメータを設定します。
  - 処理コメント
  - 処理コメントの必須入力チェック
  - 差戻し先ノードID
  - 実行時に設定を許可

> **コラム**
>
> 差戻し設定は、承認ノード、動的承認ノード、縦配置ノード、横配置ノードの差戻しに関する設定です。
>
> 各処理については「 IM-Workflow プログラミングガイド 」-「 クライアントサイド JavaScript API 」を参照してください。

> **コラム**
>
> 差戻しパラメータに設定できる項目の「処理コメント」、「差戻し先ノードID」や設定できない項目の「権限者所属組織情報」などの情報は以下を参照してください。
>
> - 「 imWorkflow.process.sendBack(Object parameter) : Promise<Object> - processParameter 」

> **コラム**
>
> **処理コメントの必須入力チェック**
>
> IM-BIS for Accel Platform 2025 Autumn (8.0.35) から追加しました。
>
> 当該項目を有効にした場合、差戻し実行時に処理コメントを必須項目にできます。
>
> 当該項目を無効にした場合、 IM-BIS for Accel Platform 2025 Spring (8.0.34) 以前の動作のまま利用できます。

コラム

実行時に設定を許可

IM-BIS for Accel Platform 2025 Autumn (8.0.35) から追加しました。

当該項目を有効にした場合、差戻し実行時の確認ダイアログにて、以下の差戻しパラメータが設定できます。

- 処理者
- 担当組織
- コメント
- 差戻し先

上記の機能は、以下の認可設定項目を許可する必要があります。

- リソースの種類「画面・処理」-「IM-BIS」-「BIS共通」
- リソースURI（service://bis/bis_common）

当該項目を無効にした場合、 IM-BIS for Accel Platform 2025 Spring (8.0.34) 以前の動作のまま利用できます。

注意

IM-BIS for Accel Platform 2025 Spring (8.0.34) 以前の資材、もくしは「実行時に設定を許可」プロパティの値が無効の場合、処理権限者（本人）による処理で行います。

代理による処理は行えません。

処理コメント ／ 差戻し先ノードID

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

コラム

画面アイテム「日付」等、データ型が日付またはタイムスタンプであるアイテムの値を参照する場合は、日付関数を利用することで任意のフォーマットに変換できます。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*
- *ワークフロー関数(申請情報)*
- *ワークフロー関数(案件情報)*

共通マスタアイテム

ユーザ選択

画面アイテム「ユーザ選択」は、IM共通マスタのユーザを検索して入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

ユーザ検索画面 / 組織検索画面

ユーザ、組織の検索方法として利用できる画面(タブ)を選択します。
「表示タブ」に表示した画面(タブ)をアプリの実行時に利用できます。
表示するタブは上から順になりますので、右の矢印で並び順を変更することもできます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

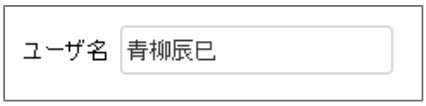
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

組織選択

画面アイテム「組織選択」は、IM共通マスタの組織を検索して入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

組織名の表示

組織名を表示するときに、階層的に表示するかどうかを設定します。
チェックがオンの場合、組織名を上位組織から階層的に表示します。
（例）サンプル会社 / サンプル部門０１ / サンプル課１１

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

ユーザ検索画面 / 組織検索画面

ユーザ、組織の検索方法として利用できる画面(タブ)を選択します。
「表示タブ」に表示した画面(タブ)をアプリの実行時に利用できます。
表示するタブは上から順になりますので、右の矢印で並び順を変更することもできます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上から

の縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

組織・役職選択

画面アイテム「組織・役職選択」は、IM共通マスタの役職を検索して入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

所属組織選択

画面アイテム「所属組織選択」は、IM共通マスタの所属組織を検索して入力するためのアイテムです。

> **コラム**
>
> 「所属組織選択」には、一時保存や再申請時には前回処理時の入力値は表示されません。
> 一時保存や再申請の画面の表示した時点のログインユーザの情報を反映する仕様により、前回処理（一時保存・申請）時からログインユーザの情報に変更があった場合には無効な情報となっている可能性もあるため、一時保存や再申請では常に初期値が表示されます。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

汎用アイテム

隠しパラメータ

画面アイテム「隠しパラメータ」は、フォーム上に表示させずに値を保持するためのアイテムです。

基本設定

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請

ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

スクリプト

画面アイテム「スクリプト」は、フォームの表示時に実行するスクリプトを記述するためのアイテムです。
スクリプトを書くためにはJavascriptの知識が必要です。jQueryを学ぶことにより、より高度な操作が簡単に行えます。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

スクリプト

コード実行タイミングは、DOMツリーが構築された直後です。
参考：$(document).ready(記述コード)

デフォルトでjQueryライブラリが読み込まれているので、自由に利用することができます。
コードの制限などはありません。
スクリプトにより各画面アイテムの操作方法が分からない場合は、フォーム実行時に生成されるHTMLをブラウザの機能で参照し判断してください。

また、クライアントサイドスクリプトAPIを利用して、画面アイテムの値操作を行うことができます。

詳細：「 IM-BIS 仕様書 」-「 クライアントサイドスクリプトAPI 」



コラム

フォーム上に配置したアイテムのスクリプトの実行順は、HTML上での配置順に基づいて決定します。
この配置順については、以下のいずれかの方法で設定されます。

- ツールキットからフォーム編集画面（フォーム・デザイナ）に配置した順序
- フォーム編集画面（フォーム・デザイナ）でのアイテムのコンテキストメニュー（右クリックで表示するメニュー）の前面や背面への移動
  (前面への移動では実行順が後、背面への移動では実行順が前になります。)

実際のアイテムの配置順については、実行時のHTMLで確認してください。



注意

スクリプト操作による動作は製品では保証できません。十分な検証を行ってください。

> **注意**
>
> 「スマートフォン版」表示を利用する場合、以下の関数を利用して、「PC版」「スマートフォン版」でスクリプトの実行をコントロールしてください。
>
> - forma.funcs.getDisplayClientType()
> 実行しているクライアントを返却します。
> - クライアントがPCの場合
>
> 「pc」と返却します。
> - クライアントがスマートフォンの場合
>
> 「sp」と返却します。

スクリプトエディタで開く

クライアントサイド JavaScriptに関する開発に特化したエディタを使用して編集できます。
「確定」を押下することで、アイテムプロパティへ値を反映します。

スクリプトエディタでは配置した画面アイテムのクライアントサイドスクリプトAPIを補完できます。
補完できるAPIについては、「 IM-BIS 仕様書 」-「 クライアントサイドスクリプトAPI 」を参照してください。

> **コラム**
>
> 補完はスクリプトエディタ表示時に配置されていた画面アイテムが対象です。
> スクリプトエディタ表示後に画面アイテムを配置した場合は、スクリプトエディタを閉じ、再度表示することで補完対象にできます。

ボタン(イベント)

画面アイテム「ボタン(イベント)」は、ボタンでスクリプトを実行するためのアイテムです。
PDF印刷等の処理を行わせることができます。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

スクリプト

ボタンをクリックした時に実行する、javascriptコードを記述します。

デフォルトでjQueryライブラリが読み込まれているので、自由に利用することができます。
コードの制限などはありません。
スクリプトにより各画面アイテムの操作方法が分からない場合は、フォーム実行時に生成されるHTMLをブラウザの機能で参照し判断してください。

また、クライアントサイドスクリプトAPIを利用して、画面アイテムの値操作を行うことができます。

詳細：「 IM-BIS 仕様書 」-「 クライアントサイドスクリプトAPI 」

> **注意**
> スクリプト操作による動作は製品では保証できません。十分な検証を行ってください。

> **注意**
> 「スマートフォン版」表示を利用する場合、以下の関数を利用して、「PC版」「スマートフォン版」でスクリプトの実行をコントロールしてください。
>
> - forma.funcs.getDisplayClientType()
> 実行しているクライアントを返却します。
> - クライアントがPCの場合
>
> 「pc」と返却します。
> - クライアントがスマートフォンの場合
>
> 「sp」と返却します。

スクリプトエディタで開く

クライアントサイド JavaScriptに関する開発に特化したエディタを使用して編集できます。
「確定」を押下することで、アイテムプロパティへ値を反映します。

スクリプトエディタでは配置した画面アイテムのクライアントサイドスクリプトAPIを補完できます。
補完できるAPIについては、「 IM-BIS 仕様書 」-「 クライアントサイドスクリプトAPI 」を参照してください。

> **コラム**
> 補完はスクリプトエディタ表示時に配置されていた画面アイテムが対象です。
> スクリプトエディタ表示後に画面アイテムを配置した場合は、スクリプトエディタを閉じ、再度表示することで補完対象にできます。

採番

画面アイテム「採番」は、登録済みの採番ルール定義を利用して自動的に番号を取得して表示するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

採番ルール定義名

- 登録済みの採番ルール定義からどの採番ルール定義を利用するかを設定します。
- 採番ルール定義をフォームで利用する場合には、あらかじめ採番ルール定義の登録を行っておく必要があります。
- 初期設定では、「システムによる自動採番」が設定されています。
  「システムによる自動採番」で採番ルール定義を設定した場合は、JS API Identifier.get()を利用してシステム上一意な値を返します。

採番方法

- 採番をどのタイミングで行うかを設定します。

- 画面アクセス毎
  画面を表示したタイミングで採番します。
  ただし、一時保存した状態で再度表示した場合には採番しません。
- 登録処理毎
  画面で登録(申請)処理を行われたタイミングで採番します。
  正常に処理が完了したタイミングで番号が確定するため、登録(申請)前には何も表示されません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

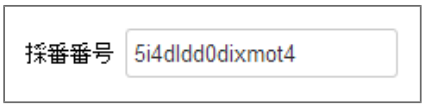
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

インラインフレーム

画面アイテム「インラインフレーム」は、フォーム上に枠を作り別のページを表示するためのアイテムです。

> **注意**
>
> インラインフレームは、IM-BIS for Accel Platform でのみ利用できます。
>
> - ご利用時の注意点
>   - 画面アイテム「インラインフレーム」を利用することで、様々なWebサイトを画面上に表示できますが、呼び出し先のWebサイトの設定を正しく設定しても、該当のサイトを表示できない場合がありますのでご了承ください。
>   - インライフレームの倍率が25%の場合、「フォーム・デザイナ」画面、実行画面で利用されているダイアログ（フォーム・デザイナ画面のツールキットやフィールド一覧など）がインラインフレームの後ろに隠れて表示されてしまう場合あります。
>   この現象は、URLに設定したWEBサイトによって発生します。
>   - 「Internet Explorer 8」では、倍率設定が正しく動作しませんので、注意してください。

基本設定

URL

インラインフレームに表示するサイトのURLを指定します。

パラメータ設定

送信方法

データの送信方法を「GET」「POST」のいずれかから選択します。

パラメータ設定

URLに設定した値（アドレス）に追加したいパラメータのキーと値の組み合わせを設定します。
「＋」「－」で追加と削除ができます。
左の行番号をドラッグすることで順番の入れ替えができます。

- パラメータキー

  パラメータキーを設定します。

- パラメータ値

  パラメータ値に設定されている状態を確認します。
  値の取得元がプロパティ設定値の場合、パラメータ値に設定した文字列がそのまま表示されます。
  データソース設定値の場合は、「データソース設定値」とだけ表示されます。

パラメータキー

編集対象のパラメータ値に対応するパラメータキーを選択します。

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

パラメータ値

パラメータに設定する値を登録します。
同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」を指定します。
任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

データソース設定

データソース定義で定義ずみのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」を指定します。
  任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。
- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

パラメータ設定値

パラメータに設定する値を登録します。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フレーム制御

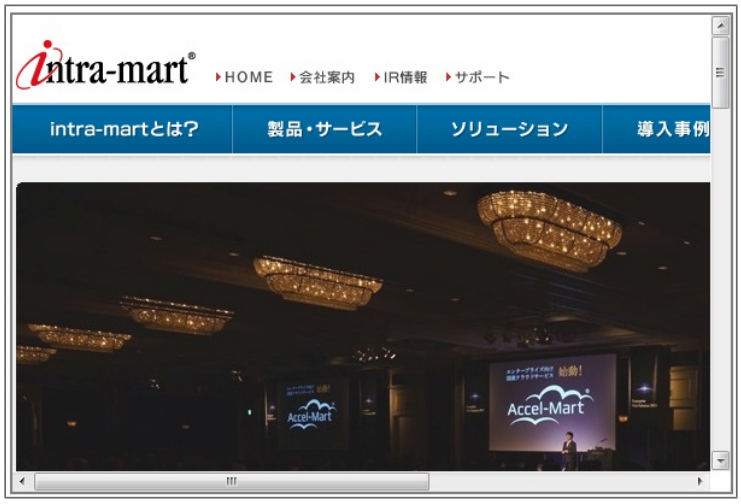
インラインフレームの動作種別を設定します。
以下の項目から設定できます。

- 「利用しない」の場合
  インラインフレームを通常表示します。

画面から直接インラインフレーム内の項目を操作できます。
最大表示はできません。
表示例）



- 「クリック／コントロールバー」の場合
  画面から直接インラインフレーム内の項目を操作できませんが、一度インラインフレーム内をクリックし、最大表示した後に操作できます。
  表示例）



- 「コントロールバー」の場合
  画面から直接インラインフレーム内の項目を操作できます。
  また、上部に表示されるバーで倍率と最大表示と縮小表示を行えます。
  表示例）



通常時の倍率

最大表示ではないときの倍率を指定します。
25%～275%の間で25%ごとに指定できます。

最大化時の倍率

コントロールバーの「クリック／コントロールバー」と「コントロールバー」を選択した場合に、最大表示のときの倍率を指定します。
25%～275%の間で25%ごとに指定できます。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単

位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

コントロールバースタイル

グラデーションパターン

コントロールバーにグラデーションを設定します。
以下の項目から選択できます。

- 利用しない
  グラデーションを利用せずに、コントロールバーを単色で表示します。
  コントロールバーの色を1色指定します。
- 縦方向
  コントロールバーの色1からコントロールバーの色2へと、上から下へ縦方向にグラデーションで表示します。
  コントロールバーの色を2色指定します。
- 横方向
  コントロールバーの色1からコントロールバーの色2へと、左から右へ横方向にグラデーションで表示します。
  コントロールバーの色を2色指定します。

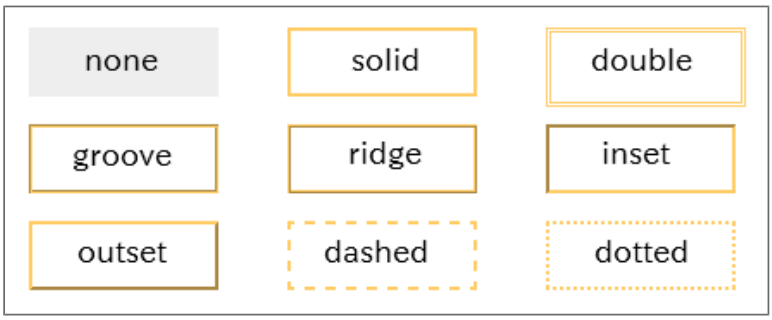
コントロールバーの色1
コントロールバーの色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
コントロールバーの色2
コントロールバーの色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

フレームスタイル

枠のスタイル

表示する画面アイテムの枠の形式を指定します。

- none：枠は表示されません。表のセルなどの枠が重なり合う場合は他の値が優先されます。
- solid：枠は1本の線で表示されます。
- double：枠は二重線で表示されます。
- groove：枠は立体的に窪んだ線で表示されます。
- ridge：枠は立体的に隆起した線で表示されます。
- inset：枠の内側が立体的に窪んだ線で表示されます。
- outset：枠の内側が立体的に隆起した線で表示されます。
- dashed：枠は破線で表示されます。
- dotted：枠は点線で表示されます。



- 枠のスタイルによる設定項目の違いについて

  枠のスタイルを特定の種類にした場合には、一部の設定項目が下記の通り変わります。
  設定した枠のスタイルの種類に合わせて、必要な項目を設定してください。

  - 正方形/長方形の場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	必須
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

  - インラインフレーム、BI表示アイテムの場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	任意
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

枠の太さ

表示する枠の太さをピクセル単位で指定します。

枠の色

枠の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

背景色
背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

BI表示アイテム

画面アイテム「BI表示アイテム」は、Jaspersoftのレポートをフォーム上に表示するためのアイテムです。

> 注意
> 「BI表示アイテム」は、Jaspersoft 機能強化モジュールが導入されている環境でのみご利用いただけます。

基本設定

カテゴリ

レポートタイプを指定します。
Jaspersoftのレポートタイプに合わせて、レポート、チャート、ダッシュボードのいずれかを設定してください。

レポートパス

右の虫眼鏡アイコンからレポートを検索し、表示するレポートのパスを設定します。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

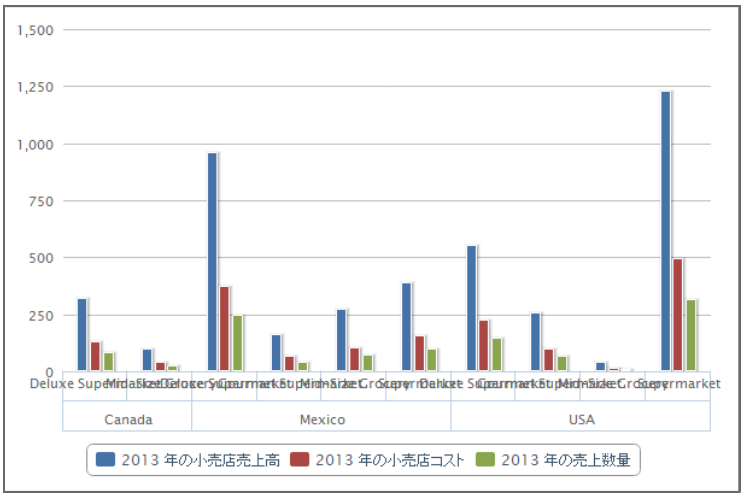
画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

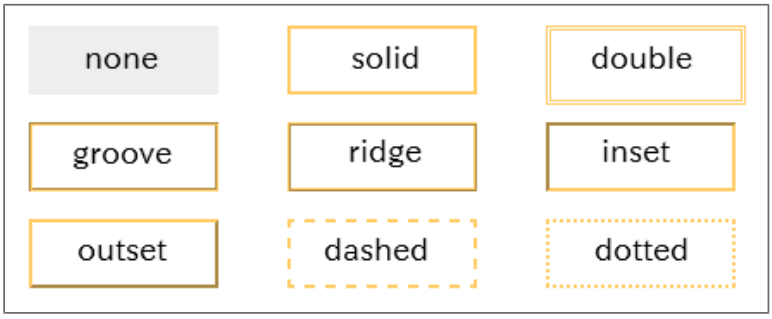
フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

枠のスタイル

表示するアイテムの枠の形式を指定します。

- none：枠は表示されません。表のセルなどの枠が重なり合う場合は他の値が優先されます。
- solid：枠は1本の線で表示されます。
- double：枠は二重線で表示されます。
- groove：枠は立体的に窪んだ線で表示されます。
- ridge：枠は立体的に隆起した線で表示されます。
- inset：枠の内側が立体的に窪んだ線で表示されます。
- outset：枠の内側が立体的に隆起した線で表示されます。
- dashed：枠は破線で表示されます。
- dotted：枠は点線で表示されます。



枠のスタイルによる設定項目の違いについて

枠のスタイルを特定の種類にした場合には、一部の設定項目が下記の通り変わります。
設定した枠のスタイルの種類に合わせて、必要な項目を設定してください。

- 正方形/長方形の場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	必須
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

- インラインフレーム、BI表示アイテムの場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	任意
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

枠の太さ

表示する枠の太さをピクセル単位で指定します。

枠の色

枠の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

背景色
背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ボタン(インポート)

画面アイテム「ボタン(インポート)」は、インポートを実行するためのアイテムです。
外部連携の設定を行うことで、インポートを実行することができます。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示

html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(エクスポート)

画面アイテム「ボタン(エクスポート)」は、エクスポートを実行するためのアイテムです。
外部連携の設定を行うことで、エクスポートを実行することができます。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

アノテーション

画面アイテム「アノテーション」は、画像に注釈を書き込んだり、注釈を含む画像ファイルとして保存することができるアイテムです。

> **コラム**
>
> 画面アイテム「アノテーション」は、IM-Annotation for Accel Platformを導入している環境であればご利用いただけます。
> IM-Annotation for Accel Platformは 2014 Winter(Iceberg) から 2017 Winter(Rebecca) まで提供しておりましたが、2018 Spring(Skylark) に機能が廃止されました。機能の廃止に伴い、画面アイテム「アノテーション」が削除されました。
> 2014 Winter(Iceberg) から 2017 Winter(Rebecca) までの環境では、現行どおり 画面アイテム「アノテーション」 を利用する事は可能です。
> 弊社テクニカルサポートセンターでの問合せ対応も引き続き可能です。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アノテーションID

アノテーションアイテムを一意に識別するためのIDとして利用します。
同一のアプリケーション内では、すべてのアノテーションアイテムのアノテーションIDが一意になるように設定してください。

権限設定

アノテーションの権限を設定します。
画像追加設定

画像の追加設定を行います。

- 画像の追加ができない：画像の取り込みができなくなります。
- 画像の追加ができる：画像の取り込みができるようになります。

ノード毎のレイヤー上限数
ノード毎に作成できるレイヤーの上限数を設定します。
Tiff出力

アノテーションアイテムで作成した画像とレイヤーをTiff形式で出力する設定をします。

- 出力しない：Tiff形式での出力はしません。
- フロー名で保存：「フロー名.tiff」のファイル名で、Tiff形式で出力します。
- 任意の名前で保存：入力して指定したファイル名でTiff形式で出力します。

Tiff圧縮形式

Tiff出力を行う場合、その画像の圧縮形式を設定します。

- 圧縮しない：Tiff画像を無圧縮で出力します。
- Zlib形式：Tiff画像をZIP圧縮で出力します。
- JPEG形式：Tiff画像をJPEG圧縮で出力します。

履歴出力

ノード毎の履歴画像の出力有無を設定します。
「出力する」を設定した場合、storageに各ノード処理時点での画像が保存できます。

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

Canvasプロパティ

Canvasのサイズを設定します。
画像幅
画像を表示する領域の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
画像高さ
画像を表示する領域の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

コントロールバースタイル

グラデーションパターン

コントロールバーにグラデーションを設定します。
以下の項目から選択できます。

- 利用しない
  グラデーションを利用せずに、コントロールバーを単色で表示します。
  コントロールバーの色を1色指定します。
- 縦方向
  コントロールバーの色1からコントロールバーの色2へと、上から下へ縦方向にグラデーションで表示します。
  コントロールバーの色を2色指定します。
- 横方向
  コントロールバーの色1からコントロールバーの色2へと、左から右へ横方向にグラデーションで表示します。
  コントロールバーの色を2色指定します。

コントロールバーの色1
コントロールバーの色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
コントロールバーの色2
コントロールバーの色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

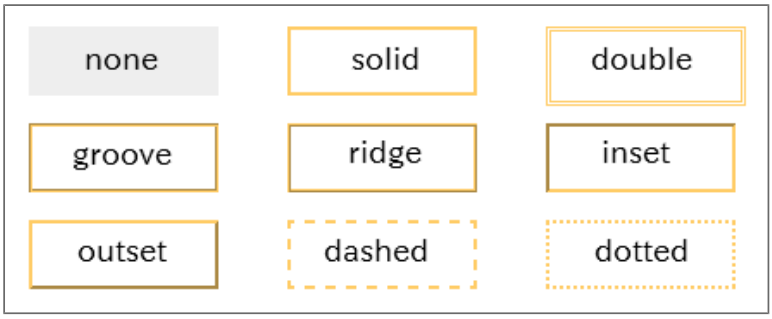
Canvasスタイル

枠のスタイル

表示するアイテムの枠の形式を指定します。

- none：枠は表示されません。表のセルなどの枠が重なり合う場合は他の値が優先されます。
- solid：枠は1本の線で表示されます。
- double：枠は二重線で表示されます。
- groove：枠は立体的に窪んだ線で表示されます。
- ridge：枠は立体的に隆起した線で表示されます。

- inset：枠の内側が立体的に窪んだ線で表示されます。
- outset：枠の内側が立体的に隆起した線で表示されます。
- dashed：枠は破線で表示されます。
- dotted：枠は点線で表示されます。



枠のスタイルによる設定項目の違いについて

枠のスタイルを特定の種類にした場合には、一部の設定項目が下記の通り変わります。
設定した枠のスタイルの種類に合わせて、必要な項目を設定してください。

- アノテーションの場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	必須
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

枠の太さ

表示する枠の太さをピクセル単位で指定します。

枠の色

枠の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

背景色
背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

> **コラム**
>
> 画面アイテム「アノテーション」は、IM-Annotation for Accel Platformを導入している環境であればご利用いただけます。
> IM-Annotation for Accel Platformは 2014 Winter(Iceberg) から 2017 Winter(Rebecca) まで提供しておりましたが、2018 Spring(Skylark) に機能が廃止されました。機能の廃止に伴い、画面アイテム「アノテーション」が削除されました。
> 2014 Winter(Iceberg) から 2017 Winter(Rebecca) までの環境では、現行どおり 画面アイテム「アノテーション」 を利用する事は可能です。
> 弊社テクニカルサポートセンターでの問合せ対応も引き続き可能です。

表示アイテム

見出し

画面アイテム「見出し」は、フォーム上に見出しを表示するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

見出しのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称を、見出し上に表示します。

見出しレベル

見出しの大きさを1～5の間で選択します。
数が小さいほど、表示が小さくなります。
「1」に設定した場合が、大きさは最大となり、「5」に設定した場合が、大きさは最小となります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

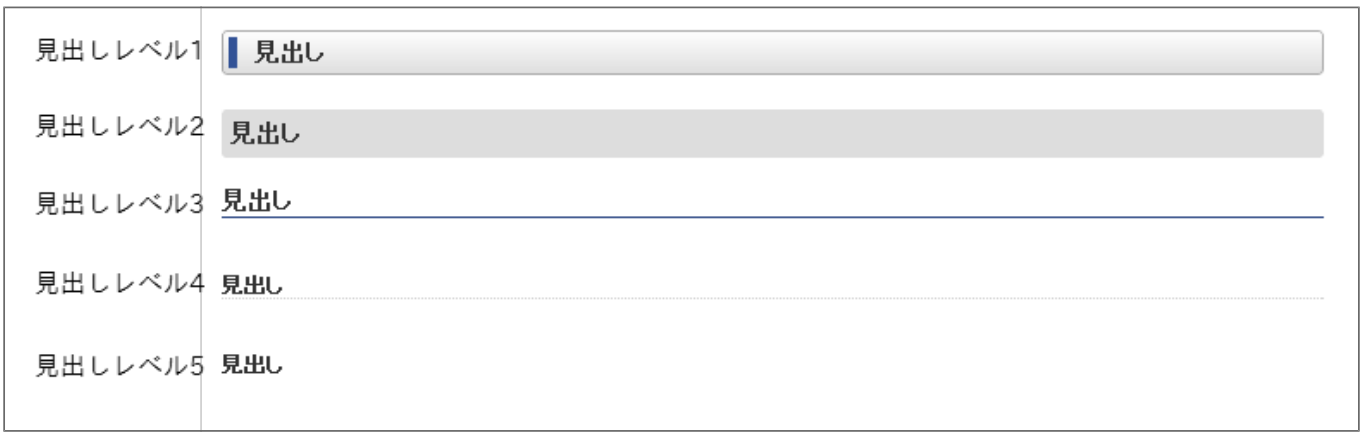
画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

横線

画面アイテム「横線」は、フォーム上に横線を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上から

の横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

太さ

表示する線の太さをピクセル単位で指定します。

色

線の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

縦線

画面アイテム「縦線」は、フォーム上に縦線を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

太さ

表示する線の太さをピクセル単位で指定します。

色

線の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

正方形/長方形

画面アイテム「正方形/長方形」は、フォーム上に正方形や長方形を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

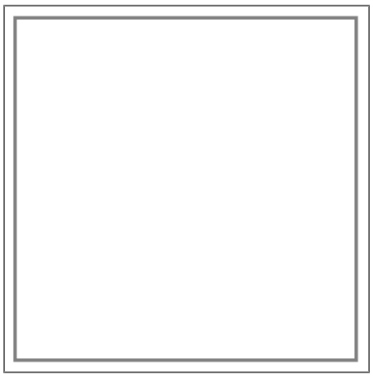
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

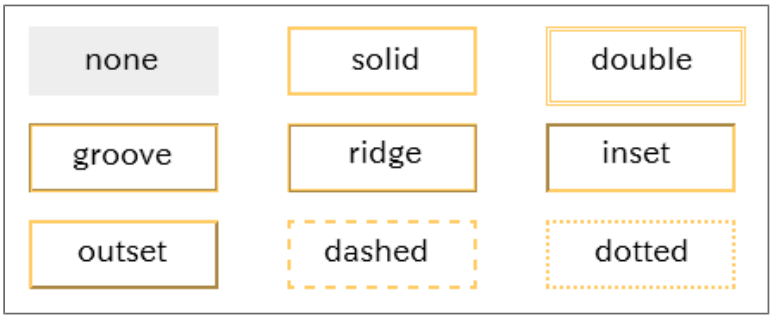
表示スタイル

枠のスタイル

表示するアイテムの枠の形式を指定します。

- none：枠は表示されません。表のセルなどの枠が重なり合う場合は他の値が優先されます。
- solid：枠は1本の線で表示されます。
- double：枠は二重線で表示されます。
- groove：枠は立体的に窪んだ線で表示されます。
- ridge：枠は立体的に隆起した線で表示されます。
- inset：枠の内側が立体的に窪んだ線で表示されます。
- outset：枠の内側が立体的に隆起した線で表示されます。
- dashed：枠は破線で表示されます。

- dotted：枠は点線で表示されます。



枠のスタイルによる設定項目の違いについて

枠のスタイルを特定の種類にした場合には、一部の設定項目が下記の通り変わります。
設定した枠のスタイルの種類に合わせて、必要な項目を設定してください。

- 正方形/長方形の場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	必須
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

- インラインフレーム、BI表示アイテムの場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	任意
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

枠の太さ

表示する枠の太さをピクセル単位で指定します。

枠の色

枠の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

背景色
背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

イメージ

画面アイテム「イメージ」は、フォーム上に任意の画像を表示するためのアイテムです。

基本設定

イメージ選択

配置した場所に表示する画像ファイルを指定します。
指定できる画像ファイルは、「フォーム・デザイナ」画面上の「画像アップロード」で事前にアップロード済みの画像ファイルに限られます。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ラベル

画面アイテム「ラベル」は、フォーム上にラベル(太字や文字色などの装飾を行った文字)を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

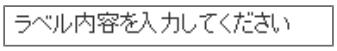
画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

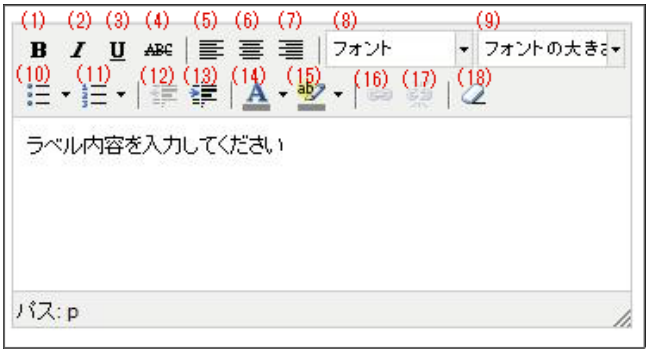
フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ラベル編集

ラベル内容

ラベルに表示する文字、文字の書式を設定します。

ラベルの内容の編集時に利用できるツールバーと各部の説明



1. 太字

   太字にしたい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、太字で表示します。

2. 斜体(イタリック体)

   斜体にしたい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、斜体で表示します。

3. 下線

   下線を付加したい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、下線を表示します。

4. 取り消し線

   取り消し線を付加したい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、取り消し線を表示します。

5. 左揃え

   文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を左揃えで表示します。

6. 中央揃え(センタリング)

   文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を中央揃えで表示します。

7. 右揃え

   文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を右揃えで表示します。

8. 文字の種類

   文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字のフォントの種類を変更します。
   選択できるフォントは、操作しているパソコンにインストール済みの英字フォントに限られます。

9. 文字サイズ

   文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字のサイズを変更します。

10. 番号なしリスト

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を番号なしリストの形式に変更します。

11. 番号つきリスト

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を番号つきリストの形式に変更します。

12. 字下げを減らす

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字の字下げのレベルを下げます。

13. 字下げを増やす

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字の字下げのレベルを上げます。

14. 文字の色

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字の色を変更します。

15. 背景の色

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を蛍光ペンでマーキングしたように表示します。

16. リンクの挿入や編集

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックし、URLを設定すると、ハイパーリンクとして表示します。

17. リンクを解除

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、ハイパーリンクを解除します。

18. 書式の削除

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、設定済みの書式設定を削除します。

ラベルのエディタの「文字の種類」の選択状態について

- ラベルの内容の設定で、「文字の種類」の変更後にプロパティ画面を一度閉じてから再表示した際の「文字の種類」の選択状態は、ご利用のブラウザによって選択されたフォント名が表示される場合と初期値(“フォント”)が表示される場合があります。
  こちらは、ラベルの内容を編集するエディタとしている「TinyMCE」というオープンソースのツールの仕様によるものとなりますので、ご了承ください。

ワークフローアイテム

案件情報表示

画面アイテム「案件情報表示」は、フォーム上にワークフローの案件情報を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

表示項目

ワークフローに関する情報のうち、表示する項目を指定します。
表示する項目を「表示項目」、非表示とする項目は「非表示項目」に設定することで、必要な情報のみをフォーム上に表示できます。
「表示項目」右のアイコンで並び順を変えると、表示する項目の順番を変更することができます。

画面の種類（行項目）

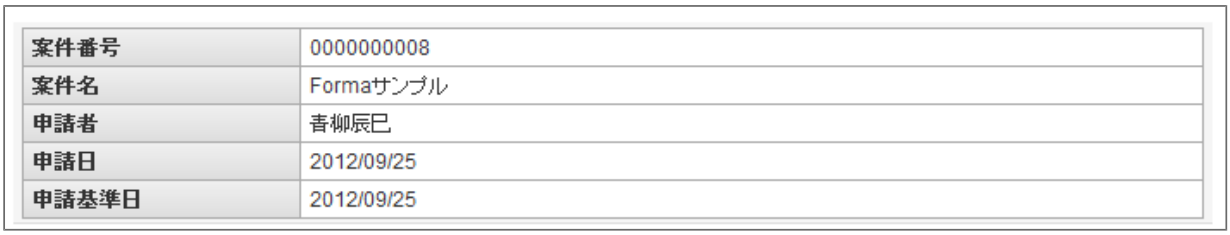
1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



案件番号	0000000008
案件名	Formaサンプル
申請者	青柳辰巳
申請日	2012/09/25
申請基準日	2012/09/25

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

添付ファイル表示

画面アイテム「添付ファイル表示」は、フォーム上にワークフローで添付したファイルを表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

フロー画像表示

画面アイテム「フロー画像表示」は、フォーム上にワークフローのフロー画像を表示するためのアイテムです。

詳細設定

フローの表示方法

フロー画像の表示方法を選択します。

フレーム表示

フロー画像をフレーム形式で表示します。
プロパティのアイテムサイズ内で表示できない場合には、スクロールバーを表示します。

画像表示

フロー画像を画像形式で表示します。
プロパティのアイテムサイズ内で表示できない場合には、範囲に入りきらない部分は切り捨てて表示します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請

ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

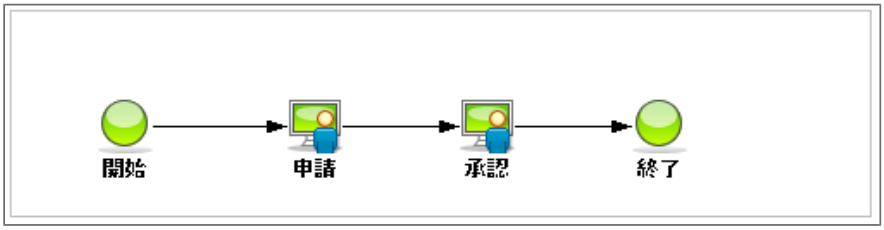
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

処理履歴表示

画面アイテム「処理履歴表示」は、フォーム上にワークフローの処理履歴を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

表示項目

ワークフローに関する情報のうち、表示する項目を指定します。
表示する項目を「表示項目」、非表示とする項目は「非表示項目」に設定することで、必要な情報のみをフォーム上に表示できます。
「表示項目」右のアイコンで並び順を変えると、表示する項目の順番を変更することができます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示

処理履歴						
処理日時	ノード名	処理	処理者	代理先	担当組織	コメント
2012/09/25 18:47	申請	申請	吉柳辰巳		サンプル課11	よろしくお願いします。

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

確認履歴表示

画面アイテム「確認履歴表示」は、フォーム上にワークフローの確認履歴を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

表示項目

ワークフローに関する情報のうち、表示する項目を指定します。
表示する項目を「表示項目」、非表示とする項目は「非表示項目」に設定することで、必要な情報のみをフォーム上に表示

できます。
「表示項目」右のアイコンで並び順を変えると、表示する項目の順番を変更することができます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

印影表示

画面アイテム「印影表示」は、フォーム上にワークフローの印影を表示するためのアイテムです。

詳細設定

最大表示列数

表示する印影の欄の列数を設定します。

並び順

印影の欄の表示する順番を設定します。
「ノード順」の場合は、フローの順番に左から表示します。
「ノード逆順」の場合は、フローの順番に右から表示します。

ノード名表示

印影欄の上に、ワークフローで設定しているノードの名称を表示するかを設定します。
非表示にした場合は、印影欄のみを表示します。

印影欄表示

印影欄の表示方法を設定します。
「全ての印影欄表示」の場合は、印影の押印の有無に関わらず、常にすべての印影欄を表示します。
「押印された印影欄のみ表示」の場合は、押印されている印影欄のみを表示します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

互換用アイテム

より高度な連携機能を使用できる新しいアイテムに置き換えられた、従来のアイテムを互換用アイテムとしています。

一覧選択

画面アイテム「一覧選択」は、データベースから入力値を検索して入力するためのアイテムです。
外部連携の設定を行うことで、一覧選択を実行することができます。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット

コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。

注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。

注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
アカウント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123 456 789,123
テナント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123.456.789,123
システム設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ▪ 123456789.123 ▪ 123‘456‘789.123



コラム

クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)

ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

外部連携

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
  - 別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 簡易検索機能
  - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で簡易検索機能を利用できるようにします。
- 詳細検索機能
  - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で詳細検索機能を利用できるようにします。
- 検索結果表示（初期表示時）
  - チェックがオンの場合、初期表示時に検索結果を表示します。
    対象データ件数が多いときの初期表示時のパフォーマンスを考慮し、初期表示時に検索結果を表示させたくない場合に設定します。
- 項目幅の自動調整
  - チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
    チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。
    表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。
- 初期表示のソート順
  - 初期表示時の検索結果表のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を指定します。
- 非表示項目、一覧表示項目
  - クエリの取得値の設定項目のうち、一覧に表示する項目を「一覧表示項目」の枠に、一覧に表示しない項目を「非表示項目」に設定します。



コラム

一覧選択画面での簡易検索機能は、出力値に設定されているすべての「文字列型」の列に対して部分一致で行います。
一覧選択画面での詳細検索機能は、列毎に詳細な検索をすることができます。



注意

IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整と初期表示のソート順の設定を追加しました。

- IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
  「 画面設計書出力 」での出力値は空白で出力されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」

（※）を指定します。
任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータのどの取得項目を画面アイテムに表示するかを設定します。

1. ラジオボタン
   「一覧選択」の入力欄に表示する値を設定します。
   取得項目が1つの場合は、変更できません。

2. 取得値を表示する画面アイテム
   フォーム上の他の画面アイテムに取得するデータを表示する場合に、セレクトボックスからフィールド識別名で設定します。
   - 取得値に設定できるアイテム
     - 文字列（product_72_textbox）
     - 複数行文字列（product_72_textarea）
     - 数値（product_72_number）
     - 日付（product_72_date）
     - 期間（product_72_term）
     - 一覧選択（互換用）（product_72_itemSelect）
     - 隠しパラメータ（product_72_hidden）

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

明細テーブル

画面アイテム「明細テーブル」は、アプリの実行時に自由に行を追加して表形式で入力するためのアイテムです。

項目

- 基本設定
- 詳細設定
- 表示スタイル
- 列プロパティ概要
- 列プロパティ(文字列)
- 列プロパティ(数値)
- 列プロパティ(日付)
- 列プロパティ(関数)
- 列プロパティ(隠しパラメータ)
- 列プロパティ(一覧選択)
- 列プロパティ(ラジオボタン)
- 列プロパティ(セレクトボックス)
- 明細テーブルの行のコピー、挿入、削除方法

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、アイテムの上に表示します。

行の定義

テーブルに追加できる行について設定します。

行追加可能

チェックをオンにした場合、アプリケーションの実行時に行を追加することができます。

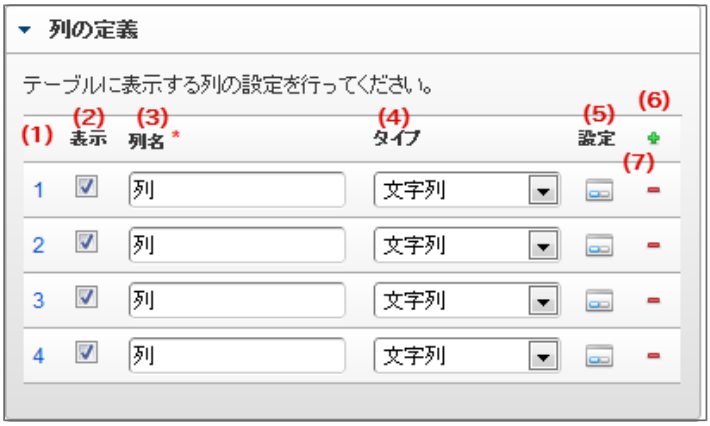
行数

「行追加可能」のチェックがオフの場合、テーブルに表示する行数を設定できます。

最大行数

「行追加可能」のチェックがオンの場合、テーブルに追加できる行の最大値を設定できます。
入力した行数まで追加できるようになるため、1以上の値を設定してください。

列の定義



明細テーブルの列を設定します。

1. 列番号

   列の表示順を設定します。
   列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

2. 表示

   列の表示/非表示を設定します。
   チェックがオフの場合、列は画面に表示されませんが、値の設定・取得等に利用することができます。
   タイプが「隠しパラメータ」の場合、必ずチェックがオフ(非表示)になります。

3. 列名

   列の名称を設定します。
   明細テーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

4. タイプ

   列のデータ型を設定します。
   関数や一覧選択等の他の画面アイテムを参照できるタイプの場合には、「関数」「一覧選択」で利用する場合と同様に、対象のフィールド識別IDを利用することで指定できます。

5. 設定

   クリックすると、列の詳細設定(入力フィールド、入力チェック等)画面に遷移します。

6. 追加

   クリックすると、明細テーブルの列を追加します。

7. 削除

   クリックすると、明細テーブルの列を削除します。



コラム

- 明細テーブルの表示について
  明細テーブルのテーブル、列の表示・非表示、表示タイプについては、以下の通りの動作となります。
  明細テーブルの「列の定義」での列の表示・非表示は、テーブルの表示タイプが表示であれば、列の定義を非表示にした場合も値を保持することができます。
  表示タイプは、列の表示タイプが設定されている場合には、テーブルの表示タイプより列の表示タイプの設定が優先されます。
  テーブルの表示タイプを非表示とした場合には、列の表示タイプを設定することはできません。
  テーブル・列の表示タイプの設定で非表示とした場合には、データは保持されません。

詳細設定

テーブル識別ID

明細テーブル、グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブルの物理名として利用します。
フォーム間でテーブル同士の値の引継ぎをする場合は、テーブル識別IDを同じにする必要があります。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

列番号表示(参照時)

明細テーブルのテーブルに対する表示タイプが「参照」となっている場合に、左の列番号の表示を設定します。
チェックがオンになっている場合、入力時と同様の列番号を表示します。

- 列番号表示が有効の場合

明細テーブル

	列	列	列	列
1	ABC	DEF	GHI	JKL
2	MNO	PQR	STU	VWX

- 列番号表示が無効の場合

明細テーブル

列	列	列	列
ABC	DEF	GHI	JKL
MNO	PQR	STU	VWX

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

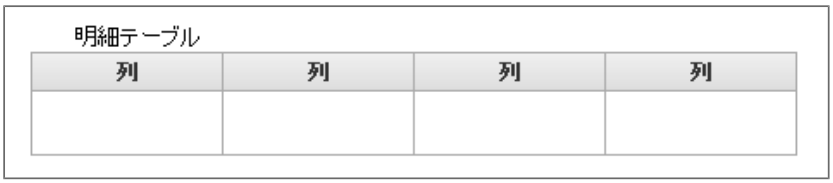
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

列のサイズ・配置

列のサイズ
列の入力欄の標示の幅をピクセル単位で指定します。
横位置揃え
列の値の横位置を左寄せ、中央寄せ、右寄せのいずれかに設定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

列プロパティ概要

列プロパティは、「基本設定」 -> 「列の定義」 -> 「設定」をクリックして設定することができます。
明細テーブルの列プロパティには、以下のタイプがあります。
それぞれのタイプで、列プロパティの設定内容が異なります。

タイプ	説明
文字列	文字や数値などで短い文章を入力するときに使用するタイプです。
数値	金額や個数などの数値を入力するときに使用するタイプです。
日付	日付を入力するときに使用するタイプです。
関数	日付や数値の計算や、関数を使用して処理するときに使用するタイプです。
隠しパラメータ	フォーム上に表示させずに、値を保持するときに使用するタイプです。
一覧選択	外部連携を使用し、入力値を一覧から選択して入力するときに使用するタイプです。
ラジオボタン	複数項目から入力値をボタンで、１つ選択するときに使用するタイプです。
セレクトボックス	複数項目から入力値をプルダウンで、１つ選択するときに使用するタイプです。

列プロパティ(文字列)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「文字列」の場合には、以下の項目を設定します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(数値)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「数値」の場合には、以下の項目を設定します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
アカウント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123 456 789,123
テナント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123.456.789,123
システム設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ・123456789.123 ・123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(日付)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「日付」の場合には、以下の項目を設定します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(関数)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「関数」の場合には、以下の項目を設定します。

式

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*

- *ワークフロー関数(申請情報)*
- *ワークフロー関数(案件情報)*

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット
- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。

注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
アカウント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123 456 789,123
テナント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123.456.789,123
システム設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ・123456789.123 ・123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。

「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(隠しパラメータ)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「隠しパラメータ」の場合には、以下の項目を設定します。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

列プロパティ(一覧選択)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「一覧選択」の場合には、データソース設定のリンクからデータソースに関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
  - 別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 簡易検索機能
  - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で簡易検索機能を利用できるようにします。
- 詳細検索機能
  - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で詳細検索機能を利用できるようにします。
- 検索結果表示（初期表示時）
  - チェックがオンの場合、初期表示時に検索結果を表示します。
    対象データ件数が多いときの初期表示時のパフォーマンスを考慮し、初期表示時に検索結果を表示させたくない

場合に設定します。

- 項目幅の自動調整
  - チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
    チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。
    表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。
- 初期表示のソート順
  - 初期表示時の検索結果表のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を指定します。
- 非表示項目、一覧表示項目
  - クエリの取得値の設定項目のうち、一覧に表示する項目を「一覧表示項目」の枠に、一覧に表示しない項目を「非表示項目」に設定します。



コラム

一覧選択画面での簡易検索機能は、出力値に設定されているすべての「文字列型」の列に対して部分一致で行います。
一覧選択画面での詳細検索機能は、列毎に詳細な検索をすることができます。



注意

IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整と初期表示のソート順の設定を追加しました。

- IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
  「 画面設計書出力 」での出力値は空白で出力されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。
  任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

  ※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。
- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータのどの取得項目を画面アイテムに表示するかを設定します。

1. ラジオボタン
   「一覧選択」の入力欄に表示する値を設定します。
   取得項目が1つの場合は、変更できません。

2. 取得値を表示する画面アイテム

フォーム上の他の画面アイテムに取得するデータを表示する場合に、セレクトボックスからフィールド識別名で設定します。

- 取得値に設定できるアイテム
  - 文字列（product_72_textbox）
  - 複数行文字列（product_72_textarea）
  - 数値（product_72_number）
  - 日付（product_72_date）
  - 期間（product_72_term）
  - 一覧選択（互換用）（product_72_itemSelect）
  - 隠しパラメータ（product_72_hidden）

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(ラジオボタン)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「ラジオボタン」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。
  任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

  ※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。
- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値

画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(セレクトボックス)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「セレクトボックス」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。

任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値
   画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

明細テーブルの行のコピー、挿入、削除方法

行のコピー、挿入、削除方法について説明します。

行のコピー

行のコピーを行います。

1. コピー対象の番号を右クリックします。



2. 「コピー」をクリックします。



3. 挿入対象の番号で右クリックし、「コピーした行の挿入」をクリックします。



4. コピーした行が挿入されます。



行の挿入

行の挿入を行います。

1. 「＋」アイコンまたは、挿入対象の番号で右クリックし、「挿入」をクリックします。



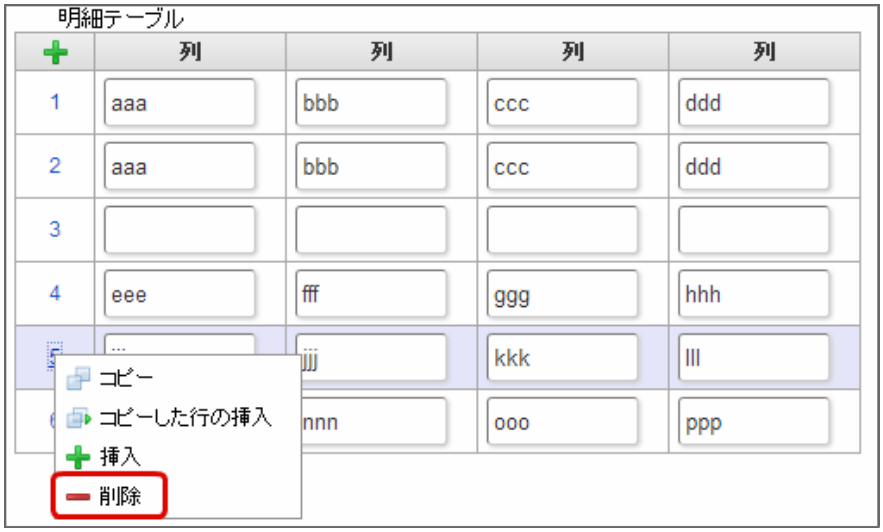
2. 行が挿入されます。



行の削除

行の削除を行います。

1. 削除対象の番号で右クリックし、「削除」をクリックします。



2. 行が削除されます。



コラム

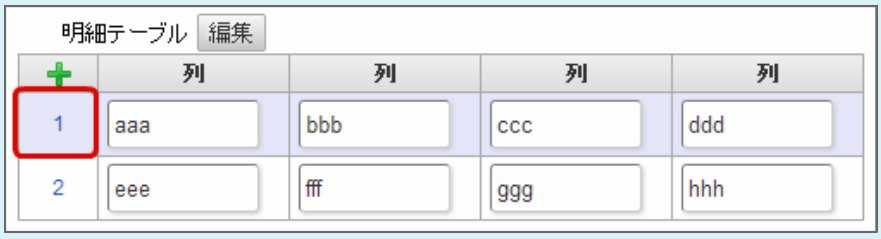
- スマートフォンの場合

  スマートフォンでは、以下の処理を行うことができます。

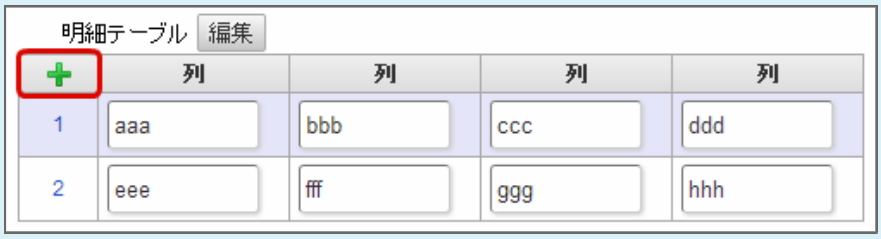
  - 行のコピー
  - 行の削除

  行のコピーを行います。

  1. 番号をクリックし、コピー対象を選択します。



  2. 「＋」をクリックします。



  3. コピーした行が挿入されます。



行の削除を行います。

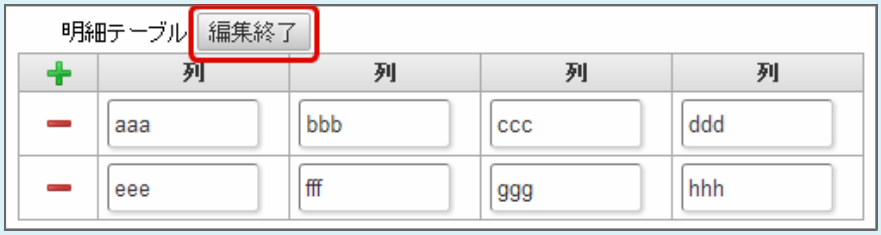
1. 「編集」ボタンをクリックします。



2. 「ー」をクリックします。



3. 「編集終了」ボタンをクリックします。



4. 対象行が削除されます。



チェックボックス

画面アイテム「チェックボックス」は、複数項目から入力値を選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。

同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。
任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値
   画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

項目幅

各選択肢の表示値の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

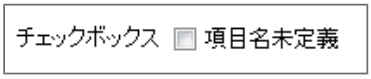
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

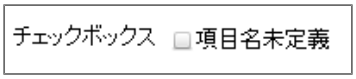
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ラジオボタン

画面アイテム「ラジオボタン」は、複数項目から入力値を 1 つ選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。

任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値
   画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

項目幅

各選択肢の表示値の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

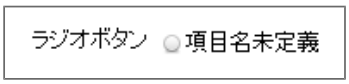
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

セレクトボックス

画面アイテム「セレクトボックス」は、複数項目から入力値を 1 つ選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。
  任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

  ※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。
- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値
   画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

リストボックス

画面アイテム「リストボックス」は、複数項目から入力値を選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、－によって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。
  任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

  ※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。
- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値
   画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

行数

画面に表示する選択肢の個数を指定します。
選択肢の個数が行数に設定した値より多い場合は、スクロールバーを利用して選択します。

参照時セパレータ

表示タイプ「参照」で、選択済みの複数の値を表示する際の区切り文字を設定します。
参照時セパレータの値に関係なく、データベース上では、複数の値が選択済みの場合には「,」を区切り文字として使用します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認

ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

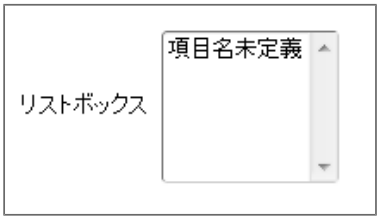
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



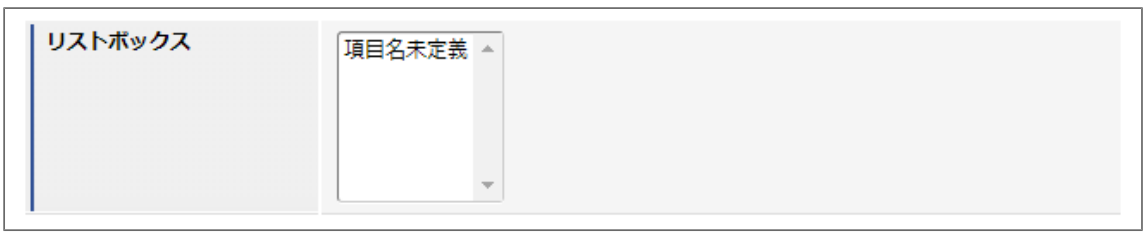
アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ボタン(登録)

画面アイテム「ボタン(登録)」は、入力したデータの登録処理(ワークフローの申請・再申請・承認等)を実行するためのアイテムです。

基本設定

ラベル（申請・再申請・承認・参照）

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称を、ボタン上に表示します。

「ボタン（登録）」では、表示タイプに合わせて表示する名称を設定できます。

- 申請：申請画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「申請」です。
- 再申請：再申請画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「再申請」です。
- 承認：承認画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「承認」です。
- 参照：参照画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「更新」です。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(一時保存)

画面アイテム「ボタン(一時保存)」は、一時保存を実行するためのアイテムです。
入力したデータを申請処理をせずに、保存することができます。
一時保存を行ったデータは、ワークフローの「一時保存一覧」、または「未処理一覧」から呼び出して、編集・登録することができます。
詳細は「 IM-FormaDesigner 仕様書 」-「 IM-FormaDesigner における一時保存の仕様 」を参照してください。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

- 「する」をオン
  登録または申請時と同様の入力チェックが行われます。
- 「しない」をオン
  以下の最小限の入力チェックのみ行われます。
  - 最大文字数
  - 数値のみ
  - 数値桁数
  - 小数部桁数
  - 日付形式

コラム

以下の入力チェックは行われません。

- 必須チェック
- 必須選択チェック
- 最小文字数
- 英数字のみ
- 負数
- 添付ファイルの個数　最少
- 添付ファイルの個数　最大
- 正規表現

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

コラム

再申請や承認時に、一時保存を実行できるようにするには、表示タイプ：再申請・承認に対して、入力タイプ：入力に設定してください。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。



コラム

画面アイテムの仕様についての補足は「 *アイテム仕様の補足* 」を参照してください。

アプリケーション種別「BIS-BISフロー」で利用できる画面アイテム

入力アイテム

文字列

画面アイテム「文字列」は、文字や数値などを入力するためのアイテムです。
改行を含む長い文章は入力できません。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

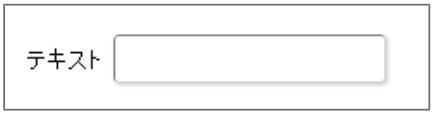
画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

複数行文字列

画面アイテム「複数行文字列」は、改行を伴う文字や数値などを入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

フィールド高

入力欄の表示の高さをピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示

入力・表示ともできません。
設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

数値

画面アイテム「数値」は、金額や個数などの数値を入力するためのアイテムです。
前にゼロを付加する”000123”のようなコード項目には利用できません。

基本設定

[前]ラベル / [後]ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
[前]ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。
[後]ラベルに設定した名称を、入力欄の右に表示します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット

> **コラム**
>
> IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。
>
> - 数値表示のフォーマット処理を改善します。
>   https://issue.intra-mart.jp/issues/27791
>
> これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。
>
> > **注意**
> >
> > 設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
> > 使用の際は十分な検証を行ってください。
> >
> > - アカウント設定
> > - テナント設定
> > - システム設定
> >
> > 詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
アカウント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123 456 789,123
テナント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123.456.789,123
システム設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ・123456789.123 ・123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

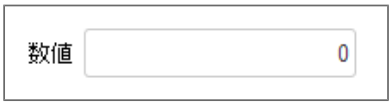
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



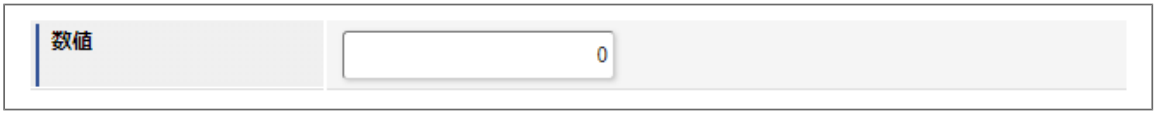
アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

関数

画面アイテム「関数」は日付や数値の計算や関数を利用して処理するためのアイテムです。
“＋”や”ー”などの演算子や、IM-FormaDesigner for Accel Platformで用意している各種関数を利用することができます。

基本設定

[前]ラベル / [後]ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
[前]ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。
[後]ラベルに設定した名称を、入力欄の右に表示します。

式

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*
- *ワークフロー関数(申請情報)*
- *ワークフロー関数(案件情報)*

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがなど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ▪ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	▪ 123456789.123 ▪ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ▪ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	▪ 123456789.123 ▪ 123,456,789.123
アカウント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123 456 789,123
テナント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123.456.789,123
システム設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ▪ 123456789.123 ▪ 123‘456‘789.123



コラム

クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

日付

画面アイテム「日付」は、１つの日付を入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

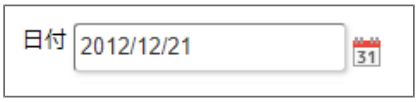
画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

期間

画面アイテム「期間」は、開始日・終了日等の一定期間を表す日付を入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

各設定項目の[始]は、期間の開始日、[終]は、期間の終了日に対応します。

詳細設定

各設定項目の[始]は、期間の開始日、[終]は、期間の終了日に対応します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

セパレータ

２つの日付の入力欄の間に表示する期間の範囲を表す文字を設定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。

2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

各設定項目の[始]は、期間の開始日、[終]は、期間の終了日に対応します。

セパレータスタイル

セパレータの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

一覧選択

画面アイテム「一覧選択」は、データベースから入力値を絞込みして入力するためのアイテムです。
外部連携の設定を行うことで、一覧選択を実行することができます。

> **注意**
>
> 外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、以下の点に注意してください。
>
> - 一覧選択の虫眼鏡アイコンを、クリックした後に表示される一覧選択画面には、改ページ機能がありません。
>   そのため、取得したデータが最大表示行数を超える場合には、最大表示行数までで打ち切られて表示されます。
>   また、一覧選択画面の絞り込み機能を用いても、打ち切られたデータを表示させることはできませんので
>   一覧選択画面を表示する際の外部連携の条件、または最大表示行数の設定を見直してください。
> - クエリを使用して大量データを処理する場合は、改ページ機能を使用できる互換用アイテムが便利です。
>   「一覧選択」（互換用アイテム）をご利用ください。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

外部連携

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
  別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 最大表示行数
  一覧画面上に表示できる最大行数を設定します。
  外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」の場合、改ページ機能があるため、最大表示行数の設定は無効となります。
- マルチセレクト
  チェックがオンの場合、一覧画面上で複数行を選択できます。
  複数の行を選択した場合でも、画面アイテム「一覧選択」のフィールドには最初の1件しか反映されませんので注意してください。

- 項目幅の自動調整
  チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
  チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。
  表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。
- 列番号
  列の表示順を設定します。
  列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。
- 表示
  一覧画面に表示するかどうかを設定します。
  チェックがオンの場合に一覧画面に表示します。
- 列名
  一覧画面に表示する列名を設定します。
- 列ID
  一覧画面に表示する列を一意に識別するためのIDです。
  データマッパー上では、「{列名}｜{列ID}」の形式で表示されます。
- タイプ
  列のデータ型を設定します。
- ソート
  初期表示時の一覧画面のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を設定します。
  いずれかの列について、昇順/降順を指定することで、初期表示のソート対象項目に設定できます。
  すべての列でソートを空白指定した場合、一番上の列の昇順でソートされます。



コラム
一覧選択画面での検索は、表示列に設定されている全ての「文字列型」の列に対して部分一致で行います。



注意

IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整とソートの設定を追加しました。

- IM-FormaDesigner 2022Spring 以前に作成した定義を利用する場合、かつ、外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、項目幅の自動調整と初期表示時のソート順の設定について、一覧選択画面の表示とプロパティの設定で差異が生じます。
  そのため、一度プロパティの設定を変更してからフォームの更新を行ってください。
- IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
  「 画面設計書出力 」での出力値は空白で出力されます。

取得値設定

外部連携で取得した値の反映先のマッピングを行います。

- マッピング情報
  虫眼鏡アイコンをクリックするとデータマッパーが表示されますので、データマッパー上で対応する画面アイテムのマッピングを設定します。
  - 取得値に設定できるアイテム
    - 文字列（product_72_textbox）
    - 複数行文字列（product_72_textarea）
    - 数値（product_72_number）
    - 日付（product_72_date）
    - 期間（product_72_term）
    - 一覧選択（互換用）（product_72_itemSelect）
    - チェックボックス（product_80_checkbox）
    - ラジオボタン（product_80_radio）

- セレクトボックス（product_80_selectbox）
- リストボックス（product_80_listbox）
- 一覧選択（product_80_itemSelect）
- 隠しパラメータ（product_72_hidden）

> **コラム**
>
> データソースを使用する連携の設定の方法は、「 IM-BIS 業務管理者操作ガイド 」を参照してください。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 -「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット

コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。

注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。

注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
アカウント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123 456 789,123
テナント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123.456.789,123
システム設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ▪ 123456789.123 ▪ 123‘456‘789.123



コラム

クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

明細テーブル

画面アイテム「明細テーブル」は、アプリの実行時に自由に行を追加して表形式で入力するためのアイテムです。

注意

タイプ「一覧選択」の外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、以下の点に注意してください。

- 一覧選択の虫眼鏡アイコンを、クリックした後に表示される一覧選択画面には、改ページ機能がありません。
  そのため、取得したデータが最大表示行数を超える場合には、最大表示行数までで打ち切られて表示されます。
  また、一覧選択画面の絞り込み機能を用いても、打ち切られたデータを表示させることはできませんので
  一覧選択画面を表示する際の外部連携の条件、または最大表示行数の設定を見直してください。
- クエリを使用して大量データを処理する場合は、改ページ機能を使用できる互換用アイテムが便利です。
  「明細テーブル」（互換用アイテム）をご利用ください。

項目

- 基本設定
- 詳細設定
- 表示スタイル
- 列プロパティ概要
- 列プロパティ(文字列)
- 列プロパティ(数値)
- 列プロパティ(日付)
- 列プロパティ(関数)
- 列プロパティ(隠しパラメータ)
- 列プロパティ(一覧選択)
- 列プロパティ(ラジオボタン)
- 列プロパティ(セレクトボックス)
- 明細テーブルの行のコピー、挿入、削除方法

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、アイテムの上に表示します。

行の定義

テーブルに追加できる行について設定します。

行追加可能

チェックをオンにした場合、アプリケーションの実行時に行を追加することができます。

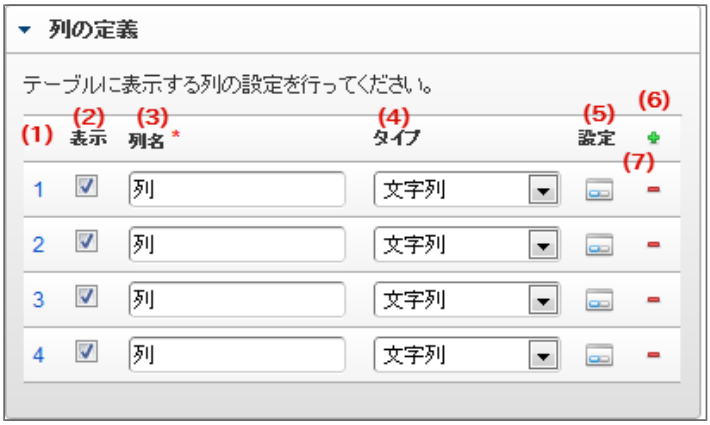
行数

「行追加可能」のチェックがオフの場合、テーブルに表示する行数を設定できます。

最大行数

「行追加可能」のチェックがオンの場合、テーブルに追加できる行の最大値を設定できます。
入力した行数まで追加できるようになるため、1以上の値を設定してください。

列の定義



明細テーブルの列を設定します。

1. 列番号

   列の表示順を設定します。
   列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

2. 表示

   列の表示/非表示を設定します。
   チェックがオフの場合、列は画面に表示されませんが、値の設定・取得等に利用することができます。
   タイプが「隠しパラメータ」の場合、必ずチェックがオフ(非表示)になります。

3. 列名

   列の名称を設定します。
   明細テーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

4. タイプ

   列のデータ型を設定します。
   関数や一覧選択等の他の画面アイテムを参照できるタイプの場合には、「関数」「一覧選択」で利用する場合と同様に、対象のフィールド識別IDを利用することで指定できます。

5. 設定

   クリックすると、列の詳細設定(入力フィールド、入力チェック等)画面に遷移します。

6. 追加

   クリックすると、明細テーブルの列を追加します。

7. 削除

   クリックすると、明細テーブルの列を削除します。

コラム

- 明細テーブルの表示について
  明細テーブルのテーブル、列の表示・非表示、表示タイプについては、以下の通りの動作となります。
  明細テーブルの「列の定義」での列の表示・非表示は、テーブルの表示タイプが表示であれば、列の定義を非表示にした場合も値を保持することができます。
  表示タイプは、列の表示タイプが設定されている場合には、テーブルの表示タイプより列の表示タイプの設定が優先されます。
  テーブルの表示タイプを非表示とした場合には、列の表示タイプを設定することはできません。
  テーブル・列の表示タイプの設定で非表示とした場合には、データは保持されません。

詳細設定

テーブル識別ID

明細テーブル、グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブルの物理名として利用します。
フォーム間でテーブル同士の値の引継ぎをする場合は、テーブル識別IDを同じにする必要があります。

> **注意**
>
> BIS作成種類「BISフロー」「ワークフロー」の場合、「定義の反映」によってテーブルが自動作成されるため、以下の注意事項があります。
>
> - テーブル識別IDに設定可能な文字数は6文字です。
> - テーブル識別IDとして設定な可能な文字は、半角英数字小文字、”_”（アンダーバー）に限ります。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

列番号表示(参照時)

明細テーブルのテーブルに対する表示タイプが「参照」となっている場合に、左の列番号の表示を設定します。
チェックがオンになっている場合、入力時と同様の列番号を表示します。

- 列番号表示が有効の場合

明細テーブル

	列	列	列	列
1	ABC	DEF	GHI	JKL
2	MNO	PQR	STU	VWX

- 列番号表示が無効の場合

明細テーブル

列	列	列	列
ABC	DEF	GHI	JKL
MNO	PQR	STU	VWX

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

列のサイズ・配置

列のサイズ
列の入力欄の標示の幅をピクセル単位で指定します。
横位置揃え
列の値の横位置を左寄せ、中央寄せ、右寄せのいずれかに設定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

列プロパティ概要

列プロパティは、「基本設定」 -> 「列の定義」 -> 「設定」をクリックして設定することができます。
明細テーブルの列プロパティには、以下のタイプがあります。
それぞれのタイプで、列プロパティの設定内容が異なります。

タイプ	説明
文字列	文字や数値などで短い文章を入力するときに使用するタイプです。
数値	金額や個数などの数値を入力するときに使用するタイプです。
日付	日付を入力するときに使用するタイプです。
関数	日付や数値の計算や、関数を使用して処理するときに使用するタイプです。
隠しパラメータ	フォーム上に表示させずに、値を保持するときに使用するタイプです。
一覧選択	外部連携を使用し、入力値を一覧から選択して入力するときに使用するタイプです。
ラジオボタン	複数項目から入力値をボタンで、１つ選択するときに使用するタイプです。
セレクトボックス	複数項目から入力値をプルダウンで、１つ選択するときに使用するタイプです。

列プロパティ(文字列)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「文字列」の場合には、以下の項目を設定します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(数値)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「数値」の場合には、以下の項目を設定します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット

> **コラム**
>
> IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。
>
> - 数値表示のフォーマット処理を改善します。
>   https://issue.intra-mart.jp/issues/27791
>
> これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。
>
> > **注意**
> >
> > 設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
> > 使用の際は十分な検証を行ってください。
> >
> > - アカウント設定
> > - テナント設定
> > - システム設定
> >
> > 詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
アカウント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123 456 789,123
テナント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123.456.789,123
システム設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ・123456789.123 ・123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(日付)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「日付」の場合には、以下の項目を設定します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。

2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(関数)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「関数」の場合には、以下の項目を設定します。

式

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*
- *ワークフロー関数(申請情報)*
- *ワークフロー関数(案件情報)*

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがなど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット

> **コラム**
>
> IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。
>
> - 数値表示のフォーマット処理を改善します。
>   https://issue.intra-mart.jp/issues/27791
>
> これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。
>
> > **注意**
> >
> > 設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
> > 使用の際は十分な検証を行ってください。
> >
> > - アカウント設定
> > - テナント設定
> > - システム設定
> >
> > 詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
アカウント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123 456 789,123
テナント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123.456.789,123
システム設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ・123456789.123 ・123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。

「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(隠しパラメータ)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「隠しパラメータ」の場合には、以下の項目を設定します。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。

2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

列プロパティ(一覧選択)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「一覧選択」の場合には、外部連携設定のリンクから外部連携に関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
  別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 最大表示行数
  一覧画面上に表示できる最大行数を設定します。
  外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」の場合、改ページ機能があるため、最大表示行数の設定は無効となります。
- マルチセレクト
  チェックがオンの場合、一覧画面上で複数行を選択できます。
  複数の行を選択した場合でも、画面アイテム「一覧選択」のフィールドには最初の1件しか反映されませんので注意してください。
- 項目幅の自動調整
  チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
  チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。
  表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。
- 列番号
  列の表示順を設定します。
  列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。
- 表示
  一覧画面に表示するかどうかを設定します。
  チェックがオンの場合に一覧画面に表示します。
- 列名
  一覧画面に表示する列名を設定します。

- 列ID
  一覧画面に表示する列を一意に識別するためのIDです。
  データマッパー上では、「{列名} | {列ID}」の形式で表示されます。
- タイプ
  列のデータ型を設定します。
- ソート
  初期表示時の一覧画面のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を設定します。
  いずれかの列について、昇順/降順を指定することで、初期表示のソート対象項目に設定できます。
  すべての列でソートを空白指定した場合、一番上の列の昇順でソートされます。

> **注意**
>
> IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整とソートの設定を追加しました。
>
> - IM-FormaDesigner 2022Spring 以前に作成した定義を利用する場合、かつ、外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、項目幅の自動調整と初期表示時のソート順の設定について、一覧選択画面の表示とプロパティの設定で差異が生じます。
>   そのため、一度プロパティの設定を変更してからフォームの更新を行ってください。
> - IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
>   「 画面設計書出力 」での出力値は空白で出力されます。

取得値設定

外部連携で取得した値の反映先のマッピングを行います。

- マッピング情報
  虫眼鏡アイコンをクリックするとデータマッパーが表示されますので、データマッパー上で対応する画面アイテムのマッピングを設定します。
  - 取得値に設定できるアイテム
    - 文字列（product_72_textbox）
    - 複数行文字列（product_72_textarea）
    - 数値（product_72_number）
    - 日付（product_72_date）
    - 期間（product_72_term）
    - 一覧選択（互換用）（product_72_itemSelect）
    - チェックボックス（product_80_checkbox）
    - ラジオボタン（product_80_radio）
    - セレクトボックス（product_80_selectbox）
    - リストボックス（product_80_listbox）
    - 一覧選択（product_80_itemSelect）
    - 隠しパラメータ（product_72_hidden）

> **コラム**
>
> データソースを使用する連携の設定の方法は、「 IM-BIS 業務管理者操作ガイド 」を参照してください。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがなど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。

- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(ラジオボタン)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「ラジオボタン」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(セレクトボックス)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「セレクトボックス」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

明細テーブルの行のコピー、挿入、削除方法

行のコピー、挿入、削除方法について説明します。

行のコピー

行のコピーを行います。

1. コピー対象の番号を右クリックします。



2. 「コピー」をクリックします。



3. 挿入対象の番号で右クリックし、「コピーした行の挿入」をクリックします。



4. コピーした行が挿入されます。



行の挿入

行の挿入を行います。

1. 「＋」アイコンまたは、挿入対象の番号で右クリックし、「挿入」をクリックします。



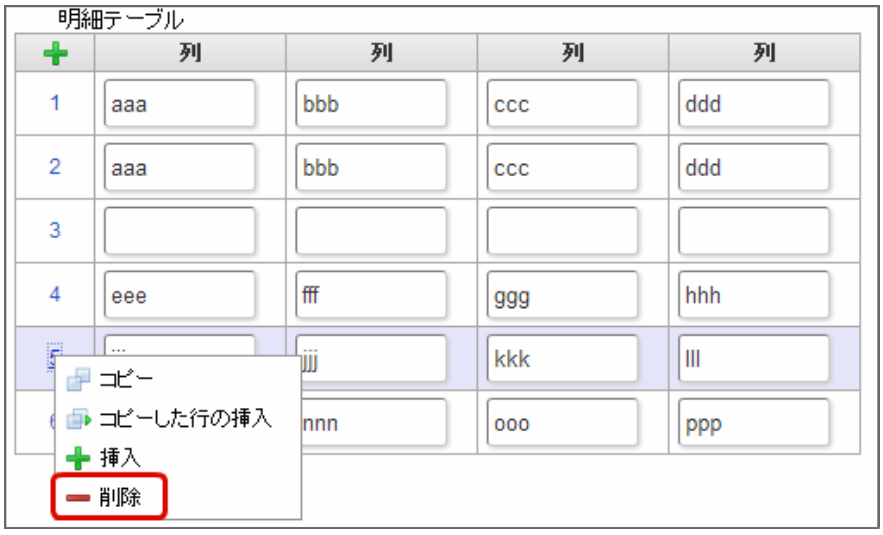
2. 行が挿入されます。



行の削除

行の削除を行います。

1. 削除対象の番号で右クリックし、「削除」をクリックします。



2. 行が削除されます。

明細テーブル

	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	aaa	bbb	ccc	ddd
3				
4	eee	fff	ggg	hhh
5	mmm	nnn	ooo	ppp

コラム

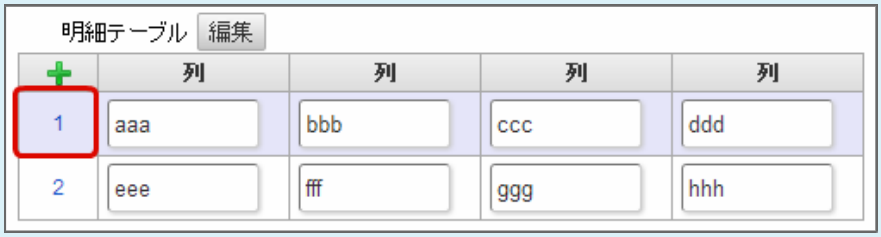
- スマートフォンの場合

スマートフォンでは、以下の処理を行うことができます。

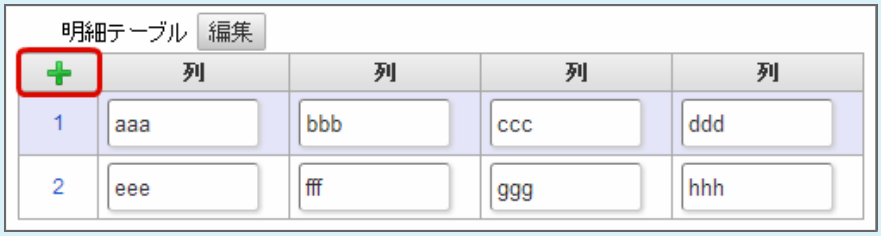
- 行のコピー
- 行の削除

行のコピーを行います。

1. 番号をクリックし、コピー対象を選択します。



2. 「＋」をクリックします。



3. コピーした行が挿入されます。



行の削除を行います。

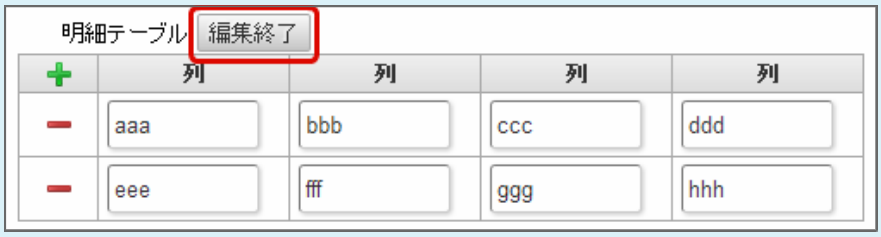
1. 「編集」ボタンをクリックします。



2. 「－」をクリックします。



3. 「編集終了」ボタンをクリックします。



4. 対象行が削除されます。



チェックボックス

画面アイテム「チェックボックス」は、複数項目から入力値を選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

データの定義

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、－によって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

項目幅

各選択肢の表示値の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

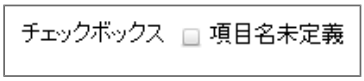
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ラジオボタン

画面アイテム「ラジオボタン」は、複数項目から入力値を 1 つ選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

データの定義

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

項目幅

各選択肢の表示値の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

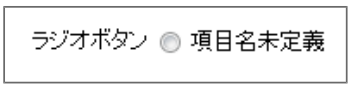
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

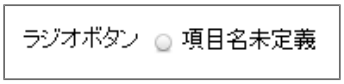
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

セレクトボックス

画面アイテム「セレクトボックス」は、複数項目から入力値を 1 つ選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

データの定義

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

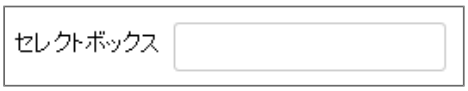
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

リストボックス

画面アイテム「リストボックス」は、複数項目から入力値を選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

データの定義

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

行数

画面に表示する選択肢の個数を指定します。
選択肢の個数が行数に設定した値より多い場合は、スクロールバーを利用して選択します。

参照時セパレータ

表示タイプ「参照」で、選択済みの複数の値を表示する際の区切り文字を設定します。
参照時セパレータの値に関係なく、データベース上では、複数の値が選択済みの場合には「,」を区切り文字として使用します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

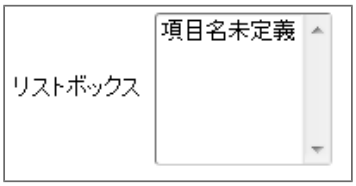
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

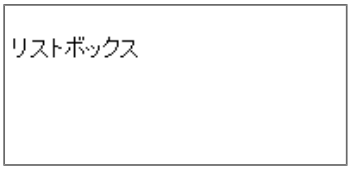
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



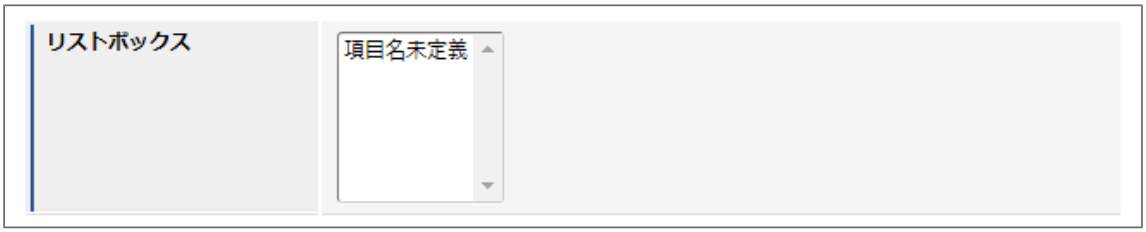
アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ファイルアップロード

画面アイテム「ファイルアップロード」は、画面の入力時のファイルを添付するためのアイテムです。
なお、 IM-Workflow の添付ファイルとは異なる機能となりますので、注意してください。

注意

- FormaアプリのWF申請書再利用による申請では、アップロードされたファイルは引き継がれませんので注意してください。
- アップロード可能なファイルサイズは、 intra-mart Accel Platform の機能に依存します。制限サイズを超えるファイルをアップロードするとエラーが発生しますので注意してください。
  制限サイズの設定方法については、「 設定ファイルリファレンス 」-「 リクエストクエリの長さ制限 」を参照してください。
  また、ファイルの保存先をDBとした場合、データベースのバイナリ型で保存します。
  バイナリ型の最大サイズを越えるファイルをアップロードするとエラーが発生しますので注意してください。
- ファイルアップロードの「備考」は500文字まで入力できます。
- ファイルアップロードアイテムのテーブルの「備考」カラムのサイズ変更については、以下のリンク先を参照してください。
  - 「 IM-FormaDesigner 仕様書 」-「 カラムサイズの拡張 」
- データベースとして PostgreSQL を利用し、ファイルアップロードアイテムの保存先をデータベースとしている場合、添付ファイルサイズが非常に大きいとファイルのダウンロードが正常に行われない場合があります。
  詳細は、「 制限事項 」-「 データベースとして PostgreSQL を利用し、ファイルアップロードアイテムの保存先をデータベースとしている場合、添付ファイルサイズが非常に大きいとファイルのダウンロードが正常に行われない場合があります。 」を参照してください。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、アイテムの上に表示します。

添付ファイルの個数

同一フォーム内で添付可能なファイルの個数の上限値、下限値を設定します。

1. 最小
   添付ファイルの最小添付数を0以上の値で設定します。
2. 最大
   添付ファイルの最大添付数を0以上の値で設定します。

詳細設定

アイテム識別ID

アップロードしたファイルを画面アイテムと関連付けるためのIDを設定します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画像プレビュー表示

この設定は、ファイルアップロードを「プレビュー表示」モードとして動作させるための設定です。
設定が有効な場合には、ファイルアップロードアイテム内にプレビュー幅・高で設定したサイズの画像を表示します。
プレビュー画像をクリックすると元画像サイズで表示できます。
「画像プレビュー表示」を有効にした場合、アップロード可能なファイルが画像ファイル（拡張子：jpg,jpeg,png,gif）に限定されます。

プレビュー幅
アップロードした画像ファイルのプレビュー表示時の表示サイズの幅をピクセル単位で指定します。
プレビュー高
アップロードした画像ファイルのプレビュー表示時の表示サイズの高さをピクセル単位で指定します。

1ファイルあたりのサイズ（キロバイト単位）

1 ファイルあたりのファイルサイズの上限をキロバイト単位で指定します。

コラム
- 1ファイルあたりのサイズ（キロバイト単位）には0以上の数値を必ず入力してください。
- 0を指定した場合は実行画面ではファイルサイズによる制限を行いません。

許可する拡張子

アップロードを許可するファイル拡張子をカンマ区切りで指定します。

コラム
- 「画像プレビュー表示」が有効な場合は、 jpeg,jpg,gif,png のみ設定します。
- 未指定の場合は「画像プレビュー表示」が有効な場合は、実行画面では jpeg,jpg,gif,png を許可します。「画像プレビュー表示」が無効な場合は、実行画面では、すべての拡張子を許可します。

別ウィンドウ表示

別ウィンドウ表示の有効無効を設定します。
ファイル名を押下した場合に、別ウィンドウでファイルを開きます。

コラム
- 別ウィンドウ表示を有効にした場合、実行画面でファイルをダウンロードするにはファイル名の右側にあるアイコンを押します。
- 実行画面では、ブラウザによって別ウインドウ表示されるファイルの種類が異なります。
- スマートフォン版では別ウィンドウでは表示されません。

ファイル一覧の並び順

アップロードされたファイルの並び順に関して、ソートに使用する項目（ファイル名/備考/更新日）と並び順（昇順/降順）を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

グリッドテーブル

画面アイテム「グリッドテーブル」は、アプリの実行時に表形式で入力したり、フィルターで表示内容を絞り込んで表示するためのアイテムです。

> **注意**
>
> タイプ「一覧選択」の外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、以下の点に注意してください。
>
> - 一覧選択の虫眼鏡アイコンを、クリックした後に表示される一覧選択画面には、改ページ機能がありません。
>   そのため、取得したデータが最大表示行数を超える場合には、最大表示行数までで打ち切られて表示されます。
>   また、一覧選択画面の絞り込み機能を用いても、打ち切られたデータを表示させることはできませんので
>   一覧選択画面を表示する際の外部連携の条件、または最大表示行数の設定を見直してください。

項目

- 基本設定
- 詳細設定
- 表示スタイル
- 列プロパティ概要
- 列プロパティ(文字列)
- 列プロパティ(数値)
- 列プロパティ(日付)
- 列プロパティ(隠しパラメータ)
- 列プロパティ(関数)
- 列プロパティ(一覧選択)
- 列プロパティ(セレクトボックス)
- 列プロパティ(イメージ)
- 列プロパティ(カスタム)
- グリッドテーブルの行のコピー、行のコピー（複数）、挿入、削除方法

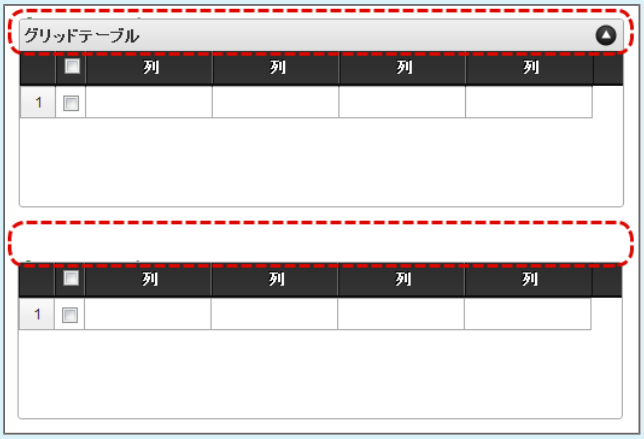
基本設定

ラベル

グリッドテーブルのヘッダーのキャプションとして使用します。
ラベルに設定した名称を、グリッドテーブルのヘッダー部分に表示します。

コラム

グリッドテーブルのラベルに何も設定していない場合には、上部のキャプションも非表示になります。



行の定義

テーブルに追加できる行について設定します。

行追加可能

チェックをオンにした場合、アプリケーションの実行時に行を追加することができます。

行数

「行追加可能」のチェックがオフの場合、テーブルに表示する行数を設定できます。

最大行数

「行追加可能」のチェックがオンの場合、テーブルに追加できる行の最大値を設定できます。
入力した行数まで追加できるようになるため、1以上の値を設定してください。

初期表示行数

入力時に最初に表示する行数を設定します。
「最大行数」を設定している場合には、最大行数以下になるように設定してください。
初期表示行数は0を設定することもできます。

行追加機能

行の追加を制限します。
チェックがオンの場合、行を追加することができます。
チェックがオフの場合、行を追加することはできません。

行削除機能

行の削除を制限します。
チェックがオンの場合、行を削除することができます。
チェックがオフの場合、行を削除することはできません。

削除確認ダイアログ

行削除をクリックすると、削除確認のダイアログを表示します。
チェックがオンの場合、ダイアログが表示されます。
チェックがオフの場合、ダイアログが表示されません。

列の定義



グリッドテーブルの列を設定します。

1. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   すべての列に対して同じサイズが設定されます。

2. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、すべての列に適用されます。

3. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   すべての列に対して同じ表示位置が設定されます。

4. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   すべての列に対して同じ表示位置が設定されます。

5. 検索機能

   検索機能の設定をします。

   1. 利用しない
      「検索機能」を利用しません。

   2. フィルター検索
      検索で絞り込む時の比較条件を設定します。
      設定内容は、すべての列に適用されます。

   3. 高度な検索
      別画面による高度な検索、複数列による検索や範囲検索などをすることができます。



ページャー部分に表示されている  をクリックした場合、表示される画面で検索条件を設定します。

この機能はページャー利用時にのみ利用することができます。

6. フィルター条件

   「フィルター検索」を設定した場合の比較条件を設定します。
   設定内容は、すべての列に適用されます。

7. 列番号

   列の表示順を設定します。
   列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

8. 表示

   列の表示/非表示を設定します。
   チェックがオフの場合、列は画面に表示されませんが、値の設定・取得等に利用することができます。
   タイプが「隠しパラメータ」の場合、必ずチェックがオフ(非表示)になります。

9. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

10. タイプ

    列のデータ型を設定します。
    関数や一覧選択等の他の画面アイテムを参照できるタイプの場合には、「関数」「一覧選択」で利用する場合と同様に、対象のフィールド識別IDを利用することで指定できます。

11. 設定

    クリックすると、列の詳細設定(入力フィールド、入力チェック等)画面に遷移します。

12. 追加

    クリックすると、グリッドテーブルの列を追加します。

13. 削除

    クリックすると、グリッドテーブルの列を削除します。

コラム

- グリッドテーブルの表示について
  グリッドテーブルのテーブル、列の表示・非表示、表示タイプについては、以下の通りの動作となります。
  グリッドテーブルの「列の定義」での列の表示・非表示は、テーブルの表示タイプが表示であれば、列の定義を非表示にした場合も値を保持することができます。
  表示タイプは、列の表示タイプが設定されている場合には、テーブルの表示タイプより列の表示タイプの設定が優先されます。
  テーブルの表示タイプを非表示とした場合には、列の表示タイプを設定することはできません。
  テーブル・列の表示タイプの設定で非表示とした場合には、データは保持されません。

詳細設定

テーブル識別ID

明細テーブル、グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブルの物理名として利用します。
フォーム間でテーブル同士の値の引継ぎをする場合は、テーブル識別IDを同じにする必要があります。

注意

BIS作成種類「BISフロー」「ワークフロー」の場合、「定義の反映」によってテーブルが自動作成されるため、以下の注意事項があります。

- テーブル識別IDに設定可能な文字数は6文字です。
- テーブル識別IDとして設定な可能な文字は、半角英数字小文字、”_”（アンダーバー）に限ります。

テーブル幅

テーブルを表示する幅をピクセル単位で指定します。

テーブル高さ

テーブルを表示する高さをピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

マルチセレクト

複数の行を選択できるかどうかを設定します。
設定を有効にしている場合には、選択するためのチェックボックスの列を表示します。

列番号表示

グリッドテーブルのテーブルの列番号の表示を設定します。

1. 表示
   入力可・参照時ともに列番号を表示します。
2. 非表示
   入力可・参照時ともに列番号を表示しません。
3. 入力可のみ表示

入力可の場合のみ列番号を表示します。

4. 参照時のみ表示
   参照時の場合のみ列番号を表示します。

- 列番号表示が「表示」の場合



- 列番号表示が「非表示」の場合



- 列番号表示が「入力可のみ表示」の場合



- 列番号表示が「参照時のみ表示」の場合



ページャー表示

テーブル下部にページ数、ページ送りのアイコンを表示します。
ページャーは、参照モードで明細が0行の場合も表示されます。
ページャーが無効な場合には、明細の全ての行を1ページに表示します。

1. 表示
   入力可・参照時ともにページャーを表示します。
2. 非表示
   入力可・参照時ともにページャーを表示しません。
3. 表示（入力可のみ表示）
   入力可能時のみページャーを表示します。
4. 表示（参照時のみ表示）
   参照時のみページャーを表示します。

- ページャー表示が「表示」の場合



- ページャー表示が「非表示」の場合



- ページャー表示が「入力可のみ表示」の場合



- ページャー表示が「参照時のみ表示」の場合



表示件数（ページャー）

ページャーを表示する場合は、表示件数を設定します。
表示件数は、カンマ区切りで設定します。

並べ替え機能

単一列、または複数列での並べ替えを設定します。

- 利用しない
  単一列、複数列のいずれでもテーブルの並べ替えができません。
- 単一列による並べ替え
  クリックしたテーブルのヘッダの列を基準に並べ替えを行います。
  - 対象列（初期表示時）
    初期表示時の並べ替えの基準とする項目を選択します。
    未選択時（空白）には、並べ替えをしていない状態で表示されます。
  - 並び順（初期表示時）
    初期表示時の並べ替えを昇順、降順のどちらですするかを設定します。
- 複数列による並び替え
  テーブル上部に「並べ替え」アイコンが表示されます。
  「並べ替え」をクリックすると、複数の列による並べ替えの優先順位や昇順・降順を設定することができます。

列の表示・非表示

実行画面で「列」を右クリックして、列の表示・非表示を設定します。

1. 利用する
   入力可・参照時ともに、「列の表示・非表示」を利用します。
2. 利用しない
   入力可・参照時ともに、「列の表示・非表示」を利用しません。
3. 入力可のみ利用

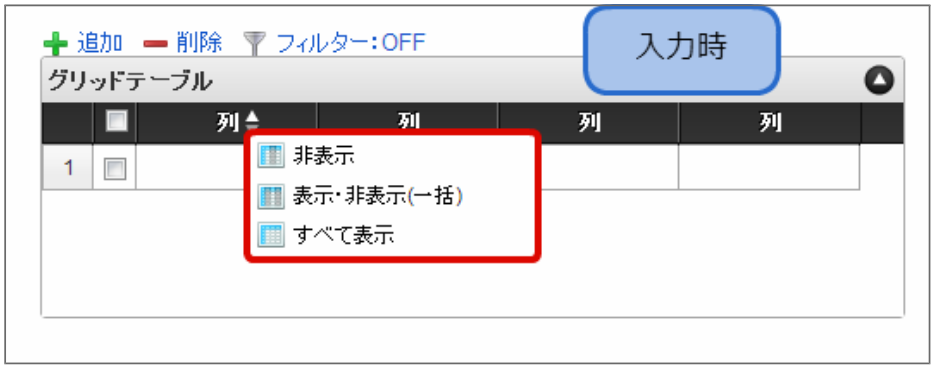
入力可能時のみ、「列の表示・非表示」を利用します。

4. 参照時のみ利用
   参照時のみ、「列の表示・非表示」を利用します。

- 「列の表示・非表示」が「利用する」の場合



- 「列の表示・非表示」が「入力可のみ利用」の場合



- 「列の表示・非表示」が「参照時のみ利用」の場合



列固定

列の固定をします。
横スクロールをする際に、列固定された列はスクロールされずに固定されます。

列固定機能

「列固定機能」の設定をします。

1. 表示
   入力可・参照時ともに「列固定：OFF/ON」を表示します。

2. 非表示
   入力可・参照時ともに「列固定：OFF/ON」を表示しません。

3. 入力可のみ表示
   入力可能時のみ「列固定：OFF/ON」を表示します。

4. 参照時のみ表示
   参照時のみ「列固定：OFF/ON」を表示します。

- 列固定機能が「表示」の場合



- 列固定機能が「非表示」の場合



- 列固定機能が「入力可のみ表示」の場合



- 列固定機能が「参照時のみ表示」の場合



列固定範囲

固定する列の範囲を設定します。

表示タイプ

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。

2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

ヘッダースタイル

ヘッダーの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

縞模様機能

チェックがオンの場合、奇数行、偶数行の背景色を別々に設定します。
フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色（奇数行/偶数行）

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

列個別設定

ヘッダーとフィールドの表示スタイルを個別で設定することができます。

列選択
表示スタイルを個別に設定したい列を選択します。

ヘッダースタイル

ヘッダーの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

列プロパティ概要

列プロパティは、「基本設定」 -> 「列の定義」 -> 「設定」をクリックして設定することができます。
または、列のヘッダー部をダブルクリックして設定することできます。
グリッドテーブルの列プロパティには、以下のタイプがあります。
それぞれのタイプで、列プロパティの設定内容が異なります。

タイプ	説明
文字列	文字や数値などで短い文章を入力するときに使用するタイプです。
数値	金額や個数などの数値を入力するときに使用するタイプです。
日付	日付を入力するときに使用するタイプです。
隠しパラメータ	フォーム上に表示させずに、値を保持するときに使用するタイプです。
関数	日付や数値の計算や、関数を使用して処理するときに使用するタイプです。
一覧選択	外部連携を使用し、入力値を一覧から選択して入力するときに使用するタイプです。
セレクトボックス	複数項目から入力値をプルダウンで、１つ選択するときに使用するタイプです。
イメージ	フォーム上に任意の画像を表示するときに使用するタイプです。
カスタム	表示用のタグを含んだコードを設定するタイプです。

列プロパティ(文字列)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「文字列」の場合には、以下の項目を設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

検索設定

検索機能を有効にしている場合に、列単位での検索フィルターを設定します。

検索対象

- 「検索機能」に「フィルター検索」を設定している場合
  検索機能でフィルターで表示をしぼりこむ条件に利用できるかどうかを設定します。
- 「検索機能」に「高度な検索」を設定している場合
  検索機能で検索条件に利用できるかどうかを設定します。

フィルター条件

「検索機能」を「フィルター検索」にした場合、設定することができます。
検索で絞り込む時の比較条件を設定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(数値)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「数値」の場合には、以下の項目を設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット

> **コラム**
>
> IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。
>
> - 数値表示のフォーマット処理を改善します。
>   https://issue.intra-mart.jp/issues/27791
>
> これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。
>
> > **注意**
> >
> > 設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
> > 使用の際は十分な検証を行ってください。
> >
> > - アカウント設定
> > - テナント設定
> > - システム設定
> >
> > 詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
アカウント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123 456 789,123
テナント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123.456.789,123
システム設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ・123456789.123 ・123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

小数点表示

チェックがオンの場合、整数で入力した場合でも小数点で表示することができます。
例 ：「小数部最大入力桁数」に「2」、「入力フィールド」に「1」と入力した場合、「1.00」と表示されます。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

検索設定

検索機能を有効にしている場合に、列単位での検索フィルターを設定します。

検索対象

- 「検索機能」に「フィルター検索」を設定している場合
  検索機能でフィルターで表示をしぼりこむ条件に利用できるかどうかを設定します。
- 「検索機能」に「高度な検索」を設定している場合
  検索機能で検索条件に利用できるかどうかを設定します。

フィルター条件

「検索機能」を「フィルター検索」にした場合、設定することができます。
検索で絞り込む時の比較条件を設定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。

2. 参照

BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(日付)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「日付」の場合には、以下の項目を設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

列の名称を設定します。
グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

検索設定

検索機能を有効にしている場合に、列単位での検索フィルターを設定します。

検索対象

- 「検索機能」に「フィルター検索」を設定している場合
  検索機能でフィルターで表示をしぼりこむ条件に利用できるかどうかを設定します。
- 「検索機能」に「高度な検索」を設定している場合
  検索機能で検索条件に利用できるかどうかを設定します。

フィルター条件

「検索機能」を「フィルター検索」にした場合、設定することができます。
検索で絞り込む時の比較条件を設定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(隠しパラメータ)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「隠しパラメータ」の場合には、以下の項目を設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理

BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。

2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

列プロパティ(関数)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「関数」の場合には、以下の項目を設定します。

式

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット
- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。

- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
3桁カンマ・小数点ピリオド	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ▪ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	▪ 123456789.123 ▪ 123,456,789.123
アカウント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123 456 789,123
テナント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123.456.789,123
システム設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ▪ 123456789.123 ▪ 123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(一覧選択)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「一覧選択」の場合には、データソース設定のリンクからデータソースに関する設定、
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

タイプ

列のタイプを選択します。

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
  別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 最大表示行数
  一覧画面上に表示できる最大行数を設定します。
  外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」の場合、改ページ機能があるため、最大表示行数の設定は無効となります。
- マルチセレクト
  チェックがオンの場合、一覧画面上で複数行を選択できます。
  複数の行を選択した場合でも、画面アイテム「一覧選択」のフィールドには最初の1件しか反映されませんので注意してください。
- 項目幅の自動調整
  チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
  チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。
  表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。
- 列番号
  列の表示順を設定します。
  列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。
- 表示
  一覧画面に表示するかどうかを設定します。
  チェックがオンの場合に一覧画面に表示します。
- 列名
  一覧画面に表示する列名を設定します。
- 列ID
  一覧画面に表示する列を一意に識別するためのIDです。
  データマッパー上では、「{列名}｜{列ID}」の形式で表示されます。
- タイプ
  列のデータ型を設定します。
- ソート
  初期表示時の一覧画面のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を設定します。
  いずれかの列について、昇順/降順を指定することで、初期表示のソート対象項目に設定できます。
  すべての列でソートを空白指定した場合、一番上の列の昇順でソートされます。



注意

IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整とソートの設定を追加しました。

- IM-FormaDesigner 2022Spring 以前に作成した定義を利用する場合、かつ、外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、項目幅の自動調整と初期表示時のソート順の設定について、一覧選択画面の表示とプロパティの設定で差異が生じます。
  そのため、一度プロパティの設定を変更してからフォームの更新を行ってください。
- IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
  「 画面設計書出力 」での出力値は空白で出力されます。

取得値設定

外部連携で取得した値の反映先のマッピングを行います。

- マッピング情報
  虫眼鏡アイコンをクリックするとデータマッパーが表示されますので、データマッパー上で対応する画面アイテムのマッピングを設定します。
  - 取得値に設定できるアイテム
    - 文字列（product_72_textbox）
    - 複数行文字列（product_72_textarea）
    - 数値（product_72_number）
    - 日付（product_72_date）
    - 期間（product_72_term）
    - 一覧選択（互換用）（product_72_itemSelect）
    - チェックボックス（product_80_checkbox）
    - ラジオボタン（product_80_radio）
    - セレクトボックス（product_80_selectbox）
    - リストボックス（product_80_listbox）
    - 一覧選択（product_80_itemSelect）
    - 隠しパラメータ（product_72_hidden）



コラム

データソースを使用する連携の設定の方法は、「 IM-BIS 業務管理者操作ガイド 」を参照してください。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

検索設定

検索機能を有効にしている場合に、列単位での検索フィルターを設定します。

検索対象

- 「検索機能」に「フィルター検索」を設定している場合
  検索機能でフィルターで表示をしぼりこむ条件に利用できるかどうかを設定します。
- 「検索機能」に「高度な検索」を設定している場合
  検索機能で検索条件に利用できるかどうかを設定します。

フィルター条件

「検索機能」を「フィルター検索」にした場合、設定することができます。
検索で絞り込む時の比較条件を設定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。

2. 参照

BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(セレクトボックス)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「セレクトボックス」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定、
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。
設定するデータをデータソース定義から取得する場合は、外部連携設定画面で設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 列番号

  列の表示順を設定します。
  列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

検索設定

検索機能を有効にしている場合に、列単位での検索フィルターを設定します。

検索対象

- 「検索機能」に「フィルター検索」を設定している場合
  検索機能でフィルターで表示をしぼりこむ条件に利用できるかどうかを設定します。
- 「検索機能」に「高度な検索」を設定している場合
  検索機能で検索条件に利用できるかどうかを設定します。

フィルター条件

「検索機能」を「フィルター検索」にした場合、設定することができます。
検索で絞り込む時の比較条件を設定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(イメージ)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「イメージ」の場合には、以下の項目を設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

イメージ選択

配置した場所に表示する画像ファイルを指定します。
指定できる画像ファイルは、「フォーム・デザイナ」画面上の「画像アップロード」で事前にアップロード済みの画像ファイルに限られます。

リンク

イメージに他ページへのリンクを設定します。

設定方法

リンク先の設定方法を設定します。

- Forma画面設定：Forma画面を開く設定をします。
- URL設定：URLを指定する設定をします。

利用方法

利用方法を設定します。

- ポップアップ表示：ポップアップで表示します。
- 別画面表示：別画面で表示します。

子画面サイズ（幅）

ポップアップ表示する子画面の横の長さ（幅）をピクセル単位で指定します。

子画面サイズ（高）

ポップアップ表示する子画面の縦の長さ（高さ）をピクセル単位で指定します。

URL

イメージで表示した画像をクリックした際に表示するサイトのアドレスを設定します。

> **コラム**
>
> URLに別ドメインを設定する場合、データの送信方法「POST」は利用できません。

送信方法

データの送信方法を「GET」「POST」のいずれかから選択します。

パス設定

イメージに他ページへのリンクを設定します。
URLで設定したオーソリティのアクセス先を設定します。
例 ：URLに「 *http://localhost/imart* 」、パス設定に「 *path* 」と設定した場合、「 *http://localhost/imart/path* 」というURLを生成します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（*）を指定してください。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「 ” 」で囲んでください。

列番号をドラッグすると、列を入れ替えることができます。

* 画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

パラメータ設定

URLに設定した値（アドレス）に追加したいパラメータのキーと値の組み合わせを設定します。
「＋」「－」で追加と削除ができます。
列番号をドラッグすることで列を入れ替えることができます。

パラメータキー

編集対象のパラメータ値に対応するパラメータキーを選択します。

パラメータ値

パラメータに設定する値を登録します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

Forma画面設定

子画面表示時

子画面表示時の処理を指定します。

- 子画面に値を反映：親画面から子画面に値を反映します。
- 何もしない：値の反映はしません。

フォーム遷移名

子画面に表示するフォーム遷移を指定します。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

列プロパティ(カスタム)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「カスタム」の場合には、表示用のタグを含んだコードを設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

コード記述

表示したい文字列や、HTMLタグなどを記述します。



注意

- 表示用のタグを設定します。入力用のタグを使用した制御は想定していません。
  jqgridの特質上、カスタムに入力されたデータはグリッドテーブルの内部データと同期されないため、
  入力内容が保持されません。



コラム

例）他のサイトのイメージを表示するタグ

```
<img src="http://www.accel-mart.com/top_img/main_image_01.jpg" >
```

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。

2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

グリッドテーブルの行のコピー、行のコピー（複数）、挿入、削除方法

行のコピー、行のコピー（複数）、挿入、削除方法について説明します。

行のコピー

行のコピーを行います。

1. 行の上を右クリックします。



2. 「コピー」をクリックします。



3. 行の上を右クリックし、「コピーした行の挿入」をクリックします。



4. コピーした行が挿入されます。



行のコピー（複数）

行の複数行コピーを行います。

1. 「行のコピー」の1～2と同様に、コピー対象をコピーします。

2. 行の上を右クリックし、「コピーした行の挿入（複数）」をクリックします。



3. 挿入行数に挿入したい行数を入力します。

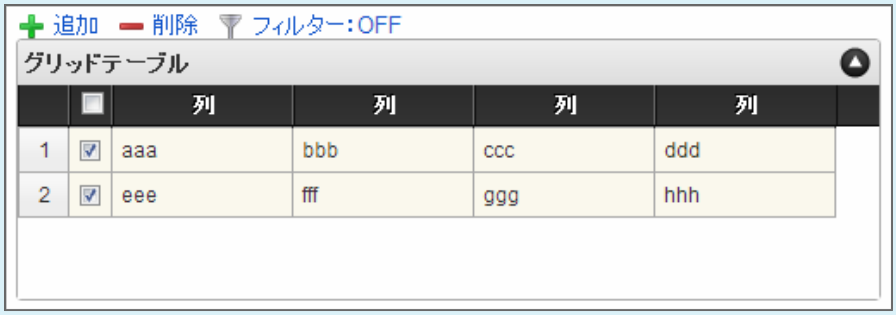


> **注意**
> グリッドテーブルのプロパティの基本設定で設定した「最大行数」を超えないように入力してください。

4. コピーした行が挿入されます。



> **コラム**
>
> 行のコピー、行のコピー（複数）では、コピー対象をチェックボックスをオンにして指定することもできます。
>
> 1. コピー対象のチェックボックスをオンにします。



2. 「コピー」をクリックします。



3. 行の上を右クリックし、「コピーした行の挿入（または、コピーした行の挿入（複数））」をクリックします。



4. コピーした行が挿入されます。



行の挿入

行の挿入を行います。

1. 行の上を右クリックし、「挿入」をクリックします。



> **コラム**
>
> - グリッドテーブル上部の「追加」をクリックし、挿入することもできます。
>
> 
>

2. 行が挿入されます。



行の削除

行の削除を行います。

1. 行の上を右クリックし、「削除」をクリックします。



コラム

削除対象のチェックボックスをオンにして、指定することもできます。

- 削除対象の行のチェックボックスをオンにし、グリッドテーブル上部の「削除」をクリックします。



2. 行が削除されます。



注意

グリッドテーブルには、以下の機能で注意事項があります。

- 列固定機能
  - 列への入力や非表示の操作は、列固定機能が「非表示」の時に実施することができます。
  - 列の固定範囲は、グリッドテーブル幅以内までにしてください。
- ヘッダースタイル
  - ヘッダーのフォントサイズを小さくすると、ソートアイコンである▲▼の表示が隠れてしまうので注意してください。



- ページャー機能
  - 行の追加、挿入をすると現在表示しているページに行の追加を行います。
  - ページャーのリロードをすると、ページの表示件数に従い表示され、新たに追加、挿入した行は、最終頁の最後の行に追加されます。

リッチテキストボックス

画面アイテム「リッチテキストボックス」は、色やフォントなどの文字装飾を伴う文字を入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、アイテムの上に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

リッチテキストボックス設定

リッチテキストボックスのエディタなどの詳細を設定します。
ツールバースタイル

ツールバー（編集用のコマンドアイコンを表示する部分）のスタイルを設定します。
「シンプル」に設定した場合、利用できるコマンドアイコンが少なくなります。

メニューバー

メニューバーを表示するか設定します。
チェックボックスがオンの場合、編集用のコマンドアイコンがメニューバーにまとまって表示されます。

画像挿入機能の利用

ローカルの画像を利用する機能を設定します。
設定ファイル（ui-tag-config_imui-richtextbox.xml）にて、扱える画像のオプションを設定できます。

- imuiDataUrl（設定を変更する）

エディタ幅
文字を編集する領域の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
エディタ高さ
文字を編集する領域の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
参照表示高さ固定

表示タイプの表示が「参照」の場合に、リッチテキストボックスの領域の高さを調整するかを設定します。
チェックボックスがオンの場合、表示する内容に関係なく、常に固定の高さで表示します。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。

2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

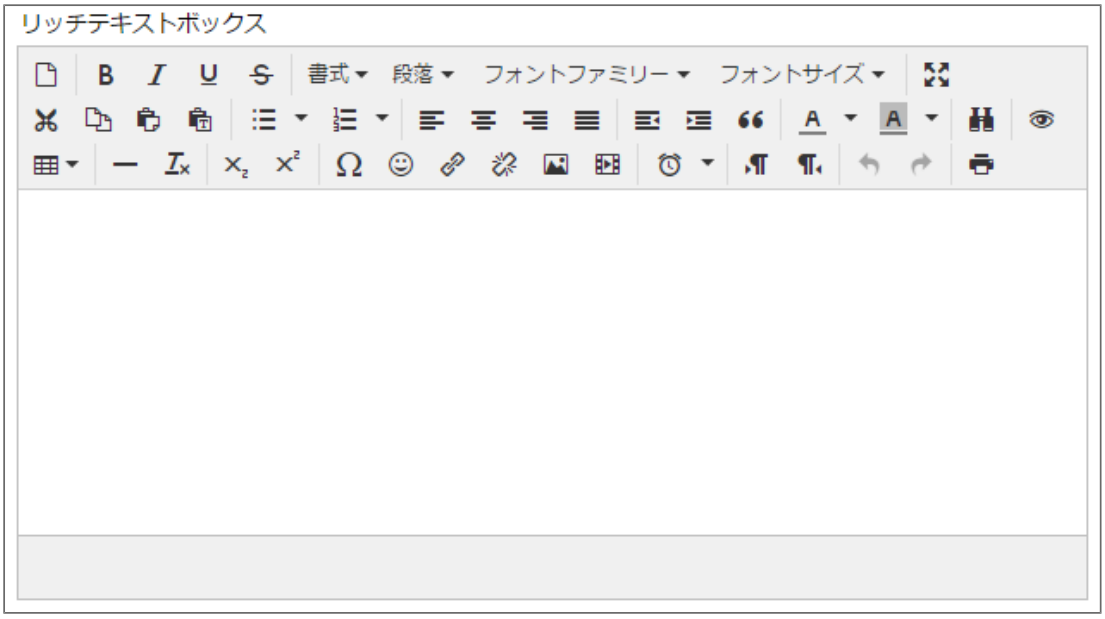
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

スプレッドシート

画面アイテム「スプレッドシート」は、IM-SpreadsheetをForma実行画面上で利用するためのアイテムです。

項目

- 基本設定
- 詳細設定
- フィールド定義
- テーブル定義

基本設定

スプレッドシート

画面アイテムに表示するスプレッドシートを設定します。
アイコンをクリックすることで、 IM-Spreadsheet デザイナが起動します。
「ファイル」 -「インポート」を利用することで、既存のExcelファイルを読み込むことができます。

> **注意**
>
> - スプレッドシートアイテムは、設定するシートのサイズに応じて、処理時間とメモリが必要となります。
>   そのため、以下の制限を設定しています。
>   - 「スプレッドシートのデータサイズ制限を設定する（spreadsheet-item-filelength-limit）」
>   - 「スプレッドシートに含まれるテーブルの列数の最大値を設定する（spreadsheet-item-tablecolumn-limit）」

詳細設定

スプレッドシートID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDとスプレッドシートIDが一意になるように設定してください。
フォーム間でスプレッドシート同士の値の引継ぎをする場合は、スプレッドシートIDを同じにする必要があります。

シートDB登録

スプレッドシートのシート全体をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
チェックがオンの場合、データベースに登録したシートが存在する場合、そのシートを画面に表示します。
データベースに登録したシートが存在しない場合、フォーム・デザイナで定義したシートを画面に表示します。
複数画面を作成する場合、シートDB登録は全画面で同じ設定にする必要があります。

> **コラム**
>
> - シートDB登録をオンとして利用した場合、スプレッドシートのシート全体がリクエストパラメータとして送信されます。
>   制限サイズを超えた場合、エラーが発生しますので注意してください。
>   制限サイズの設定方法については、以下を参照してください。
>   - 「スプレッドシートのデータサイズ制限を設定する（spreadsheet-item-filelength-limit）」

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

バインディング設定

スプレッドシート内の特定のセル、もしくは、テーブルの入力値のバインディング有無を設定します。
バインディングした値は、前処理や後処理、外部連携で利用することができます。
チェックがオンの場合、「フィールド定義」「テーブル定義」で、バインディングするセル、もしくは、テーブルを設定します。

バインディング値DB登録

バインディングした値をデータベースへ登録するかを設定します。
複数画面を作成する場合、バインディング値DB登録は全画面で同じ設定にする必要があります。

> コラム
> - シートDB登録：オフ、バインディング値DB登録：オンとして利用した場合
>   - 登録／更新（申請／承認）画面など、別フォームに対して、同一のスプレッドシートIDで別の内容のスプレッドシートを設定できます。
>   バインディング値はスプレッドシート上に反映されるため、画面ごとにスプレッドシートの表示内容を変更することができます。

> コラム
> - バインディング設定をオンとして利用した場合
>   - バインディング設定をオンとした場合、設定した値は後処理に連携されます。
>   バインディング値DB登録がオフの場合でも値は連携されます。

表示タイプ

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

フィールド定義

フィールド識別ID

アプリケーション上での、入力項目の識別IDとして利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

タイプ

入力項目として保持する値のデータ型を指定します。

コラム

- 指定したデータ型に対し、登録／更新（申請／承認）時に、保持するデータ型に対してのチェックのみ実施します。
  詳細の入力チェックを実行する場合は、SpreadJSのAPI、またはForma入力チェックユーザプログラムを利用してください。
- データ型として数値／日付を指定した場合、SpreadJSのセルの書式設定にも数値／日付形式を指定してください。
  型が異なる場合、入力時の変換処理でスクリプトエラーが発生したり、値が意図どおり連携されない場合があります。
- SpreadJSでのセル型がチェックボックスの場合は、データ型に「文字列」を指定してください。
  ユーザプログラム、外部連携では値を以下のように設定・取得します。
  チェックON: 文字列の”true”、チェックOFF: 文字列の”false”、不定状態(不定状態が有効の場合)：空文字
- SpreadJSでのセル型がチェックボックスリストの場合は、データ型に「文字列」を指定してください。
  ユーザプログラム、外部連携ではカンマ区切りの文字列で値を設定・取得します。
  ※SpreadJSで設定するチェックボックスリスト項目値にカンマ「,」が含まれていると正常に動作しないため、カンマを含まない値を設定してください。

シート・行・列

シート・行・列を指定します。
シートは、一番左のシートを0として、順番で指定します。
行・列は、左上のセルを0として、順番で指定します。

コラム

- 「選択中のセルを追加」を押下すると、スプレッドシート上でフォーカスが当たっているセルを追加することができます。
  また、画面アイテムプロパティで設定済みフィールドを選択すると、スプレッドシートの中で指定されたセルにフォーカスが当たります。

テーブル定義

テーブル

Excel上で設定されたテーブルオブジェクトがリストで表示されます。
バインディングするテーブルを選択して、「定義を設定」を押下すると、テーブルの各列が設定されます。
定義したテーブルを解除したい場合は、「定義を解除」を押下してください。

テーブル識別ID

アプリケーション上での、テーブルの識別IDとして利用します。
フォーム間でテーブル同士の値の引継ぎをする場合は、テーブル識別IDを同じにする必要があります。

シート番号
一番左のシートを0とした順番が表示されます。

フィールド識別ID

アプリケーション上での、入力項目の識別IDとして利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

タイプ

入力項目として保持する値のデータ型を指定します。

コラム

- 指定したデータ型に対し、登録／更新（申請／承認）時に、保持するデータ型に対してのチェックのみ実施します。
  詳細の入力チェックを実行する場合は、SpreadJSのAPI、またはForma入力チェックユーザプログラムを利用してください。
- データ型として数値／日付を指定した場合、SpreadJSのセルの書式設定にも数値／日付形式を指定してください。
  型が異なる場合、入力時の変換処理でスクリプトエラーが発生したり、値が意図どおり連携されない場合があります。
- SpreadJSでのセル型がチェックボックスの場合は、データ型に「文字列」を指定してください。
  ユーザプログラム、外部連携では値を以下のように設定・取得します。
  チェックON: 文字列の”true”、チェックOFF: 文字列の”false”、不定状態(不定状態が有効の場合)：空文字
- SpreadJSでのセル型がチェックボックスリストの場合は、データ型に「文字列」を指定してください。
  ユーザプログラム、外部連携ではカンマ区切りの文字列で値を設定・取得します。
  ※SpreadJSで設定するチェックボックスリスト項目値にカンマ「,」が含まれていると正常に動作しないため、カンマを含まない値を設定してください。

列番号

列番号が表示されます。
不要な列は削除してください。

コラム

- スプレッドシート内で関数を利用した場合、関数はスプレッドシート表示時に常に再実行されます。
  スプレッドシートでは、関数は式として保存されます。
  実行結果は保存されず、表示時に常に実行される動作が仕様となります。
- テーブルの列に関数を設定している場合、バインディングの設定を行うと関数が実行されなくなります。
  関数を実行する場合は、列の設定から対象列を削除してください。
- スプレッドシートでは、「 関数 」の「ワークフロー関数(申請情報)」「ワークフロー関数(案件情報)」が利用できます。

ボタンアイテム

ボタン(次へ)

画面アイテム「ボタン(次へ)」は、次の画面に遷移するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

利用方法

利用方法を設定します。

- 画面遷移(次へ)：次の画面に遷移します。タブフォームに設定している場合には、右のタブに遷移します。
- ポップアップ表示：ポップアップで表示します。

子画面サイズ（幅）

ポップアップ表示する子画面の横の長さ（幅）をピクセル単位で指定します。

子画面サイズ（高）

ポップアップ表示する子画面の縦の長さ（高さ）をピクセル単位で指定します。

Forma画面設定

子画面表示時

子画面表示時の処理を指定します。

- 子画面に値を反映：親画面から子画面に値を反映します。
- 何もしない：値の反映はしません。

フォーム遷移名

子画面に表示するフォーム遷移を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(戻る)

画面アイテム「ボタン(戻る)」は、前の画面に遷移するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

「戻る」ボタンの動作について

「戻る」ボタンは、ボタンが配置されたフォームの遷移前の画面、遷移先の画面によって動作が異なりますので、注意して配置してください。
「ヘッダー」の「戻る」リンクが表示された場合も同じ動作となります。

- フォーム遷移設定で、表示するフォーム件数が1件(単一のフォーム画面を表示する)の場合

フォームの遷移前の画面	**「戻る」ボタン／「戻る」リンクをクリックした後の遷移先の画面**
一覧表示画面	一覧表示画面
メニュー(サイトマップなど)	**画面遷移しません(クリックしても何も起こりません)**

- フォーム遷移設定で、表示するフォーム件数が2件以上(複数のフォーム画面を表示する)の場合

フォームの遷移前の画面	**「戻る」ボタン／「戻る」リンクをクリックした後の遷移先の画面**
一覧表示画面→前に表示するフォーム	前に表示するフォーム画面
メニュー(サイトマップなど)→前に表示するフォーム	前に表示するフォーム画面

最初に表示するフォームの場合の動作は、単一のフォーム画面を表示する場合と同様となります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

利用方法

利用方法を設定します。

- 画面遷移(戻る)：画面遷移で戻ります。タブフォームに設定している場合には、左のタブに遷移します。
- 子画面利用(閉じる)：子画面を閉じます。

クリック時の処理

クリック時の処理を指定します。

- 親画面に値を反映し画面を閉じる：画面を閉じる際に親画面に値を反映します。
- 画面を閉じる：画面を閉じます。

確認ダイアログ

チェックをオンにした場合、子画面を閉じる際にダイアログを表示します。

確認メッセージ

確認ダイアログに表示するメッセージを登録します。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(一覧へ戻る)

画面アイテム「ボタン(一覧へ戻る)」は、一覧画面に遷移するためのアイテムです。
遷移先の一覧画面は、アプリケーション種別や呼び出し元の画面によって異なります。
詳細は下記のページを参照してください。

- 「 IM-FormaDesigner 仕様書 」
  - 「 IM-FormaDesignerにおける画面遷移部品の仕様（アプリケーション種別「IM-Workflow」の場合） 」

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(BISフロー登録)

画面アイテム「ボタン(BISフロー登録)」は、入力したデータの登録処理を実行するためのアイテムです。
「処理」ボタンを押下すると、確認画面を表示せずに処理を実行します。
「オプション処理」を押下すると、確認画面を表示します。

> **注意**
> ボタン（BISフロー登録）は、IM-BIS for Accel Platform でのみ利用できます。

基本設定

ラベル（処理・オプション処理）

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称を、ボタン上に表示します。
「処理」に設定したラベルを左のボタン、「オプション処理」に設定したラベルを右のボタンに表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。

2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示（ボタン権限設定・有効時）



表示タイプ：表示（ボタン権限設定・無効時）



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(コピー新規)

画面アイテム「ボタン(コピー新規)」は、申請済みの案件を複製して申請を行うためのアイテムです。
一部のアイテムを除き、申請済み案件に入力した内容をコピーした状態で申請画面を表示できます。
詳細は「 IM-FormaDesigner 仕様書 」 - 「 WF申請書再利用の仕様 」を参照してください。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

> コラム
> 「ボタン(コピー新規)」は、表示タイプ「申請」で「表示」に設定しても、申請画面には表示されません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

共通マスタアイテム

ユーザ選択

画面アイテム「ユーザ選択」は、IM共通マスタのユーザを検索して入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

ユーザ検索画面 / 組織検索画面

ユーザ、組織の検索方法として利用できる画面(タブ)を選択します。
「表示タブ」に表示した画面(タブ)をアプリの実行時に利用できます。
表示するタブは上から順になりますので、右の矢印で並び順を変更することもできます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照

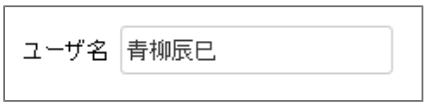
入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

組織選択

画面アイテム「組織選択」は、IM共通マスタの組織を検索して入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

組織名の表示

組織名を表示するときに、階層的に表示するかどうかを設定します。
チェックがオンの場合、組織名を上位組織から階層的に表示します。
（例）サンプル会社 / サンプル部門０１ / サンプル課１１

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

ユーザ検索画面 / 組織検索画面

ユーザ、組織の検索方法として利用できる画面(タブ)を選択します。
「表示タブ」に表示した画面(タブ)をアプリの実行時に利用できます。
表示するタブは上から順になりますので、右の矢印で並び順を変更することもできます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

組織・役職選択

画面アイテム「組織・役職選択」は、IM共通マスタの役職を検索して入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

所属組織選択

画面アイテム「所属組織選択」は、IM共通マスタの所属組織を検索して入力するためのアイテムです。

> **コラム**
>
> 「所属組織選択」には、再処理時に前回処理時の入力値は表示されません。
> 再処理画面を表示した時点のログインユーザの情報を反映する仕様により、前回処理（申請）時からログインユーザの情報に変更があった場合には無効な情報となっている可能性もあるため、再処理では常に初期値が表示されます。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

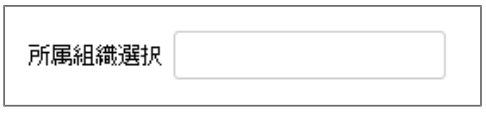
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

汎用アイテム

隠しパラメータ

画面アイテム「隠しパラメータ」は、フォーム上に表示させずに値を保持するためのアイテムです。

基本設定

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

スクリプト

画面アイテム「スクリプト」は、フォームの表示時に実行するスクリプトを記述するためのアイテムです。
スクリプトを書くためにはJavascriptの知識が必要です。jQueryを学ぶことにより、より高度な操作が簡単に行えます。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

スクリプト

コード実行タイミングは、DOMツリーが構築された直後です。
参考：$(document).ready(記述コード)

デフォルトでjQueryライブラリが読み込まれているので、自由に利用することができます。
コードの制限などはありません。
スクリプトにより各画面アイテムの操作方法が分からない場合は、フォーム実行時に生成されるHTMLをブラウザの機能で参

照し判断してください。

また、クライアントサイドスクリプトAPIを利用して、画面アイテムの値操作を行うことができます。

詳細：「 IM-BIS 仕様書 」-「 クライアントサイドスクリプトAPI 」

> **コラム**
>
> フォーム上に配置したアイテムのスクリプトの実行順は、HTML上での配置順に基づいて決定します。
> この配置順については、以下のいずれかの方法で設定されます。
>
> - ツールキットからフォーム編集画面（フォーム・デザイナ）に配置した順序
> - フォーム編集画面（フォーム・デザイナ）でのアイテムのコンテキストメニュー（右クリックで表示するメニュー）の前面や背面への移動
>   (前面への移動では実行順が後、背面への移動では実行順が前になります。)
>
> 実際のアイテムの配置順については、実行時のHTMLで確認してください。

> **注意**
>
> スクリプト操作による動作は製品では保証できません。十分な検証を行ってください。

> **注意**
>
> 「スマートフォン版」表示を利用する場合、以下の関数を利用して、「PC版」「スマートフォン版」でスクリプトの実行をコントロールしてください。
>
> - forma.funcs.getDisplayClientType()
>   実行しているクライアントを返却します。
>   - クライアントがPCの場合
>
>   「pc」と返却します。
>
>   - クライアントがスマートフォンの場合
>
>   「sp」と返却します。

スクリプトエディタで開く

クライアントサイド JavaScriptに関する開発に特化したエディタを使用して編集できます。
「確定」を押下することで、アイテムプロパティへ値を反映します。

スクリプトエディタでは配置した画面アイテムのクライアントサイドスクリプトAPIを補完できます。
補完できるAPIについては、「 IM-BIS 仕様書 」-「 クライアントサイドスクリプトAPI 」を参照してください。

> **コラム**
>
> 補完はスクリプトエディタ表示時に配置されていた画面アイテムが対象です。
> スクリプトエディタ表示後に画面アイテムを配置した場合は、スクリプトエディタを閉じ、再度表示することで補完対象にできます。

ボタン(イベント)

画面アイテム「ボタン(イベント)」は、ボタンでスクリプトを実行するためのアイテムです。
PDF印刷等の処理を行わせることができます。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上から

の縦位置をピクセル単位で指定します。

スクリプト

ボタンをクリックした時に実行する、javascriptコードを記述します。

デフォルトでjQueryライブラリが読み込まれているので、自由に利用することができます。
コードの制限などはありません。
スクリプトにより各画面アイテムの操作方法が分からない場合は、フォーム実行時に生成されるHTMLをブラウザの機能で参照し判断してください。

また、クライアントサイドスクリプトAPIを利用して、画面アイテムの値操作を行うことができます。

詳細：「 IM-BIS 仕様書 」-「 クライアントサイドスクリプトAPI 」

> **注意**
> スクリプト操作による動作は製品では保証できません。十分な検証を行ってください。

> **注意**
> 「スマートフォン版」表示を利用する場合、以下の関数を利用して、「PC版」「スマートフォン版」でスクリプトの実行をコントロールしてください。
>
> - forma.funcs.getDisplayClientType()
>   実行しているクライアントを返却します。
>   - クライアントがPCの場合
>
>   「pc」と返却します。
>   - クライアントがスマートフォンの場合
>
>   「sp」と返却します。

スクリプトエディタで開く

クライアントサイド JavaScriptに関する開発に特化したエディタを使用して編集できます。
「確定」を押下することで、アイテムプロパティへ値を反映します。

スクリプトエディタでは配置した画面アイテムのクライアントサイドスクリプトAPIを補完できます。
補完できるAPIについては、「 IM-BIS 仕様書 」-「 クライアントサイドスクリプトAPI 」を参照してください。

> **コラム**
> 補完はスクリプトエディタ表示時に配置されていた画面アイテムが対象です。
> スクリプトエディタ表示後に画面アイテムを配置した場合は、スクリプトエディタを閉じ、再度表示することで補完対象にできます。

採番

画面アイテム「採番」は、登録済みの採番ルール定義を利用して自動的に番号を取得して表示するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

採番ルール定義名

- 登録済みの採番ルール定義からどの採番ルール定義を利用するかを設定します。
- 採番ルール定義をフォームで利用する場合には、あらかじめ採番ルール定義の登録を行っておく必要があります。
- 初期設定では、「システムによる自動採番」が設定されています。
  「システムによる自動採番」で採番ルール定義を設定した場合は、JS API Identifier.get()を利用してシステム上一意な値を返します。

採番方法

- 採番をどのタイミングで行うかを設定します。
  - 画面アクセス毎
    画面を表示したタイミングで採番します。
    ただし、一時保存した状態で再度表示した場合には採番しません。
  - 登録処理毎
    画面で登録(申請)処理を行われたタイミングで採番します。
    正常に処理が完了したタイミングで番号が確定するため、登録(申請)前には何も表示されません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 処理

BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。

2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

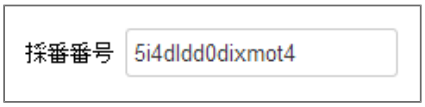
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

インラインフレーム

画面アイテム「インラインフレーム」は、フォーム上に枠を作り別のページを表示するためのアイテムです。

> **注意**
>
> インラインフレームは、IM-BIS for Accel Platform でのみ利用できます。
>
> - ご利用時の注意点
>   - 画面アイテム「インラインフレーム」を利用することで、様々なWebサイトを画面上に表示できますが、呼び出し先のWebサイトの設定を正しく設定しても、該当のサイトを表示できない場合がありますのでご了承ください。
>   - インライフレームの倍率が25%の場合、「フォーム・デザイナ」画面、実行画面で利用されているダイアログ（フォーム・デザイナ画面のツールキットやフィールド一覧など）がインラインフレームの後ろに隠れて表示されてしまう場合あります。
>   この現象は、URLに設定したWEBサイトによって発生します。
>   - 「Internet Explorer 8」では、倍率設定が正しく動作しませんので、注意してください。

基本設定

URL

インラインフレームに表示するサイトのURLを指定します。

パラメータ設定

送信方法

データの送信方法を「GET」「POST」のいずれかから選択します。

パラメータ設定

URLに設定した値（アドレス）に追加したいパラメータのキーと値の組み合わせを設定します。
「＋」「－」で追加と削除ができます。
左の行番号をドラッグすることで順番の入れ替えができます。

- パラメータキー

  パラメータキーを設定します。

- パラメータ値

  パラメータ値に設定されている状態を確認します。
  値の取得元がプロパティ設定値の場合、パラメータ値に設定した文字列がそのまま表示されます。
  データソース設定値の場合は、「データソース設定値」とだけ表示されます。

パラメータキー

編集対象のパラメータ値に対応するパラメータキーを選択します。

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

パラメータ値

パラメータに設定する値を登録します。
同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」を指定します。
任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

データソース設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」を指定します。
  任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。
- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

パラメータ設定値

パラメータに設定する値を登録します。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

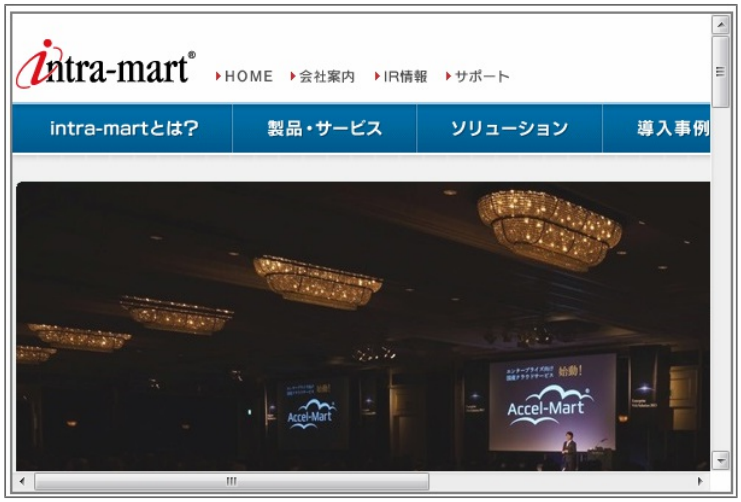
フレーム制御

インラインフレームの動作種別を設定します。
以下の項目から設定できます。

- 「利用しない」の場合
  インラインフレームを通常表示します。
  画面から直接インラインフレーム内の項目を操作できます。
  最大表示はできません。
  表示例）



- 「クリック／コントロールバー」の場合
  画面から直接インラインフレーム内の項目を操作できませんが、一度インラインフレーム内をクリックし、最大表示した後に操作できます。
  表示例）



- 「コントロールバー」の場合
  画面から直接インラインフレーム内の項目を操作できます。
  また、上部に表示されるバーで倍率と最大表示と縮小表示を行えます。
  表示例）



通常時の倍率

最大表示ではないときの倍率を指定します。
25%～275%の間で25%ごとに指定できます。

最大化時の倍率

コントロールバーの「クリック／コントロールバー」と「コントロールバー」を選択した場合に、最大表示のときの倍率を指定します。
25%～275%の間で25%ごとに指定できます。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

コントロールバースタイル

グラデーションパターン

コントロールバーにグラデーションを設定します。
以下の項目から選択できます。

- 利用しない
  グラデーションを利用せずに、コントロールバーを単色で表示します。
  コントロールバーの色を1色指定します。
- 縦方向
  コントロールバーの色1からコントロールバーの色2へと、上から下へ縦方向にグラデーションで表示します。
  コントロールバーの色を2色指定します。
- 横方向
  コントロールバーの色1からコントロールバーの色2へと、左から右へ横方向にグラデーションで表示します。
  コントロールバーの色を2色指定します。

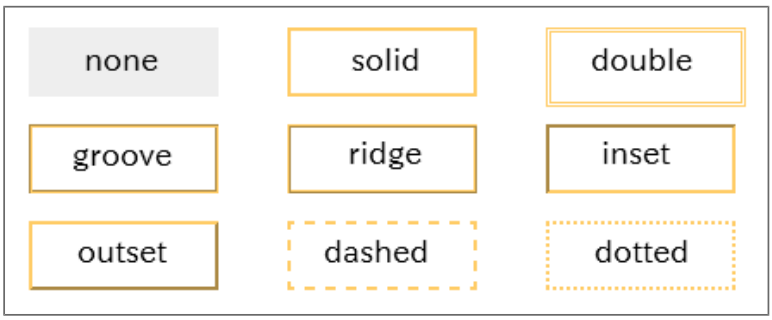
コントロールバーの色1
コントロールバーの色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
コントロールバーの色2
コントロールバーの色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

フレームスタイル

枠のスタイル

表示する画面アイテムの枠の形式を指定します。

- none：枠は表示されません。表のセルなどの枠が重なり合う場合は他の値が優先されます。
- solid：枠は1本の線で表示されます。
- double：枠は二重線で表示されます。
- groove：枠は立体的に窪んだ線で表示されます。
- ridge：枠は立体的に隆起した線で表示されます。
- inset：枠の内側が立体的に窪んだ線で表示されます。
- outset：枠の内側が立体的に隆起した線で表示されます。
- dashed：枠は破線で表示されます。
- dotted：枠は点線で表示されます。



- 枠のスタイルによる設定項目の違いについて

  枠のスタイルを特定の種類にした場合には、一部の設定項目が下記の通り変わります。
  設定した枠のスタイルの種類に合わせて、必要な項目を設定してください。

  - 正方形/長方形の場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	必須
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

  - インラインフレーム、BI表示アイテムの場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	任意
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

枠の太さ

表示する枠の太さをピクセル単位で指定します。

枠の色

枠の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

背景色
背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

BI表示アイテム

画面アイテム「BI表示アイテム」は、Jaspersoftのレポートをフォーム上に表示するためのアイテムです。

> **注意**
> 「BI表示アイテム」は、Jaspersoft 機能強化モジュールが導入されている環境でのみご利用いただけます。

基本設定

カテゴリ

レポートタイプを指定します。
Jaspersoftのレポートタイプに合わせて、レポート、チャート、ダッシュボードのいずれかを設定してください。

レポートパス

右の虫眼鏡アイコンからレポートを検索し、表示するレポートのパスを設定します。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

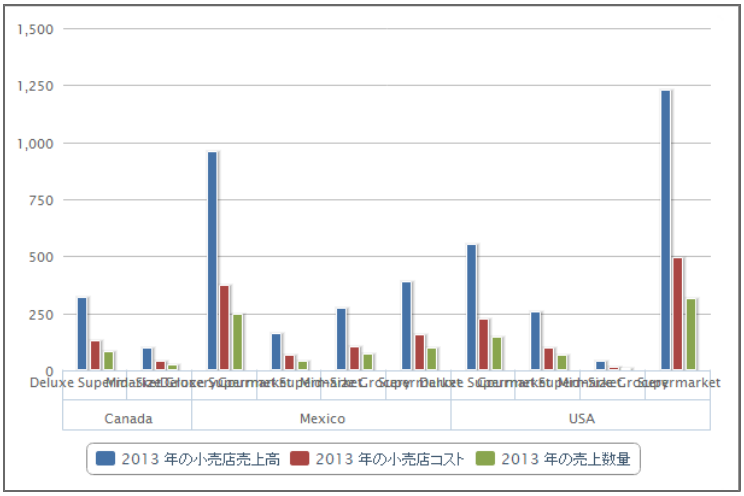
画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

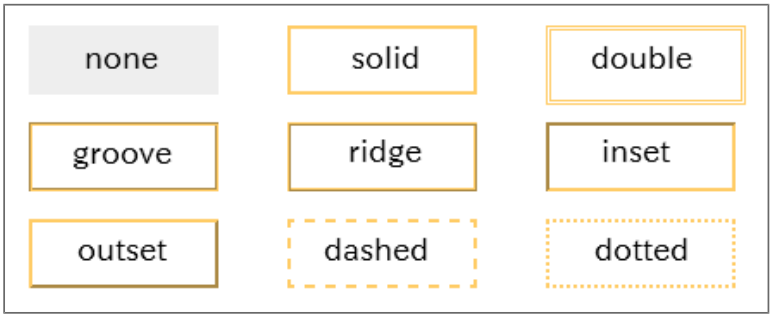
フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

枠のスタイル

表示するアイテムの枠の形式を指定します。

- none：枠は表示されません。表のセルなどの枠が重なり合う場合は他の値が優先されます。
- solid：枠は1本の線で表示されます。
- double：枠は二重線で表示されます。
- groove：枠は立体的に窪んだ線で表示されます。
- ridge：枠は立体的に隆起した線で表示されます。
- inset：枠の内側が立体的に窪んだ線で表示されます。
- outset：枠の内側が立体的に隆起した線で表示されます。
- dashed：枠は破線で表示されます。
- dotted：枠は点線で表示されます。



枠のスタイルによる設定項目の違いについて

枠のスタイルを特定の種類にした場合には、一部の設定項目が下記の通り変わります。
設定した枠のスタイルの種類に合わせて、必要な項目を設定してください。

- 正方形/長方形の場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	必須
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

- インラインフレーム、BI表示アイテムの場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	任意
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

枠の太さ

表示する枠の太さをピクセル単位で指定します。

枠の色

枠の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

背景色
背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ボタン(インポート)

画面アイテム「ボタン(インポート)」は、インポートを実行するためのアイテムです。
外部連携の設定を行うことで、インポートを実行することができます。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(エクスポート)

画面アイテム「ボタン(エクスポート)」は、エクスポートを実行するためのアイテムです。
外部連携の設定を行うことで、エクスポートを実行することができます。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

アノテーション

画面アイテム「アノテーション」は、画像に注釈を書き込んだり、注釈を含む画像ファイルとして保存することができるアイテムです。

> **コラム**
>
> 画面アイテム「アノテーション」は、IM-Annotation for Accel Platformを導入している環境であればご利用いただけます。
> IM-Annotation for Accel Platformは 2014 Winter(Iceberg) から 2017 Winter(Rebecca) まで提供しておりましたが、2018 Spring(Skylark) に機能が廃止されました。機能の廃止に伴い、画面アイテム「アノテーション」が削除されました。
> 2014 Winter(Iceberg) から 2017 Winter(Rebecca) までの環境では、現行どおり 画面アイテム「アノテーション」 を利用する事は可能です。
> 弊社テクニカルサポートセンターでの問合せ対応も引き続き可能です。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アノテーションID

アノテーションアイテムを一意に識別するためのIDとして利用します。
同一のアプリケーション内では、すべてのアノテーションアイテムのアノテーションIDが一意になるように設定してください。

権限設定

アノテーションの権限を設定します。
画像追加設定

画像の追加設定を行います。

- 画像の追加ができない：画像の取り込みができなくなります。
- 画像の追加ができる：画像の取り込みができるようになります。

ノード毎のレイヤー上限数
ノード毎に作成できるレイヤーの上限数を設定します。
Tiff出力

アノテーションアイテムで作成した画像とレイヤーをTiff形式で出力する設定をします。

- 出力しない：Tiff形式での出力はしません。
- フロー名で保存：「フロー名.tiff」のファイル名で、Tiff形式で出力します。
- 任意の名前で保存：入力して指定したファイル名でTiff形式で出力します。

Tiff圧縮形式

Tiff出力を行う場合、その画像の圧縮形式を設定します。

- 圧縮しない：Tiff画像を無圧縮で出力します。
- Zlib形式：Tiff画像をZIP圧縮で出力します。
- JPEG形式：Tiff画像をJPEG圧縮で出力します。

履歴出力

ノード毎の履歴画像の出力有無を設定します。
「出力する」を設定した場合、storageに各ノード処理時点での画像が保存できます。

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

Canvasプロパティ

Canvasのサイズを設定します。
画像幅
画像を表示する領域の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
画像高さ
画像を表示する領域の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

コントロールバースタイル

グラデーションパターン

コントロールバーにグラデーションを設定します。
以下の項目から選択できます。

- 利用しない
  グラデーションを利用せずに、コントロールバーを単色で表示します。
  コントロールバーの色を1色指定します。
- 縦方向
  コントロールバーの色1からコントロールバーの色2へと、上から下へ縦方向にグラデーションで表示します。
  コントロールバーの色を2色指定します。

- 横方向
  コントロールバーの色1からコントロールバーの色2へと、左から右へ横方向にグラデーションで表示します。
  コントロールバーの色を2色指定します。

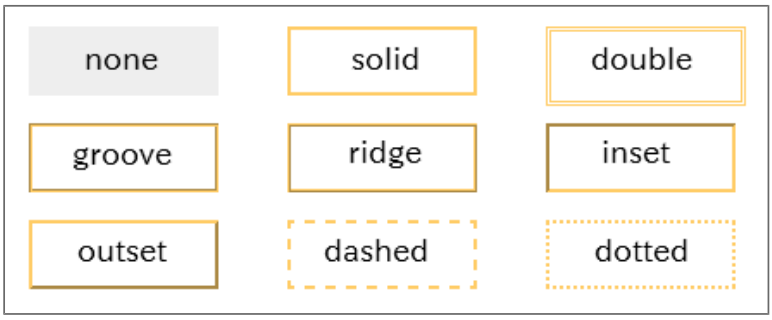
コントロールバーの色1
コントロールバーの色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
コントロールバーの色2
コントロールバーの色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

Canvasスタイル

枠のスタイル

表示するアイテムの枠の形式を指定します。

- none：枠は表示されません。表のセルなどの枠が重なり合う場合は他の値が優先されます。
- solid：枠は1本の線で表示されます。
- double：枠は二重線で表示されます。
- groove：枠は立体的に窪んだ線で表示されます。
- ridge：枠は立体的に隆起した線で表示されます。
- inset：枠の内側が立体的に窪んだ線で表示されます。
- outset：枠の内側が立体的に隆起した線で表示されます。
- dashed：枠は破線で表示されます。
- dotted：枠は点線で表示されます。



枠のスタイルによる設定項目の違いについて

枠のスタイルを特定の種類にした場合には、一部の設定項目が下記の通り変わります。
設定した枠のスタイルの種類に合わせて、必要な項目を設定してください。

- アノテーションの場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	必須
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

枠の太さ

表示する枠の太さをピクセル単位で指定します。

枠の色

枠の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

背景色
背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

コラム

画面アイテム「アノテーション」は、IM-Annotation for Accel Platformを導入している環境であればご利用いただけます。
IM-Annotation for Accel Platformは 2014 Winter(Iceberg) から 2017 Winter(Rebecca) まで提供しておりましたが、2018 Spring(Skylark) に機能が廃止されました。機能の廃止に伴い、画面アイテム「アノテーション」が削除されました。
2014 Winter(Iceberg) から 2017 Winter(Rebecca) までの環境では、現行どおり 画面アイテム「アノテーション」 を利用する事は可能です。
弊社テクニカルサポートセンターでの問合せ対応も引き続き可能です。

表示アイテム

見出し

画面アイテム「見出し」は、フォーム上に見出しを表示するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

見出しのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称を、見出し上に表示します。

見出しレベル

見出しの大きさを1～5の間で選択します。
数が小さいほど、表示が小さくなります。
「1」に設定した場合が、大きさは最大となり、「5」に設定した場合が、大きさは最小となります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

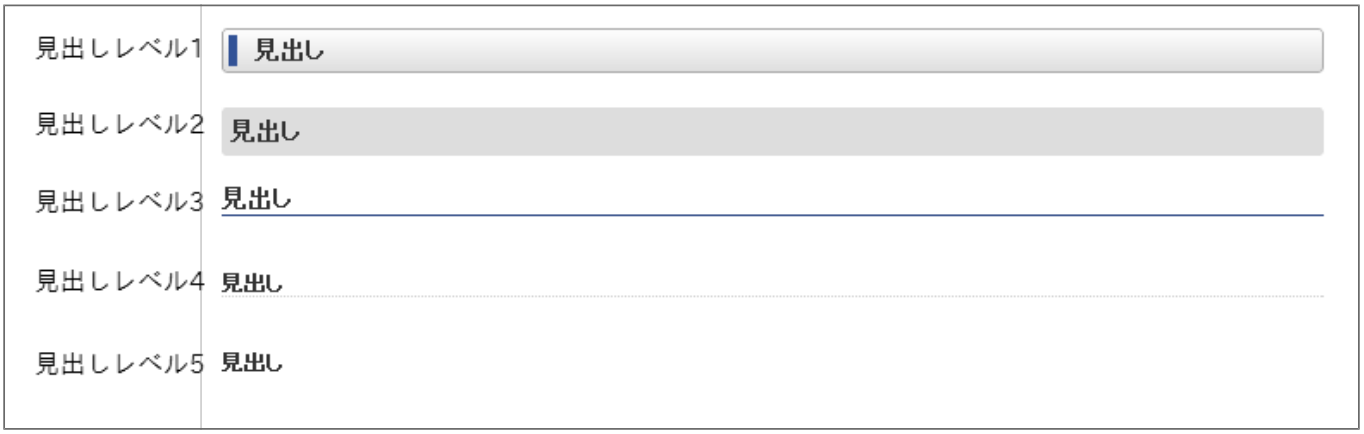
画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

横線

画面アイテム「横線」は、フォーム上に横線を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

太さ

表示する線の太さをピクセル単位で指定します。

色

線の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

縦線

画面アイテム「縦線」は、フォーム上に縦線を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

太さ

表示する線の太さをピクセル単位で指定します。

色

線の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

正方形/長方形

画面アイテム「正方形/長方形」は、フォーム上に正方形や長方形を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

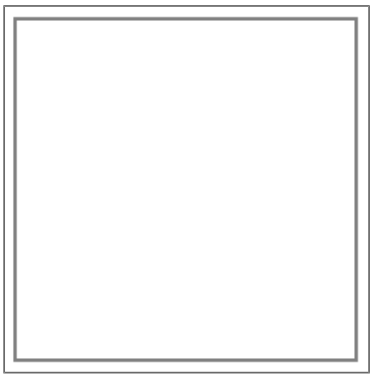
1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

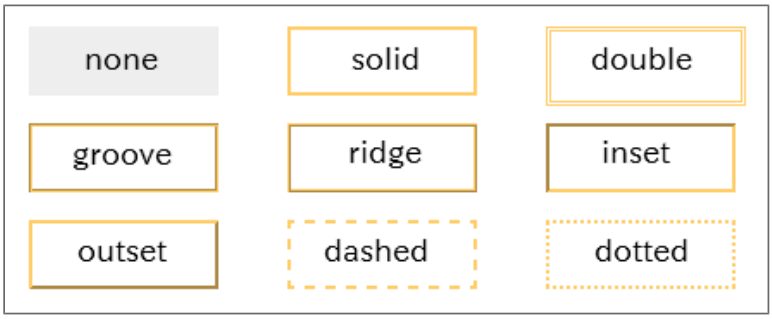
フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

枠のスタイル

表示するアイテムの枠の形式を指定します。

- none：枠は表示されません。表のセルなどの枠が重なり合う場合は他の値が優先されます。
- solid：枠は1本の線で表示されます。
- double：枠は二重線で表示されます。
- groove：枠は立体的に窪んだ線で表示されます。
- ridge：枠は立体的に隆起した線で表示されます。
- inset：枠の内側が立体的に窪んだ線で表示されます。
- outset：枠の内側が立体的に隆起した線で表示されます。
- dashed：枠は破線で表示されます。
- dotted：枠は点線で表示されます。



枠のスタイルによる設定項目の違いについて

枠のスタイルを特定の種類にした場合には、一部の設定項目が下記の通り変わります。
設定した枠のスタイルの種類に合わせて、必要な項目を設定してください。

- 正方形/長方形の場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	必須
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

- インラインフレーム、BI表示アイテムの場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	任意
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

枠の太さ

表示する枠の太さをピクセル単位で指定します。

枠の色

枠の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

背景色
背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

イメージ

画面アイテム「イメージ」は、フォーム上に任意の画像を表示するためのアイテムです。

基本設定

イメージ選択

配置した場所に表示する画像ファイルを指定します。
指定できる画像ファイルは、「フォーム・デザイナ」画面上の「画像アップロード」で事前にアップロード済みの画像ファイルに限られます。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ラベル

画面アイテム「ラベル」は、フォーム上にラベル(太字や文字色などの装飾を行った文字)を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。

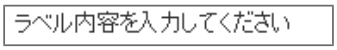
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

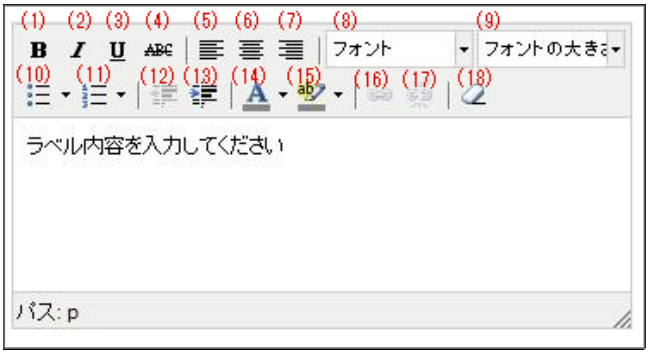
フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ラベル編集

ラベル内容

ラベルに表示する文字、文字の書式を設定します。

ラベルの内容の編集時に利用できるツールバーと各部の説明



1. 太字

   太字にしたい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、太字で表示します。

2. 斜体(イタリック体)

   斜体にしたい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、斜体で表示します。

3. 下線

下線を付加したい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、下線を表示します。

4. 取り消し線

   取り消し線を付加したい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、取り消し線を表示します。

5. 左揃え

   文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を左揃えで表示します。

6. 中央揃え(センタリング)

   文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を中央揃えで表示します。

7. 右揃え

   文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を右揃えで表示します。

8. 文字の種類

   文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字のフォントの種類を変更します。
   選択できるフォントは、操作しているパソコンにインストール済みの英字フォントに限られます。

9. 文字サイズ

   文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字のサイズを変更します。

10. 番号なしリスト

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を番号なしリストの形式に変更します。

11. 番号つきリスト

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を番号つきリストの形式に変更します。

12. 字下げを減らす

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字の字下げのレベルを下げます。

13. 字下げを増やす

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字の字下げのレベルを上げます。

14. 文字の色

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字の色を変更します。

15. 背景の色

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を蛍光ペンでマーキングしたように表示します。

16. リンクの挿入や編集

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックし、URLを設定すると、ハイパーリンクとして表示します。

17. リンクを解除

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、ハイパーリンクを解除します。

18. 書式の削除

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、設定済みの書式設定を削除します。

ラベルのエディタの「文字の種類」の選択状態について

- ラベルの内容の設定で、「文字の種類」の変更後にプロパティ画面を一度閉じてから再表示した際の「文字の種類」

の選択状態は、ご利用のブラウザによって選択されたフォント名が表示される場合と初期値(“フォント”)が表示される場合があります。
こちらは、ラベルの内容を編集するエディタとしている「TinyMCE」というオープンソースのツールの仕様によるものとなりますので、ご了承ください。

ワークフローアイテム

案件情報表示

画面アイテム「案件情報表示」は、フォーム上にワークフローの案件情報を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

表示項目

ワークフローに関する情報のうち、表示する項目を指定します。
表示する項目を「表示項目」、非表示とする項目は「非表示項目」に設定することで、必要な情報のみをフォーム上に表示できます。
「表示項目」右のアイコンで並び順を変えると、表示する項目の順番を変更することができます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示

案件番号	0000000008
案件名	Formaサンプル
申請者	青柳辰巳
申請日	2012/09/25
申請基準日	2012/09/25

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単

位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

添付ファイル表示

画面アイテム「添付ファイル表示」は、フォーム上にワークフローで添付したファイルを表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

フロー画像表示

画面アイテム「フロー画像表示」は、フォーム上にワークフローのフロー画像を表示するためのアイテムです。

詳細設定

フローの表示方法

フロー画像の表示方法を選択します。

フレーム表示

フロー画像をフレーム形式で表示します。
プロパティのアイテムサイズ内で表示できない場合には、スクロールバーを表示します。

画像表示

フロー画像を画像形式で表示します。
プロパティのアイテムサイズ内で表示できない場合には、範囲に入りきらない部分は切り捨てて表示します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

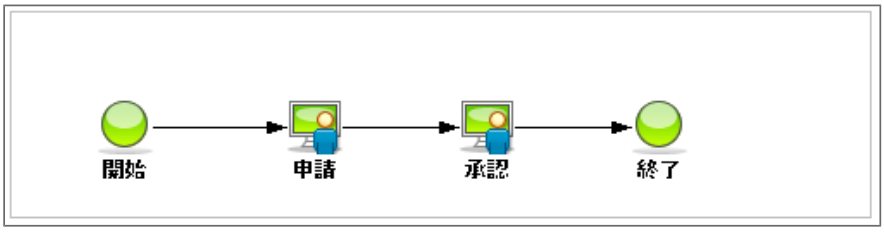
画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

処理履歴表示

画面アイテム「処理履歴表示」は、フォーム上にワークフローの処理履歴を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

表示項目

ワークフローに関する情報のうち、表示する項目を指定します。
表示する項目を「表示項目」、非表示とする項目は「非表示項目」に設定することで、必要な情報のみをフォーム上に表示できます。
「表示項目」右のアイコンで並び順を変えると、表示する項目の順番を変更することができます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示

処理履歴						
処理日時	ノード名	処理	処理者	代理先	担当組織	コメント
2012/09/25 18:47	申請	申請	吉柳辰巳		サンプル課11	よろしくお願いします。

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

印影表示

画面アイテム「印影表示」は、フォーム上にワークフローの印影を表示するためのアイテムです。

詳細設定

最大表示列数

表示する印影の欄の列数を設定します。

並び順

印影の欄の表示する順番を設定します。
「ノード順」の場合は、フローの順番に左から表示します。
「ノード逆順」の場合は、フローの順番に右から表示します。

ノード名表示

印影欄の上に、ワークフローで設定しているノードの名称を表示するかを設定します。
非表示にした場合は、印影欄のみを表示します。

印影欄表示

印影欄の表示方法を設定します。
「全ての印影欄表示」の場合は、印影の押印の有無に関わらず、常にすべての印影欄を表示します。
「押印された印影欄のみ表示」の場合は、押印されている印影欄のみを表示します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

互換用アイテム

より高度な連携機能を使用できる新しいアイテムに置き換えられた、従来のアイテムを互換用アイテムとしています。

一覧選択

画面アイテム「一覧選択」は、データベースから入力値を検索して入力するためのアイテムです。
外部連携の設定を行うことで、一覧選択を実行することができます。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 -「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット

コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。

注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。

注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
アカウント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123 456 789,123
テナント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123.456.789,123
システム設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ▪ 123456789.123 ▪ 123‘456‘789.123



コラム

クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)

ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

外部連携

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
  - 別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 簡易検索機能
  - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で簡易検索機能を利用できるようにします。
- 詳細検索機能
  - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で詳細検索機能を利用できるようにします。
- 検索結果表示（初期表示時）
  - チェックがオンの場合、初期表示時に検索結果を表示します。
    対象データ件数が多いときの初期表示時のパフォーマンスを考慮し、初期表示時に検索結果を表示させたくない場合に設定します。
- 項目幅の自動調整
  - チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
    チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。
    表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。
- 初期表示のソート順
  - 初期表示時の検索結果表のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を指定します。
- 非表示項目、一覧表示項目
  - クエリの取得値の設定項目のうち、一覧に表示する項目を「一覧表示項目」の枠に、一覧に表示しない項目を「非表示項目」に設定します。



コラム

一覧選択画面での簡易検索機能は、出力値に設定されているすべての「文字列型」の列に対して部分一致で行います。
一覧選択画面での詳細検索機能は、列毎に詳細な検索をすることができます。



注意

IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整と初期表示のソート順の設定を追加しました。

- IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
  「 画面設計書出力 」での出力値は空白で出力されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」

（※）を指定します。
任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータのどの取得項目を画面アイテムに表示するかを設定します。

1. ラジオボタン
   「一覧選択」の入力欄に表示する値を設定します。
   取得項目が1つの場合は、変更できません。

2. 取得値を表示する画面アイテム
   フォーム上の他の画面アイテムに取得するデータを表示する場合に、セレクトボックスからフィールド識別名で設定します。
   - 取得値に設定できるアイテム
     - 文字列（product_72_textbox）
     - 複数行文字列（product_72_textarea）
     - 数値（product_72_number）
     - 日付（product_72_date）
     - 期間（product_72_term）
     - 一覧選択（互換用）（product_72_itemSelect）
     - 隠しパラメータ（product_72_hidden）

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照

入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

明細テーブル

画面アイテム「明細テーブル」は、アプリの実行時に自由に行を追加して表形式で入力するためのアイテムです。

項目

- 基本設定
- 詳細設定
- 表示スタイル
- 列プロパティ概要
- 列プロパティ(文字列)
- 列プロパティ(数値)
- 列プロパティ(日付)
- 列プロパティ(関数)
- 列プロパティ(隠しパラメータ)
- 列プロパティ(一覧選択)
- 列プロパティ(ラジオボタン)
- 列プロパティ(セレクトボックス)
- 明細テーブルの行のコピー、挿入、削除方法

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、アイテムの上に表示します。

行の定義

テーブルに追加できる行について設定します。

行追加可能

チェックをオンにした場合、アプリケーションの実行時に行を追加することができます。

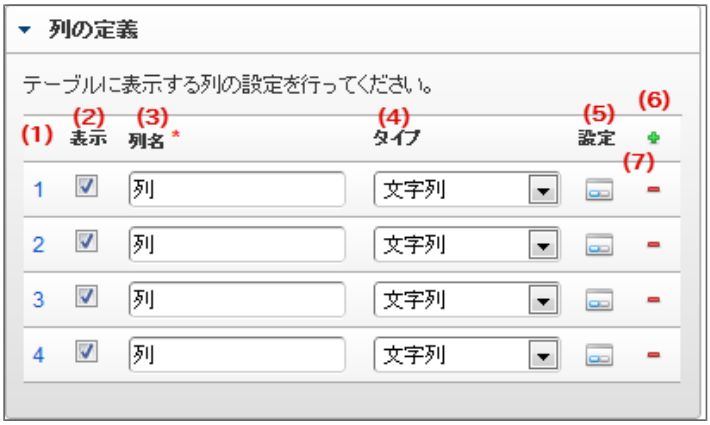
行数

「行追加可能」のチェックがオフの場合、テーブルに表示する行数を設定できます。

最大行数

「行追加可能」のチェックがオンの場合、テーブルに追加できる行の最大値を設定できます。
入力した行数まで追加できるようになるため、1以上の値を設定してください。

列の定義



明細テーブルの列を設定します。

1. 列番号

   列の表示順を設定します。
   列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

2. 表示

   列の表示/非表示を設定します。
   チェックがオフの場合、列は画面に表示されませんが、値の設定・取得等に利用することができます。
   タイプが「隠しパラメータ」の場合、必ずチェックがオフ(非表示)になります。

3. 列名

   列の名称を設定します。
   明細テーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

4. タイプ

   列のデータ型を設定します。
   関数や一覧選択等の他の画面アイテムを参照できるタイプの場合には、「関数」「一覧選択」で利用する場合と同様に、対象のフィールド識別IDを利用することで指定できます。

5. 設定

   クリックすると、列の詳細設定(入力フィールド、入力チェック等)画面に遷移します。

6. 追加

   クリックすると、明細テーブルの列を追加します。

7. 削除

   クリックすると、明細テーブルの列を削除します。



コラム

- 明細テーブルの表示について
  明細テーブルのテーブル、列の表示・非表示、表示タイプについては、以下の通りの動作となります。
  明細テーブルの「列の定義」での列の表示・非表示は、テーブルの表示タイプが表示であれば、列の定義を非表示にした場合も値を保持することができます。
  表示タイプは、列の表示タイプが設定されている場合には、テーブルの表示タイプより列の表示タイプの設定が優先されます。
  テーブルの表示タイプを非表示とした場合には、列の表示タイプを設定することはできません。
  テーブル・列の表示タイプの設定で非表示とした場合には、データは保持されません。

詳細設定

テーブル識別ID

明細テーブル、グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブルの物理名として利用します。
フォーム間でテーブル同士の値の引継ぎをする場合は、テーブル識別IDを同じにする必要があります。



注意

BIS作成種類「BISフロー」「ワークフロー」の場合、「定義の反映」によってテーブルが自動作成されるため、以下の注意事項があります。

- テーブル識別IDに設定可能な文字数は6文字です。
- テーブル識別IDとして設定な可能な文字は、半角英数字小文字、”_”（アンダーバー）に限ります。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

列番号表示(参照時)

明細テーブルのテーブルに対する表示タイプが「参照」となっている場合に、左の列番号の表示を設定します。
チェックがオンになっている場合、入力時と同様の列番号を表示します。

- 列番号表示が有効の場合

明細テーブル

	列	列	列	列
1	ABC	DEF	GHI	JKL
2	MNO	PQR	STU	VWX

- 列番号表示が無効の場合

明細テーブル

列	列	列	列
ABC	DEF	GHI	JKL
MNO	PQR	STU	VWX

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

明細テーブル

✚	列	列	列	列
1				

表示タイプ：参照

明細テーブル

列	列	列	列

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

列のサイズ・配置

列のサイズ
列の入力欄の標示の幅をピクセル単位で指定します。
横位置揃え
列の値の横位置を左寄せ、中央寄せ、右寄せのいずれかに設定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

列プロパティ概要

列プロパティは、「基本設定」 -> 「列の定義」 -> 「設定」をクリックして設定することができます。
明細テーブルの列プロパティには、以下のタイプがあります。
それぞれのタイプで、列プロパティの設定内容が異なります。

タイプ	説明
文字列	文字や数値などで短い文章を入力するときに使用するタイプです。
数値	金額や個数などの数値を入力するときに使用するタイプです。
日付	日付を入力するときに使用するタイプです。
関数	日付や数値の計算や、関数を使用して処理するときに使用するタイプです。
隠しパラメータ	フォーム上に表示させずに、値を保持するときに使用するタイプです。
一覧選択	外部連携を使用し、入力値を一覧から選択して入力するときに使用するタイプです。
ラジオボタン	複数項目から入力値をボタンで、１つ選択するときに使用するタイプです。
セレクトボックス	複数項目から入力値をプルダウンで、１つ選択するときに使用するタイプです。

列プロパティ(文字列)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「文字列」の場合には、以下の項目を設定します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。

2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(数値)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「数値」の場合には、以下の項目を設定します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123
アカウント設定	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ■ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ■ 123456789,123 ■ 123 456 789,123
テナント設定	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ■ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ■ 123456789,123 ■ 123.456.789,123
システム設定	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ■ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ■ 123456789.123 ■ 123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(日付)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「日付」の場合には、以下の項目を設定します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。

2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(関数)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「関数」の場合には、以下の項目を設定します。

式

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*
- *ワークフロー関数(申請情報)*
- *ワークフロー関数(案件情報)*

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがなど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット

> **コラム**
>
> IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。
>
> - 数値表示のフォーマット処理を改善します。
>   https://issue.intra-mart.jp/issues/27791
>
> これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。
>
> > **注意**
> >
> > 設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
> > 使用の際は十分な検証を行ってください。
> >
> > - アカウント設定
> > - テナント設定
> > - システム設定
> >
> > 詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123
アカウント設定	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ■ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ■ 123456789,123 ■ 123 456 789,123
テナント設定	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ■ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ■ 123456789,123 ■ 123.456.789,123
システム設定	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ■ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ■ 123456789.123 ■ 123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。

「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(隠しパラメータ)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「隠しパラメータ」の場合には、以下の項目を設定します。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがなど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

列プロパティ(一覧選択)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「一覧選択」の場合には、データソース設定のリンクからデータソースに関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
  - 別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 簡易検索機能
  - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で簡易検索機能を利用できるようにします。
- 詳細検索機能
  - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で詳細検索機能を利用できるようにします。
- 検索結果表示（初期表示時）
  - チェックがオンの場合、初期表示時に検索結果を表示します。
    対象データ件数が多いときの初期表示時のパフォーマンスを考慮し、初期表示時に検索結果を表示させたくない場合に設定します。
- 項目幅の自動調整
  - チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
    チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。
    表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。
- 初期表示のソート順

- 初期表示時の検索結果表のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を指定します。
- 非表示項目、一覧表示項目
  - クエリの取得値の設定項目のうち、一覧に表示する項目を「一覧表示項目」の枠に、一覧に表示しない項目を「非表示項目」に設定します。

> **コラム**
>
> 一覧選択画面での簡易検索機能は、出力値に設定されているすべての「文字列型」の列に対して部分一致で行います。
> 一覧選択画面での詳細検索機能は、列毎に詳細な検索をすることができます。

> **注意**
>
> IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整と初期表示のソート順の設定を追加しました。
>
> - IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
>   「 画面設計書出力 」での出力値は空白で出力されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。
  任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

  ※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。
- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータのどの取得項目を画面アイテムに表示するかを設定します。

1. ラジオボタン
   「一覧選択」の入力欄に表示する値を設定します。
   取得項目が1つの場合は、変更できません。

2. 取得値を表示する画面アイテム
   フォーム上の他の画面アイテムに取得するデータを表示する場合に、セレクトボックスからフィールド識別名で設定します。
   - 取得値に設定できるアイテム
     - 文字列（product_72_textbox）
     - 複数行文字列（product_72_textarea）
     - 数値（product_72_number）

- 日付（product_72_date）
- 期間（product_72_term）
- 一覧選択（互換用）（product_72_itemSelect）
- 隠しパラメータ（product_72_hidden）

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(ラジオボタン)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「ラジオボタン」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。

項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。
  任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

  ※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。
- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値
   画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。

2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(セレクトボックス)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「セレクトボックス」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。
  任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

  ※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。
- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値
   画面上に表示する値に設定します。
2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。

テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

明細テーブルの行のコピー、挿入、削除方法

行のコピー、挿入、削除方法について説明します。

行のコピー

行のコピーを行います。

1. コピー対象の番号を右クリックします。



2. 「コピー」をクリックします。



3. 挿入対象の番号で右クリックし、「コピーした行の挿入」をクリックします。



4. コピーした行が挿入されます。



行の挿入

行の挿入を行います。

1. 「＋」アイコンまたは、挿入対象の番号で右クリックし、「挿入」をクリックします。



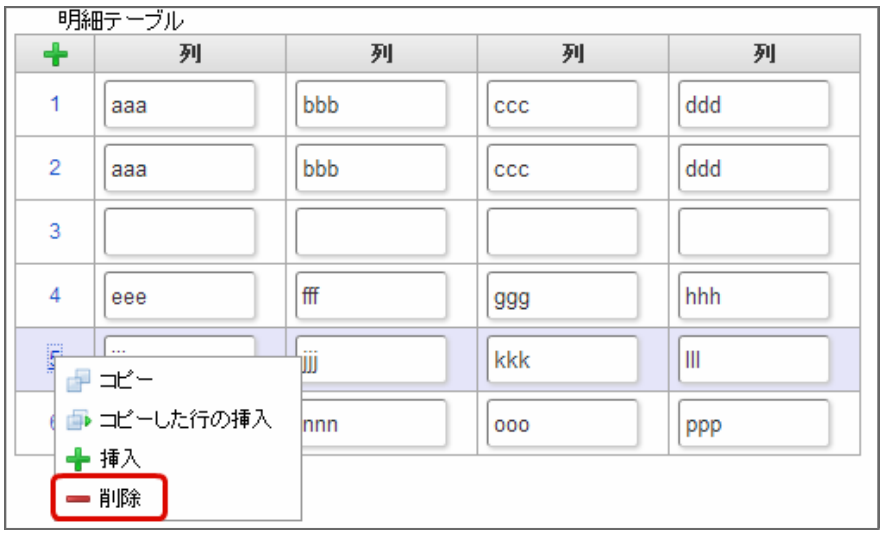
2. 行が挿入されます。



行の削除

行の削除を行います。

1. 削除対象の番号で右クリックし、「削除」をクリックします。



2. 行が削除されます。



コラム

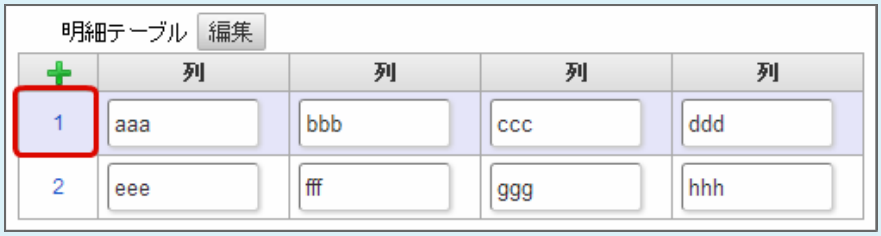
- スマートフォンの場合

  スマートフォンでは、以下の処理を行うことができます。

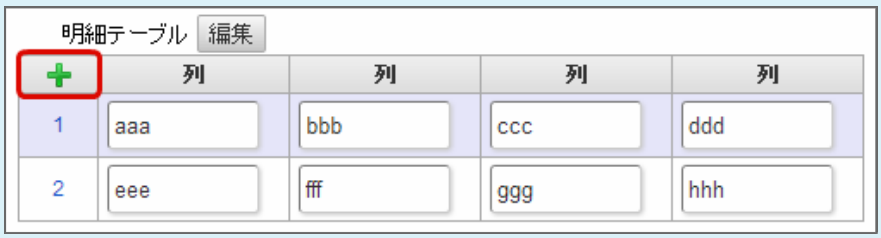
  - 行のコピー
  - 行の削除

  行のコピーを行います。

  1. 番号をクリックし、コピー対象を選択します。



  2. 「＋」をクリックします。



  3. コピーした行が挿入されます。



行の削除を行います。

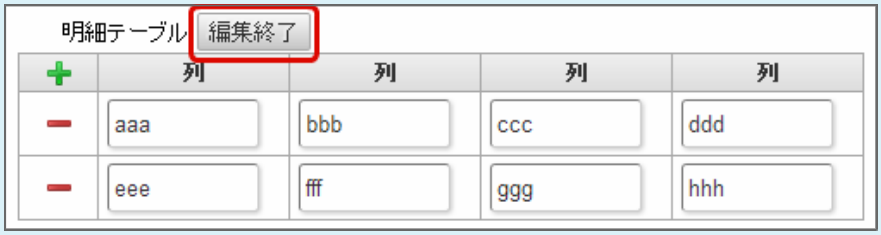
1. 「編集」ボタンをクリックします。



2. 「ー」をクリックします。



3. 「編集終了」ボタンをクリックします。



4. 対象行が削除されます。



チェックボックス

画面アイテム「チェックボックス」は、複数項目から入力値を選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。

同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。
任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値
   画面上に表示する値に設定します。
2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

項目幅

各選択肢の表示値の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

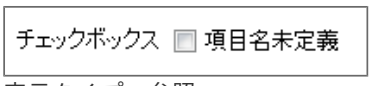
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

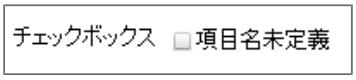
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ラジオボタン

画面アイテム「ラジオボタン」は、複数項目から入力値を 1 つ選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、－によって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。
  任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

  ※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*
- *ワークフロー関数(申請情報)*
- *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値
   画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

項目幅

各選択肢の表示値の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

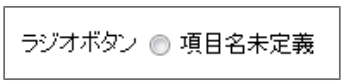
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

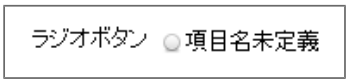
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

セレクトボックス

画面アイテム「セレクトボックス」は、複数項目から入力値を 1 つ選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。

任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値
   画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

リストボックス

画面アイテム「リストボックス」は、複数項目から入力値を選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。

任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値
   画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

行数

画面に表示する選択肢の個数を指定します。
選択肢の個数が行数に設定した値より多い場合は、スクロールバーを利用して選択します。

参照時セパレータ

表示タイプ「参照」で、選択済みの複数の値を表示する際の区切り文字を設定します。
参照時セパレータの値に関係なく、データベース上では、複数の値が選択済みの場合には「,」を区切り文字として使用します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

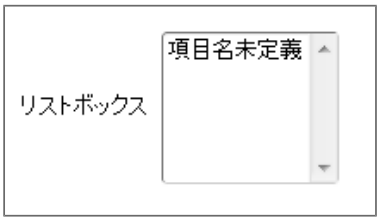
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



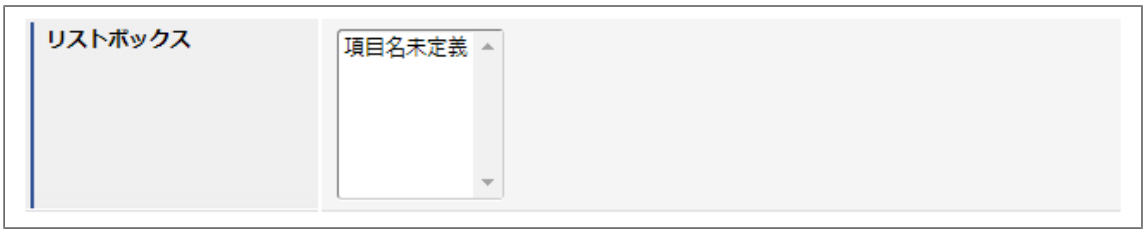
アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。



コラム
画面アイテムの仕様についての補足は「 *アイテム仕様の補足* 」を参照してください。

アプリケーション種別「BIS-ワークフロー」で利用できる画面アイテム

入力アイテム

文字列

画面アイテム「文字列」は、文字や数値などを入力するためのアイテムです。
改行を含む長い文章は入力できません。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

複数行文字列

画面アイテム「複数行文字列」は、改行を伴う文字や数値などを入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

フィールド高

入力欄の表示の高さをピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。

- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

数値

画面アイテム「数値」は、金額や個数などの数値を入力するためのアイテムです。
前にゼロを付加する”000123”のようなコード項目には利用できません。

基本設定

[前]ラベル / [後]ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
[前]ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。
[後]ラベルに設定した名称を、入力欄の右に表示します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット

コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。

注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。

注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
アカウント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123 456 789,123
テナント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123.456.789,123
システム設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ▪ 123456789.123 ▪ 123‘456‘789.123



コラム

クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

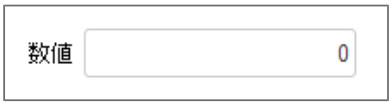
1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



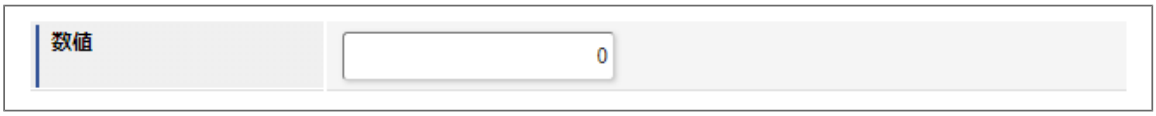
アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

関数

画面アイテム「関数」は日付や数値の計算や関数を利用して処理するためのアイテムです。

“＋”や”ー”などの演算子や、IM-FormaDesigner for Accel Platformで用意している各種関数を利用することができます。

基本設定

[前]ラベル / [後]ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
[前]ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。
[後]ラベルに設定した名称を、入力欄の右に表示します。

式

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*
- *ワークフロー関数(申請情報)*
- *ワークフロー関数(案件情報)*

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定

- ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。

- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット

コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。

注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。

注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ▪ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	▪ 123456789.123 ▪ 123,456,789.123

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
3桁カンマ・小数点ピリオド	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ▪ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	▪ 123456789.123 ▪ 123,456,789.123
アカウント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123 456 789,123
テナント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123.456.789,123
システム設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ▪ 123456789.123 ▪ 123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

日付

画面アイテム「日付」は、１つの日付を入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

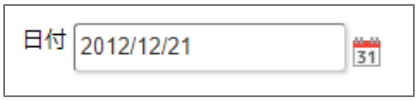
1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

期間

画面アイテム「期間」は、開始日・終了日等の一定期間を表す日付を入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

各設定項目の[始]は、期間の開始日、[終]は、期間の終了日に対応します。

詳細設定

各設定項目の[始]は、期間の開始日、[終]は、期間の終了日に対応します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

セパレータ

２つの日付の入力欄の間に表示する期間の範囲を表す文字を設定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



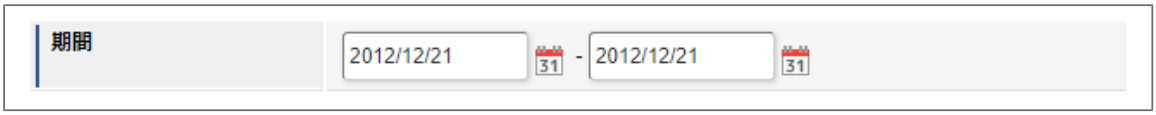
アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

各設定項目の[始]は、期間の開始日、[終]は、期間の終了日に対応します。

セパレータスタイル

セパレータの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

一覧選択

画面アイテム「一覧選択」は、データベースから入力値を絞込みして入力するためのアイテムです。
外部連携の設定を行うことで、一覧選択を実行することができます。

> **注意**
>
> 外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、以下の点に注意してください。
>
> - 一覧選択の虫眼鏡アイコンを、クリックした後に表示される一覧選択画面には、改ページ機能がありません。
>   そのため、取得したデータが最大表示行数を超える場合には、最大表示行数までで打ち切られて表示されます。
>   また、一覧選択画面の絞り込み機能を用いても、打ち切られたデータを表示させることはできませんので
>   一覧選択画面を表示する際の外部連携の条件、または最大表示行数の設定を見直してください。
> - クエリを使用して大量データを処理する場合は、改ページ機能を使用できる互換用アイテムが便利です。
>   「一覧選択」（互換用アイテム）をご利用ください。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがなど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。

スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

外部連携

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
  別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 最大表示行数
  一覧画面上に表示できる最大行数を設定します。
  外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」の場合、改ページ機能があるため、最大表示行数の設定は無効となります。
- マルチセレクト
  チェックがオンの場合、一覧画面上で複数行を選択できます。
  複数の行を選択した場合でも、画面アイテム「一覧選択」のフィールドには最初の1件しか反映されませんので注意してください。
- 項目幅の自動調整
  チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
  チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。
  表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。
- 列番号
  列の表示順を設定します。
  列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。
- 表示
  一覧画面に表示するかどうかを設定します。
  チェックがオンの場合に一覧画面に表示します。
- 列名
  一覧画面に表示する列名を設定します。
- 列ID
  一覧画面に表示する列を一意に識別するためのIDです。
  データマッパー上では、「{列名} | {列ID}」の形式で表示されます。
- タイプ
  列のデータ型を設定します。
- ソート
  初期表示時の一覧画面のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を設定します。
  いずれかの列について、昇順/降順を指定することで、初期表示のソート対象項目に設定できます。
  すべての列でソートを空白指定した場合、一番上の列の昇順でソートされます。



コラム
一覧選択画面での検索は、表示列に設定されている全ての「文字列型」の列に対して部分一致で行います。



注意

IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整とソートの設定を追加しました。

- IM-FormaDesigner 2022Spring 以前に作成した定義を利用する場合、かつ、外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、項目幅の自動調整と初期表示時のソート順の設定について、一覧選択画面の表示とプロパティの設定で差異が生じます。
  そのため、一度プロパティの設定を変更してからフォームの更新を行ってください。
- IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
  「 画面設計書出力 」での出力値は空白で出力されます。

取得値設定

外部連携で取得した値の反映先のマッピングを行います。

- マッピング情報
  虫眼鏡アイコンをクリックするとデータマッパーが表示されますので、データマッパー上で対応する画面アイテムのマッピングを設定します。

- 取得値に設定できるアイテム
  - 文字列（product_72_textbox）
  - 複数行文字列（product_72_textarea）
  - 数値（product_72_number）
  - 日付（product_72_date）
  - 期間（product_72_term）
  - 一覧選択（互換用）（product_72_itemSelect）
  - チェックボックス（product_80_checkbox）
  - ラジオボタン（product_80_radio）
  - セレクトボックス（product_80_selectbox）
  - リストボックス（product_80_listbox）
  - 一覧選択（product_80_itemSelect）
  - 隠しパラメータ（product_72_hidden）



コラム

データソースを使用する連携の設定の方法は、「 IM-BIS 業務管理者操作ガイド 」を参照してください。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 -「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット

コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。

注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。

注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ▪ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	▪ 123456789.123 ▪ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ▪ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	▪ 123456789.123 ▪ 123,456,789.123

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
アカウント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123 456 789,123
テナント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123.456.789,123
システム設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ▪ 123456789.123 ▪ 123‘456‘789.123



コラム

クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

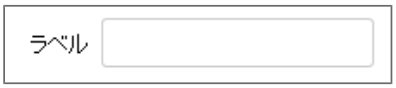
1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示

入力・表示ともできません。
設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

明細テーブル

画面アイテム「明細テーブル」は、アプリの実行時に自由に行を追加して表形式で入力するためのアイテムです。



注意

タイプ「一覧選択」の外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、以下の点に注意してください。

- 一覧選択の虫眼鏡アイコンを、クリックした後に表示される一覧選択画面には、改ページ機能がありません。
  そのため、取得したデータが最大表示行数を超える場合には、最大表示行数までで打ち切られて表示されます。
  また、一覧選択画面の絞り込み機能を用いても、打ち切られたデータを表示させることはできませんので
  一覧選択画面を表示する際の外部連携の条件、または最大表示行数の設定を見直してください。
- クエリを使用して大量データを処理する場合は、改ページ機能を使用できる互換用アイテムが便利です。
  「明細テーブル」（互換用アイテム）をご利用ください。

項目

- 基本設定
- 詳細設定
- 表示スタイル
- 列プロパティ概要
- 列プロパティ(文字列)
- 列プロパティ(数値)
- 列プロパティ(日付)
- 列プロパティ(関数)
- 列プロパティ(隠しパラメータ)
- 列プロパティ(一覧選択)
- 列プロパティ(ラジオボタン)
- 列プロパティ(セレクトボックス)
- 明細テーブルの行のコピー、挿入、削除方法

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、アイテムの上に表示します。

行の定義

テーブルに追加できる行について設定します。

行追加可能

チェックをオンにした場合、アプリケーションの実行時に行を追加することができます。

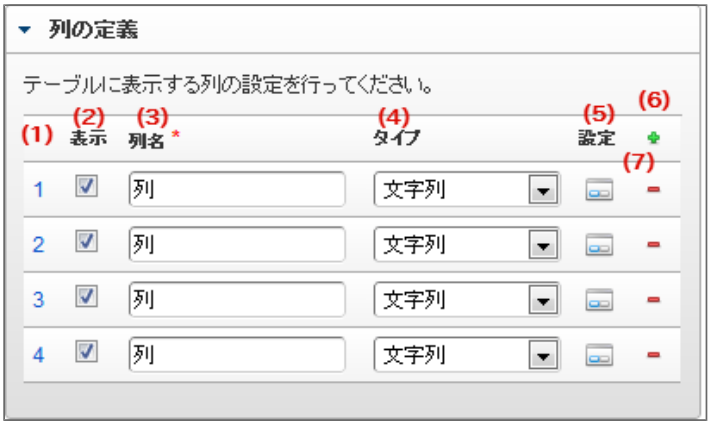
行数

「行追加可能」のチェックがオフの場合、テーブルに表示する行数を設定できます。

最大行数

「行追加可能」のチェックがオンの場合、テーブルに追加できる行の最大値を設定できます。
入力した行数まで追加できるようになるため、1以上の値を設定してください。

列の定義



明細テーブルの列を設定します。

1. 列番号

   列の表示順を設定します。
   列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

2. 表示

   列の表示/非表示を設定します。
   チェックがオフの場合、列は画面に表示されませんが、値の設定・取得等に利用することができます。
   タイプが「隠しパラメータ」の場合、必ずチェックがオフ(非表示)になります。

3. 列名

   列の名称を設定します。
   明細テーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

4. タイプ

   列のデータ型を設定します。
   関数や一覧選択等の他の画面アイテムを参照できるタイプの場合には、「関数」「一覧選択」で利用する場合と同様に、対象のフィールド識別IDを利用することで指定できます。

5. 設定

   クリックすると、列の詳細設定(入力フィールド、入力チェック等)画面に遷移します。

6. 追加

   クリックすると、明細テーブルの列を追加します。

7. 削除

   クリックすると、明細テーブルの列を削除します。

コラム

- 明細テーブルの表示について
  明細テーブルのテーブル、列の表示・非表示、表示タイプについては、以下の通りの動作となります。
  明細テーブルの「列の定義」での列の表示・非表示は、テーブルの表示タイプが表示であれば、列の定義を非表示にした場合も値を保持することができます。
  表示タイプは、列の表示タイプが設定されている場合には、テーブルの表示タイプより列の表示タイプの設定が優先されます。
  テーブルの表示タイプを非表示とした場合には、列の表示タイプを設定することはできません。
  テーブル・列の表示タイプの設定で非表示とした場合には、データは保持されません。

詳細設定

テーブル識別ID

明細テーブル、グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブルの物理名として利用します。
フォーム間でテーブル同士の値の引継ぎをする場合は、テーブル識別IDを同じにする必要があります。

> **注意**
>
> BIS作成種類「BISフロー」「ワークフロー」の場合、「定義の反映」によってテーブルが自動作成されるため、以下の注意事項があります。
>
> - テーブル識別IDに設定可能な文字数は6文字です。
> - テーブル識別IDとして設定な可能な文字は、半角英数字小文字、”_”（アンダーバー）に限ります。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

列番号表示(参照時)

明細テーブルのテーブルに対する表示タイプが「参照」となっている場合に、左の列番号の表示を設定します。
チェックがオンになっている場合、入力時と同様の列番号を表示します。

- 列番号表示が有効の場合

明細テーブル

	列	列	列	列
1	ABC	DEF	GHI	JKL
2	MNO	PQR	STU	VWX

- 列番号表示が無効の場合

明細テーブル

列	列	列	列
ABC	DEF	GHI	JKL
MNO	PQR	STU	VWX

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

列のサイズ・配置

列のサイズ
列の入力欄の標示の幅をピクセル単位で指定します。
横位置揃え
列の値の横位置を左寄せ、中央寄せ、右寄せのいずれかに設定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

列プロパティ概要

列プロパティは、「基本設定」 -> 「列の定義」 -> 「設定」をクリックして設定することができます。
明細テーブルの列プロパティには、以下のタイプがあります。
それぞれのタイプで、列プロパティの設定内容が異なります。

タイプ	説明
文字列	文字や数値などで短い文章を入力するときに使用するタイプです。
数値	金額や個数などの数値を入力するときに使用するタイプです。
日付	日付を入力するときに使用するタイプです。
関数	日付や数値の計算や、関数を使用して処理するときに使用するタイプです。
隠しパラメータ	フォーム上に表示させずに、値を保持するときに使用するタイプです。
一覧選択	外部連携を使用し、入力値を一覧から選択して入力するときに使用するタイプです。
ラジオボタン	複数項目から入力値をボタンで、１つ選択するときに使用するタイプです。
セレクトボックス	複数項目から入力値をプルダウンで、１つ選択するときに使用するタイプです。

列プロパティ(文字列)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「文字列」の場合には、以下の項目を設定します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(数値)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「数値」の場合には、以下の項目を設定します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
アカウント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123 456 789,123
テナント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123.456.789,123
システム設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ・123456789.123 ・123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(日付)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「日付」の場合には、以下の項目を設定します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(関数)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「関数」の場合には、以下の項目を設定します。

式

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*

- *ワークフロー関数(申請情報)*
- *ワークフロー関数(案件情報)*

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット
- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
アカウント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123 456 789,123
テナント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123.456.789,123
システム設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ・123456789.123 ・123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。

「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(隠しパラメータ)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「隠しパラメータ」の場合には、以下の項目を設定します。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

列プロパティ(一覧選択)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「一覧選択」の場合には、外部連携設定のリンクから外部連携に関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
  別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 最大表示行数
  一覧画面上に表示できる最大行数を設定します。
  外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」の場合、改ページ機能があるため、最大表示行数の設定は無効となります。
- マルチセレクト
  チェックがオンの場合、一覧画面上で複数行を選択できます。
  複数の行を選択した場合でも、画面アイテム「一覧選択」のフィールドには最初の1件しか反映されませんので注意してください。
- 項目幅の自動調整
  チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
  チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。

表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。

- 列番号
  列の表示順を設定します。
  列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。
- 表示
  一覧画面に表示するかどうかを設定します。
  チェックがオンの場合に一覧画面に表示します。
- 列名
  一覧画面に表示する列名を設定します。
- 列ID
  一覧画面に表示する列を一意に識別するためのIDです。
  データマッパー上では、「{列名} | {列ID}」の形式で表示されます。
- タイプ
  列のデータ型を設定します。
- ソート
  初期表示時の一覧画面のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を設定します。
  いずれかの列について、昇順/降順を指定することで、初期表示のソート対象項目に設定できます。
  すべての列でソートを空白指定した場合、一番上の列の昇順でソートされます。

> **注意**
>
> IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整とソートの設定を追加しました。
>
> - IM-FormaDesigner 2022Spring 以前に作成した定義を利用する場合、かつ、外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、項目幅の自動調整と初期表示時のソート順の設定について、一覧選択画面の表示とプロパティの設定で差異が生じます。
>   そのため、一度プロパティの設定を変更してからフォームの更新を行ってください。
> - IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
>   「 画面設計書出力 」での出力値は空白で出力されます。

取得値設定

外部連携で取得した値の反映先のマッピングを行います。

- マッピング情報
  虫眼鏡アイコンをクリックするとデータマッパーが表示されますので、データマッパー上で対応する画面アイテムのマッピングを設定します。
  - 取得値に設定できるアイテム
    - 文字列（product_72_textbox）
    - 複数行文字列（product_72_textarea）
    - 数値（product_72_number）
    - 日付（product_72_date）
    - 期間（product_72_term）
    - 一覧選択（互換用）（product_72_itemSelect）
    - チェックボックス（product_80_checkbox）
    - ラジオボタン（product_80_radio）
    - セレクトボックス（product_80_selectbox）
    - リストボックス（product_80_listbox）
    - 一覧選択（product_80_itemSelect）
    - 隠しパラメータ（product_72_hidden）

> **コラム**
>
> データソースを使用する連携の設定の方法は、「 IM-BIS 業務管理者操作ガイド 」を参照してください。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(ラジオボタン)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「ラジオボタン」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請

ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(セレクトボックス)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「セレクトボックス」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

明細テーブルの行のコピー、挿入、削除方法

行のコピー、挿入、削除方法について説明します。

行のコピー

行のコピーを行います。

1. コピー対象の番号を右クリックします。



2. 「コピー」をクリックします。



3. 挿入対象の番号で右クリックし、「コピーした行の挿入」をクリックします。



4. コピーした行が挿入されます。



行の挿入

行の挿入を行います。

1. 「＋」アイコンまたは、挿入対象の番号で右クリックし、「挿入」をクリックします。



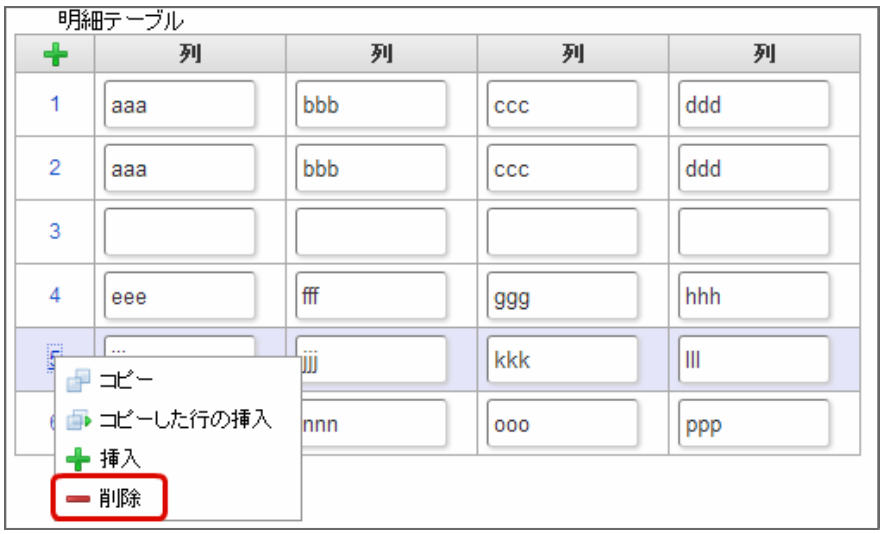
2. 行が挿入されます。



行の削除

行の削除を行います。

1. 削除対象の番号で右クリックし、「削除」をクリックします。



2. 行が削除されます。



コラム

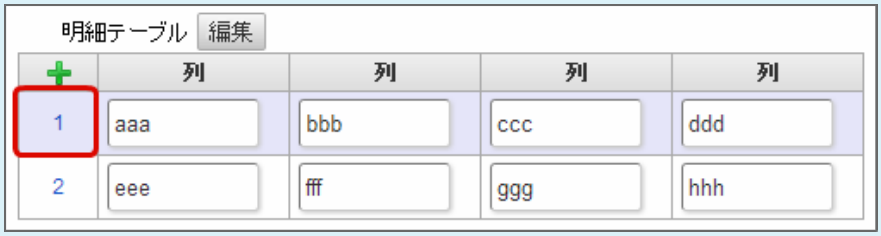
- スマートフォンの場合

  スマートフォンでは、以下の処理を行うことができます。

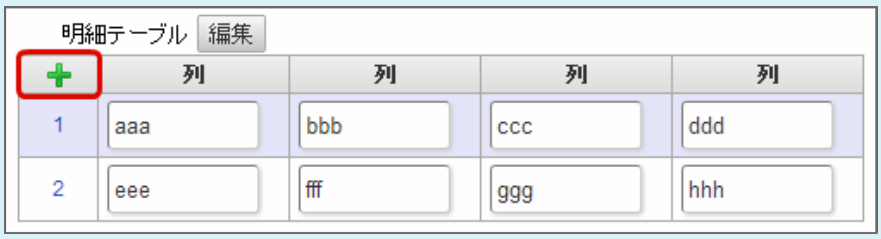
  - 行のコピー
  - 行の削除

  行のコピーを行います。

  1. 番号をクリックし、コピー対象を選択します。



  2. 「＋」をクリックします。



  3. コピーした行が挿入されます。



行の削除を行います。

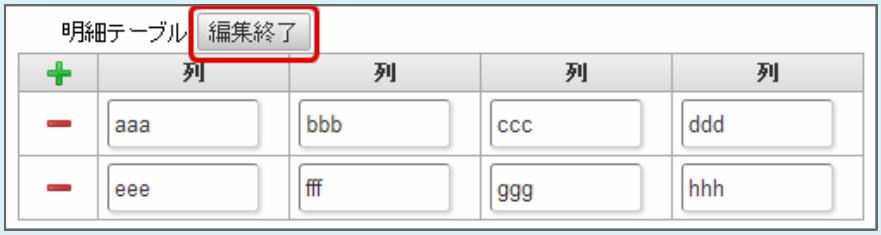
1. 「編集」ボタンをクリックします。



2. 「ー」をクリックします。



3. 「編集終了」ボタンをクリックします。



4. 対象行が削除されます。



チェックボックス

画面アイテム「チェックボックス」は、複数項目から入力値を選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

データの定義

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

項目幅

各選択肢の表示値の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

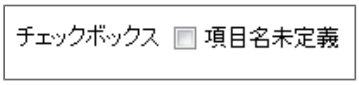
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

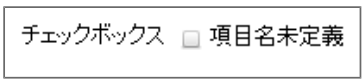
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ラジオボタン

画面アイテム「ラジオボタン」は、複数項目から入力値を 1 つ選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

データの定義

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

項目幅

各選択肢の表示値の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

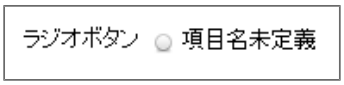
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

セレクトボックス

画面アイテム「セレクトボックス」は、複数項目から入力値を 1 つ選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

データの定義

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

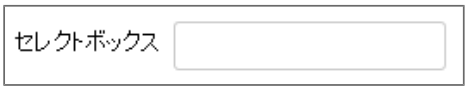
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

リストボックス

画面アイテム「リストボックス」は、複数項目から入力値を選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

データの定義

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、－によって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

行数

画面に表示する選択肢の個数を指定します。
選択肢の個数が行数に設定した値より多い場合は、スクロールバーを利用して選択します。

参照時セパレータ

表示タイプ「参照」で、選択済みの複数の値を表示する際の区切り文字を設定します。
参照時セパレータの値に関係なく、データベース上では、複数の値が選択済みの場合には「,」を区切り文字として使用します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

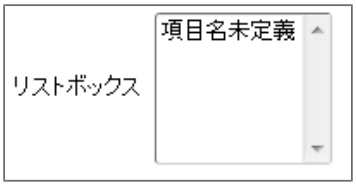
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

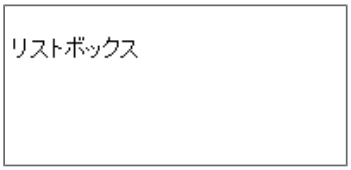
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



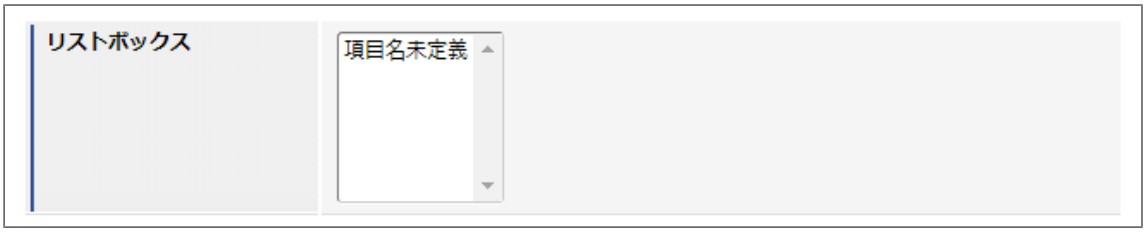
アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ファイルアップロード

画面アイテム「ファイルアップロード」は、画面の入力時のファイルを添付するためのアイテムです。
なお、 IM-Workflow の添付ファイルとは異なる機能となりますので、注意してください。

> **注意**
> - FormaアプリのWF申請書再利用による申請では、アップロードされたファイルは引き継がれませんので注意してください。
> - アップロード可能なファイルサイズは、 intra-mart Accel Platform の機能に依存します。制限サイズを超えるファイルをアップロードするとエラーが発生しますので注意してください。
>   制限サイズの設定方法については、「 設定ファイルリファレンス 」-「 リクエストクエリの長さ制限 」を参照してください。
> - ファイルアップロードの「備考」は500文字まで入力できます。
> - ファイルアップロードアイテムのテーブルのカラムサイズの変更については、以下のリンク先を参照してください。
>   - 「 IM-FormaDesigner 仕様書 」-「 カラムサイズの拡張 」
> - データベースとして PostgreSQL を利用し、ファイルアップロードアイテムの保存先をデータベースとしている場合、添付ファイルサイズが非常に大きいとファイルのダウンロードが正常に行われない場合があります。
>   詳細は、「 制限事項 」-「 データベースとして PostgreSQL を利用し、ファイルアップロードアイテムの保存先をデータベースとしている場合、添付ファイルサイズが非常に大きいとファイルのダウンロードが正常に行われない場合があります。 」を参照してください。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、アイテムの上に表示します。

添付ファイルの個数

同一フォーム内で添付可能なファイルの個数の上限値、下限値を設定します。

1. 最小
   添付ファイルの最小添付数を0以上の値で設定します。

2. 最大
   添付ファイルの最大添付数を0以上の値で設定します。

詳細設定

アイテム識別ID

アップロードしたファイルを画面アイテムと関連付けるためのIDを設定します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画像プレビュー表示

この設定は、ファイルアップロードを「プレビュー表示」モードとして動作させるための設定です。
設定が有効な場合には、ファイルアップロードアイテム内にプレビュー幅・高で設定したサイズの画像を表示します。
プレビュー画像をクリックすると元画像サイズで表示できます。
「画像プレビュー表示」を有効にした場合、アップロード可能なファイルが画像ファイル（拡張子：jpg,jpeg,png,gif）に限定されます。

プレビュー幅
アップロードした画像ファイルのプレビュー表示時の表示サイズの幅をピクセル単位で指定します。
プレビュー高
アップロードした画像ファイルのプレビュー表示時の表示サイズの高さをピクセル単位で指定します。

1ファイルあたりのサイズ（キロバイト単位）

１ファイルあたりのファイルサイズの上限をキロバイト単位で指定します。

コラム
- 1ファイルあたりのサイズ（キロバイト単位）には0以上の数値を必ず入力してください。
- 0を指定した場合は実行画面ではファイルサイズによる制限を行いません。

許可する拡張子

アップロードを許可するファイル拡張子をカンマ区切りで指定します。

コラム
- 「画像プレビュー表示」が有効な場合は、 jpeg,jpg,gif,png のみ設定します。
- 未指定の場合は「画像プレビュー表示」が有効な場合は、実行画面では jpeg,jpg,gif,png を許可します。「画像プレビュー表示」が無効な場合は、実行画面では、すべての拡張子を許可します。

別ウィンドウ表示

別ウィンドウ表示の有効無効を設定します。
ファイル名を押下した場合に、別ウィンドウでファイルを開きます。

コラム
- 別ウィンドウ表示を有効にした場合、実行画面でファイルをダウンロードするにはファイル名の右側にあるアイコンを押します。
- 実行画面では、ブラウザによって別ウインドウ表示されるファイルの種類が異なります。
- スマートフォン版では別ウィンドウでは表示されません。

ファイル一覧の並び順

アップロードされたファイルの並び順に関して、ソートに使用する項目（ファイル名/備考/更新日）と並び順（昇順/降順）

を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

グリッドテーブル

画面アイテム「グリッドテーブル」は、アプリの実行時に表形式で入力したり、フィルターで表示内容を絞り込んで表示するためのアイテムです。

> **注意**
>
> タイプ「一覧選択」の外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、以下の点に注意してください。
>
> - 一覧選択の虫眼鏡アイコンを、クリックした後に表示される一覧選択画面には、改ページ機能がありません。
>   そのため、取得したデータが最大表示行数を超える場合には、最大表示行数までで打ち切られて表示されます。
>   また、一覧選択画面の絞り込み機能を用いても、打ち切られたデータを表示させることはできませんので
>   一覧選択画面を表示する際の外部連携の条件、または最大表示行数の設定を見直してください。

項目

- 基本設定
- 詳細設定
- 表示スタイル
- 列プロパティ概要
- 列プロパティ(文字列)
- 列プロパティ(数値)
- 列プロパティ(日付)
- 列プロパティ(隠しパラメータ)
- 列プロパティ(関数)
- 列プロパティ(一覧選択)
- 列プロパティ(セレクトボックス)
- 列プロパティ(イメージ)
- 列プロパティ(カスタム)
- グリッドテーブルの行のコピー、行のコピー（複数）、挿入、削除方法

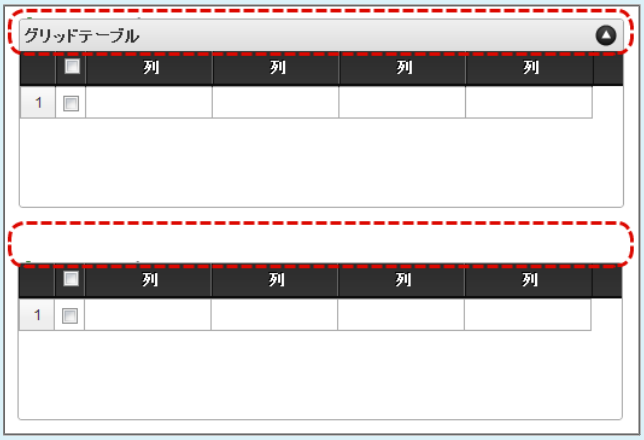
基本設定

ラベル

グリッドテーブルのヘッダーのキャプションとして使用します。
ラベルに設定した名称を、グリッドテーブルのヘッダー部分に表示します。

コラム

グリッドテーブルのラベルに何も設定していない場合には、上部のキャプションも非表示になります。



行の定義

テーブルに追加できる行について設定します。

行追加可能

チェックをオンにした場合、アプリケーションの実行時に行を追加することができます。

行数

「行追加可能」のチェックがオフの場合、テーブルに表示する行数を設定できます。

最大行数

「行追加可能」のチェックがオンの場合、テーブルに追加できる行の最大値を設定できます。

入力した行数まで追加できるようになるため、1以上の値を設定してください。

初期表示行数

入力時に最初に表示する行数を設定します。
「最大行数」を設定している場合には、最大行数以下になるように設定してください。
初期表示行数は0を設定することもできます。

行追加機能

行の追加を制限します。
チェックがオンの場合、行を追加することができます。
チェックがオフの場合、行を追加することはできません。

行削除機能

行の削除を制限します。
チェックがオンの場合、行を削除することができます。
チェックがオフの場合、行を削除することはできません。

削除確認ダイアログ

行削除をクリックすると、削除確認のダイアログを表示します。
チェックがオンの場合、ダイアログが表示されます。
チェックがオフの場合、ダイアログが表示されません。

列の定義



グリッドテーブルの列を設定します。

1. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   すべての列に対して同じサイズが設定されます。

2. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。

設定内容は、すべての列に適用されます。

3. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   すべての列に対して同じ表示位置が設定されます。

4. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   すべての列に対して同じ表示位置が設定されます。

5. 検索機能

   検索機能の設定をします。

   1. 利用しない
      「検索機能」を利用しません。

   2. フィルター検索
      検索で絞り込む時の比較条件を設定します。
      設定内容は、すべての列に適用されます。

   3. 高度な検索
      別画面による高度な検索、複数列による検索や範囲検索などをすることができます。

      ページャー部分に表示されている  をクリックした場合、表示される画面で検索条件を設定します。
      この機能はページャー利用時にのみ利用することができます。

6. フィルター条件

   「フィルター検索」を設定した場合の比較条件を設定します。
   設定内容は、すべての列に適用されます。

7. 列番号

   列の表示順を設定します。
   列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

8. 表示

   列の表示/非表示を設定します。
   チェックがオフの場合、列は画面に表示されませんが、値の設定・取得等に利用することができます。
   タイプが「隠しパラメータ」の場合、必ずチェックがオフ(非表示)になります。

9. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

10. タイプ

    列のデータ型を設定します。
    関数や一覧選択等の他の画面アイテムを参照できるタイプの場合には、「関数」「一覧選択」で利用する場合と同様

に、対象のフィールド識別IDを利用することで指定できます。

11. 設定

    クリックすると、列の詳細設定(入力フィールド、入力チェック等)画面に遷移します。

12. 追加

    クリックすると、グリッドテーブルの列を追加します。

13. 削除

    クリックすると、グリッドテーブルの列を削除します。

> **コラム**
>
> - グリッドテーブルの表示について
>
> グリッドテーブルのテーブル、列の表示・非表示、表示タイプについては、以下の通りの動作となります。
> グリッドテーブルの「列の定義」での列の表示・非表示は、テーブルの表示タイプが表示であれば、列の定義を非表示にした場合も値を保持することができます。
> 表示タイプは、列の表示タイプが設定されている場合には、テーブルの表示タイプより列の表示タイプの設定が優先されます。
> テーブルの表示タイプを非表示とした場合には、列の表示タイプを設定することはできません。
> テーブル・列の表示タイプの設定で非表示とした場合には、データは保持されません。

詳細設定

テーブル識別ID

明細テーブル、グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブルの物理名として利用します。
フォーム間でテーブル同士の値の引継ぎをする場合は、テーブル識別IDを同じにする必要があります。

> **注意**
>
> BIS作成種類「BISフロー」「ワークフロー」の場合、「定義の反映」によってテーブルが自動作成されるため、以下の注意事項があります。
>
> - テーブル識別IDに設定可能な文字数は6文字です。
> - テーブル識別IDとして設定な可能な文字は、半角英数字小文字、”_”（アンダーバー）に限ります。

テーブル幅

テーブルを表示する幅をピクセル単位で指定します。

テーブル高さ

テーブルを表示する高さをピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

マルチセレクト

複数の行を選択できるかどうかを設定します。

設定を有効にしている場合には、選択するためのチェックボックスの列を表示します。

列番号表示

グリッドテーブルのテーブルの列番号の表示を設定します。

1. 表示
   入力可・参照時ともに列番号を表示します。
2. 非表示
   入力可・参照時ともに列番号を表示しません。
3. 入力可のみ表示
   入力可の場合のみ列番号を表示します。
4. 参照時のみ表示
   参照時の場合のみ列番号を表示します。

- 列番号表示が「表示」の場合



- 列番号表示が「非表示」の場合



- 列番号表示が「入力可のみ表示」の場合



- 列番号表示が「参照時のみ表示」の場合



ページャー表示

テーブル下部にページ数、ページ送りのアイコンを表示します。
ページャーは、参照モードで明細が0行の場合も表示されます。
ページャーが無効な場合には、明細の全ての行を1ページに表示します。

1. 表示
   入力可・参照時ともにページャーを表示します。
2. 非表示
   入力可・参照時ともにページャーを表示しません。
3. 表示（入力可のみ表示）
   入力可能時のみページャーを表示します。
4. 表示（参照時のみ表示）
   参照時のみページャーを表示します。

- ページャー表示が「表示」の場合



- ページャー表示が「非表示」の場合



- ページャー表示が「入力可のみ表示」の場合



- ページャー表示が「参照時のみ表示」の場合



表示件数（ページャー）

ページャーを表示する場合は、表示件数を設定します。
表示件数は、カンマ区切りで設定します。

並べ替え機能

単一列、または複数列での並べ替えを設定します。

- 利用しない
  単一列、複数列のいずれでもテーブルの並べ替えができません。
- 単一列による並べ替え
  クリックしたテーブルのヘッダの列を基準に並べ替えを行います。
  - 対象列（初期表示時）
    初期表示時の並べ替えの基準とする項目を選択します。
    未選択時（空白）には、並べ替えをしていない状態で表示されます。
  - 並び順（初期表示時）
    初期表示時の並べ替えを昇順、降順のどちらでするかを設定します。
- 複数列による並び替え
  テーブル上部に「並べ替え」アイコンが表示されます。
  「並べ替え」をクリックすると、複数の列による並べ替えの優先順位や昇順・降順を設定することができます。

列の表示・非表示

実行画面で「列」を右クリックして、列の表示・非表示を設定します。

1. 利用する
   入力可・参照時ともに、「列の表示・非表示」を利用します。
2. 利用しない
   入力可・参照時ともに、「列の表示・非表示」を利用しません。
3. 入力可のみ利用

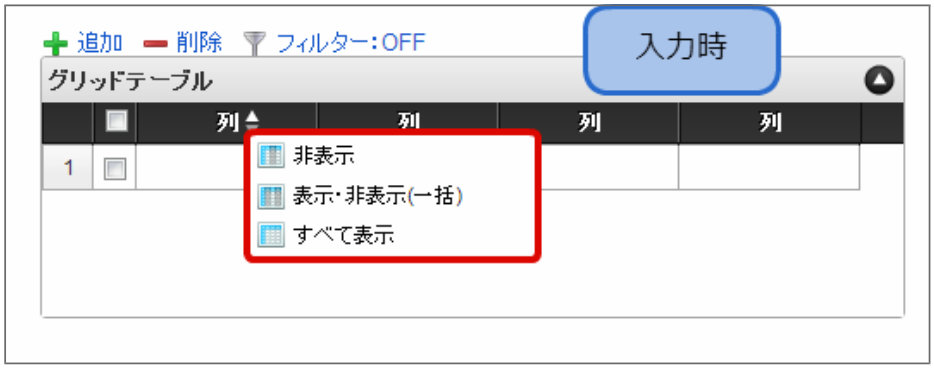
入力可能時のみ、「列の表示・非表示」を利用します。

4. 参照時のみ利用
   参照時のみ、「列の表示・非表示」を利用します。

- 「列の表示・非表示」が「利用する」の場合



- 「列の表示・非表示」が「入力可のみ利用」の場合



- 「列の表示・非表示」が「参照時のみ利用」の場合



列固定

列の固定をします。
横スクロールをする際に、列固定された列はスクロールされずに固定されます。

列固定機能

「列固定機能」の設定をします。

1. 表示
   入力可・参照時ともに「列固定：OFF/ON」を表示します。

2. 非表示
   入力可・参照時ともに「列固定：OFF/ON」を表示しません。

3. 入力可のみ表示
   入力可能時のみ「列固定：OFF/ON」を表示します。

4. 参照時のみ表示
   参照時のみ「列固定：OFF/ON」を表示します。

- 列固定機能が「表示」の場合



- 列固定機能が「非表示」の場合



- 列固定機能が「入力可のみ表示」の場合



- 列固定機能が「参照時のみ表示」の場合



列固定範囲

固定する列の範囲を設定します。

表示タイプ

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

ヘッダースタイル

ヘッダーの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

縞模様機能

チェックがオンの場合、奇数行、偶数行の背景色を別々に設定します。
フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色（奇数行/偶数行）

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

列個別設定

ヘッダーとフィールドの表示スタイルを個別で設定することができます。

列選択
表示スタイルを個別に設定したい列を選択します。

ヘッダースタイル

ヘッダーの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

列プロパティ概要

列プロパティは、「基本設定」 -> 「列の定義」 -> 「設定」をクリックして設定することができます。
または、列のヘッダー部をダブルクリックして設定することできます。
グリッドテーブルの列プロパティには、以下のタイプがあります。
それぞれのタイプで、列プロパティの設定内容が異なります。

タイプ	説明
文字列	文字や数値などで短い文章を入力するときに使用するタイプです。
数値	金額や個数などの数値を入力するときに使用するタイプです。
日付	日付を入力するときに使用するタイプです。
隠しパラメータ	フォーム上に表示させずに、値を保持するときに使用するタイプです。
関数	日付や数値の計算や、関数を使用して処理するときに使用するタイプです。
一覧選択	外部連携を使用し、入力値を一覧から選択して入力するときに使用するタイプです。
セレクトボックス	複数項目から入力値をプルダウンで、１つ選択するときに使用するタイプです。
イメージ	フォーム上に任意の画像を表示するときに使用するタイプです。
カスタム	表示用のタグを含んだコードを設定するタイプです。

列プロパティ(文字列)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「文字列」の場合には、以下の項目を設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

検索設定

検索機能を有効にしている場合に、列単位での検索フィルターを設定します。

検索対象

- 「検索機能」に「フィルター検索」を設定している場合
  検索機能でフィルターで表示をしぼりこむ条件に利用できるかどうかを設定します。
- 「検索機能」に「高度な検索」を設定している場合
  検索機能で検索条件に利用できるかどうかを設定します。

フィルター条件

「検索機能」を「フィルター検索」にした場合、設定することができます。
検索で絞り込む時の比較条件を設定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請

ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(数値)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「数値」の場合には、以下の項目を設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 -「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット

コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。

注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。

注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ▪ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	▪ 123456789.123 ▪ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ▪ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	▪ 123456789.123 ▪ 123,456,789.123

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
アカウント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123 456 789,123
テナント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123.456.789,123
システム設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ▪ 123456789.123 ▪ 123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

小数点表示

チェックがオンの場合、整数で入力した場合でも小数点で表示することができます。
例 ：「小数部最大入力桁数」に「2」、「入力フィールド」に「1」と入力した場合、「1.00」と表示されます。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

列の幅を設定します。
設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

検索設定

検索機能を有効にしている場合に、列単位での検索フィルターを設定します。

検索対象

- 「検索機能」に「フィルター検索」を設定している場合
  検索機能でフィルターで表示をしぼりこむ条件に利用できるかどうかを設定します。
- 「検索機能」に「高度な検索」を設定している場合
  検索機能で検索条件に利用できるかどうかを設定します。

フィルター条件

「検索機能」を「フィルター検索」にした場合、設定することができます。
検索で絞り込む時の比較条件を設定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(日付)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「日付」の場合には、以下の項目を設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。

詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

検索設定

検索機能を有効にしている場合に、列単位での検索フィルターを設定します。

検索対象

- 「検索機能」に「フィルター検索」を設定している場合
  検索機能でフィルターで表示をしぼりこむ条件に利用できるかどうかを設定します。
- 「検索機能」に「高度な検索」を設定している場合
  検索機能で検索条件に利用できるかどうかを設定します。

フィルター条件

「検索機能」を「フィルター検索」にした場合、設定することができます。
検索で絞り込む時の比較条件を設定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(隠しパラメータ)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「隠しパラメータ」の場合には、以下の項目を設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請

ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

列プロパティ(関数)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「関数」の場合には、以下の項目を設定します。

式

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット　入力値例

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ▪ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	▪ 123456789.123 ▪ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ▪ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	▪ 123456789.123 ▪ 123,456,789.123
アカウント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123 456 789,123
テナント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123.456.789,123
システム設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ▪ 123456789.123 ▪ 123‘456‘789.123



コラム

クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
   Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集
   Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照
   Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(一覧選択)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「一覧選択」の場合には、データソース設定のリンクからデータソースに関する設定、
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

タイプ

列のタイプを選択します。

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
  別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 最大表示行数
  一覧画面上に表示できる最大行数を設定します。
  外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」の場合、改ページ機能があるため、最大表示行数の設定は無効となります。
- マルチセレクト
  チェックがオンの場合、一覧画面上で複数行を選択できます。
  複数の行を選択した場合でも、画面アイテム「一覧選択」のフィールドには最初の1件しか反映されませんので注意してください。
- 項目幅の自動調整
  チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
  チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。
  表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。
- 列番号
  列の表示順を設定します。
  列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。
- 表示
  一覧画面に表示するかどうかを設定します。
  チェックがオンの場合に一覧画面に表示します。
- 列名
  一覧画面に表示する列名を設定します。
- 列ID
  一覧画面に表示する列を一意に識別するためのIDです。
  データマッパー上では、「{列名}｜{列ID}」の形式で表示されます。
- タイプ
  列のデータ型を設定します。
- ソート
  初期表示時の一覧画面のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を設定します。
  いずれかの列について、昇順/降順を指定することで、初期表示のソート対象項目に設定できます。
  すべての列でソートを空白指定した場合、一番上の列の昇順でソートされます。

> **注意**
>
> IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整とソートの設定を追加しました。
>
> - IM-FormaDesigner 2022Spring 以前に作成した定義を利用する場合、かつ、外部連携のデータベースが「テナントDBクエリ」「シェアードDBクエリ」以外の場合、項目幅の自動調整と初期表示時のソート順の設定について、一覧選択画面の表示とプロパティの設定で差異が生じます。
> そのため、一度プロパティの設定を変更してからフォームの更新を行ってください。
> - IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
> 「 画面設計書出力 」での出力値は空白で出力されます。

取得値設定

外部連携で取得した値の反映先のマッピングを行います。

- マッピング情報
  虫眼鏡アイコンをクリックするとデータマッパーが表示されますので、データマッパー上で対応する画面アイテムのマッピングを設定します。
  - 取得値に設定できるアイテム
    - 文字列（product_72_textbox）
    - 複数行文字列（product_72_textarea）
    - 数値（product_72_number）
    - 日付（product_72_date）
    - 期間（product_72_term）
    - 一覧選択（互換用）（product_72_itemSelect）
    - チェックボックス（product_80_checkbox）
    - ラジオボタン（product_80_radio）
    - セレクトボックス（product_80_selectbox）
    - リストボックス（product_80_listbox）
    - 一覧選択（product_80_itemSelect）
    - 隠しパラメータ（product_72_hidden）

> **コラム**
>
> データソースを使用する連携の設定の方法は、「 IM-BIS 業務管理者操作ガイド 」を参照してください。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

検索設定

検索機能を有効にしている場合に、列単位での検索フィルターを設定します。

検索対象

- 「検索機能」に「フィルター検索」を設定している場合
  検索機能でフィルターで表示をしぼりこむ条件に利用できるかどうかを設定します。
- 「検索機能」に「高度な検索」を設定している場合
  検索機能で検索条件に利用できるかどうかを設定します。

フィルター条件

「検索機能」を「フィルター検索」にした場合、設定することができます。
検索で絞り込む時の比較条件を設定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請

ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(セレクトボックス)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「セレクトボックス」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定、
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。
設定するデータをデータソース定義から取得する場合は、外部連携設定画面で設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、－によって追加、削除することができます。

- 列番号

  列の表示順を設定します。
  列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

検索設定

検索機能を有効にしている場合に、列単位での検索フィルターを設定します。

検索対象

- 「検索機能」に「フィルター検索」を設定している場合
  検索機能でフィルターで表示をしぼりこむ条件に利用できるかどうかを設定します。
- 「検索機能」に「高度な検索」を設定している場合
  検索機能で検索条件に利用できるかどうかを設定します。

フィルター条件

「検索機能」を「フィルター検索」にした場合、設定することができます。
検索で絞り込む時の比較条件を設定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(イメージ)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「イメージ」の場合には、以下の項目を設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

イメージ選択

配置した場所に表示する画像ファイルを指定します。
指定できる画像ファイルは、「フォーム・デザイナ」画面上の「画像アップロード」で事前にアップロード済みの画像ファイルに限られます。

リンク

イメージに他ページへのリンクを設定します。

設定方法

リンク先の設定方法を設定します。

- Forma画面設定：Forma画面を開く設定をします。
- URL設定：URLを指定する設定をします。

利用方法

利用方法を設定します。

- ポップアップ表示：ポップアップで表示します。
- 別画面表示：別画面で表示します。

子画面サイズ（幅）

ポップアップ表示する子画面の横の長さ（幅）をピクセル単位で指定します。

子画面サイズ（高）

ポップアップ表示する子画面の縦の長さ（高さ）をピクセル単位で指定します。

URL

イメージで表示した画像をクリックした際に表示するサイトのアドレスを設定します。

> コラム
>
> URLに別ドメインを設定する場合、データの送信方法「POST」は利用できません。

送信方法

データの送信方法を「GET」「POST」のいずれかから選択します。

パス設定

イメージに他ページへのリンクを設定します。
URLで設定したオーソリティのアクセス先を設定します。
例 ：URLに「 *http://localhost/imart* 」、パス設定に「 *path* 」と設定した場合、「 *http://localhost/imart/path* 」というURLを生成します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（*）を指定してください。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「 ” 」で囲んでください。

列番号をドラッグすると、列を入れ替えることができます。

* 画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

パラメータ設定

URLに設定した値（アドレス）に追加したいパラメータのキーと値の組み合わせを設定します。
「＋」「－」で追加と削除ができます。
列番号をドラッグすることで列を入れ替えることができます。

パラメータキー

編集対象のパラメータ値に対応するパラメータキーを選択します。

パラメータ値

パラメータに設定する値を登録します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

Forma画面設定

子画面表示時

子画面表示時の処理を指定します。

- 子画面に値を反映：親画面から子画面に値を反映します。
- 何もしない：値の反映はしません。

フォーム遷移名

子画面に表示するフォーム遷移を指定します。

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

6. 並べ替え対象

   単一列、または複数列での並べ替えについて、列を並べ替えの基準として選択できるかを設定します。
   チェックがオフの場合、単一列での並べ替えで、初期表示時の対象列に表示されず、ヘッダーをクリックしても並べ替えが行われません。
   複数列の並べ替えでは、「並べ替え設定」画面の列に表示されません。

入力フィールド

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

列プロパティ(カスタム)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「カスタム」の場合には、表示用のタグを含んだコードを設定します。

タイプ

列のタイプを選択します。

コード記述

表示したい文字列や、HTMLタグなどを記述します。

> **注意**
> - 表示用のタグを設定します。入力用のタグを使用した制御は想定していません。
>   jqgridの特質上、カスタムに入力されたデータはグリッドテーブルの内部データと同期されないため、
>   入力内容が保持されません。

コラム

例）他のサイトのイメージを表示するタグ

```
<img src="http://www.accel-mart.com/top_img/main_image_01.jpg" >
```

基本設定



個別の列について設定します。

1. 列名

   列の名称を設定します。
   グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

2. 列のサイズ

   列の幅を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

3. 列のリサイズ

   有効にした場合、グリッドテーブルを含むフォームの実行画面で列の幅をドラッグで変更できます。
   デフォルトは、無効となっています。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

4. ヘッダーの配置

   列のヘッダーの表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

5. フィールドの配置

   列の明細の表示位置（文字揃え）を設定します。
   設定内容は、選択している列にのみ適用されます。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請

ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

グリッドテーブルの行のコピー、行のコピー（複数）、挿入、削除方法

行のコピー、行のコピー（複数）、挿入、削除方法について説明します。

行のコピー

行のコピーを行います。

1. 行の上を右クリックします。



2. 「コピー」をクリックします。



3. 行の上を右クリックし、「コピーした行の挿入」をクリックします。



4. コピーした行が挿入されます。



行のコピー（複数）

行の複数行コピーを行います。

1. 「行のコピー」の1～2と同様に、コピー対象をコピーします。
2. 行の上を右クリックし、「コピーした行の挿入（複数）」をクリックします。



3. 挿入行数に挿入したい行数を入力します。



> **注意**
> グリッドテーブルのプロパティの基本設定で設定した「最大行数」を超えないように入力してください。

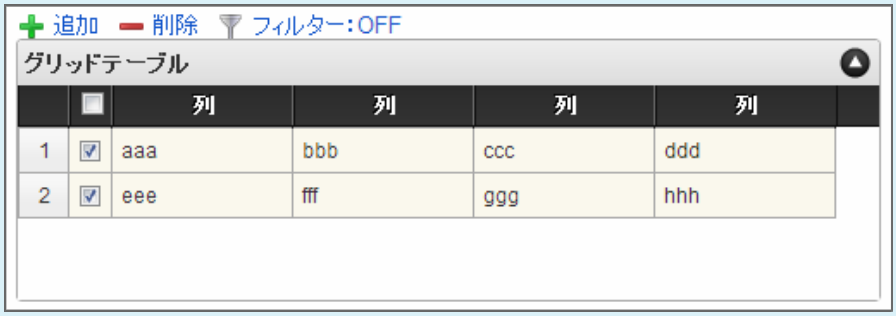
4. コピーした行が挿入されます。


追加
削除
フィルター:OFF
グリッドテーブル
列
列
列
列
2
eee
fff
ggg
hhh
3
aaa
bbb
ccc
ddd
4
aaa
bbb
ccc
ddd
5
aaa
bbb
ccc
ddd

コラム

行のコピー、行のコピー（複数）では、コピー対象をチェックボックスをオンにして指定することもできます。

1. コピー対象のチェックボックスをオンにします。



2. 「コピー」をクリックします。



3. 行の上を右クリックし、「コピーした行の挿入（または、コピーした行の挿入（複数））」をクリックします。



4. コピーした行が挿入されます。



行の挿入

行の挿入を行います。

1. 行の上を右クリックし、「挿入」をクリックします。



コラム

- グリッドテーブル上部の「追加」をクリックし、挿入することもできます。



2. 行が挿入されます。



行の削除

行の削除を行います。

1. 行の上を右クリックし、「削除」をクリックします。



コラム

削除対象のチェックボックスをオンにして、指定することもできます。

- 削除対象の行のチェックボックスをオンにし、グリッドテーブル上部の「削除」をクリックします。



2. 行が削除されます。



注意

グリッドテーブルには、以下の機能で注意事項があります。

- 列固定機能
  - 列への入力や非表示の操作は、列固定機能が「非表示」の時に実施することができます。
  - 列の固定範囲は、グリッドテーブル幅以内までにしてください。
- ヘッダースタイル
  - ヘッダーのフォントサイズを小さくすると、ソートアイコンである▲▼の表示が隠れてしまうので注意してください。



- ページャー機能
  - 行の追加、挿入をすると現在表示しているページに行の追加を行います。
  - ページャーのリロードをすると、ページの表示件数に従い表示され、新たに追加、挿入した行は、最終頁の最後の行に追加されます。

リッチテキストボックス

画面アイテム「リッチテキストボックス」は、色やフォントなどの文字装飾を伴う文字を入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、アイテムの上に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

リッチテキストボックス設定

リッチテキストボックスのエディタなどの詳細を設定します。
ツールバースタイル

ツールバー（編集用のコマンドアイコンを表示する部分）のスタイルを設定します。
「シンプル」に設定した場合、利用できるコマンドアイコンが少なくなります。

メニューバー

メニューバーを表示するか設定します。
チェックボックスがオンの場合、編集用のコマンドアイコンがメニューバーにまとまって表示されます。

画像挿入機能の利用

ローカルの画像を利用する機能を設定します。
設定ファイル（ui-tag-config_imui-richtextbox.xml）にて、扱える画像のオプションを設定できます。

- imuiDataUrl（設定を変更する）

エディタ幅
文字を編集する領域の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
エディタ高さ
文字を編集する領域の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
参照表示高さ固定

表示タイプの表示が「参照」の場合に、リッチテキストボックスの領域の高さを調整するかを設定します。
チェックボックスがオンの場合、表示する内容に関係なく、常に固定の高さで表示します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

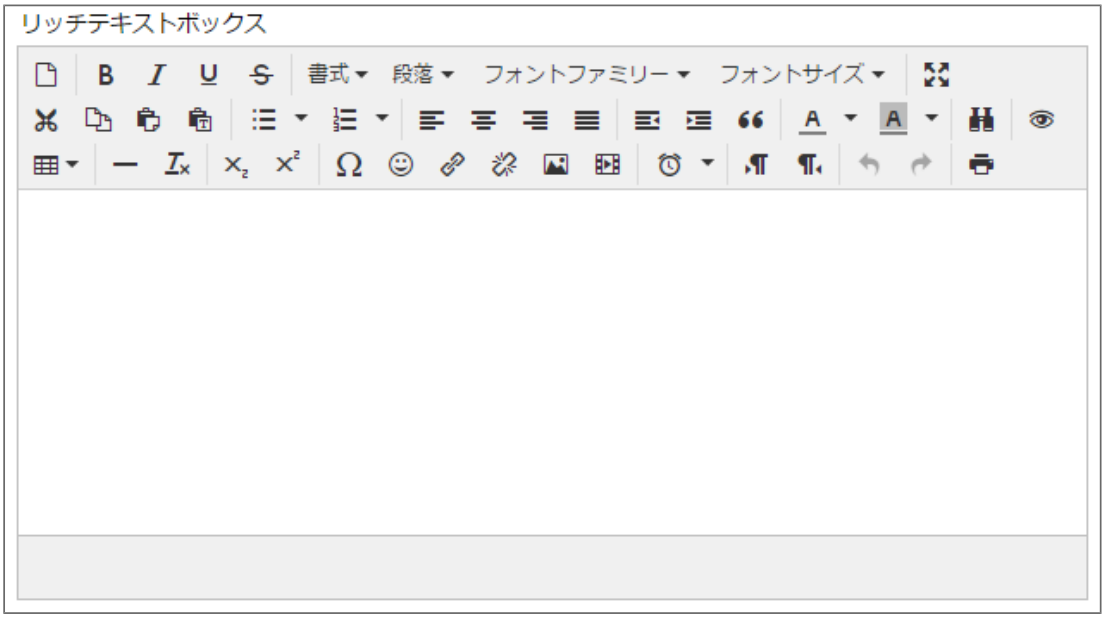
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

スプレッドシート

画面アイテム「スプレッドシート」は、IM-SpreadsheetをForma実行画面上で利用するためのアイテムです。

項目

- 基本設定
- 詳細設定
- フィールド定義
- テーブル定義

基本設定

スプレッドシート

画面アイテムに表示するスプレッドシートを設定します。
アイコンをクリックすることで、 IM-Spreadsheet デザイナが起動します。
「ファイル」 -「インポート」を利用することで、既存のExcelファイルを読み込むことができます。

注意

- スプレッドシートアイテムは、設定するシートのサイズに応じて、処理時間とメモリが必要となります。
  そのため、以下の制限を設定しています。
  - 「スプレッドシートのデータサイズ制限を設定する（spreadsheet-item-filelength-limit）」
  - 「スプレッドシートに含まれるテーブルの列数の最大値を設定する（spreadsheet-item-tablecolumn-limit）」

詳細設定

スプレッドシートID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDとスプレッドシートIDが一意になるように設定してください。
フォーム間でスプレッドシート同士の値の引継ぎをする場合は、スプレッドシートIDを同じにする必要があります。

シートDB登録

スプレッドシートのシート全体をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
チェックがオンの場合、データベースに登録したシートが存在する場合、そのシートを画面に表示します。
データベースに登録したシートが存在しない場合、フォーム・デザイナで定義したシートを画面に表示します。
複数画面を作成する場合、シートDB登録は全画面で同じ設定にする必要があります。

コラム

- シートDB登録をオンとして利用した場合、スプレッドシートのシート全体がリクエストパラメータとして送信されます。
  制限サイズを超えた場合、エラーが発生しますので注意してください。
  制限サイズの設定方法については、以下を参照してください。
  - 「スプレッドシートのデータサイズ制限を設定する（spreadsheet-item-filelength-limit）」

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

バインディング設定

スプレッドシート内の特定のセル、もしくは、テーブルの入力値のバインディング有無を設定します。
バインディングした値は、前処理や後処理、外部連携で利用することができます。
チェックがオンの場合、「フィールド定義」「テーブル定義」で、バインディングするセル、もしくは、テーブルを設定します。

バインディング値DB登録

バインディングした値をデータベースへ登録するかを設定します。
複数画面を作成する場合、バインディング値DB登録は全画面で同じ設定にする必要があります。

コラム

- シートDB登録：オフ、バインディング値DB登録：オンとして利用した場合
  - 登録／更新（申請／承認）画面など、別フォームに対して、同一のスプレッドシートIDで別の内容のスプレッドシートを設定できます。
    バインディング値はスプレッドシート上に反映されるため、画面ごとにスプレッドシートの表示内容を変更することができます。

コラム

- バインディング設定をオンとして利用した場合
  - バインディング設定をオンとした場合、設定した値は後処理に連携されます。
    バインディング値DB登録がオフの場合でも値は連携されます。

表示タイプ

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

フィールド定義

フィールド識別ID

アプリケーション上での、入力項目の識別IDとして利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

タイプ

入力項目として保持する値のデータ型を指定します。

コラム

- 指定したデータ型に対し、登録／更新（申請／承認）時に、保持するデータ型に対してのチェックのみ実施します。
  詳細の入力チェックを実行する場合は、SpreadJSのAPI、またはForma入力チェックユーザプログラムを利用してください。
- データ型として数値／日付を指定した場合、SpreadJSのセルの書式設定にも数値／日付形式を指定してください。
  型が異なる場合、入力時の変換処理でスクリプトエラーが発生したり、値が意図どおり連携されない場合があります。
- SpreadJSでのセル型がチェックボックスの場合は、データ型に「文字列」を指定してください。
  ユーザプログラム、外部連携では値を以下のように設定・取得します。
  チェックON: 文字列の”true”、チェックOFF: 文字列の”false”、不定状態(不定状態が有効の場合)：空文字
- SpreadJSでのセル型がチェックボックスリストの場合は、データ型に「文字列」を指定してください。
  ユーザプログラム、外部連携ではカンマ区切りの文字列で値を設定・取得します。
  ※SpreadJSで設定するチェックボックスリスト項目値にカンマ「,」が含まれていると正常に動作しないため、カンマを含まない値を設定してください。

シート・行・列

シート・行・列を指定します。
シートは、一番左のシートを0として、順番で指定します。
行・列は、左上のセルを0として、順番で指定します。

コラム

- 「選択中のセルを追加」を押下すると、スプレッドシート上でフォーカスが当たっているセルを追加することができます。
  また、画面アイテムプロパティで設定済みフィールドを選択すると、スプレッドシートの中で指定されたセルにフォーカスが当たります。

テーブル定義

テーブル

Excel上で設定されたテーブルオブジェクトがリストで表示されます。
バインディングするテーブルを選択して、「定義を設定」を押下すると、テーブルの各列が設定されます。
定義したテーブルを解除したい場合は、「定義を解除」を押下してください。

テーブル識別ID

アプリケーション上での、テーブルの識別IDとして利用します。
フォーム間でテーブル同士の値の引継ぎをする場合は、テーブル識別IDを同じにする必要があります。

シート番号
一番左のシートを0とした順番が表示されます。

フィールド識別ID

アプリケーション上での、入力項目の識別IDとして利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

タイプ

入力項目として保持する値のデータ型を指定します。

コラム

- 指定したデータ型に対し、登録／更新（申請／承認）時に、保持するデータ型に対してのチェックのみ実施します。
  詳細の入力チェックを実行する場合は、SpreadJSのAPI、またはForma入力チェックユーザプログラムを利用してください。
- データ型として数値／日付を指定した場合、SpreadJSのセルの書式設定にも数値／日付形式を指定してください。
  型が異なる場合、入力時の変換処理でスクリプトエラーが発生したり、値が意図どおり連携されない場合があります。
- SpreadJSでのセル型がチェックボックスの場合は、データ型に「文字列」を指定してください。
  ユーザプログラム、外部連携では値を以下のように設定・取得します。
  チェックON: 文字列の”true”、チェックOFF: 文字列の”false”、不定状態(不定状態が有効の場合)：空文字
- SpreadJSでのセル型がチェックボックスリストの場合は、データ型に「文字列」を指定してください。
  ユーザプログラム、外部連携ではカンマ区切りの文字列で値を設定・取得します。
  ※SpreadJSで設定するチェックボックスリスト項目値にカンマ「,」が含まれていると正常に動作しないため、カンマを含まない値を設定してください。

列番号

列番号が表示されます。
不要な列は削除してください。

コラム

- スプレッドシート内で関数を利用した場合、関数はスプレッドシート表示時に常に再実行されます。
  スプレッドシートでは、関数は式として保存されます。
  実行結果は保存されず、表示時に常に実行される動作が仕様となります。
- テーブルの列に関数を設定している場合、バインディングの設定を行うと関数が実行されなくなります。
  関数を実行する場合は、列の設定から対象列を削除してください。
- スプレッドシートでは、「 関数 」の「ワークフロー関数(申請情報)」「ワークフロー関数(案件情報)」が利用できます。

ボタンアイテム

ボタン(処理モーダル)

画面アイテム「ボタン(処理モーダル)」は、入力したデータの登録処理(ワークフローの申請・再申請・承認等)を実行するためのアイテムです。

基本設定

ラベル（申請・再申請・承認・参照）

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称を、ボタン上に表示します。

「ボタン（処理モーダル）」では、表示タイプに合わせて表示する名称を設定できます。

- 申請：申請画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「申請」です。
- 再申請：再申請画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「再申請」です。
- 承認：承認画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「承認」です。

- 参照：参照画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「更新」です。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

申請設定 ／ 処理設定 ／ 確認設定

- 申請設定
  表示する申請モーダルへのパラメータを設定します。
- 処理設定
  表示する処理モーダルへのパラメータを設定します。
- 確認設定
  表示する確認モーダルへのパラメータを設定します。

> **注意**
> 各モーダルへのパラメータ設定が有効になるのは、「PC版」で表示したときのみです。
> 「スマートフォン版」で表示した場合はパラメータ設定の有無に関わらず、画面アイテム「ボタン(登録)」クリック時と同様の動作になります。

案件名 ／ 優先度 ／ 処理コメント ／ 確認コメント

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

> **コラム**
> 画面アイテム「日付」等、データ型が日付またはタイムスタンプであるアイテムの値を参照する場合は、日付関数を利用することで任意のフォーマットに変換できます。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*
- *ワークフロー関数(申請情報)*
- *ワークフロー関数(案件情報)*

モーダル入力値の保持

モーダルを表示する際に前回表示した内容を復元するかを指定します。
チェックをオンにすると、前回表示した内容を復元します。
画面遷移をした場合、入力内容は破棄されます。
クライアントサイドスクリプトでモーダルの各種制御を行い、モーダルを開く都度スクリプトを実行したい場合、チェックをオフにしてください。



注意

- 本アイテムを複数配置しても、モーダル入力値はアイテムごとではなく共通で用いられます。
  チェックをオンにしているボタンでモーダルを表示する際、それよりも先に別に配置しているボタンでモーダルを表示していた場合はそこで入力された値が保持されます。
  複数のボタンを配置し、それぞれ異なったクライアントサイドスクリプトでモーダルの各種制御を行いたい場合、チェックをオフにしてください。
- ボタン(処理モーダル)とボタン(一時保存モーダル)は別アイテムとなりますので、モーダル入力値も別となります。

インタフェース制御

モーダルの各項目に対するインタフェースの制御（表示、入力不可、必須）を指定します。
制御の内容と設定値ごとの動作は以下の通りです。

- 表示
  - チェックをオン： 項目を表示します。（初期値）
  - チェックをオフ： 項目を非表示にします。
- 入力不可
  - チェックをオン： 項目を入力不可（参照のみ）にします。
  - チェックをオフ： 項目を入力可とします。（初期値）
- 必須
  - チェックをオン： 項目を必須入力にします。
  - チェックをオフ： 項目を任意入力にします。（初期値）

下記の表では、設定可能な組み合わせに ✔ マークをつけています。

項目名	表示	入力不可	必須
案件番号	✔		
案件名	✔	✔	
申請基準日	✔		
申請日	✔		
申請権限者	✔		
処理者	✔		
担当組織	✔	✔	
優先度	✔	✔	
処理コメント	✔	✔	✔
確認コメント	✔	✔	✔
添付ファイル	✔		
印影	✔		
根回し	✔		

実行画面における動的制御

クライアントサイドスクリプトでモーダルの各種制御を行うことができます。

- モーダル内の情報に対するインタフェース制御
- モーダル表示用パラメータ情報への値指定

製品としてサポートするスクリプトの設定方法は以下の通りです。

- 画面アイテム「スクリプト」のスクリプト
- アクション設定： 初期表示イベント（カスタムスクリプト）
- アクション設定： 任意のアイテムのイベント（カスタムスクリプト）

制御を行うには、グローバル変数 `window.forma.modalInfo.xxx` に対して設定情報を指定してください。

- 変数名 `xxx` は表示するモーダルの種類によって異なります。
  - 申請モーダル： showApplyParameter
  - 処理モーダル： showProcessParameter
  - 確認モーダル： showConfirmParameter
  - 一時保存モーダル： showTemporarySaveParameter
- インタフェース制御を行う場合、 `xxx.interfaceControl` 以下へ設定情報を指定してください。
- フロー設定（分岐開始／差戻し先／動的承認／確認／縦配置／横配置）への値設定を行う場合、 `xxx` 以下へ対象のフロー設定毎の設定情報を指定してください。
  詳細は以下のドキュメントを参照してください。
  - 「 IM-Workflow プログラミングガイド 」-「 modal 」
  - 上記ページより、表示するモーダルの種類に応じて showApply , showConfirm , showProcess , showTemporarySave のリンク先を参照してください。

> **注意**
> - ここで行う制御はデザイナで行った設定より優先されます。
> - 以下のパラメータについては制御不可能となります。
>   - flowId - フローID
>   - userDataId - ユーザデータID
>   - systemMatterId - システム案件ID
>   - nodeId - ノードID
> - このスクリプトがモーダル表示の都度有効となるのは、デザイナで行った *モーダル入力値の保持* のチェックがオフの時のみです。

以下に申請モーダル表示時の設定例を記載します。

```
window.forma.modalInfo.showApplyParameter = {
 interfaceControl: {
  matterName: {
   display: true,
   readonly: true
  },
  applyBaseDate: {
   display: true
  },
  applyAuthUserCd: {
   display: true
  },
  authUserDepartmentInfo: {
   display: true,
   readonly: true
  },
  priorityLevel: {
   display: true,
   readonly: true
  },
  processComment: {
```

```
    display: true,
    readonly: true,
    required: true
  },
  attachmentFile: {
    display: true
  },
  stamp: {
    display: true
  },
  nego: {
    display: true,
  }
},
branchSelects: [
  {
    branchStartNodeId: "branch_start1",
    forwardNodeIds: [
      "horizontal1"
    ]
  }
],
dynamicNodeConfigs: [
  {
    enable: true,
    nodeId: "dynamic1",
    nodeInformation: "サンプル課１ 1 が初期値としてセットされます。",
    readonlyEnableToggle: true,
    searchCondition: {
      criteria: null
    },
    processTargetConfigs: [
      {
        pluginId: "jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.dynamic.department",
        parameter: "comp_sample_01^comp_sample_01^dept_sample_11"
      }
    ]
  }
],
confirmNodeConfigs: [
  {
    nodeId: "confirm1",
    nodeInformation: "サンプル課１ 1 が初期値としてセットされます。",
    searchCondition: {
      criteria: null
    },
    processTargetConfigs: [
      {
        pluginId: "jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.department",
        parameter: "comp_sample_01^comp_sample_01^dept_sample_11"
      }
    ]
  }
],
horizontalNodeConfigs: [
  {
    nodeId: "horizontal1",
    nodeInformation: "サンプル課１ 1 が初期値としてセットされます。",
    dispatchControl: {
      max: 3,
      min: 1
    },
    searchCondition: {
      criteria: null
```

```
    },
    matterNodeExpansions: [
     {
      nodeName: "横配置1",
      searchCondition: {
       criteria: null
      },
      processTargetConfigs: [
       {
        pluginId: "jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.dynamic.department",
        parameter: "comp_sample_01^comp_sample_01^dept_sample_11"
       }
      ]
     }
    ]
   }
  ],
  verticalNodeConfigs: [
   {
    nodeId: "vertical1",
    nodeInformation: "サンプル課１ 1 が初期値としてセットされます。",
    dispatchControl: {
     max: 1,
     min: 1
    },
    searchCondition: {
     criteria: null
    },
    matterNodeExpansions: [
     {
      nodeName: "縦配置1",
      searchCondition: {
       criteria: null
      },
      processTargetConfigs: [
       {
        pluginId: "jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.dynamic.department",
        parameter: "comp_sample_01^comp_sample_01^dept_sample_11"
       }
      ]
     }
    ]
   }
  ],
  matterName: "案件名初期値設定",
  applyAuthUserCd: "aoyagi",
  applyBaseDate: "2020/12/25",
  authUserDepartmentInfo: {
   companyCd: "comp_sample_01",
   departmentSetCd: "comp_sample_01",
   departmentCd: "dept_sample_11"
  },
  priorityLevel: "1",
  processComment: "申請コメント初期値設定"
};
```

処理後の遷移先制御

> **コラム**
> この機能は 2022 Winter(Freesia) より追加されました。

画面アイテム「スクリプト」でモーダル処理後の遷移先を制御できます。
製品としてサポートするスクリプトの設定方法は以下の通りです。

- 画面アイテム「スクリプト」のスクリプト

制御を行うには、以下の関数を利用して遷移先を制御してください。

```
window.forma.modal.setNextPagePath('遷移先の画面パス');
```



コラム

（例） 遷移先を「ホーム画面」に変更したい場合は、以下のように設定します。

```
window.forma.modal.setNextPagePath('home');
```

設定すると以下の処理の遷移先が変更されます。

- 申請モーダル
  - 申請
  - 再申請
  - 取止め
- 処理モーダル
  - 承認
  - 否認
  - 保留
  - 保留解除
  - 差戻し
  - 引戻し
- 確認モーダル
  - 確認
- 一時保存モーダル
  - 一時保存



注意

- 連続処理、連続確認の場合は、次の案件ノードがあれば、該当のユーザコンテンツに遷移します。
  次の案件ノードがなければ、呼出元一覧画面に遷移します。
- アクション設定（アイテムイベント）のカスタムスクリプトでは設定できません。
- タブフォームを利用する場合は、ヘッダフォームにスクリプトを設定してください。
  タブフォームにスクリプトを設定した場合は、設定が反映されません。
  ヘッダフォームに別アイテムを置かない場合は、スクリプトの画面アイテムプロパティ「アイテムサイズ・高さ」を「0」に指定する事で、ヘッダフォームを使用しない場合と同じ見た目で表示されます。

ボタン(次へ)

画面アイテム「ボタン(次へ)」は、次の画面に遷移するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

利用方法

利用方法を設定します。

- 画面遷移(次へ)：次の画面に遷移します。タブフォームに設定している場合には、右のタブに遷移します。
- ポップアップ表示：ポップアップで表示します。

子画面サイズ（幅）

ポップアップ表示する子画面の横の長さ（幅）をピクセル単位で指定します。

子画面サイズ（高）

ポップアップ表示する子画面の縦の長さ（高さ）をピクセル単位で指定します。

Forma画面設定

子画面表示時

子画面表示時の処理を指定します。

- 子画面に値を反映：親画面から子画面に値を反映します。
- 何もしない：値の反映はしません。

フォーム遷移名

子画面に表示するフォーム遷移を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(戻る)

画面アイテム「ボタン(戻る)」は、前の画面に遷移するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

「戻る」ボタンの動作について

「戻る」ボタンは、ボタンが配置されたフォームの遷移前の画面、遷移先の画面によって動作が異なりますので、注意して配置してください。
「ヘッダー」の「戻る」リンクが表示された場合も同じ動作となります。

- フォーム遷移設定で、表示するフォーム件数が1件(単一のフォーム画面を表示する)の場合

フォームの遷移前の画面	「戻る」ボタン／「戻る」リンクをクリックした後の遷移先の画面
一覧表示画面	一覧表示画面

フォームの遷移前の画面	「戻る」ボタン／「戻る」リンクをクリックした後の遷移先の画面
メニュー(サイトマップなど)	**画面遷移しません(クリックしても何も起こりません)**

- フォーム遷移設定で、表示するフォーム件数が2件以上(複数のフォーム画面を表示する)の場合

フォームの遷移前の画面	「戻る」ボタン／「戻る」リンクをクリックした後の遷移先の画面
一覧表示画面→前に表示するフォーム	前に表示するフォーム画面
メニュー(サイトマップなど)→前に表示するフォーム	前に表示するフォーム画面

最初に表示するフォームの場合の動作は、単一のフォーム画面を表示する場合と同様となります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

利用方法

利用方法を設定します。

- 画面遷移(戻る)：画面遷移で戻ります。タブフォームに設定している場合には、左のタブに遷移します。
- 子画面利用(閉じる)：子画面を閉じます。

クリック時の処理

クリック時の処理を指定します。

- 親画面に値を反映し画面を閉じる：画面を閉じる際に親画面に値を反映します。
- 画面を閉じる：画面を閉じます。

確認ダイアログ

チェックをオンにした場合、子画面を閉じる際にダイアログを表示します。

確認メッセージ

確認ダイアログに表示するメッセージを登録します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(一覧へ戻る)

画面アイテム「ボタン(一覧へ戻る)」は、一覧画面に遷移するためのアイテムです。
遷移先の一覧画面は、アプリケーション種別や呼び出し元の画面によって異なります。
詳細は下記のページを参照してください。

- 「 IM-FormaDesigner 仕様書 」
  - 「 IM-FormaDesignerにおける画面遷移部品の仕様（アプリケーション種別「IM-Workflow」の場合） 」

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(一時保存モーダル)

画面アイテム「ボタン(一時保存モーダル)」は、一時保存を実行するためのアイテムです。
入力したデータを申請処理をせずに、保存することができます。

一時保存を行ったデータは、ワークフローの「一時保存一覧」、または「未処理一覧」から呼び出して、編集・登録することができます。
詳細は「 IM-FormaDesigner 仕様書 」-「 IM-FormaDesigner における一時保存の仕様 」を参照してください。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

- 「する」をオン
  申請時と同様の入力チェックが行われます。
- 「しない」をオン
  以下の最小限の入力チェックのみ行われます。
  - 最大文字数
  - 数値のみ
  - 数値桁数
  - 小数部桁数
  - 日付形式

> **コラム**
>
> 以下の入力チェックは行われません。
>
> - 必須チェック
> - 必須選択チェック
> - 最小文字数
> - 英数字のみ
> - 負数
> - 添付ファイルの個数 最少
> - 添付ファイルの個数 最大
> - 正規表現

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。

- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

> **コラム**
> 再申請や承認時に、一時保存を実行できるようにするには、表示タイプ：再申請・承認に対して、入力タイプ：入力に設定してください。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

一時保存設定

- 一時保存設定
  表示する一時保存モーダルへのパラメータを設定します。

> **注意**
>
> 一時保存モーダルへのパラメータ設定が有効になるのは、「PC版」で表示したときのみです。
> 「スマートフォン版」で表示した場合はパラメータ設定の有無に関わらず、画面アイテム「ボタン(一時保存)」クリック時と同様の動作になります。

案件名 ／ 処理コメント

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

> **コラム**
>
> 画面アイテム「日付」等、データ型が日付またはタイムスタンプであるアイテムの値を参照する場合は、日付関数を利用することで任意のフォーマットに変換できます。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*
- *ワークフロー関数(申請情報)*
- *ワークフロー関数(案件情報)*

モーダル入力値の保持

モーダルを表示する際に前回表示した内容を復元するかを指定します。
チェックをオンにすると、前回表示した内容を復元します。
画面遷移をした場合、入力内容は破棄されます。
クライアントサイドスクリプトでモーダルの各種制御を行い、モーダルを開く都度スクリプトを実行したい場合、チェックをオフにしてください。

> **注意**
>
> - 本アイテムを複数配置しても、モーダル入力値はアイテムごとではなく共通で用いられます。
>   チェックをオンにしているボタンでモーダルを表示する際、それよりも先に別に配置しているボタンでモーダルを表示していた場合はそこで入力された値が保持されます。
>   複数のボタンを配置し、それぞれ異なったクライアントサイドスクリプトでモーダルの各種制御を行いたい場合、チェックをオフにしてください。
> - ボタン(処理モーダル)とボタン(一時保存モーダル)は別アイテムとなりますので、モーダル入力値も別となります。

インタフェース制御

モーダルの各項目に対するインタフェースの制御（表示、入力不可、必須）を指定します。
制御の内容と設定値ごとの動作は以下の通りです。

- 表示
  - チェックをオン： 項目を表示します。（初期値）
  - チェックをオフ： 項目を非表示にします。

- 入力不可
  - チェックをオン： 項目を入力不可（参照のみ）にします。
  - チェックをオフ： 項目を入力可とします。（初期値）
- 必須
  - チェックをオン： 項目を必須入力にします。
  - チェックをオフ： 項目を任意入力にします。（初期値）

下記の表では、設定可能な組み合わせに ✔ マークをつけています。

項目名	表示	入力不可	必須
案件名	✔	✔	
申請基準日	✔		
申請権限者	✔		
処理コメント	✔	✔	✔

実行画面における動的制御

クライアントサイドスクリプトでモーダルの各種制御を行うことができます。

- モーダル内の情報に対するインタフェース制御
- モーダル表示用パラメータ情報への値指定

製品としてサポートするスクリプトの設定方法は以下の通りです。

- 画面アイテム「スクリプト」のスクリプト
- アクション設定： 初期表示イベント（カスタムスクリプト）
- アクション設定： 任意のアイテムのイベント（カスタムスクリプト）

制御を行うには、グローバル変数 `window.forma.modalInfo.xxx` に対して設定情報を指定してください。

- 変数名 `xxx` は表示するモーダルの種類によって異なります。
  - 申請モーダル： showApplyParameter
  - 処理モーダル： showProcessParameter
  - 確認モーダル： showConfirmParameter
  - 一時保存モーダル： showTemporarySaveParameter
- インタフェース制御を行う場合、 `xxx.interfaceControl` 以下へ設定情報を指定してください。
- フロー設定（分岐開始／差戻し先／動的承認／確認／縦配置／横配置）への値設定を行う場合、 `xxx` 以下へ対象のフロー設定毎の設定情報を指定してください。
  詳細は以下のドキュメントを参照してください。
  - 「 IM-Workflow プログラミングガイド 」-「 modal 」
  - 上記ページより、表示するモーダルの種類に応じて showApply , showConfirm , showProcess , showTemporarySave のリンク先を参照してください。

注意

- ここで行う制御はデザイナで行った設定より優先されます。
- 以下のパラメータについては制御不可能となります。
  - flowId - フローID
  - userDataId - ユーザデータID
  - systemMatterId - システム案件ID
  - nodeId - ノードID
- このスクリプトがモーダル表示の都度有効となるのは、デザイナで行った *モーダル入力値の保持* のチェックがオフの時のみです。

以下に申請モーダル表示時の設定例を記載します。

```
window.forma.modalInfo.showApplyParameter = {
  interfaceControl: {
    matterName: {
      display: true,
      readonly: true
    },
    applyBaseDate: {
      display: true
    },
    applyAuthUserCd: {
      display: true
    },
    authUserDepartmentInfo: {
      display: true,
      readonly: true
    },
    priorityLevel: {
      display: true,
      readonly: true
    },
    processComment: {
      display: true,
      readonly: true,
      required: true
    },
    attachmentFile: {
      display: true
    },
    stamp: {
      display: true
    },
    nego: {
      display: true,
    }
  },
  branchSelects: [
    {
      branchStartNodeId: "branch_start1",
      forwardNodeIds: [
        "horizontal1"
      ]
    }
  ],
  dynamicNodeConfigs: [
    {
      enable: true,
      nodeId: "dynamic1",
      nodeInformation: "サンプル課１ 1 が初期値としてセットされます。",
```

```
    readonlyEnableToggle: true,
    searchCondition: {
      criteria: null
    },
    processTargetConfigs: [
      {
        pluginId: "jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.dynamic.department",
        parameter: "comp_sample_01^comp_sample_01^dept_sample_11"
      }
    ]
  }
],
confirmNodeConfigs: [
  {
    nodeId: "confirm1",
    nodeInformation: "サンプル課１ 1 が初期値としてセットされます。",
    searchCondition: {
      criteria: null
    },
    processTargetConfigs: [
      {
        pluginId: "jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.department",
        parameter: "comp_sample_01^comp_sample_01^dept_sample_11"
      }
    ]
  }
],
horizontalNodeConfigs: [
  {
    nodeId: "horizontal1",
    nodeInformation: "サンプル課１ 1 が初期値としてセットされます。",
    dispatchControl: {
      max: 3,
      min: 1
    },
    searchCondition: {
      criteria: null
    },
    matterNodeExpansions: [
      {
        nodeName: "横配置1",
        searchCondition: {
          criteria: null
        },
        processTargetConfigs: [
          {
            pluginId: "jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.dynamic.department",
            parameter: "comp_sample_01^comp_sample_01^dept_sample_11"
          }
        ]
      }
    ]
  }
],
verticalNodeConfigs: [
  {
    nodeId: "vertical1",
    nodeInformation: "サンプル課１ 1 が初期値としてセットされます。",
    dispatchControl: {
      max: 1,
      min: 1
    },
    searchCondition: {
      criteria: null
```

```
    },
    matterNodeExpansions: [
     {
      nodeName: "縦配置1",
      searchCondition: {
       criteria: null
      },
      processTargetConfigs: [
       {
        pluginId: "jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.dynamic.department",
        parameter: "comp_sample_01^comp_sample_01^dept_sample_11"
       }
      ]
     }
    ]
   }
  ],
  matterName: "案件名初期値設定",
  applyAuthUserCd: "aoyagi",
  applyBaseDate: "2020/12/25",
  authUserDepartmentInfo: {
   companyCd: "comp_sample_01",
   departmentSetCd: "comp_sample_01",
   departmentCd: "dept_sample_11"
  },
  priorityLevel: "1",
  processComment: "申請コメント初期値設定"
};
```

処理後の遷移先制御

> **コラム**
> この機能は 2022 Winter(Freesia) より追加されました。

画面アイテム「スクリプト」でモーダル処理後の遷移先を制御できます。
製品としてサポートするスクリプトの設定方法は以下の通りです。

- 画面アイテム「スクリプト」のスクリプト

制御を行うには、以下の関数を利用して遷移先を制御してください。

```
window.forma.modal.setNextPagePath('遷移先の画面パス');
```

> **コラム**
>
> （例） 遷移先を「ホーム画面」に変更したい場合は、以下のように設定します。
>
> ```
> window.forma.modal.setNextPagePath('home');
> ```

設定すると以下の処理の遷移先が変更されます。

- 申請モーダル
  - 申請
  - 再申請
  - 取止め
- 処理モーダル
  - 承認
  - 否認

    - 保留
    - 保留解除
    - 差戻し
    - 引戻し
- 確認モーダル
    - 確認
- 一時保存モーダル
    - 一時保存

> 注意
> - 連続処理、連続確認の場合は、次の案件ノードがあれば、該当のユーザコンテンツに遷移します。
> 次の案件ノードがなければ、呼出元一覧画面に遷移します。
> - アクション設定（アイテムイベント）のカスタムスクリプトでは設定できません。
> - タブフォームを利用する場合は、ヘッダフォームにスクリプトを設定してください。
> タブフォームにスクリプトを設定した場合は、設定が反映されません。
> ヘッダフォームに別アイテムを置かない場合は、スクリプトの画面アイテムプロパティ「アイテムサイズ・高さ」を「0」に指定する事で、ヘッダフォームを使用しない場合と同じ見た目で表示されます。

ボタン(コピー新規)

画面アイテム「ボタン(コピー新規)」は、申請済みの案件を複製して申請を行うためのアイテムです。
一部のアイテムを除き、申請済み案件に入力した内容をコピーした状態で申請画面を表示できます。
詳細は「 IM-FormaDesigner 仕様書 」 - 「 WF申請書再利用の仕様 」を参照してください。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

> **コラム**
> 「ボタン(コピー新規)」は、表示タイプ「申請」で「表示」に設定しても、申請画面には表示されません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(直接実行)

画面アイテム「ボタン(直接実行)」は、処理モーダルや標準処理画面を表示せずに、ワークフローの申請、再申請、承認、確認を実行するためのアイテムです。

> **コラム**
> 実行画面で画面アイテム「ボタン(直接実行)」をクリックすると、当該ボタンに設定したイベントや必須チェックなどを実行した後、確認ダイアログが表示されます。

> **注意**
> 「ボタン(直接実行)」は参照の実行画面では処理できません。

> **注意**
> 「ボタン(直接実行)」は処理権限者（本人）による処理で行います。代理による処理は行えません。

基本設定

ラベル（申請・再申請・承認・参照）

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称を、ボタン上に表示します。

「ボタン（直接実行）」では、表示タイプに合わせて表示する名称を設定できます。

- 申請：申請画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「申請」です。
- 再申請：再申請画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「再申請」です。
- 承認：承認画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「承認」です。
- 参照：参照画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「更新」です。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単

位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

申請設定 ／ 処理設定 ／ 確認設定

- 申請設定
  申請パラメータを設定します。
  - 案件名
  - 優先度
  - 処理コメント
- 処理設定
  処理パラメータを設定します。
  - 処理コメント
- 確認設定
  確認パラメータを設定します。
  - 確認コメント



コラム

申請設定は、申請ノードの申請、再申請に関する設定です。

処理設定は、承認ノード、動的承認ノード、縦配置ノード、横配置ノードの承認に関する設定です。

確認設定は、確認に関する設定です。

各処理については「 IM-Workflow プログラミングガイド 」-「 クライアントサイド JavaScript API 」を参照してください。



コラム

申請パラメータに設定できる項目の「案件名」、「優先度」、「処理コメント」や設定できない項目の「権限者所属組織情報」などの情報は以下を参照してください。

- 「 imWorkflow.process.apply(Object parameter) : Promise<Object> - processParameter」
- 「 imWorkflow.process.applyFromUnapply(Object parameter) : Promise<Object> - processParameter 」
- 「 imWorkflow.process.reapply(Object parameter) : Promise<Object> - processParameter」

処理パラメータに設定できる項目の「処理コメント」や設定できない項目の「権限者所属組織情報」などの情報は以下を参照してください。

- 「 imWorkflow.process.approve(Object parameter) : Promise<Object> - processParameter」

確認パラメータに設定できる項目の「確認コメント」や設定できない項目の「権限者所属組織情報」などの情報は以下を参照してください。

- 「 imWorkflow.process.confirm(Object parameter) : Promise<Object> - processParameter」

案件名 ／ 優先度 ／ 処理コメント ／ 確認コメント

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。

固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

> **コラム**
> 画面アイテム「日付」等、データ型が日付またはタイムスタンプであるアイテムの値を参照する場合は、日付関数を利用することで任意のフォーマットに変換できます。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*
- *ワークフロー関数(申請情報)*
- *ワークフロー関数(案件情報)*

ボタン(直接中止)

画面アイテム「ボタン(直接中止)」は、処理モーダルや標準処理画面を表示せずに、ワークフローの取止め、否認を実行するためのアイテムです。

> **コラム**
> IM-BIS for Accel Platform 2026 Spring (8.0.36) から画面アイテム「ボタン(直接中止)」のプロパティの「取止め設定」と「否認設定」に「処理コメントの必須入力チェック」項目、「実行時に設定を許可」項目を追加しました。
> 当該項目に対して未設定の場合は、 IM-BIS for Accel Platform 2025 Autumn (8.0.35) 以前の動作のまま利用できます。
> 当該項目に対して設定する場合は、後述の取止め設定、否認設定をご確認ください。

> **コラム**
> 実行画面で画面アイテム「ボタン(直接中止)」をクリックすると、当該ボタンに設定したイベントなどを実行した後、確認ダイアログが表示されます。
> 必須チェックは行いません。

> **注意**
> 「ボタン(直接中止)」は申請、参照の実行画面では処理できません。

基本設定

ラベル（申請・再申請・承認・参照）

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称を、ボタン上に表示します。

「ボタン（直接中止）」では、表示タイプに合わせて表示する名称を設定できます。

- 申請：申請画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「取止め」です。
- 再申請：再申請画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「取止め」です。

- 承認：承認画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「否認」です。
- 参照：参照画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「更新」です。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

取止め設定 ／ 否認設定

- 取止め設定
  取止めパラメータを設定します。
  - 処理コメント
  - 処理コメントの必須入力チェック
  - 実行時に設定を許可
- 否認設定
  否認パラメータを設定します。
  - 処理コメント
  - 処理コメントの必須入力チェック
  - 実行時に設定を許可



コラム

取止め設定は、申請ノードの取止めに関する設定です。

否認設定は、承認ノード、動的承認ノード、縦配置ノード、横配置ノードの否認に関する設定です。

各処理については「 IM-Workflow プログラミングガイド 」-「 クライアントサイド JavaScript API 」を参照してください。



コラム

取止めパラメータに設定できる項目の「処理コメント」や設定できない項目の「権限者所属組織情報」などの情報は以下を参照してください。

- 「 imWorkflow.process.discontinue(Object parameter) : Promise<Object> - processParameter 」

否認パラメータに設定できる項目の「処理コメント」や設定できない項目の「権限者所属組織情報」などの情報は以下を参照してください。

- 「 imWorkflow.process.deny(Object parameter) : Promise<Object> - processParameter」



コラム

処理コメントの必須入力チェック

IM-BIS for Accel Platform 2026 Spring (8.0.36) から追加しました。

当該項目を有効にした場合、取止め実行時、否認実行時に処理コメントを必須項目にできます。

当該項目を無効にした場合、 IM-BIS for Accel Platform 2025 Autumn (8.0.35) 以前の動作のまま利用できます。

コラム

実行時に設定を許可

IM-BIS for Accel Platform 2026 Spring (8.0.36) から追加しました。

当該項目を有効にした場合、取止め実行時、否認実行時の確認ダイアログにて、以下の取止めパラメータ、否認パラメータが設定できます。

- 処理者
- 担当組織
- コメント

上記の機能は、以下の認可設定項目を許可する必要があります。

- リソースの種類「画面・処理」-「IM-BIS」-「BIS共通」
- リソースURI（service://bis/bis_common）

当該項目を無効にした場合、 IM-BIS for Accel Platform 2025 Autumn (8.0.35) 以前の動作のまま利用できます。

注意

IM-BIS for Accel Platform 2025 Autumn (8.0.35) 以前の資材、もくしは「実行時に設定を許可」プロパティの値が無効の場合、処理権限者（本人）による処理で行います。

代理による処理は行えません。

処理コメント

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

コラム
画面アイテム「日付」等、データ型が日付またはタイムスタンプであるアイテムの値を参照する場合は、日付関数を利用することで任意のフォーマットに変換できます。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*
- *ワークフロー関数(申請情報)*
- *ワークフロー関数(案件情報)*

ボタン(直接差戻し)

画面アイテム「ボタン(直接差戻し)」は、処理モーダルや標準処理画面を表示せずに、ワークフローの差戻しを実行するためのアイテムです。

コラム

IM-BIS for Accel Platform 2025 Autumn (8.0.35) から画面アイテム「ボタン(直接差戻し)」のプロパティの「差戻し設定」に「処理コメントの必須入力チェック」項目、「実行時に設定を許可」項目を追加しました。
当該項目に対して未設定の場合は、 IM-BIS for Accel Platform 2025 Spring (8.0.34) 以前の動作のまま利用できます。
当該項目に対して設定する場合は、後述の差戻し設定をご確認ください。

コラム

実行画面で画面アイテム「ボタン(直接差戻し)」をクリックすると、当該ボタンに設定したイベントなどを実行した後、確認ダイアログが表示されます。
必須チェックは行いません。

注意

「ボタン(直接差戻し)」は申請、再申請、参照の実行画面では処理できません。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照

ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

差戻し設定

- 差戻し設定
  差戻しパラメータを設定します。
  - 処理コメント
  - 処理コメントの必須入力チェック
  - 差戻し先ノードID
  - 実行時に設定を許可

> **コラム**
>
> 差戻し設定は、承認ノード、動的承認ノード、縦配置ノード、横配置ノードの差戻しに関する設定です。
>
> 各処理については「IM-Workflow プログラミングガイド」-「クライアントサイド JavaScript API」を参照してください。

> **コラム**
>
> 差戻しパラメータに設定できる項目の「処理コメント」、「差戻し先ノードID」や設定できない項目の「権限者所属組織情報」などの情報は以下を参照してください。
>
> - 「imWorkflow.process.sendBack(Object parameter) : Promise<Object> - processParameter」

コラム

処理コメントの必須入力チェック

IM-BIS for Accel Platform 2025 Autumn (8.0.35) から追加しました。

当該項目を有効にした場合、差戻し実行時に処理コメントを必須項目にできます。

当該項目を無効にした場合、 IM-BIS for Accel Platform 2025 Spring (8.0.34) 以前の動作のまま利用できます。

コラム

実行時に設定を許可

IM-BIS for Accel Platform 2025 Autumn (8.0.35) から追加しました。

当該項目を有効にした場合、差戻し実行時の確認ダイアログにて、以下の差戻しパラメータが設定できます。

- 処理者
- 担当組織
- コメント
- 差戻し先

上記の機能は、以下の認可設定項目を許可する必要があります。

- リソースの種類「画面・処理」-「IM-BIS」-「BIS共通」
- リソースURI（service://bis/bis_common）

当該項目を無効にした場合、 IM-BIS for Accel Platform 2025 Spring (8.0.34) 以前の動作のまま利用できます。

注意

IM-BIS for Accel Platform 2025 Spring (8.0.34) 以前の資材、もくしは「実行時に設定を許可」プロパティの値が無効の場合、処理権限者（本人）による処理で行います。

代理による処理は行えません。

処理コメント ／ 差戻し先ノードID

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

コラム

画面アイテム「日付」等、データ型が日付またはタイムスタンプであるアイテムの値を参照する場合は、日付関数を利用することで任意のフォーマットに変換できます。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*

- *ユーザ情報関数*
- *ワークフロー関数(申請情報)*
- *ワークフロー関数(案件情報)*

共通マスタアイテム

ユーザ選択

画面アイテム「ユーザ選択」は、IM共通マスタのユーザを検索して入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

ユーザ検索画面 / 組織検索画面

ユーザ、組織の検索方法として利用できる画面(タブ)を選択します。
「表示タブ」に表示した画面(タブ)をアプリの実行時に利用できます。
表示するタブは上から順になりますので、右の矢印で並び順を変更することもできます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

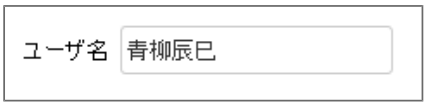
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

組織選択

画面アイテム「組織選択」は、IM共通マスタの組織を検索して入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

組織名の表示

組織名を表示するときに、階層的に表示するかどうかを設定します。
チェックがオンの場合、組織名を上位組織から階層的に表示します。
（例）サンプル会社 / サンプル部門０１ / サンプル課１１

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

ユーザ検索画面 / 組織検索画面

ユーザ、組織の検索方法として利用できる画面(タブ)を選択します。
「表示タブ」に表示した画面(タブ)をアプリの実行時に利用できます。
表示するタブは上から順になりますので、右の矢印で並び順を変更することもできます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上から

の縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

組織・役職選択

画面アイテム「組織・役職選択」は、IM共通マスタの役職を検索して入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

所属組織選択

画面アイテム「所属組織選択」は、IM共通マスタの所属組織を検索して入力するためのアイテムです。

> **コラム**
>
> 「所属組織選択」には、一時保存や再申請時には前回処理時の入力値は表示されません。
> 一時保存や再申請の画面の表示した時点のログインユーザの情報を反映する仕様により、前回処理（一時保存・申請）時からログインユーザの情報に変更があった場合には無効な情報となっている可能性もあるため、一時保存や再申請では常に初期値が表示されます。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

汎用アイテム

隠しパラメータ

画面アイテム「隠しパラメータ」は、フォーム上に表示させずに値を保持するためのアイテムです。

基本設定

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請

ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

スクリプト

画面アイテム「スクリプト」は、フォームの表示時に実行するスクリプトを記述するためのアイテムです。
スクリプトを書くためにはJavascriptの知識が必要です。jQueryを学ぶことにより、より高度な操作が簡単に行えます。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

スクリプト

コード実行タイミングは、DOMツリーが構築された直後です。
参考：$(document).ready(記述コード)

デフォルトでjQueryライブラリが読み込まれているので、自由に利用することができます。
コードの制限などはありません。
スクリプトにより各画面アイテムの操作方法が分からない場合は、フォーム実行時に生成されるHTMLをブラウザの機能で参照し判断してください。

また、クライアントサイドスクリプトAPIを利用して、画面アイテムの値操作を行うことができます。

詳細：「 IM-BIS 仕様書 」-「 クライアントサイドスクリプトAPI 」



コラム

フォーム上に配置したアイテムのスクリプトの実行順は、HTML上での配置順に基づいて決定します。
この配置順については、以下のいずれかの方法で設定されます。

- ツールキットからフォーム編集画面（フォーム・デザイナ）に配置した順序
- フォーム編集画面（フォーム・デザイナ）でのアイテムのコンテキストメニュー（右クリックで表示するメニュー）の前面や背面への移動
  (前面への移動では実行順が後、背面への移動では実行順が前になります。)

実際のアイテムの配置順については、実行時のHTMLで確認してください。



注意

スクリプト操作による動作は製品では保証できません。十分な検証を行ってください。

> **注意**
>
> 「スマートフォン版」表示を利用する場合、以下の関数を利用して、「PC版」「スマートフォン版」でスクリプトの実行をコントロールしてください。
>
> - forma.funcs.getDisplayClientType()
> 実行しているクライアントを返却します。
> - クライアントがPCの場合
>
> 「pc」と返却します。
> - クライアントがスマートフォンの場合
>
> 「sp」と返却します。

スクリプトエディタで開く

クライアントサイド JavaScriptに関する開発に特化したエディタを使用して編集できます。
「確定」を押下することで、アイテムプロパティへ値を反映します。

スクリプトエディタでは配置した画面アイテムのクライアントサイドスクリプトAPIを補完できます。
補完できるAPIについては、「 IM-BIS 仕様書 」-「 クライアントサイドスクリプトAPI 」を参照してください。

> **コラム**
>
> 補完はスクリプトエディタ表示時に配置されていた画面アイテムが対象です。
> スクリプトエディタ表示後に画面アイテムを配置した場合は、スクリプトエディタを閉じ、再度表示することで補完対象にできます。

ボタン(イベント)

画面アイテム「ボタン(イベント)」は、ボタンでスクリプトを実行するためのアイテムです。
PDF印刷等の処理を行わせることができます。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

スクリプト

ボタンをクリックした時に実行する、javascriptコードを記述します。

デフォルトでjQueryライブラリが読み込まれているので、自由に利用することができます。
コードの制限などはありません。
スクリプトにより各画面アイテムの操作方法が分からない場合は、フォーム実行時に生成されるHTMLをブラウザの機能で参照し判断してください。

また、クライアントサイドスクリプトAPIを利用して、画面アイテムの値操作を行うことができます。

詳細：「 IM-BIS 仕様書 」-「 クライアントサイドスクリプトAPI 」

> **注意**
> スクリプト操作による動作は製品では保証できません。十分な検証を行ってください。

> **注意**
> 「スマートフォン版」表示を利用する場合、以下の関数を利用して、「PC版」「スマートフォン版」でスクリプトの実行をコントロールしてください。
>
> - forma.funcs.getDisplayClientType()
> 実行しているクライアントを返却します。
> - クライアントがPCの場合
>
> 「pc」と返却します。
> - クライアントがスマートフォンの場合
>
> 「sp」と返却します。

スクリプトエディタで開く

クライアントサイド JavaScriptに関する開発に特化したエディタを使用して編集できます。
「確定」を押下することで、アイテムプロパティへ値を反映します。

スクリプトエディタでは配置した画面アイテムのクライアントサイドスクリプトAPIを補完できます。
補完できるAPIについては、「 IM-BIS 仕様書 」-「 クライアントサイドスクリプトAPI 」を参照してください。

> **コラム**
> 補完はスクリプトエディタ表示時に配置されていた画面アイテムが対象です。
> スクリプトエディタ表示後に画面アイテムを配置した場合は、スクリプトエディタを閉じ、再度表示することで補完対象にできます。

採番

画面アイテム「採番」は、登録済みの採番ルール定義を利用して自動的に番号を取得して表示するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

採番ルール定義名

- 登録済みの採番ルール定義からどの採番ルール定義を利用するかを設定します。
- 採番ルール定義をフォームで利用する場合には、あらかじめ採番ルール定義の登録を行っておく必要があります。
- 初期設定では、「システムによる自動採番」が設定されています。
  「システムによる自動採番」で採番ルール定義を設定した場合は、JS API Identifier.get()を利用してシステム上一意な値を返します。

採番方法

- 採番をどのタイミングで行うかを設定します。

- 画面アクセス毎
  画面を表示したタイミングで採番します。
  ただし、一時保存した状態で再度表示した場合には採番しません。
- 登録処理毎
  画面で登録(申請)処理を行われたタイミングで採番します。
  正常に処理が完了したタイミングで番号が確定するため、登録(申請)前には何も表示されません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

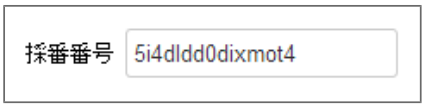
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

インラインフレーム

画面アイテム「インラインフレーム」は、フォーム上に枠を作り別のページを表示するためのアイテムです。

> **注意**
>
> インラインフレームは、IM-BIS for Accel Platform でのみ利用できます。
>
> - ご利用時の注意点
>   - 画面アイテム「インラインフレーム」を利用することで、様々なWebサイトを画面上に表示できますが、呼び出し先のWebサイトの設定を正しく設定しても、該当のサイトを表示できない場合がありますのでご了承ください。
>   - インライフレームの倍率が25%の場合、「フォーム・デザイナ」画面、実行画面で利用されているダイアログ（フォーム・デザイナ画面のツールキットやフィールド一覧など）がインラインフレームの後ろに隠れて表示されてしまう場合あります。
>   この現象は、URLに設定したWEBサイトによって発生します。
>   - 「Internet Explorer 8」では、倍率設定が正しく動作しませんので、注意してください。

基本設定

URL

インラインフレームに表示するサイトのURLを指定します。

パラメータ設定

送信方法

データの送信方法を「GET」「POST」のいずれかから選択します。

パラメータ設定

URLに設定した値（アドレス）に追加したいパラメータのキーと値の組み合わせを設定します。
「＋」「－」で追加と削除ができます。
左の行番号をドラッグすることで順番の入れ替えができます。

- パラメータキー

  パラメータキーを設定します。

- パラメータ値

  パラメータ値に設定されている状態を確認します。
  値の取得元がプロパティ設定値の場合、パラメータ値に設定した文字列がそのまま表示されます。
  データソース設定値の場合は、「データソース設定値」とだけ表示されます。

パラメータキー

編集対象のパラメータ値に対応するパラメータキーを選択します。

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

パラメータ値

パラメータに設定する値を登録します。
同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」を指定します。
任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

データソース設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」を指定します。
  任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。
- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

パラメータ設定値

パラメータに設定する値を登録します。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フレーム制御

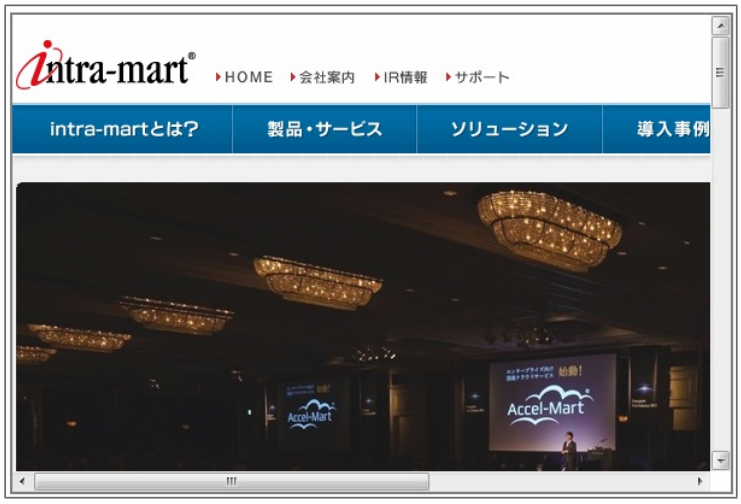
インラインフレームの動作種別を設定します。
以下の項目から設定できます。

- 「利用しない」の場合
  インラインフレームを通常表示します。

画面から直接インラインフレーム内の項目を操作できます。
最大表示はできません。
表示例）



- 「クリック／コントロールバー」の場合
  画面から直接インラインフレーム内の項目を操作できませんが、一度インラインフレーム内をクリックし、最大表示した後に操作できます。
  表示例）



- 「コントロールバー」の場合
  画面から直接インラインフレーム内の項目を操作できます。
  また、上部に表示されるバーで倍率と最大表示と縮小表示を行えます。
  表示例）



通常時の倍率

最大表示ではないときの倍率を指定します。
25%～275%の間で25%ごとに指定できます。

最大化時の倍率

コントロールバーの「クリック／コントロールバー」と「コントロールバー」を選択した場合に、最大表示のときの倍率を指定します。
25%～275%の間で25%ごとに指定できます。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単

位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

コントロールバースタイル

グラデーションパターン

コントロールバーにグラデーションを設定します。
以下の項目から選択できます。

- 利用しない
  グラデーションを利用せずに、コントロールバーを単色で表示します。
  コントロールバーの色を1色指定します。
- 縦方向
  コントロールバーの色1からコントロールバーの色2へと、上から下へ縦方向にグラデーションで表示します。
  コントロールバーの色を2色指定します。
- 横方向
  コントロールバーの色1からコントロールバーの色2へと、左から右へ横方向にグラデーションで表示します。
  コントロールバーの色を2色指定します。

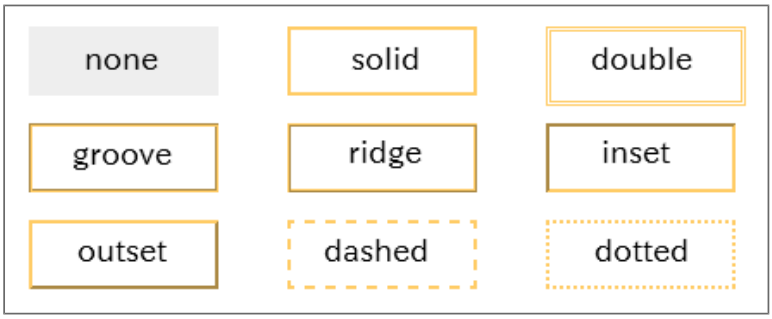
コントロールバーの色1
コントロールバーの色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
コントロールバーの色2
コントロールバーの色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

フレームスタイル

枠のスタイル

表示する画面アイテムの枠の形式を指定します。

- none：枠は表示されません。表のセルなどの枠が重なり合う場合は他の値が優先されます。
- solid：枠は1本の線で表示されます。
- double：枠は二重線で表示されます。
- groove：枠は立体的に窪んだ線で表示されます。
- ridge：枠は立体的に隆起した線で表示されます。
- inset：枠の内側が立体的に窪んだ線で表示されます。
- outset：枠の内側が立体的に隆起した線で表示されます。
- dashed：枠は破線で表示されます。
- dotted：枠は点線で表示されます。



- 枠のスタイルによる設定項目の違いについて

  枠のスタイルを特定の種類にした場合には、一部の設定項目が下記の通り変わります。
  設定した枠のスタイルの種類に合わせて、必要な項目を設定してください。

  - 正方形/長方形の場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	必須
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

  - インラインフレーム、BI表示アイテムの場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	任意
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

枠の太さ

表示する枠の太さをピクセル単位で指定します。

枠の色

枠の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

背景色
背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

BI表示アイテム

画面アイテム「BI表示アイテム」は、Jaspersoftのレポートをフォーム上に表示するためのアイテムです。

> 注意
> 「BI表示アイテム」は、Jaspersoft 機能強化モジュールが導入されている環境でのみご利用いただけます。

基本設定

カテゴリ

レポートタイプを指定します。
Jaspersoftのレポートタイプに合わせて、レポート、チャート、ダッシュボードのいずれかを設定してください。

レポートパス

右の虫眼鏡アイコンからレポートを検索し、表示するレポートのパスを設定します。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

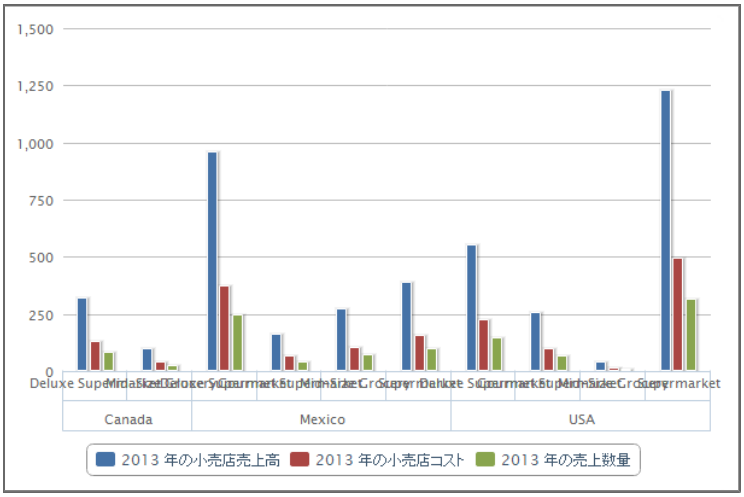
画面の種類（行項目）

1. 処理
   BISフローの処理画面の時の表示タイプを設定します。
2. 参照
   BISフローの参照画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

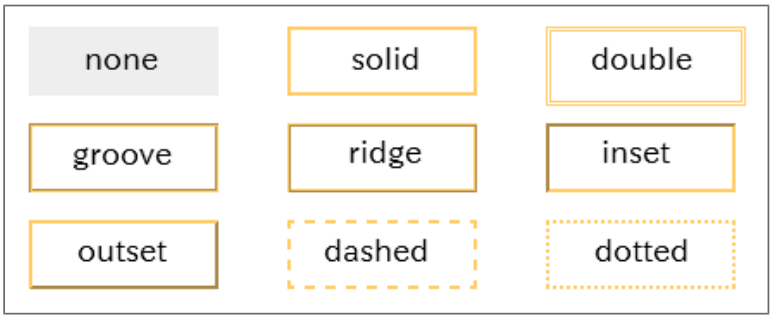
表示スタイル

枠のスタイル

表示するアイテムの枠の形式を指定します。

- none：枠は表示されません。表のセルなどの枠が重なり合う場合は他の値が優先されます。
- solid：枠は1本の線で表示されます。
- double：枠は二重線で表示されます。

- groove：枠は立体的に窪んだ線で表示されます。
- ridge：枠は立体的に隆起した線で表示されます。
- inset：枠の内側が立体的に窪んだ線で表示されます。
- outset：枠の内側が立体的に隆起した線で表示されます。
- dashed：枠は破線で表示されます。
- dotted：枠は点線で表示されます。



枠のスタイルによる設定項目の違いについて

枠のスタイルを特定の種類にした場合には、一部の設定項目が下記の通り変わります。
設定した枠のスタイルの種類に合わせて、必要な項目を設定してください。

- 正方形/長方形の場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	必須
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

- インラインフレーム、BI表示アイテムの場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	任意
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

枠の太さ

表示する枠の太さをピクセル単位で指定します。

枠の色

枠の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

背景色
背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ボタン(インポート)

画面アイテム「ボタン(インポート)」は、インポートを実行するためのアイテムです。
外部連携の設定を行うことで、インポートを実行することができます。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(エクスポート)

画面アイテム「ボタン(エクスポート)」は、エクスポートを実行するためのアイテムです。
外部連携の設定を行うことで、エクスポートを実行することができます。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。

- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

アノテーション

画面アイテム「アノテーション」は、画像に注釈を書き込んだり、注釈を含む画像ファイルとして保存することができるアイテムです。

> **コラム**
>
> 画面アイテム「アノテーション」は、IM-Annotation for Accel Platformを導入している環境であればご利用いただけます。
> IM-Annotation for Accel Platformは 2014 Winter(Iceberg) から 2017 Winter(Rebecca) まで提供しておりましたが、2018 Spring(Skylark) に機能が廃止されました。機能の廃止に伴い、画面アイテム「アノテーション」が削除されました。
> 2014 Winter(Iceberg) から 2017 Winter(Rebecca) までの環境では、現行どおり 画面アイテム「アノテーション」 を利用する事は可能です。
> 弊社テクニカルサポートセンターでの問合せ対応も引き続き可能です。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アノテーションID

アノテーションアイテムを一意に識別するためのIDとして利用します。
同一のアプリケーション内では、すべてのアノテーションアイテムのアノテーションIDが一意になるように設定してください。

権限設定

アノテーションの権限を設定します。
画像追加設定

画像の追加設定を行います。

- 画像の追加ができない：画像の取り込みができなくなります。
- 画像の追加ができる：画像の取り込みができるようになります。

ノード毎のレイヤー上限数
ノード毎に作成できるレイヤーの上限数を設定します。
Tiff出力

アノテーションアイテムで作成した画像とレイヤーをTiff形式で出力する設定をします。

- 出力しない：Tiff形式での出力はしません。
- フロー名で保存：「フロー名.tiff」のファイル名で、Tiff形式で出力します。
- 任意の名前で保存：入力して指定したファイル名でTiff形式で出力します。

Tiff圧縮形式

Tiff出力を行う場合、その画像の圧縮形式を設定します。

- 圧縮しない：Tiff画像を無圧縮で出力します。
- Zlib形式：Tiff画像をZIP圧縮で出力します。
- JPEG形式：Tiff画像をJPEG圧縮で出力します。

履歴出力

ノード毎の履歴画像の出力有無を設定します。
「出力する」を設定した場合、storageに各ノード処理時点での画像が保存できます。

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

Canvasプロパティ

Canvasのサイズを設定します。
画像幅
画像を表示する領域の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
画像高さ
画像を表示する領域の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

コントロールバースタイル

グラデーションパターン

コントロールバーにグラデーションを設定します。
以下の項目から選択できます。

- 利用しない
  グラデーションを利用せずに、コントロールバーを単色で表示します。
  コントロールバーの色を1色指定します。
- 縦方向
  コントロールバーの色1からコントロールバーの色2へと、上から下へ縦方向にグラデーションで表示します。
  コントロールバーの色を2色指定します。
- 横方向
  コントロールバーの色1からコントロールバーの色2へと、左から右へ横方向にグラデーションで表示します。
  コントロールバーの色を2色指定します。

コントロールバーの色1
コントロールバーの色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
コントロールバーの色2
コントロールバーの色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

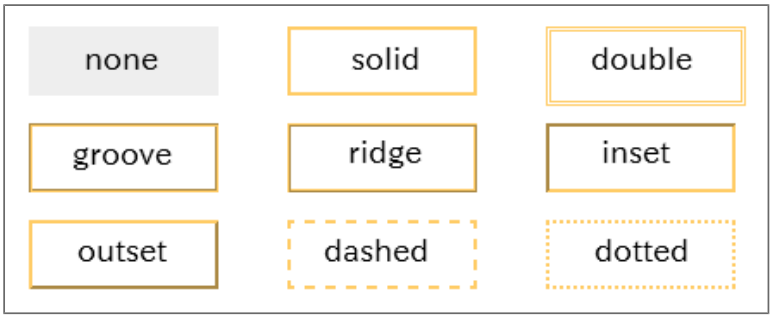
Canvasスタイル

枠のスタイル

表示するアイテムの枠の形式を指定します。

- none：枠は表示されません。表のセルなどの枠が重なり合う場合は他の値が優先されます。
- solid：枠は1本の線で表示されます。
- double：枠は二重線で表示されます。
- groove：枠は立体的に窪んだ線で表示されます。
- ridge：枠は立体的に隆起した線で表示されます。

- inset：枠の内側が立体的に窪んだ線で表示されます。
- outset：枠の内側が立体的に隆起した線で表示されます。
- dashed：枠は破線で表示されます。
- dotted：枠は点線で表示されます。



枠のスタイルによる設定項目の違いについて

枠のスタイルを特定の種類にした場合には、一部の設定項目が下記の通り変わります。
設定した枠のスタイルの種類に合わせて、必要な項目を設定してください。

- アノテーションの場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	必須
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

枠の太さ

表示する枠の太さをピクセル単位で指定します。

枠の色

枠の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

背景色
背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

> **コラム**
>
> 画面アイテム「アノテーション」は、IM-Annotation for Accel Platformを導入している環境であればご利用いただけます。
> IM-Annotation for Accel Platformは 2014 Winter(Iceberg) から 2017 Winter(Rebecca) まで提供しておりましたが、2018 Spring(Skylark) に機能が廃止されました。機能の廃止に伴い、画面アイテム「アノテーション」が削除されました。
> 2014 Winter(Iceberg) から 2017 Winter(Rebecca) までの環境では、現行どおり 画面アイテム「アノテーション」 を利用する事は可能です。
> 弊社テクニカルサポートセンターでの問合せ対応も引き続き可能です。

表示アイテム

見出し

画面アイテム「見出し」は、フォーム上に見出しを表示するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

見出しのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称を、見出し上に表示します。

見出しレベル

見出しの大きさを1～5の間で選択します。
数が小さいほど、表示が小さくなります。
「1」に設定した場合が、大きさは最大となり、「5」に設定した場合が、大きさは最小となります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

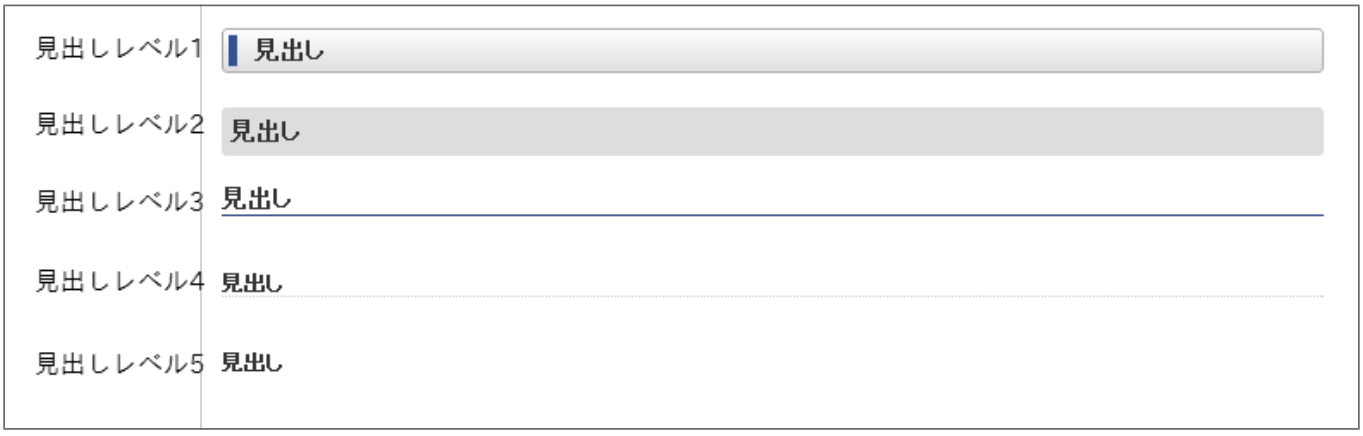
画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

横線

画面アイテム「横線」は、フォーム上に横線を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上から

の横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

太さ

表示する線の太さをピクセル単位で指定します。

色

線の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

縦線

画面アイテム「縦線」は、フォーム上に縦線を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

太さ

表示する線の太さをピクセル単位で指定します。

色

線の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

正方形/長方形

画面アイテム「正方形/長方形」は、フォーム上に正方形や長方形を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

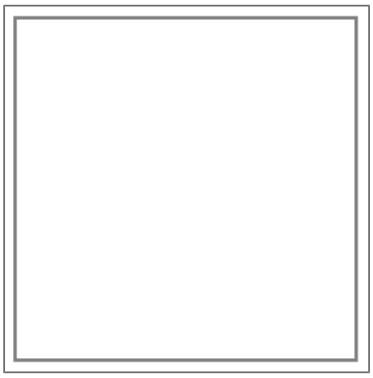
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

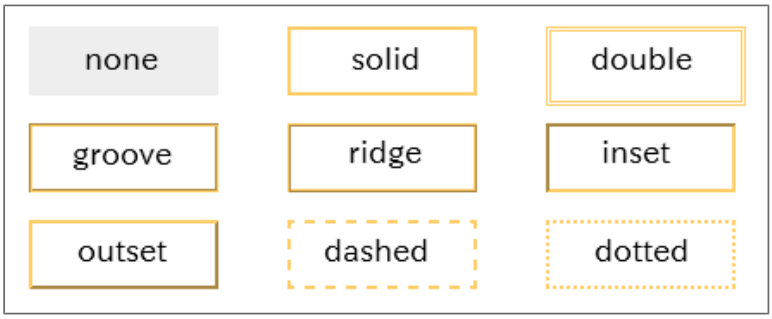
表示スタイル

枠のスタイル

表示するアイテムの枠の形式を指定します。

- none：枠は表示されません。表のセルなどの枠が重なり合う場合は他の値が優先されます。
- solid：枠は1本の線で表示されます。
- double：枠は二重線で表示されます。
- groove：枠は立体的に窪んだ線で表示されます。
- ridge：枠は立体的に隆起した線で表示されます。
- inset：枠の内側が立体的に窪んだ線で表示されます。
- outset：枠の内側が立体的に隆起した線で表示されます。
- dashed：枠は破線で表示されます。

- dotted：枠は点線で表示されます。



枠のスタイルによる設定項目の違いについて

枠のスタイルを特定の種類にした場合には、一部の設定項目が下記の通り変わります。
設定した枠のスタイルの種類に合わせて、必要な項目を設定してください。

- 正方形/長方形の場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	必須
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

- インラインフレーム、BI表示アイテムの場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	任意
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

枠の太さ

表示する枠の太さをピクセル単位で指定します。

枠の色

枠の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

背景色
背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

イメージ

画面アイテム「イメージ」は、フォーム上に任意の画像を表示するためのアイテムです。

基本設定

イメージ選択

配置した場所に表示する画像ファイルを指定します。
指定できる画像ファイルは、「フォーム・デザイナ」画面上の「画像アップロード」で事前にアップロード済みの画像ファイルに限られます。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ラベル

画面アイテム「ラベル」は、フォーム上にラベル(太字や文字色などの装飾を行った文字)を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

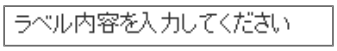
画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

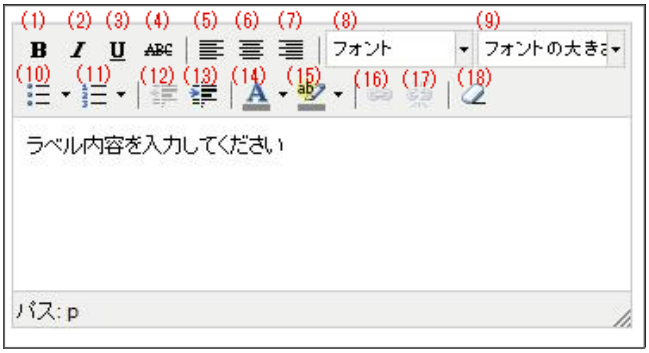
フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ラベル編集

ラベル内容

ラベルに表示する文字、文字の書式を設定します。

ラベルの内容の編集時に利用できるツールバーと各部の説明



1. 太字

   太字にしたい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、太字で表示します。

2. 斜体(イタリック体)

   斜体にしたい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、斜体で表示します。

3. 下線

   下線を付加したい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、下線を表示します。

4. 取り消し線

   取り消し線を付加したい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、取り消し線を表示します。

5. 左揃え

   文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を左揃えで表示します。

6. 中央揃え(センタリング)

   文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を中央揃えで表示します。

7. 右揃え

   文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を右揃えで表示します。

8. 文字の種類

   文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字のフォントの種類を変更します。
   選択できるフォントは、操作しているパソコンにインストール済みの英字フォントに限られます。

9. 文字サイズ

   文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字のサイズを変更します。

10. 番号なしリスト

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を番号なしリストの形式に変更します。

11. 番号つきリスト

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を番号つきリストの形式に変更します。

12. 字下げを減らす

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字の字下げのレベルを下げます。

13. 字下げを増やす

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字の字下げのレベルを上げます。

14. 文字の色

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字の色を変更します。

15. 背景の色

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を蛍光ペンでマーキングしたように表示します。

16. リンクの挿入や編集

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックし、URLを設定すると、ハイパーリンクとして表示します。

17. リンクを解除

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、ハイパーリンクを解除します。

18. 書式の削除

    文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、設定済みの書式設定を削除します。

ラベルのエディタの「文字の種類」の選択状態について

- ラベルの内容の設定で、「文字の種類」の変更後にプロパティ画面を一度閉じてから再表示した際の「文字の種類」の選択状態は、ご利用のブラウザによって選択されたフォント名が表示される場合と初期値(“フォント”)が表示される場合があります。
  こちらは、ラベルの内容を編集するエディタとしている「TinyMCE」というオープンソースのツールの仕様によるものとなりますので、ご了承ください。

ワークフローアイテム

案件情報表示

画面アイテム「案件情報表示」は、フォーム上にワークフローの案件情報を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

表示項目

ワークフローに関する情報のうち、表示する項目を指定します。
表示する項目を「表示項目」、非表示とする項目は「非表示項目」に設定することで、必要な情報のみをフォーム上に表示できます。
「表示項目」右のアイコンで並び順を変えると、表示する項目の順番を変更することができます。

画面の種類（行項目）

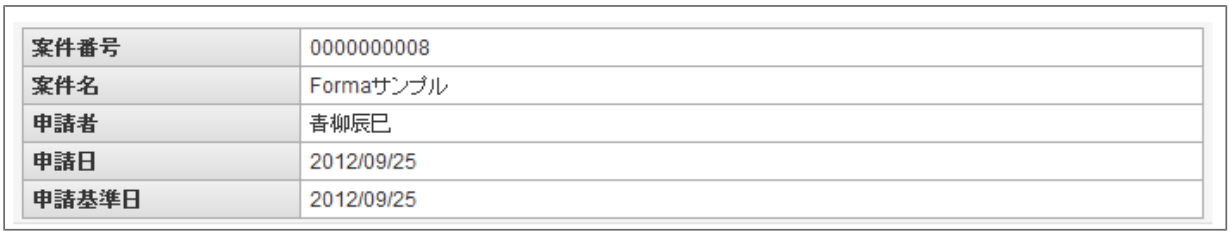
1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



案件番号	0000000008
案件名	Formaサンプル
申請者	青柳辰巳
申請日	2012/09/25
申請基準日	2012/09/25

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

添付ファイル表示

画面アイテム「添付ファイル表示」は、フォーム上にワークフローで添付したファイルを表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

フロー画像表示

画面アイテム「フロー画像表示」は、フォーム上にワークフローのフロー画像を表示するためのアイテムです。

詳細設定

フローの表示方法

フロー画像の表示方法を選択します。

フレーム表示

フロー画像をフレーム形式で表示します。
プロパティのアイテムサイズ内で表示できない場合には、スクロールバーを表示します。

画像表示

フロー画像を画像形式で表示します。
プロパティのアイテムサイズ内で表示できない場合には、範囲に入りきらない部分は切り捨てて表示します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請

ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

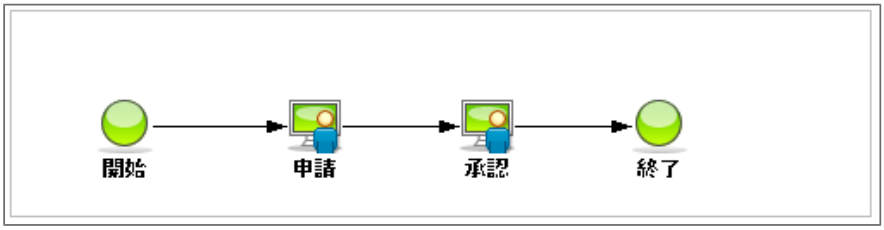
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

処理履歴表示

画面アイテム「処理履歴表示」は、フォーム上にワークフローの処理履歴を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

表示項目

ワークフローに関する情報のうち、表示する項目を指定します。
表示する項目を「表示項目」、非表示とする項目は「非表示項目」に設定することで、必要な情報のみをフォーム上に表示できます。
「表示項目」右のアイコンで並び順を変えると、表示する項目の順番を変更することができます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示

処理履歴						
処理日時	ノード名	処理	処理者	代理先	担当組織	コメント
2012/09/25 18:47	申請	申請	吉柳辰巳		サンプル課11	よろしくお願いします。

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

確認履歴表示

画面アイテム「確認履歴表示」は、フォーム上にワークフローの確認履歴を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

表示項目

ワークフローに関する情報のうち、表示する項目を指定します。
表示する項目を「表示項目」、非表示とする項目は「非表示項目」に設定することで、必要な情報のみをフォーム上に表示

できます。
「表示項目」右のアイコンで並び順を変えると、表示する項目の順番を変更することができます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



確認履歴			
処理日時	確認者	担当組織	コメント
2012/09/25 19:05	春柳辰巳	サンプル課11	

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

印影表示

画面アイテム「印影表示」は、フォーム上にワークフローの印影を表示するためのアイテムです。

詳細設定

最大表示列数

表示する印影の欄の列数を設定します。

並び順

印影の欄の表示する順番を設定します。
「ノード順」の場合は、フローの順番に左から表示します。
「ノード逆順」の場合は、フローの順番に右から表示します。

ノード名表示

印影欄の上に、ワークフローで設定しているノードの名称を表示するかを設定します。
非表示にした場合は、印影欄のみを表示します。

印影欄表示

印影欄の表示方法を設定します。
「全ての印影欄表示」の場合は、印影の押印の有無に関わらず、常にすべての印影欄を表示します。
「押印された印影欄のみ表示」の場合は、押印されている印影欄のみを表示します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

互換用アイテム

より高度な連携機能を使用できる新しいアイテムに置き換えられた、従来のアイテムを互換用アイテムとしています。

一覧選択

画面アイテム「一覧選択」は、データベースから入力値を検索して入力するためのアイテムです。
外部連携の設定を行うことで、一覧選択を実行することができます。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット

コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。

注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。

注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
アカウント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123 456 789,123
テナント設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ▪ 123456789,123 ▪ 123.456.789,123
システム設定	▪ 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ▪ 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ▪ 123456789.123 ▪ 123‘456‘789.123



コラム

クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)

ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

外部連携

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
  - 別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 簡易検索機能
  - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で簡易検索機能を利用できるようにします。
- 詳細検索機能
  - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で詳細検索機能を利用できるようにします。
- 検索結果表示（初期表示時）
  - チェックがオンの場合、初期表示時に検索結果を表示します。
    対象データ件数が多いときの初期表示時のパフォーマンスを考慮し、初期表示時に検索結果を表示させたくない場合に設定します。
- 項目幅の自動調整
  - チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
    チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。
    表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。
- 初期表示のソート順
  - 初期表示時の検索結果表のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を指定します。
- 非表示項目、一覧表示項目
  - クエリの取得値の設定項目のうち、一覧に表示する項目を「一覧表示項目」の枠に、一覧に表示しない項目を「非表示項目」に設定します。



コラム

一覧選択画面での簡易検索機能は、出力値に設定されているすべての「文字列型」の列に対して部分一致で行います。
一覧選択画面での詳細検索機能は、列毎に詳細な検索をすることができます。



注意

IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整と初期表示のソート順の設定を追加しました。

- IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
  「 画面設計書出力 」での出力値は空白で出力されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」

（※）を指定します。
任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータのどの取得項目を画面アイテムに表示するかを設定します。

1. ラジオボタン
   「一覧選択」の入力欄に表示する値を設定します。
   取得項目が1つの場合は、変更できません。

2. 取得値を表示する画面アイテム
   フォーム上の他の画面アイテムに取得するデータを表示する場合に、セレクトボックスからフィールド識別名で設定します。
   - 取得値に設定できるアイテム
     - 文字列（product_72_textbox）
     - 複数行文字列（product_72_textarea）
     - 数値（product_72_number）
     - 日付（product_72_date）
     - 期間（product_72_term）
     - 一覧選択（互換用）（product_72_itemSelect）
     - 隠しパラメータ（product_72_hidden）

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

明細テーブル

画面アイテム「明細テーブル」は、アプリの実行時に自由に行を追加して表形式で入力するためのアイテムです。

項目

- 基本設定
- 詳細設定
- 表示スタイル
- 列プロパティ概要
- 列プロパティ(文字列)
- 列プロパティ(数値)
- 列プロパティ(日付)
- 列プロパティ(関数)
- 列プロパティ(隠しパラメータ)
- 列プロパティ(一覧選択)
- 列プロパティ(ラジオボタン)
- 列プロパティ(セレクトボックス)
- 明細テーブルの行のコピー、挿入、削除方法

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、アイテムの上に表示します。

行の定義

テーブルに追加できる行について設定します。

行追加可能

チェックをオンにした場合、アプリケーションの実行時に行を追加することができます。

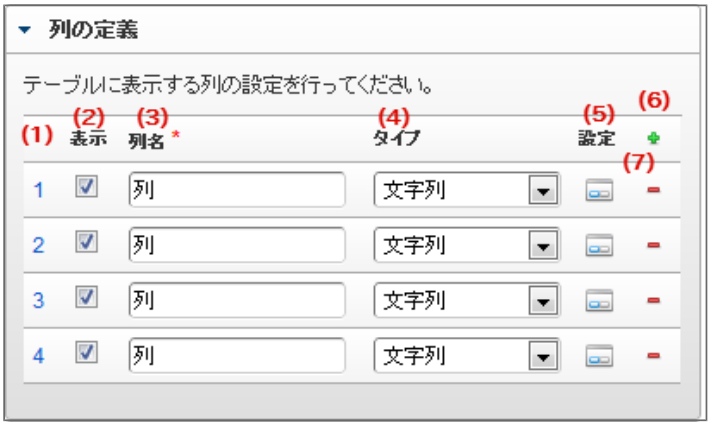
行数

「行追加可能」のチェックがオフの場合、テーブルに表示する行数を設定できます。

最大行数

「行追加可能」のチェックがオンの場合、テーブルに追加できる行の最大値を設定できます。
入力した行数まで追加できるようになるため、1以上の値を設定してください。

列の定義



明細テーブルの列を設定します。

1. 列番号

   列の表示順を設定します。
   列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

2. 表示

   列の表示/非表示を設定します。
   チェックがオフの場合、列は画面に表示されませんが、値の設定・取得等に利用することができます。
   タイプが「隠しパラメータ」の場合、必ずチェックがオフ(非表示)になります。

3. 列名

   列の名称を設定します。
   明細テーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

4. タイプ

   列のデータ型を設定します。
   関数や一覧選択等の他の画面アイテムを参照できるタイプの場合には、「関数」「一覧選択」で利用する場合と同様に、対象のフィールド識別IDを利用することで指定できます。

5. 設定

   クリックすると、列の詳細設定(入力フィールド、入力チェック等)画面に遷移します。

6. 追加

   クリックすると、明細テーブルの列を追加します。

7. 削除

   クリックすると、明細テーブルの列を削除します。



コラム

- 明細テーブルの表示について
  明細テーブルのテーブル、列の表示・非表示、表示タイプについては、以下の通りの動作となります。
  明細テーブルの「列の定義」での列の表示・非表示は、テーブルの表示タイプが表示であれば、列の定義を非表示にした場合も値を保持することができます。
  表示タイプは、列の表示タイプが設定されている場合には、テーブルの表示タイプより列の表示タイプの設定が優先されます。
  テーブルの表示タイプを非表示とした場合には、列の表示タイプを設定することはできません。
  テーブル・列の表示タイプの設定で非表示とした場合には、データは保持されません。

詳細設定

テーブル識別ID

明細テーブル、グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブルの物理名として利用します。
フォーム間でテーブル同士の値の引継ぎをする場合は、テーブル識別IDを同じにする必要があります。

> **注意**
>
> BIS作成種類「BISフロー」「ワークフロー」の場合、「定義の反映」によってテーブルが自動作成されるため、以下の注意事項があります。
>
> - テーブル識別IDに設定可能な文字数は6文字です。
> - テーブル識別IDとして設定な可能な文字は、半角英数字小文字、”_”（アンダーバー）に限ります。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

列番号表示(参照時)

明細テーブルのテーブルに対する表示タイプが「参照」となっている場合に、左の列番号の表示を設定します。
チェックがオンになっている場合、入力時と同様の列番号を表示します。

- 列番号表示が有効の場合

明細テーブル

	列	列	列	列
1	ABC	DEF	GHI	JKL
2	MNO	PQR	STU	VWX

- 列番号表示が無効の場合

明細テーブル

列	列	列	列
ABC	DEF	GHI	JKL
MNO	PQR	STU	VWX

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

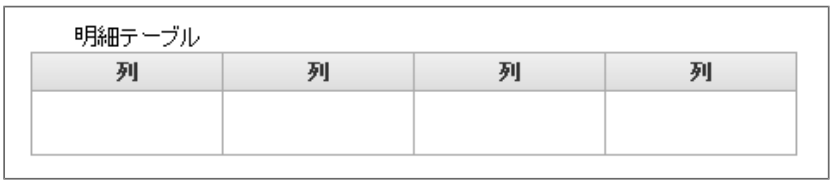
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

列のサイズ・配置

列のサイズ
列の入力欄の標示の幅をピクセル単位で指定します。
横位置揃え
列の値の横位置を左寄せ、中央寄せ、右寄せのいずれかに設定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

列プロパティ概要

列プロパティは、「基本設定」 -> 「列の定義」 -> 「設定」をクリックして設定することができます。
明細テーブルの列プロパティには、以下のタイプがあります。
それぞれのタイプで、列プロパティの設定内容が異なります。

タイプ	説明
文字列	文字や数値などで短い文章を入力するときに使用するタイプです。
数値	金額や個数などの数値を入力するときに使用するタイプです。
日付	日付を入力するときに使用するタイプです。
関数	日付や数値の計算や、関数を使用して処理するときに使用するタイプです。
隠しパラメータ	フォーム上に表示させずに、値を保持するときに使用するタイプです。
一覧選択	外部連携を使用し、入力値を一覧から選択して入力するときに使用するタイプです。
ラジオボタン	複数項目から入力値をボタンで、１つ選択するときに使用するタイプです。
セレクトボックス	複数項目から入力値をプルダウンで、１つ選択するときに使用するタイプです。

列プロパティ(文字列)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「文字列」の場合には、以下の項目を設定します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(数値)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「数値」の場合には、以下の項目を設定します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
アカウント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123 456 789,123
テナント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123.456.789,123
システム設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ・123456789.123 ・123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(日付)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「日付」の場合には、以下の項目を設定します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(関数)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「関数」の場合には、以下の項目を設定します。

式

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「”」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

利用できる演算子、関数

- *演算子*
- *文字列関数*
- *条件式関数*
- *数値系関数*
- *日付関数*
- *ユーザ情報関数*

- *ワークフロー関数(申請情報)*
- *ワークフロー関数(案件情報)*

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット
- 桁区切りなし・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
  - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
  - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
  - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
  - 「 設定ファイルリファレンス 」 - 「 数値形式マスタ 」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
  https://issue.intra-mart.jp/issues/27791

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「 クライアントサイド JavaScript 」 - 「 ImDecimalFormatter 」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	・桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ・桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	・123456789.123 ・123,456,789.123
アカウント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123 456 789,123
テナント設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ・123456789,123 ・123.456.789,123
システム設定	・桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している ・桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123‘456‘789.123」の場合の例です。 ・123456789.123 ・123‘456‘789.123

> **コラム**
>
> クライアントサイドスクリプトAPI において、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「 一般ユーザ操作ガイド 」-「 日付と時刻の形式を設定する 」を参照してください。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。

「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(隠しパラメータ)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「隠しパラメータ」の場合には、以下の項目を設定します。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列
- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値
- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付
- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ
- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

列プロパティ(一覧選択)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「一覧選択」の場合には、データソース設定のリンクからデータソースに関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
  - 別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 簡易検索機能
  - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で簡易検索機能を利用できるようにします。
- 詳細検索機能
  - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で詳細検索機能を利用できるようにします。
- 検索結果表示（初期表示時）

    - チェックがオンの場合、初期表示時に検索結果を表示します。
      対象データ件数が多いときの初期表示時のパフォーマンスを考慮し、初期表示時に検索結果を表示させたくない場合に設定します。
- 項目幅の自動調整
    - チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
      チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。
      表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。
- 初期表示のソート順
    - 初期表示時の検索結果表のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を指定します。
- 非表示項目、一覧表示項目
    - クエリの取得値の設定項目のうち、一覧に表示する項目を「一覧表示項目」の枠に、一覧に表示しない項目を「非表示項目」に設定します。

> **コラム**
>
> 一覧選択画面での簡易検索機能は、出力値に設定されているすべての「文字列型」の列に対して部分一致で行います。
> 一覧選択画面での詳細検索機能は、列毎に詳細な検索をすることができます。

> **注意**
>
> IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整と初期表示のソート順の設定を追加しました。
>
> - IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
>   「 画面設計書出力 」での出力値は空白で出力されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。
  任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

  ※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。
- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
    - *演算子*
    - *文字列関数*
    - *条件式関数*
    - *数値系関数*
    - *日付関数*
    - *ユーザ情報関数*
    - *ワークフロー関数(申請情報)*
    - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータのどの取得項目を画面アイテムに表示するかを設定します。

1. ラジオボタン
   「一覧選択」の入力欄に表示する値を設定します。

取得項目が1つの場合は、変更できません。

2. 取得値を表示する画面アイテム
   フォーム上の他の画面アイテムに取得するデータを表示する場合に、セレクトボックスからフィールド識別名で設定します。
   - 取得値に設定できるアイテム
     - 文字列（product_72_textbox）
     - 複数行文字列（product_72_textarea）
     - 数値（product_72_number）
     - 日付（product_72_date）
     - 期間（product_72_term）
     - 一覧選択（互換用）（product_72_itemSelect）
     - 隠しパラメータ（product_72_hidden）

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。

設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- *チェックフォーマットの記述例*

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(ラジオボタン)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「ラジオボタン」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。
  任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

  ※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。
- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値
   画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(セレクトボックス)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「セレクトボックス」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定を
入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。

任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値
   画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

> **コラム**
>
> 承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて
>
> 承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
> 承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。
>
> 承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。
>
> - 前処理プログラム
> - 外部連携（*）
>   - 前処理
>   - 初期表示イベント
>
> > **コラム**
> >
> > * 外部連携について
> >
> > 「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
> > なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

明細テーブルの行のコピー、挿入、削除方法

行のコピー、挿入、削除方法について説明します。

行のコピー

行のコピーを行います。

1. コピー対象の番号を右クリックします。



2. 「コピー」をクリックします。



3. 挿入対象の番号で右クリックし、「コピーした行の挿入」をクリックします。



4. コピーした行が挿入されます。



行の挿入

行の挿入を行います。

1. 「＋」アイコンまたは、挿入対象の番号で右クリックし、「挿入」をクリックします。



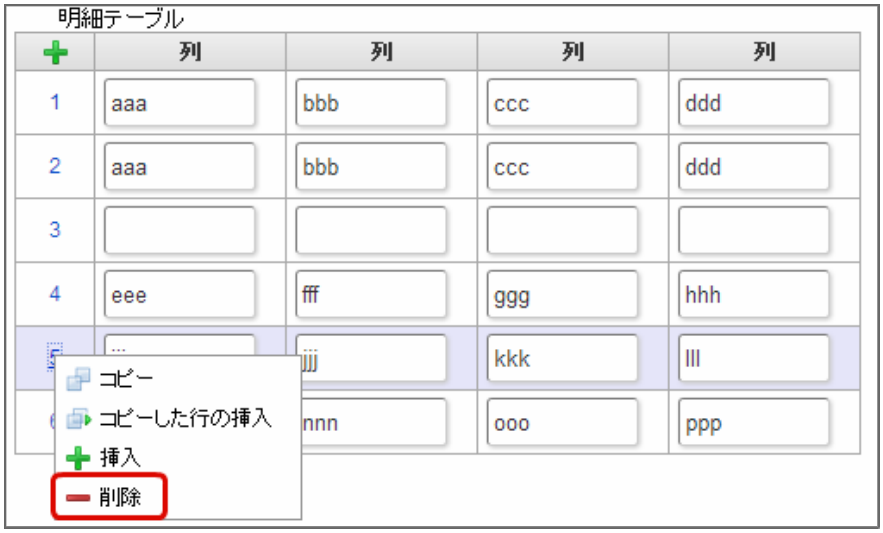
2. 行が挿入されます。



行の削除

行の削除を行います。

1. 削除対象の番号で右クリックし、「削除」をクリックします。



2. 行が削除されます。



コラム

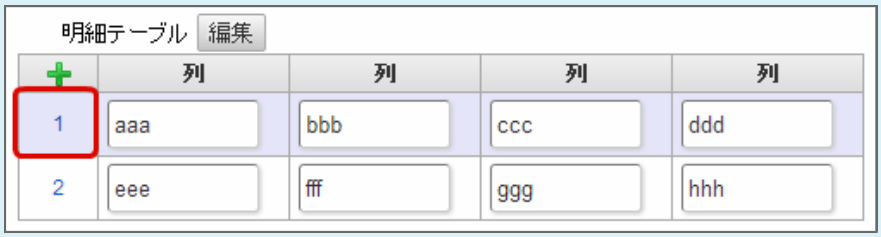
- スマートフォンの場合

  スマートフォンでは、以下の処理を行うことができます。

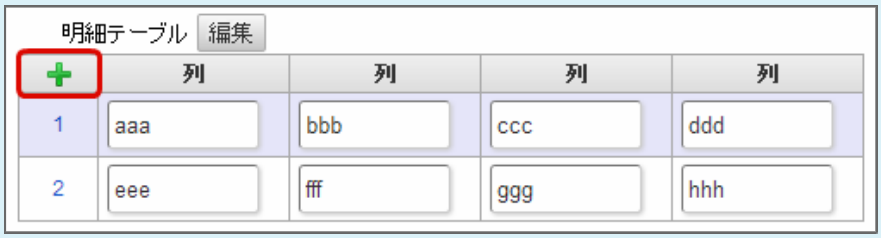
  - 行のコピー
  - 行の削除

  行のコピーを行います。

  1. 番号をクリックし、コピー対象を選択します。



  2. 「＋」をクリックします。



  3. コピーした行が挿入されます。



行の削除を行います。

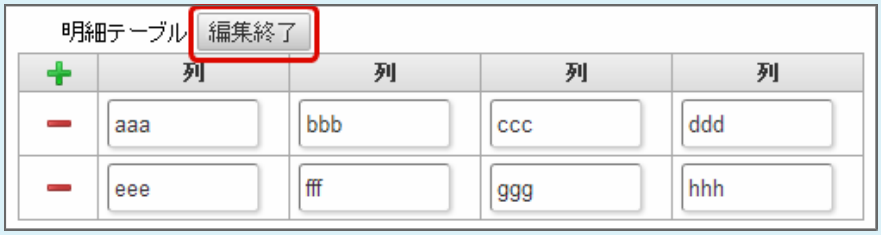
1. 「編集」ボタンをクリックします。



2. 「ー」をクリックします。



3. 「編集終了」ボタンをクリックします。



4. 対象行が削除されます。



チェックボックス

画面アイテム「チェックボックス」は、複数項目から入力値を選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。

同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。
任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値
   画面上に表示する値に設定します。
2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

項目幅

各選択肢の表示値の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

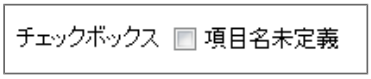
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

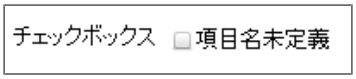
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ラジオボタン

画面アイテム「ラジオボタン」は、複数項目から入力値を 1 つ選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。

任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値
   画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。
「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）
「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

項目幅

各選択肢の表示値の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

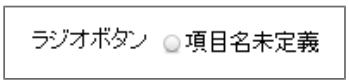
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

セレクトボックス

画面アイテム「セレクトボックス」は、複数項目から入力値を 1 つ選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、ーによって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。
  任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

  ※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。
- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値
   画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色
枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

リストボックス

画面アイテム「リストボックス」は、複数項目から入力値を選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

  固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

  データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、－によって追加、削除することができます。

- 項目番号

  項目の表示順を設定します。
  項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

  画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

  画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
  複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義ずみのクエリー覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
  データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
  同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）を指定します。
  任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「”」で囲んで指定します。

  ※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。
- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
  - *演算子*
  - *文字列関数*
  - *条件式関数*
  - *数値系関数*
  - *日付関数*
  - *ユーザ情報関数*
  - *ワークフロー関数(申請情報)*
  - *ワークフロー関数(案件情報)*

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値
   画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値
   画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
   複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
  - 前処理
  - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「 IM-BIS 仕様書 」-「 データマッパーで利用できるアイテム一覧 」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

行数

画面に表示する選択肢の個数を指定します。
選択肢の個数が行数に設定した値より多い場合は、スクロールバーを利用して選択します。

参照時セパレータ

表示タイプ「参照」で、選択済みの複数の値を表示する際の区切り文字を設定します。
参照時セパレータの値に関係なく、データベース上では、複数の値が選択済みの場合には「,」を区切り文字として使用します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認

ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

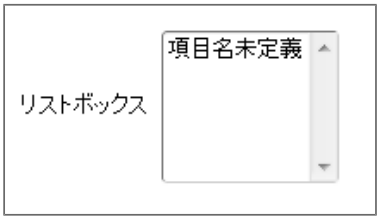
表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
   入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照
   入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示
   入力・表示ともできません。
   設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



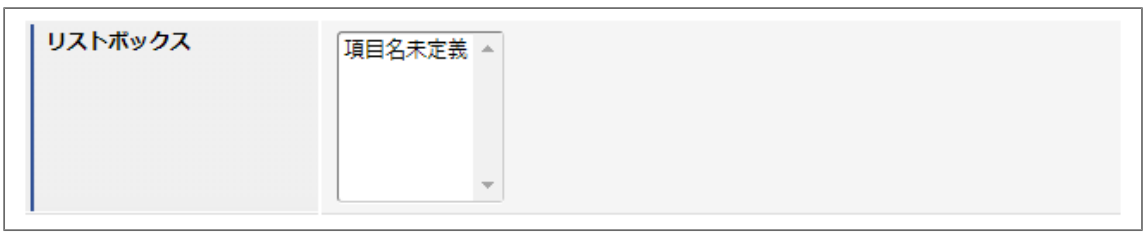
アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し
チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。
フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。
文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。
太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ボタン(登録)

画面アイテム「ボタン(登録)」は、入力したデータの登録処理(ワークフローの申請・再申請・承認等)を実行するためのアイテムです。

基本設定

ラベル（申請・再申請・承認・参照）

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称を、ボタン上に表示します。

「ボタン（登録）」では、表示タイプに合わせて表示する名称を設定できます。

- 申請：申請画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「申請」です。
- 再申請：再申請画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「再申請」です。
- 承認：承認画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「承認」です。
- 参照：参照画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「更新」です。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。
幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(一時保存)

画面アイテム「ボタン(一時保存)」は、一時保存を実行するためのアイテムです。
入力したデータを申請処理をせずに、保存することができます。
一時保存を行ったデータは、ワークフローの「一時保存一覧」、または「未処理一覧」から呼び出して、編集・登録することができます。
詳細は「 IM-FormaDesigner 仕様書 」-「 IM-FormaDesigner における一時保存の仕様 」を参照してください。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

- 「する」をオン
  登録または申請時と同様の入力チェックが行われます。
- 「しない」をオン
  以下の最小限の入力チェックのみ行われます。
  - 最大文字数
  - 数値のみ
  - 数値桁数
  - 小数部桁数
  - 日付形式

コラム

以下の入力チェックは行われません。

- 必須チェック
- 必須選択チェック
- 最小文字数
- 英数字のみ
- 負数
- 添付ファイルの個数　最少
- 添付ファイルの個数　最大
- 正規表現

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
   ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
   ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
   ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
   ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
   html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
   html上に画面アイテムを存在させません。

コラム

再申請や承認時に、一時保存を実行できるようにするには、表示タイプ：再申請・承認に対して、入力タイプ：入力に設定してください。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。



コラム

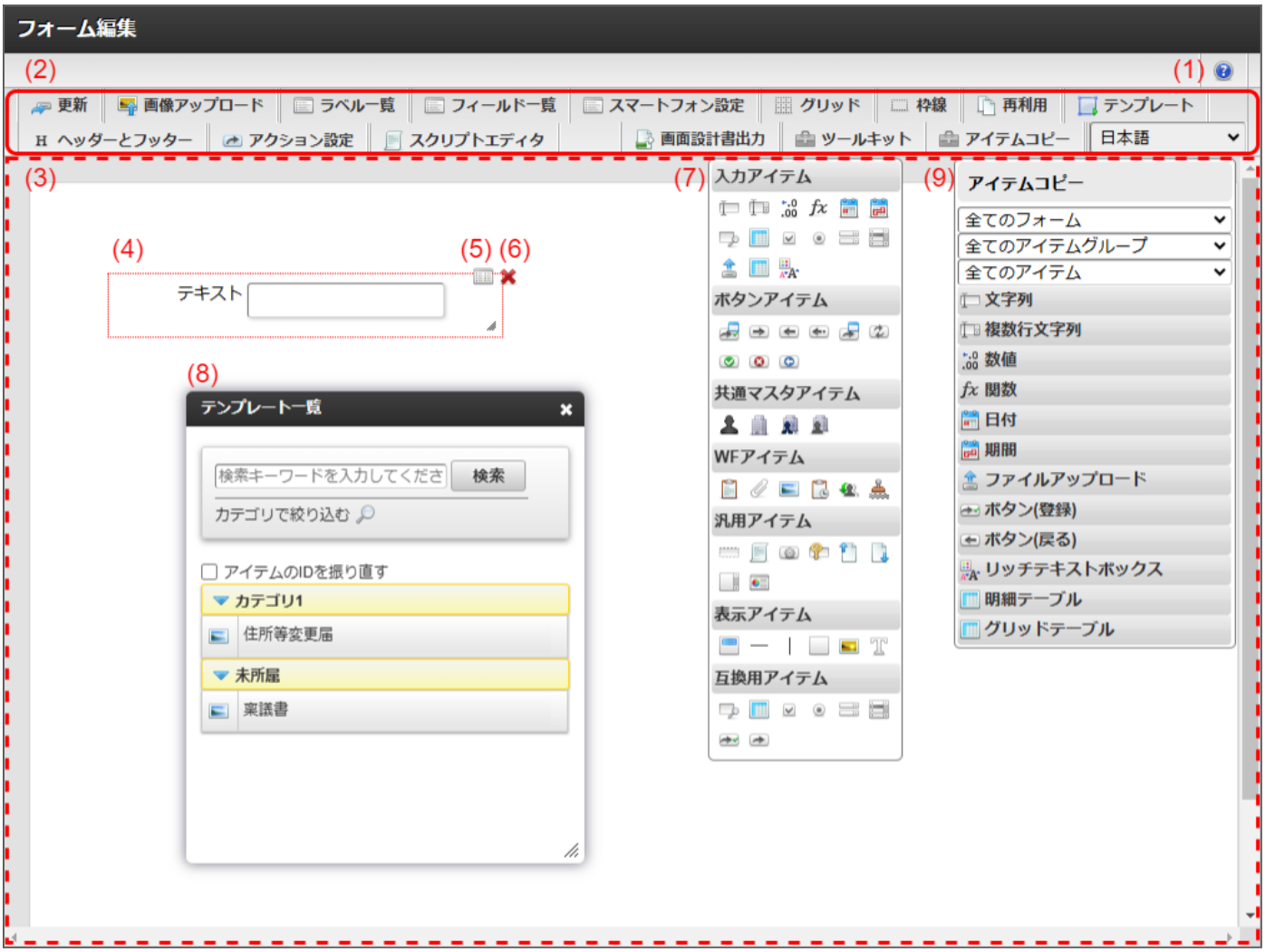
画面アイテムの仕様についての補足は「 *アイテム仕様の補足* 」を参照してください。

フォーム・デザイナヘルプ (IM-BIS)

「フォーム・デザイナ」画面の各部の名称と機能

ここでは、IM-BIS for Accel Platformでの「フォーム・デザイナ」画面の各部の名称と、各ボタン・アイコンに割り当てられている主な操作を説明します。

フォーム・デザイナ



(1)ヘルプボタン

ヘルプ（この操作ガイド）を別ウィンドウで表示します。

(2)デザイナツールバー

「フォーム・デザイナ」画面上で、変更したフォームの保存（更新）やツールキットの表示（ツールキット）などを実行するときに各リンクをクリックします。

更新

編集中のフォームの内容を保存するときにクリックします。
新規作成の場合はフォームデータを新規に保存し、更新の場合は「フォーム・デザイナ」画面で表示している編集内容で上書き保存します。
保存完了後は再び「フォーム・デザイナ」画面が表示されます。

画像アップロード

フォームで使用する画像をアップロードします。
ここでアップロードした画像は、アプリケーション内で共有されます。同じアプリケーション内の異なるフォームでアップロードした画像を共有して利用できます。

アプリケーションに対してアップロードされている画像の一覧を表示します。
一覧に表示されている画像を、画像アイテムで選択し表示できます。

- ファイルの登録
  - 参照ボタンをクリックしアップロードする画像を選択した後、登録ボタンをクリックすることによりアプリケーションに登録されます。
  - アップロード時にファイル名の変更はできません。
- アップロード済みファイル一覧
  - アップロードされているファイルの一覧が表示されます。
  - アップロード済みのファイルを削除したい場合は、削除したいファイルの行の削除アイコンをクリックしてください。

ラベル一覧

配置済みアイテムのラベルを一覧で表示します。
ラベルを持つ画面アイテムのみが一覧に表示されます。
隠しパラメータ等のラベルを持たない画面アイテムは表示されません。

一覧は配置した順にリストの上から下へ表示されます。
ひとつの画面アイテム内に複数のラベルを持つ場合は、同じアイテム名でラベル数分の行が表示されます。
ラジオボタン等の入力項目に対して設定するラベルは、一覧には表示されません。
画面アイテムのラベルプロパティで設定するラベルのみが表示されます。

- 一覧のロケール
  - 一覧では、設定可能なロケール分のラベルが一度に表示されます。
  - 設定可能なロケールは、アプリケーション情報で対象ロケールとして追加されたものです。追加されたロケールの数分、横方向に追加されていきます。
- ラベルの編集
  - ラベルは一覧上で編集可能です。
  - 編集したいラベルの表示されているセルをクリックすると、編集モードへ移行します。
  - ラベルを任意の値へ変更後、[Enter]キー、または[TAB]キーをクリックすることによって、編集内容が確定されます。

ラベルの編集を行った後、編集内容を確定した時点で値が保存されます。
確定前にラベル一覧を閉じると、編集内容が破棄されますので注意してください。

フィールド一覧

フォームに配置されている画面アイテムの入力項目一覧を表示します。
入力項目を持つ画面アイテムのみが一覧に表示されます。
表示アイテム等の入力項目を持たない画面アイテムは表示されません。

一覧は、左上から右下への配置位置順 または 画面アイテムの配置順（レイヤー順）で表示できます。
初期表示時は左上から右下への配置位置順です。
レイヤー順は、通常配置順ですが、右クリックメニューの背面、前面を変更するとレイヤーの順番が変更され、並び順も変わります。

ひとつの画面アイテム内に複数の入力項目を持つ場合は、同じアイテム名とアイテムタイプで入力項目数分の行が表示されます。
画面アイテム「明細テーブル」の入力項目は、列の数分表示されます。

複数行設定済みでも、表示されるのは1行分のみです。

- 一覧のロケール
  - 一覧では、設定可能なロケール分のフィールド識別名が一度に表示されます。
  - 設定可能なロケールは、アプリケーション情報で対象ロケールとして追加されたものです。追加されたロケールの数分、横方向に追加されていきます。
- 内容の編集
  - 一覧に表示されている内容は、タブインデックスとフィールド識別名のみ一覧上で編集可能です。
  - 編集したい内容の表示されているセルをクリックすると、編集モードへ移行します。
  - 内容を任意の値へ変更後、[Enter]キー、または[TAB]キーをクリックすることによって、編集内容が確定されます。

内容の編集を行った後、編集内容を確定した時点で値が保存されます。
確定前にフィールド一覧を閉じると、編集内容が破棄されますので注意してください。

> **コラム**
>
> フォームの実行画面で[TAB]キーを押すと、指定したタブインデックスの順番でフォーカスが移動します。
> 明細テーブルにタブインデックスを設定する場合は、一つのテーブルの列に対して、連続したインデックスを付与するようにしてください。
> また、グリッドテーブルの場合、[Shift]キーを押しながら[TAB]キーを押して別の画面アイテムからフォーカスを戻すと、一行目の最左の入力フィールドにフォーカスが当たります。

> **コラム**
>
> **タブ切替時のタブインデックスの指定**
>
> - タブ切替を利用する場合、タブインデックスはヘッダフォームとタブフォーム間でタブインデックスが重複しないようにしてください。
>   ヘッダフォームとタブフォームに重複した値が設定されている場合、タブインデックスに同じ値を設定されたヘッダフォームの項目、タブフォームの項目の順にフォーカスが移動します。

スマートフォン設定

「スマートフォン版」で表示した際のレイアウトを設定できます。
ここで設定したレイアウトは、「画面遷移設定」、または「フォーム遷移詳細編集」で「スマートフォン表示」が「スマートフォン版」となっている場合に有効です。

スマートフォン版で表示したときに表示する・しない、項目の並び順、スマートフォン用のラベル等を設定できます。

利用方法の詳細については、「 *「スマートフォン設定」画面の各部の名称と機能* 」を参照してください。

グリッド

フォームプレビューエリアにグリッドを表示します。

枠線

配置済みアイテムの枠線を常に表示します。
選択中の画面アイテムは、枠線の色が赤、それ以外の画面アイテムは黒で表示されます。

再利用

登録済みのフォームを読み込みます。
他アプリケーションや同じアプリケーションの履歴から、フォームの設定を読み込むことができます。
フォームの設定内容を読み込むため、読み込み後にフォームの情報を保存した場合は、編集中のフォームが上書きされま

す。
再利用一覧で選択した登録済みフォームの内容が変更されることはありません。

アプリケーションID等の検索条件を入力して検索ボタンをクリックすると、条件に一致するフォームの一覧が表示されます。
一覧の中から利用したいフォームのラジオボタンを選択後に決定ボタンをクリックすると、フォームを読み込み「フォーム・デザイナ」画面に反映します。
プレビューアイコンをクリックすると、該当フォームのプレビュー画面がポップアップで表示されます。

フォームを読み込むと、表示中フォームの保存されていない編集内容は破棄されますので注意してください。

> **注意**
>
> 同一ファイル名の画像ファイルがすでに存在する場合には、画像ファイルはコピーされません。
> そのため、異なった画像が表示されることがあります。

テンプレート

「テンプレート」として登録されている同じアプリケーション種別のフォームを編集中のフォームにコピーできます。
再利用と異なり、フォームの一部としてコピーしたテンプレートに含むフォームのレイアウトを追加しますので、編集中のフォームの内容は保持されます。

コピー元のフォームでヘッダーに画面アイテムを表示させていた場合、以下のヘッダーの設定内容もコピーされます。
タイトルは、反映先のフォームでヘッダーが非表示の場合にコピーされます。

- ヘッダー設定
- タイトル
- ボタン表示

テンプレートでヘッダーに配置した画面アイテムは、操作を元に戻すことができません。
ヘッダーでの配置を取り消したい場合は、「ヘッダーとフッター」の「ボタン表示」から変更できます。
反映先のヘッダーの左側と右側の画面アイテムの末尾に、テンプレートのヘッダーの画面アイテムが配置されます。

反映例

- 反映先フォーム
  - 左側ボタン ：A,B,C
  - 右側ボタン ：D
- テンプレート
  - 左側ボタン ：a,b
  - 右側ボタン ：c,d,e
- テンプレート反映後
  - 左側ボタン ：A,B,C,a,b
  - 右側ボタン ：D,c,d,e

ヘッダーとフッター

フォームにヘッダー、フッター、SharedResource設定をするための画面を表示します。

- ヘッダー設定



- ヘッダー設定
  ヘッダー（タイトル部およびツールバー）の表示非表示を切り替えることができます。
- タイトル名
  ヘッダーに表示するタイトルを設定できます。
- 戻るリンクを表示
  戻るリンクの表示非表示を切り替えることができます。
  戻るリンクは常にツールバーの左端に表示されます。
- ヘッダーを固定
  有効にするとヘッダーを固定できます。
  下にスクロールしても画面上部に常にヘッダーが表示されます。
- ボタン表示
  ヘッダーの左側または右側に表示したい画面アイテムを設定できます。
  - 画面アイテム選択
    各アプリケーション種別に応じた画面アイテムをセレクトボックスに表示します。
    セレクトボックスに表示される画面アイテムは、以下の通りです。

画面アイテム	Forma（標準）	Forma（IM-Workflow）	BIS（BISフロー）	BIS（ワークフロー）
ボタン（登録）	✔	✔	⛔	✔
ボタン（次へ）	✔	✔	✔	✔
ボタン（戻る）	✔	✔	✔	✔
ボタン（一覧へ戻る）	✔	✔	✔	✔
ボタン（一時保存）	✔	✔	⛔	✔
ボタン（コピー新規）	⛔	✔	✔	✔

画面アイテム	Forma（標準）	Forma（IM-Workflow）	BIS（BISフロー）	BIS（ワークフロー）
ボタン（処理モーダル）	⛔	⛔ [1]	⛔	✔
ボタン（一時保存モーダル）	⛔	⛔ [1]	⛔	✔
ボタン（直接実行）	⛔	⛔ [1]	⛔	✔
ボタン（直接中止）	⛔	⛔ [1]	⛔	✔
ボタン（直接差戻し）	⛔	⛔ [1]	⛔	✔
ボタン（イベント）	✔	✔	✔	✔
ボタン（インポート）	⛔ [1]	⛔ [1]	✔	✔
ボタン（エクスポート）	⛔ [1]	⛔ [1]	✔	✔

[1] *(1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9)*

> 「ボタン（処理モーダル）」、「ボタン（一時保存モーダル）」、「ボタン（直接実行）」、「ボタン（直接中止）」、「ボタン（直接差戻し）」、「ボタン（インポート）」、「ボタン（エクスポート）」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

- 追加
  セレクトボックスで選択した画面アイテムを追加できます。
- ソート
  追加済みの画面アイテムの順番をドラッグ＆ドロップで入れ替えることができます。
- セパレータ
  有効にするとボタンの隣にセパレータが表示されます。
  ボタン表示「左側」の場合は、有効にしたボタンの右側にセパレータが表示されます。
  ボタン表示「右側」の場合は、有効にしたボタンの左側にセパレータが表示されます。
- 設定
  画面アイテムのプロパティを表示します。
  設定内容の反映タイミングは、フォームに配置した画面アイテムのプロパティと同様です。
- 「歯車」アイコン
  「削除」と「フォームに配置」の2項目のメニューを表示します。
  メニューをクリックするとクリックした行のボタン表示が消え、設定ボタン押下により設定が反映されます。
  - 削除
    追加済みの画面アイテムを削除します。
  - フォームに配置
    追加済みの画面アイテムをフォームに配置します。
    フォームへの配置順はアイテムの追加順に基づきます。
    複数のアイテムをまとめてフォームに配置した場合、2つ目以降のアイテムから右下方向に少しずつずれて配置されます。
    最後に追加されたアイテムが選択状態となって配置されます。
    プロパティの「ヘッダーに表示」で表示させた画面アイテムをフォームに配置する場合、元々配置されていた位置に配置されません。
    「ボタン表示」で追加された画面アイテム同様、フォーム左上の角に配置されます。
- SharedResource設定



有効にすると同一画面を参照している他のユーザ情報が表示されます。また対象のリソースが更新された際には通知メッセージが表示されます。
画面の遷移方法が「画面遷移」の場合は各フォームのSharedResource設定が有効です。
画面の遷移方法が「タブ遷移」でヘッダーフォームがある場合はヘッダーフォーム、ない場合は1つ目のタブフォームのSharedResource設定が有効です。
対象画面は以下の通りです。

- アプリケーション種別が「標準」の場合
  - 編集画面
- アプリケーション種別が「IM-Workflow」・「BIS_WKF」・「BIS_BF」の場合
  - 起票からの申請画面
  - 承認画面

- ロック機能

有効にするとロック機能を利用できます。
ロックを解除できるのは、ロック取得ユーザとシステム管理者です。
ただし、以下の操作に関しては、他のユーザがロック中でも実行可能です。

- アプリケーション種別が「標準」の場合
  - 一覧からアプリケーションで登録したデータを削除
- アプリケーション種別が「IM-Workflow」・「BIS_WKF」・「BIS_BF」の場合
  - 引戻し
  - 案件操作によるノード移動
  - 案件削除
  - ジョブスケジューラによる実行処理
  - 処理対象者の変更や再展開



注意

ロックの自動解除について

ロック中でも実行可能な操作のうち、以下の操作を実行した場合、ロックは自動的に解除されます。

- **アプリケーション種別が「標準」の場合**
  - 一覧からアプリケーションで登録したデータを削除
- **アプリケーション種別が「IM-Workflow」・「BIS_WKF」・「BIS_BF」の場合**
  - 引戻し
  - 案件操作によるノード移動
  - ジョブスケジューラによる実行処理のうち、案件削除と処理対象者の変更や再展開以外の処理

なお、案件削除、処理対象者の変更や再展開、ジョブスケジューラによる案件削除・処理対象者関連の実行処理では、ロックは解除されません。
ロックが残ったままになった場合は、ロック取得ユーザまたはシステム管理者が手動でロックを解除する必要があります。

> **コラム**
>
> **システム管理者がロックを解除する方法**
>
> システム管理者の「アプリケーションロック一覧」画面でロックの解除を行います。
> 操作手順は「 システム管理者操作ガイド 」の「アプリケーションロック一覧」を参照してください。
> SharedResource設定機能のロックIDは、「テナントID@im_forma_designer:生成された一意キー」です。
> ロック情報とロック中の画面との紐づけは行えないため、上記のロックIDのロックを一律で解除する、または「im_serialized_lock」テーブルを確認し、上記のロックIDかつ「create_user_cd」がロック取得ユーザのロックを解除してください。

> **コラム**
>
> 画面を経由せずに登録データ情報管理API「ApplicationDataManager（JavaEE開発モデル）」
> 「FRApplicationDataManager（スクリプト開発モデル）」を利用して
> アプリケーションデータの更新・削除を行った場合は、SharedResourceに関する処理は行われません。

- 表示位置
  同一画面を参照している他のユーザ情報の表示位置を設定します。

> **コラム**
>
> IM-BIS を導入している環境の場合、「ヘッダーとフッター」の横に「アクション設定」が表示されます。
> アクション設定を利用すると、外部連携や入力モード変換などが利用できます。
> 詳細は「 IM-BIS 業務管理者操作ガイド 」-「 アクションを設定する 」を参照してください。

アクション設定

フォームの配置済みアイテムにイベントを設定するための画面を表示します。
設定した画面アイテムにイベントが発生したタイミングで、表示モード変換や外部連携で取得したデータと画面アイテム間の連携等の処理を行うことができます。
詳細は「 IM-BIS 業務管理者操作ガイド 」-「 アクションを設定する 」を参照してください。

> **コラム**
>
> アクション設定が利用できるのは、 IM-BIS の「フォーム・デザイナ」画面のみです。

スクリプトエディタ

フォームに配置済みの下記画面アイテムのスクリプトを、クライアントサイド JavaScriptに関する開発に特化したエディタを使用して編集できます。
スクリプトエディタは別画面で表示します。

- スクリプト
- ボタン（イベント）

「確定」を押下することで、アイテムプロパティへ値を反映します。

フォームに配置済みの対象画面アイテムをすべてタブ表示します。
特定のアイテムのみタブ表示したい場合は、各アイテムのアイテムプロパティ上の「スクリプトエディタを開く」からスクリプトエディタを表示してください。

スクリプトエディタでは配置した画面アイテムのクライアントサイドスクリプトAPIを補完できます。
補完できるAPIについては、「 IM-BIS 仕様書 」-「 クライアントサイドスクリプトAPI 」を参照してください。

> **コラム**
>
> 補完はスクリプトエディタ表示時に配置されていた画面アイテムが対象です。
> スクリプトエディタ表示後に画面アイテムを配置した場合は、スクリプトエディタを閉じ、再度表示することで補完対象にできます。

画面設計書出力

作成中のフォームの設定内容や配置済みのアイテムの情報をExcelファイルに出力します。
出力内容については、「 IM-BIS 仕様書 」-「 画面設計書出力 」を参照してください。

> **コラム**
>
> 「画面設計書出力」は、セットアップ時に「 IM-BIS 設計書出力」が含まれている場合のみ表示されます。

ツールキット

種類によって分類された画面アイテムが格納されているツールキットを表示します。
ここより各画面アイテムをドラッグ＆ドロップすることにより、フォームへ画面アイテムを配置していきます。
「ツールキット」をダブルクリック、または「ツールキット」のアイコンをクリックすることにより「ツールキット」が表示されなくなります。
画面アイテムの分類をクリックすることにより開閉します。
また、各画面アイテムの上にカーソルを合わせることにより、ツールチップで画面アイテムの名称が表示されます。

アイテムコピー

同一アプリケーション内の他のフォームで配置済みの画面アイテムを表示します。
他のフォームと同じIDの画面アイテムを配置することにより、フォーム間で画面アイテムのデータを共有できます。
「アイテムコピー」を非表示にしたい場合は、「アイテムコピー」をダブルクリック、またはアイテムコピーアイコンをクリックします。
セレクトボックスから画面アイテムが配置されたフォームとアイテムグループ、画面アイテムを選択してコピー対象の画面アイテムを検索します。
アイテムグループをクリックすることにより、グループ内の画面アイテムの表示と非表示を切り替えます。
また、アイテムグループ下に表示された、各画面アイテム名の上にカーソルを合わせることにより、ツールチップで画面アイテムの名称が表示されます。

ヘッダーに表示された画面アイテムを配置する場合、ヘッダーではなくフォームに配置されます。
再度ヘッダーに配置したい場合は、各画面アイテムのプロパティから変更できます。

ロケール変更

フォームのプレビュー、および、アイテムプロパティで入力・表示するロケールを選択します。
ロケールを変更すると、フォームプレビューエリアに表示されている画面アイテム内の、言語によって表示が変更できるプロパティ項目の値が選択されたロケールの値で表示されます。
ロケール変更で選択可能な値は、アプリケーション登録で選択したロケールです。
作成されたフォームを利用する時には、フォームで設定された各画面アイテムのロケールの中から、ログインユーザのロケールのものが表示されます。

> **コラム**
>
> ロケール変更を行った場合に、表示が切り替わる項目は利用時のラベル、アイテム名等の設定値です。
> 「フォーム・デザイナ」画面の各項目、プロパティの項目名等は変更されませんので、注意してください。

(3)フォームプレビューエリア

作成中のフォームのプレビューです。
配置済みアイテムの位置や見た目などが、実際にフォームを利用する時と同じように表示されます。

(4)配置済みアイテム

フォームへと配置されている画面アイテムです。
操作方法の詳細は「 IM-FormaDesigner 作成者操作ガイド 」を参照してください。

(5)プロパティ（アイコン）

配置済みアイテムの詳細設定を行います。
配置済みアイテムをダブルクリックするか、プロパティ表示アイコンをクリックすることによって表示されます。
詳細は各画面アイテムヘルプを参照してください。

(6)削除（アイコン）

配置済みアイテムを削除します。

(7)ツールキット

各種画面アイテムが格納されています。ここより画面アイテムをドラッグ＆ドロップし、フォームへ画面アイテムを配置していきます。

画面アイテムの複数選択

「ctrl」キーを押しながら画面アイテムをクリックすることで、複数の画面アイテムを同時に選択します。
複数選択した場合は、画面アイテムの枠の色が青色で表示されます。

> **コラム**
>
> お使いのOSがWindows以外の場合は、以下のメニューが表示されます。
>
> - 複数選択
>   画面アイテムを複数選択できる状態にします。
> - 複数選択解除
>   画面アイテムを複数選択できる状態を解除します。

画面アイテムを複数選択することにより、以下の操作を行うことができます。

- ドラッグによる複数の画面アイテムの位置移動
- 画面アイテムの整列
- 選択状態の画面アイテムを一括コピー
- 選択状態の画面アイテムを一括削除

(8)テンプレート

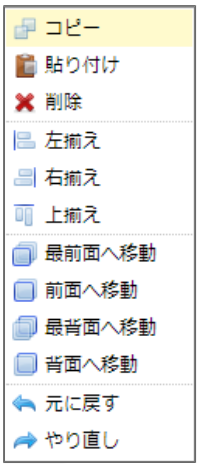
「テンプレート」として登録済みのフォームの一覧が表示されます。
作成済みのフォームをコピーして、編集中のフォームの一部とするためにはここから対象のフォームをドラッグして配置します。
操作方法の詳細は「 IM-BIS 業務管理者操作ガイド 」を参照してください。

(9)アイテムコピー

同一アプリケーション内の他のフォームで配置済みの画面アイテムが格納されています。
ここより画面アイテムをドラッグ＆ドロップでフォームに配置できます。

配置済みアイテム

配置済みアイテムは、コンテキストメニューを利用して、コピー、貼り付け、削除などの操作ができます。
コンテキストメニューを開くには、配置済みアイテムにカーソルを合わせて右クリックします。
操作方法の詳細は「 IM-FormaDesigner 作成者操作ガイド 」を参照してください。



- コピー
  選択した画面アイテムをコピーします。
- 貼り付け
  コピーした画面アイテムを貼り付けます。
- 削除
  選択した画面アイテムを削除します。
- 左揃え
  選択中の画面アイテムに入力フィールドがある場合、選択中の画面アイテムの中で一番入力フィールドが左端にある画面アイテムに入力フィールドの左端を合わせます。
  入力フィールドがない場合は、コンポーネントの左端を合わせます。
- 右揃え
  選択中の画面アイテムに入力フィールドがある場合、選択中の画面アイテムの中で一番入力フィールドが右端にある画面アイテムに入力フィールドの右端を合わせます。
  入力フィールドがない場合は、コンポーネントの右端を合わせます。
- 上揃え
  選択中のすべての画面アイテムの高さを、一番高さが高く設定されている画面アイテムに合わせます。

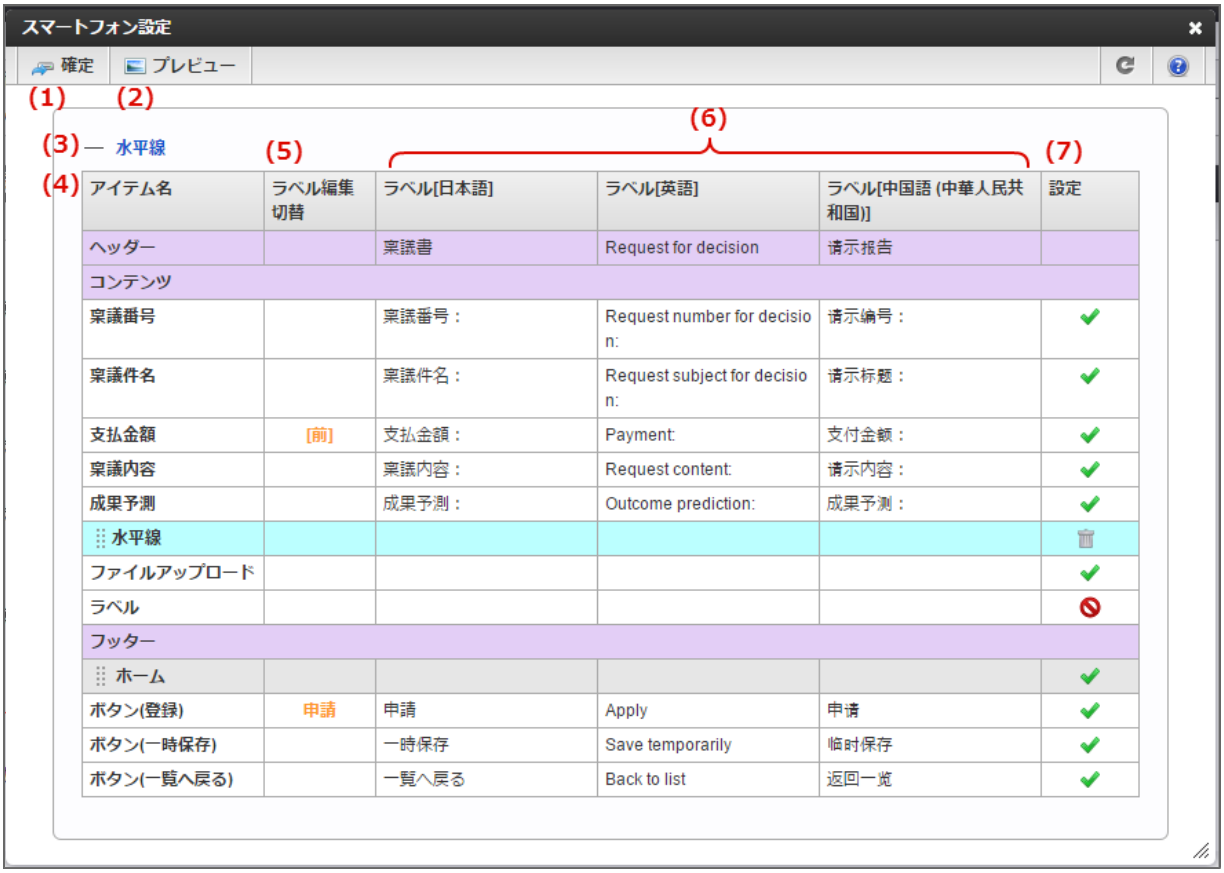
> **注意**
>
> 左揃え／右揃え／上揃えの機能は、アイテム幅が足りずに折れて表示されている画面アイテムには対応していません。
> また、独自で作成した画面アイテムに関しては動作の保障はしません。

- 最前面へ移動
  選択した画面アイテムを最前面へ移動します。
- 前面へ移動
  選択した画面アイテムを前面へ移動します。
- 最背面へ移動
  選択した画面アイテムを最背面へ移動します。
- 背面へ移動
  選択した画面アイテムを背面へ移動します。
- 元に戻す
  操作を元に戻します。
- やり直し
  元に戻した操作をやり直します。

「スマートフォン設定」画面の各部の名称と機能

ここでは、IM-BIS for Accel Platformでの「スマートフォン設定」画面の各部の名称と、各ボタン・アイコンに割り当てられている主な操作の説明をします。

スマートフォン設定



アイテム名	ラベル編集切替	ラベル[日本語]	ラベル[英語]	ラベル[中国語 (中華人民共和国)]	設定
ヘッダー		稟議書	Request for decision	请示报告	
コンテンツ					
稟議番号		稟議番号：	Request number for decision:	请示编号：	✔
稟議件名		稟議件名：	Request subject for decision:	请示标题：	✔
支払金額	[前]	支払金額：	Payment:	支付金额：	✔
稟議内容		稟議内容：	Request content:	请示内容：	✔
成果予測		成果予測：	Outcome prediction:	成果预测：	✔
水平線					🗑
ファイルアップロード					✔
ラベル					⊘
フッター					
ホーム					✔
ボタン(登録)	申請	申請	Apply	申请	✔
ボタン(一時保存)		一時保存	Save temporarily	临时保存	✔
ボタン(一覧へ戻る)		一覧へ戻る	Back to list	返回一览	✔

(1)確定ボタン

スマートフォン設定の編集内容を保存します。

(2)プレビューボタン

スマートフォンでのプレビューを表示します。

(3)水平線

「水平線」ラベルを下のアイテム一覧にドラッグ＆ドロップすると、水平線を挿入することができます。

(4)アイテム名

「スマートフォン表示」で表示できるアイテムの一覧を表示します。
アイテム名をドラッグ＆ドロップすると、スマートフォンでのレイアウトの表示順を入れ替えることができます。

(5)ラベル編集切替

「ボタン（登録）」など、複数のラベルを設定できるアイテムに対して、編集対象のラベルをクリックで切り替えることができます。

(6)ラベル

スマートフォン表示のときのアイテムのラベルを設定します。
ヘッダーについても、クリックすると、ヘッダーに表示するラベルを編集できます。

(7)設定

スマートフォン表示のときに、対象のアイテムを表示するかを設定します。
✔ の場合は、スマートフォン表示で表示されます。
🚫 の場合は、スマートフォン表示では表示されません。

表示タイプを設定するには

表示タイプは「どの画面の時に」「入力、または表示ができるか」を設定します。
それぞれのパターンごとに下記の通りに設定する必要があります。

処理画面の名称と、ワークフローでの適用範囲



申請

- 申請者が新規に起票（申請）した時の設定です。
- 適用範囲：申請（起票案件）、未申請、一時保存

再申請

- 申請者が一度申請後に、引き戻しや差し戻し等で同じ案件番号の申請書への入力・編集を行う時の設定です。
- 適用範囲：再申請

承認

- 承認者が承認を行う時の設定です。
- 適用範囲：処理（承認）、確認

参照

- 承認者や確認者などが申請書の詳細情報を参照する時の設定です。
- 適用範囲：処理詳細（ワークフローの処理済の詳細アイコンで表示する画面）、確認詳細、過去案件詳細、参照

表示・入力可

設定された画面を表示したときに、画面アイテムの値の表示・入力ができます。

Copyright © 2013 INTRAMART CORPORATION

表示・参照

設定された画面を表示したときに、画面アイテムの値の表示ができます。
画面アイテムの値を入力・変更することはできません。
申請画面の場合には、あらかじめ表示する値を設定しておく必要があります。
他の画面アイテムから関数等を利用して値を参照することができます。

非表示

設定された画面を表示したときには、画面アイテムを表示しません。
他の画面アイテムから関数等を利用して値を参照することはできません。

パターン別に入力・表示を設定する

申請者が入力する項目として利用する

- 申請を「表示・入力可」に設定します。
- 入力チェックを行う場合は、画面アイテムのプロパティの「入力チェック」を別途設定します。

承認者が入力・変更する項目として利用する

- 承認を「表示・入力可」に設定します。
- 同じ項目（画面アイテム）について、申請者も入力・変更ができるようにするには、申請を「表示・入力可」に設定します。
- フォーム編集後に、ワークフロー上のどの承認者が入力・変更できるかを「追記設定」で設定します。